医療業績集2023

Medical Achievements

社会医療法人愛仁会

https://www.aijinkai.or.jp

目　次

はじめに・理念・沿革 …… 1

愛仁会グループ施設紹介 …… 3

Ⅰ．千船病院
- 内科
  - 総合内科 …… 7
  - 呼吸器内科 …… 8
  - 循環器内科 …… 10
  - 消化器内科 …… 11
  - 糖尿病内分泌内科 …… 13
  - 糖尿病・減量外科 …… 14
  - 腎臓内科 …… 18
  - 救急診療部 …… 19
- 外科 …… 20
- 整形外科・関節センター …… 21
- リハビリテーション科 …… 24
- 泌尿器科 …… 26
- 脳神経外科 …… 27
- 皮膚科 …… 28
- 眼科 …… 29
- 耳鼻咽喉科 …… 30
- 小児科 …… 31
- 産婦人科 …… 34
- 麻酔科 …… 36
- 画像診断科 …… 37
- 病理診断科 …… 38
- 千船クリニック …… 40

Ⅱ．尼崎だいもつ病院
- 診療部総括（病棟，外来）…… 43

Ⅲ．高槻病院
- 内科
  - 総合内科 …… 47
  - 呼吸器内科 …… 48
  - 循環器内科 …… 49
  - 消化器内科 …… 51
  - 糖尿病内分泌内科 …… 53
  - 腎臓内科・人工透析科 …… 54
  - 不整脈センター …… 55
  - 脳神経内科 …… 56
  - 総合救急医療センター …… 58
  - 精神科 …… 61
  - 病理診断科 …… 63
- 小児科（外来，病棟）…… 64
  - NICU・GCU …… 66
  - PICU …… 68
- 小児外科 …… 69
- ICU …… 71
- 外科
  - 呼吸器外科 …… 72
  - 心臓血管外科 …… 73
  - 消化器外科 …… 74
  - 乳腺外科 …… 75
- 脳神経外科 …… 77
- 小児脳神経外科 …… 78
- 整形外科・関節センター …… 79
- 泌尿器科 …… 80
- 腎移植科 …… 81
- 皮膚科 …… 82
- 形成外科 …… 83
- 産婦人科
  - 産科 …… 84
  - 婦人科 …… 86
- 眼科 …… 87
- 耳鼻いんこう科 …… 88
- 放射線診断科 …… 89
- 放射線治療科 …… 93
- 麻酔科 …… 94
- リハビリテーション科 …… 95
- 遺伝診療センター …… 97

Ⅳ．愛仁会リハビリテーション病院
- 診療部総括 …… 101

Ⅴ．愛仁会しんあいクリニック
- 診療部総括 …… 105

Ⅵ．明石医療センター
- 総合内科 …… 109
- 救急科 …… 111
- 呼吸器内科 …… 112
- 循環器内科 …… 113
- 消化器内科 …… 114
- 腎臓内科 …… 115
- 糖尿病・内分泌内科 …… 118
- 小児科 …… 120

放射線科 …… 122
外科 …… 123
心臓血管外科 …… 124
呼吸器外科 …… 126
整形外科 …… 127
産婦人科 …… 128
麻酔科 …… 130
集中治療科 …… 131

Ⅶ．井上病院
腎臓内科 …… 135
循環器内科 …… 137
眼科 …… 138
糖尿病内科 …… 139
消化器内科 …… 140
泌尿器科 …… 141
透析内科 …… 142
放射線科 …… 143
麻酔科 …… 144
外科 …… 145
心臓血管外科 …… 146
リハビリテーション科 …… 148
リウマチ科 …… 149
整形外科 …… 150

Ⅷ．井上病院附属診療所
腎移植外来 …… 155

Ⅸ．井上診療所
井上診療所 …… 159

愛仁会グループ活動統計 …… 163
学術業績集 …… 171

はじめに

本医療業績集は2023年1月1日から2023年12月31日までの法人活動を対象とした業績報告である.

社会医療法人愛仁会 理念

1．広く社会のためにより良い医療サービスを提供し，健康で豊かな生活の増進に貢献する.
2．法人活動の成果は明日の医療の発展と福祉の向上に活用する.
3．地域社会との協調を深め，創意工夫をこらして法人の健全な発展を図る.
4．医療人としての使命を自覚し，学識・技術の研鑽と人間性の向上に努める.
5．自主性と和の精神を重んじ，法人に働く誇りと喜びを共にする.

モットー

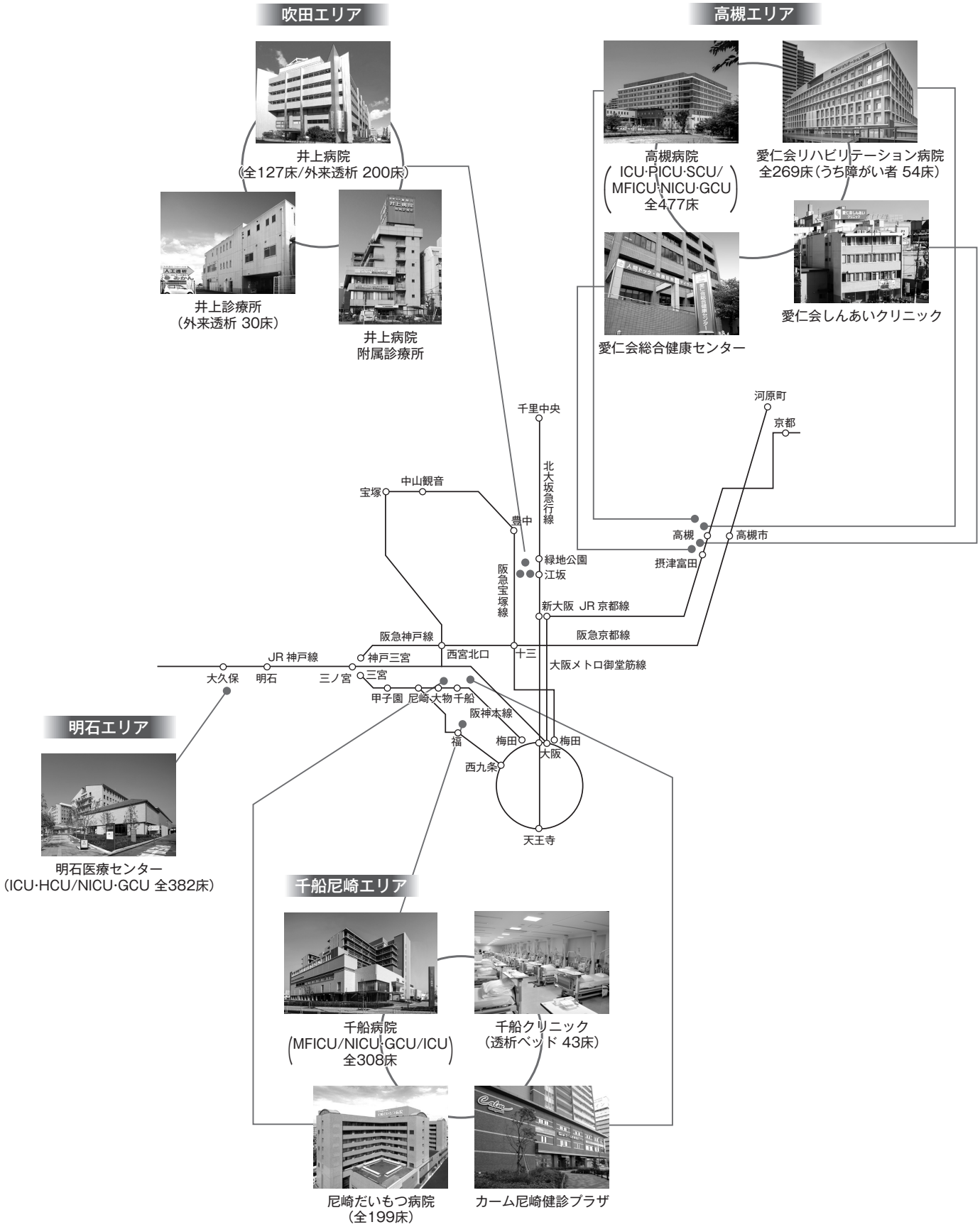
●貢献　●創意　●協調

沿革

1958年11月 1日　医療法人設立認可
1959年 1月11日　医療法人愛仁会千船診療所発足
1966年 5月 1日　千船病院開院（94床）
1971年 5月 2日　千船病院増築竣工開院（191床）
1977年 6月10日　本部事務局発足
11月 1日　高槻病院竣工開院（180床）
1980年 4月 1日　愛仁会看護専門学校開校
1982年 4月 1日　高槻病院新築移転開院（302床）
7月 1日　千船病院新築移転開院（292床）
1983年 4月 1日　理学診療科病院開院（186床）
1984年 9月 1日　杏和総合医学研究所設立
1985年 3月23日　竹中普久先生 名誉理事長就任
4月 1日　中後勝先生 理事長就任
1987年 3月18日　特定医療法人認可
8月 1日　高槻病院増築竣工開院（477床）
1989年 4月 1日　愛仁会新理念制定
1991年 4月 1日　本部事務局を愛仁会本部と名称変更
1995年 8月 1日　介護老人保健施設「ユーアイ」竣工（入所100名）
1996年 8月 1日　訪問看護ステーション「ほほえみ」設立
8月 1日　千船病院 開放型病院認可
1997年 4月 1日　愛仁会看護助産専門学校に改称（助産学科新設）
4月 1日　高槻病院 厚生省臨床研修指定病院に認可
5月13日　中後理事長「藍綬褒章」受章
9月 1日　介護老人保健施設「ケーアイ」竣工（入所100名）
12月 1日　高槻病院 開放型病院認可
1998年 2月 1日　訪問看護ステーション「スマイル」設立
2月 9日　千船病院 病院機能評価認定証交付
4月 1日　在宅介護支援センター「ケーアイ」設立
5月19日　高槻病院 病院機能評価認定証交付
1999年 1月26日　高槻病院 救急告示病院に認可
4月 1日　理学診療科病院，愛仁会リハビリテーション病院に名称変更
10月28日　社会福祉法人愛和会設立認可
2000年 4月 1日　ヘルパーステーションユーアイ，ケーアイ活動開始
5月15日　愛仁会リハビリテーション病院 病院機能評価認定証交付
10月 1日　社会福祉法人愛和会 複合福祉施設開設
2001年 1月26日　あいわ診療所開院
4月 1日　中後勝先生 会長就任
根岸宏邦先生 理事長就任
千船病院 厚生労働省臨床研修指定病院に認可
職員共済会「親愛会」発足
8月 4日　高槻病院 東館開設
10月 1日　高槻病院 総合周産期母子医療センター棟開設
2002年 1月10日　社会福祉法人豊中愛和会設立
5月13日　中後会長 勲四等瑞宝章受章
2003年 4月 1日　社会福祉法人豊中愛和会 総合福祉施設 ローズコミュニティ・緑地開設
4月22日　本部保健福祉事業部 ISO9001取得
9月 9日　根岸理事長 救急医療功労者厚生労働大臣賞受賞
12月15日　高槻病院 病院機能評価更新認定
2004年 2月 1日　高槻病院，愛仁会リハビリテーション病院 電子カルテシステム導入
2月16日　千船病院 病院機能評価更新認定
4月 1日　高槻あいわ保育園・あいわ児童館開設
杏和総合医学研究所 滅菌センター開設
7月 1日　千船病院附属千船クリニックス開院
千船病院，千船病院附属千船クリニックス 電子カルテシステム導入
7月24日　愛仁会リハビリテーション病院 日本リハビリテーション医学会研修病院認定
12月 1日　愛仁会千船在宅サービスセンター設立
2005年 5月15日　愛仁会リハビリテーション病院 病院機能評価更新認定
7月30日　千船病院 全館改修工事終了
8月31日　特別医療法人認可
12月28日　高槻病院 地域医療支援病院認定
2006年 2月17日　根岸理事長，山門常務理事 大阪府知事賞受賞
2月20日　愛仁会リハビリテーション病院 病院機能評価付加機能（リハビリテーション機能）評価認定
4月 1日　高槻北地域包括支援センター，緑地地域包括支援センター設立
4月20日　本部 ISO9001取得
6月 1日　千船病院 7対1看護 承認
千船病院，高槻病院 NICU増床
7月 1日　ケアプランセンターケーアイ開設
7月29日　千船病院 人間ドック機能評価認定
2007年 4月 1日　根岸宏邦先生 会長就任
筒泉正春先生 理事長就任
9月29日　第1回 介護福祉施設合同業務改善成果発表会開催
10月 1日　愛仁会リハビリテーション病院 増床（225床）
11月 8日　高槻病院 人間ドック機能評価認定
11月14日　千船病院 地域周産期母子医療センター認定
2008年 1月29日　千船病院 卒後臨床研修評価認定
2月 9日　千船病院 病院機能評価更新認定

4月 1日　愛仁会総合健康センター開設
長尾地域包括支援センター設立
4月11日　千船病院 消化器内視鏡センター開設
5月 1日　愛仁会総合健康センター附属デイサービスセンター開設
5月18日　高槻病院 病院機能評価更新認定
8月 2日　高槻病院 WHO・ユニセフ「赤ちゃんにやさしい病院（BFH）」認定
10月 5日　愛仁会グループ創立50周年記念大スポーツ大会開催（なみはやドーム）
11月 1日　愛仁会グループ創立50周年記念行事開催
2009年 1月 1日　特別・特定医療法人愛仁会から社会医療法人愛仁会に移行
3月30日　千船病院バースセンターリニューアルオープン
4月 1日　千船病院附属千船腎臓・透析クリニック開設
ユーアイデイサービスセンターなごみ開設
愛仁会本部学術部に国際課設置
5月31日　社会福祉法人豊中愛和会 多機能型事業所あすなろ あすなろ麺，モンド・セレクション2009金賞受賞（2010年, 2011年と3年連続金賞受賞）
10月 2日　「第11回フォーラム 医療の改善活動 in 大阪」筒泉理事長を大会長として運営を担当
11月16日　社会医療法人愛仁会 中期事業計画策定
12月 4日　明石医療センター 病院機能評価Ver.6認定
2010年 3月 5日　愛仁会リハビリテーション病院
病院機能評価更新認定
4月 1日　社会福祉法人豊中愛和会
ローズコミュニティ・豊中南開設
5月 8日　愛仁会看護助産専門学校 創立30周年記念行事開催
6月 5日　第1回愛仁会フォーラム開催
10月17日　社会福祉法人愛和会 10周年記念を祝う会開催
11月 6日　「第20回日本新生児看護学会学術集会」（於 神戸）高槻病院で運営を担当
2011年 1月 7日　愛仁会リハビリテーション病院
病院機能評価（リハビリテーション付加機能）更新認定
1月30日　第1回愛仁会グループ看護・介護学会開催
3月18日　フィリピン大学，フィリピン総合病院との人材交流プログラム開始
4月 1日　医療法人社団明石医療センター設立
7月 1日　愛仁会リハビリテーション病院
新築移転（MUSEたかつき）開院
9月 1日　ケアプランセンター愛仁会富田開設
ヘルパーステーション愛仁会富田開設
10月25日　第3回 日中韓看護学会参加（於 ソウル）
2012年 5月 1日　千船クリニックス 千船病院へ統合
5月19日　豊中愛和会 創立10周年記念行事開催
6月 1日　医療法人社団 明石医療センター，医療法人仁愛会 田畑胃腸病院と合併
8月29日　第1回愛仁会グループリハビリテーション部門学術大会開催
2013年 1月 1日　おかじま病院開院，介護付有料老人ホーム スローライフおかじま開設
1月18日　千船病院 病院機能評価Ver.6認定
2月13日　第1回愛仁会・神戸大学・フィリピン大学フィリピン総合病院国際会議開催
3月21日　医療法人社団明石医療センター 特定医療法人承認
4月 1日　社会福祉法人愛和会，社会福祉法人豊中愛和会を社会福祉法人愛和会として合併
4月 6日　愛仁会看護助産専門学校 新築移転，看護学科2クラス定員80名に
6月 7日　「第41回日本小児神経外科学会」（於 大阪）高槻病院 山崎麻美副院長を大会長として高槻病院で運営を担当
7月 1日　高槻病院院内保育園「にじっこ保育園」，愛仁会看護助産専門学校1階に新設開園
7月27日　明石医療センター南館オープン
許可病床数382床に増床
10月 1日　カーム尼崎健診プラザ開設
2014年 4月 1日　医療法人進愛会と合併
カーム尼崎健診プラザ健診事業開始
8月 1日　宝塚あいわ苑訪問看護ステーション開設
10月 1日　社会福祉法人ますみ会を承継
10月27日　高槻病院 新病院I期棟 開設
11月 1日　明石医療センター NICU稼動
12月 1日　高槻病院 PICU開設
2015年 1月 1日　明石医療センター 社会医療法人認可
1月 7日　明石医療センター 泌尿器科外来開設
4月 1日　内藤嘉之先生 理事長就任
7月 3日　高槻病院 不整脈センター開設
2016年 1月 4日　社会福祉法人愛和会（宝塚地区）にあいわ結愛ガーデン開設
4月 1日　社会医療法人愛仁会，社会医療法人明石医療センターと合併
尼崎だいもつ病院開設
10月23日　「第44回国際小児神経外科学会（ISPN2016）」（於 神戸）高槻病院 山崎麻美副院長を大会長として開催
2017年 2月 4日　第1回愛仁会学術大会開催
4月 1日　社会福祉法人ますみ会と合併
5月 8日　高槻病院 新病院Ⅱ期棟 開設
6月 1日　介護老人保健施設だいもつ，
レジリエンスだいもつ開設
7月 1日　千船病院 新築移転 開院
7月20日　「第67回日本病院学会」（於 神戸）
内藤嘉之理事長を大会長として開催
2018年 2月24日　「第11回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会」（於 大阪）愛仁会リハビリテーション病院 吉田和也院長を大会長として開催
3月31日　おかじま病院 閉院，杏和総合医学研究所 閉所
6月 1日　高槻病院新築Ⅲ期工事竣工 グランドオープン
7月 1日　愛仁会地域ケアセンターに在宅事業（千船地区）を集約移転
2019年 2月 9日　第2回愛仁会学術集会開催
4月 1日　特定医療法人蒼龍会と合併
社会福祉法人愛和会 宝塚地区
Waiwai コミュニティあいわ開設
6月 1日　あいわクリニック開設
7月 8日　ベトナム・ドンア大学との国際業務提携締結
2020年 5月 1日　ケアプランセンターちぶね，ケアプランセンター千船病院に統合
9月 7日　森ノ宮医療大学と相互連携協定締結
12月31日　愛仁会総合健康センター附属デイサービスセンター廃止
2021年 2月20日　第3回愛仁会学術集会開催
9月30日　しんあい病院，しんあいクリニック閉院
10月 1日　愛仁会しんあいクリニック開院
12月10日　一般社団法人淀川ヘルスケアネット設立
2022年 3月31日　ヘルパーステーション愛仁会富田 ヘルパーステーション愛仁会高槻と統合
6月21日　淀川ヘルスケアネット 大阪府より地域医療連携推進法人認定
9月30日　社会福祉法人愛和会 デイサービスますみ閉所
2023年 2月 4日　第4回愛仁会学術集会開催
4月 1日　髙岡秀幸先生 理事長就任
社会福祉法人愛和会 グループホーム高槻あいわ開設，ケアハウス高槻あいわ ケアハウスますみより名称変更
5月 1日　アールリハビリステーション開設
8月 7日　愛仁会本部移転（中井老泉ビル 高槻市古曽部町）
10月 1日　千船病院増床（308床）

愛仁会グループ施設紹介



I

千　船　病　院

7:1急性期病院
地域周産期母子医療センター
地域医療支援病院
大阪府外国人患者受入れ地域拠点医療機関
MFICU/NICU·GCU/ICU
全308床

〒555-0034
大阪府大阪市西淀川区福町3丁目2番39号
TEL.06-6471-9541

院長　吉井勝彦

総合内科

スタッフ紹介

二宮幸三
　日本内科学会　総合内科専門医・指導医
　日本循環器学会　専門医・指導医
　日本動脈硬化学会　動脈硬化専門医・指導医
　日本病院総合診療医学会　認定医・特任指導医
藤田芳正
　日本内科学会　総合内科専門医・指導医
　日本腎臓学会　専門医
　ICD
依藤兼太郎
　日本内科学会　総合内科専門医　認定内科医
香山元伸
　内科専攻医
玉山美都
　内科専攻医

2023年3月に依藤兼太郎医師，香山元伸医師が退職した．

2023年4月に玉山美都医師が就任した．

診療内容

総合内科外来は午前・午後とも1診体制に縮小した．4月より非常勤医師に3コマを依頼している．診療内容は主に初診を受け持ち，発熱や疼痛，呼吸器症状などコモンな症状の患者や紹介患者などを担当している．専門的治療が必要な場合は，専門診療科に振り分けている．当科でフォローできる患者や完結できる場合はそのまま継続診療もしている．

入院病棟では，各感染症の治療や不明熱の鑑別，高齢者の誤嚥性肺炎や心不全，呼吸不全，大量薬物摂取などの診療や，大腿骨近位部骨折術後の全身管理などを行っている．特に感染症については，呼吸器感染症や尿路感染症，褥瘡や蜂窩織炎などの皮膚軟部組織感染症，感染性心内膜炎，化膿性脊椎炎や腸腰筋膿瘍，新型コロナウイルス感染症など多岐にわたる感染症を診療した．

2023年のトピックス・実績

総合内科外来の患者数は，18,838人で，1日平均76人であった．入院患者数は216人であり，疾患別にみると呼吸器系疾患62人（28.7%），損傷・中毒など外因の影響49人（22.7%），新型コロナウイルス感染症24人（11.1%），腎尿路生殖器系の疾患17人（7.9%），循環器系疾患12人（5.6%），皮膚及び皮下組織の疾患11人（5.1%），消化器系疾患8人（3.7%），内分泌・栄養及び代謝疾患7人（3.2%），精神及び行動の障害6人（2.8%）,筋骨格及び結合組織の疾患4人（1.9%），その他16人（7.4%）であり，多岐にわたった．人員の減少により大腿骨近位部骨折は4月より併診となったのが昨年と異なっている．

学会活動については，日本内科学会近畿地方会と日本病院総合診療医学会学術総会にて発表を行った．

また，若手医師の教育については，藤田医師により内科全般の疾患と感染症診療をテーマに毎週1～2回定期的な勉強会を行っている．

今後の展望

高齢者人口はまだ増加しており，要介護状態の高齢者の医療ニーズに合わせた対応が求められる．今後も入院患者は，高齢患者や感染症の疾患を中心に増やしていきたい．そのためには総合内科診療に携わる人員の確保が急務である．

また，初期研修医など若手医師の教育・育成も引き続き当科で行い，更に実習やカンファレンスを継続する予定である．

呼吸器内科

スタッフ紹介

竹嶋　好　部長（2000年卒）
　日本呼吸器学会呼吸器専門医
　日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
　日本がん治療認定医機構がん治療認定医
　日本緩和医療学会認定医
　肺がんCT検診認定医師
住谷充弘　部長（1997年卒　リハビリテーション科部長）
　日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医
　日本アレルギー学会アレルギー専門医
　日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
　日本リハビリテーション科専門医
　日本呼吸ケア・リハビリテーション学会認定
　呼吸ケア指導士（初級）

診療内容

呼吸器内科医は常勤医師2名（1名は主に睡眠時無呼吸症候群を中心として診察），非常勤医師1名で診察に当たっている．呼吸器内科専門医を持つ経験豊富な医師が，呼吸器疾患全般的に診断，方針決定，治療を行っている．

【呼吸器疾患】

肺がんについては，現在，検査・治療が非常に複雑化し施設格差があるのが現実である．当院では放射線治療の設備環境がないため，主に診断や緩和的な化学療法を中心として行っている．ACP（アドバンス・ケア・プランニング）をなるべく早期から実施するようにし，患者・ご家族と話し合って，患者の価値観などになるべく合わせた治療を選択するように心掛けている．

また，これまでの経験に基づき，可能な限り苦痛や負担がなく生活の質を落とさない治療や化学療法を行うようにしている．

【睡眠呼吸障害】

睡眠時無呼吸症候群（SAS）と関係が深い関連内科疾患（高血圧，心房細動，糖尿病，逆流性食道炎など）との関連を踏まえた，睡眠時無呼吸治療を目指している．睡眠時無呼吸症候群との関連が多い肥満症についても，糖尿病内分泌内科や糖尿病・減量外科と協力し，手術も含めて減量介入を行っている．

2023年のトピックス・実績

- CPAP導入が安定しない方などにCPAP・NPPVタイトレーション入院を行うことに加え，減量・代謝改善手術の術前評価・治療介入患者についてはPSG検査から予定手術日までの期間が短いこともあり，臨床工学技士・臨床検査技師のサポートを受け，PSG検査翌日からCPAPが使用できる体制を一部開始した．（千船病院では臨床工学技士・臨床検査技師向けに睡眠呼吸障害関連レクチャー20回コースが2024年6月まで隔週で行われている）
- 循環器内科の協力を得て，アブレーション治療を行う患者に積極的に睡眠呼吸障害のスクリーニング検査を行った．
- 外来採血時に静脈血液ガスを用いた肥満性低換気症候群の患者スクリーニングを行い，いち早く肥満性低換気症候群の患者をPICK UPし早期NPPV導入につなげ，3−6か月で病態を安定させた後に減量・代謝改善手術が行えるように減量外科につなげた．
- 肥満に関連した肥満関連喘息患者において，喘息コントロール改善のために，バイオ製剤導入だけにとどまらず，減量，栄養サポート，リハビリテーション，睡眠呼吸障害治療介入を行う集学的治療介入を行った．

今後の展望

呼吸器内科疾患の治療において，ベストな治療ができるようにサポートする．

- 肺がんについては，施設格差も最近では広がっているため，一人ひとりに合わせた診療を提案．
- 体重増加・生活習慣病（特に夜間高血圧評価を踏まえて）の改善を踏まえた睡眠呼吸障害に対する治療介入．
- CPAP，NPPVなどの非侵襲的陽圧換気療法の使用コンプライアンスを改善するタイトレーション評価・治療の介入．
- 肥満合併などの難治喘息症例における生物学的製剤での加療を踏まえた喘息診療．
- 身体活動性維持を目指した入院での呼吸リハビリテーションの介入．
- 大阪市西部地区の呼吸器診療の向上．

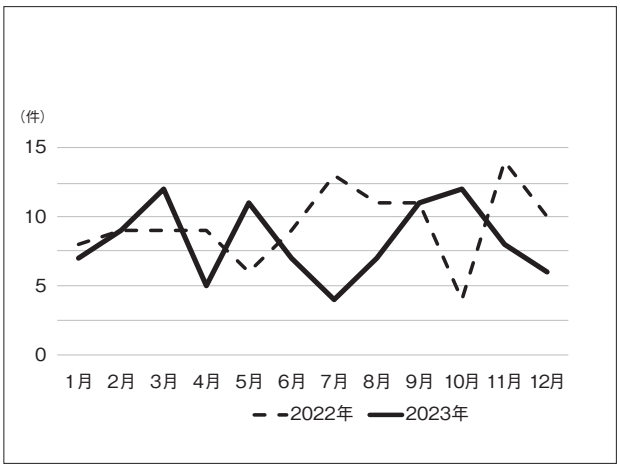


図1. 精密PSG検査件数（2022年：113件, 2023年：99件）

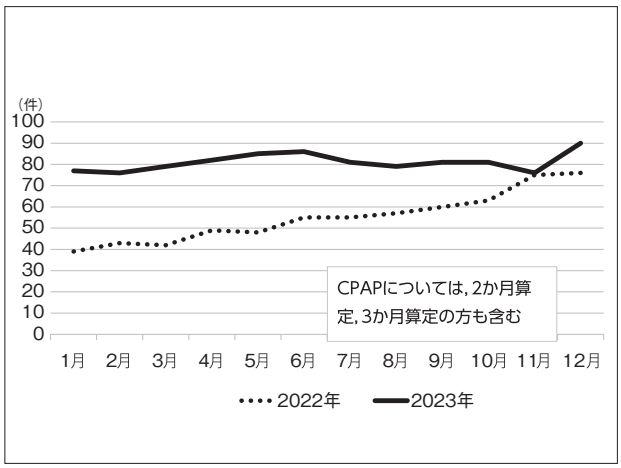


図2. CPAP指導料算定件数

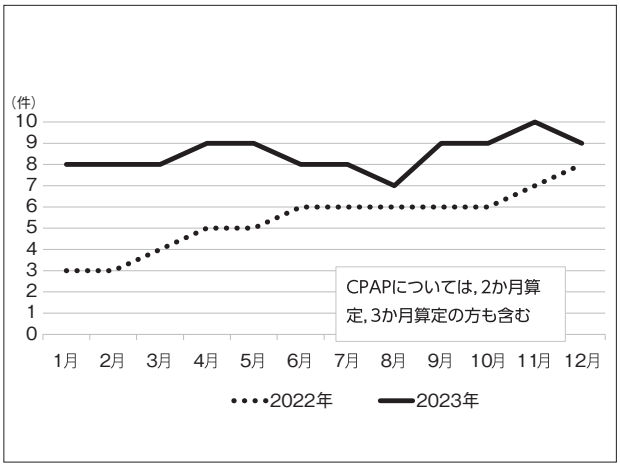


図3. NPPV指導料算定件数

循環器内科

スタッフ紹介

2023年は尾崎正憲副院長，板垣 毅主任部長（2023.3月まで），濱田晶子医長，黒瀬 潤医長，好木康明医員（2023.4月～）の常勤医4人体制と，総合内科の二宮幸三主任部長に循環器診療業務の一部をサポートしていただいた．また外来では，神戸学院大学の藤岡由夫教授と以前当院の常勤医として勤務されていた松森佳子医師に非常勤医としてご協力いただいた．

診療内容

循環器内科では，心不全，虚血性心疾患，心筋症，心臓弁膜症，不整脈疾患，末梢動脈疾患，肺血栓塞栓症（下肢静脈血栓症を含む），高血圧症（周産期血圧管理や二次性高血圧を含む），脂質異常症など幅広く循環器疾患全般について診療を行っている．侵襲的治療については，虚血性心疾患に対する冠動脈インターベンション（PCI），末梢動脈疾患に対する血管内治療（EVT），頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーション，徐脈性不整脈に対するペースメーカー植え込み術などに取り組んでいる．外来においては地域医療支援病院の役割を意識しつつ，また医師の働き方改革の面から引き続き病状の安定した患者の積極的な逆紹介を勧めている．

当科は心臓CTや心臓MRI，心臓RI検査（SPECT）といったイメージングモダリティが充実していることが特色である．これらの画像診断を用いて正確な診断を行い，EBMに基づいた診療を行っている．教育面では病棟カンファレンス（月曜日），心エコーカンファレンス（木曜日），英語論文抄読会（木曜日），アンギオカンファレンス（金曜日）を行い，研修医や専攻医にプレゼンテーションの場を多く設定している．

2023年のトピックス・実績

専攻医3年目の好木医師が連携施設から戻ってきて積極的に診療及び研修医の指導に当たっていただいた．それによって医業収入は昨年より増加した．一方，板垣主任部長が退職されたため，カテーテルアブレーションは黒瀬医長と神戸大学から不整脈グループの医師を招聘して行うことになり，治療件数は昨年より減少した．心臓リハビリテーション（運動療法）は外来でのリハビリを積極的に患者に勧めたため，通院リハビリ数は昨年より増加した．

主な診療実績：冠動脈造影検査86件，PCI 67件，EVT 10件，アブレーション24件，ペースメーカー植え込み15件，心臓リハビリテーション2,388例など．主な学術実績：第243回日本内科学会近畿地方会で学会発表を行った．

今後の展望

医師の働き方改革が始まったが，当院は西淀川区の中心的な急性期病院であり，今後循環器診療の充実化を図るためには，まず質の高いスタッフの人員確保を行っていくことが肝要と考えている．ある程度医師が充足した状況でこれまでより更に紹介や救急の受入れを増加し，循環器学会や心血管インターベンション学会などの施設認定を得て，当院ではこれまでできなかった治療を導入することができればと考えている．

消化器内科

スタッフ紹介

船津英司（1998年卒）
　日本内科学会総合内科専門医
　日本消化器内視鏡学会指導医・専門医
　日本消化器病学会指導医・専門医
　日本肝臓学会認定肝臓専門医
　日本膵臓学会指導医
　日本病院総合診療医学会認定病院総合診療医
那賀川　峻（2007年卒）
　日本内科学会総合内科専門医
　日本消化器内視鏡学会指導医・専門医
　日本消化器病学会指導医・専門医
　日本膵臓学会指導医
松本　慶（2012年卒）（2022年4月～）
　日本内科学会認定医
　日本消化器内視鏡学会専門医
名方勇介（2015年卒）（～2023年7月）
　日本内科学会認定医
　日本消化器内視鏡学会専門医
西川浩介（2017年卒）
　日本内科学会認定医
藤原　葵（2018年卒）（2023年4月～）
関口尚人（2019年卒）（2023年4月～）
岩本陽菜（2019年卒）（～2023年3月）
長谷川貴久（2019年卒）
高島英隆（1998年卒）（2023年10月～）
　日本消化器病学会指導医・専門医
　日本肝臓学会指導医

診療内容

船津は消化器内科主任部長として消化器疾患の診療全般の統括に当たり，他常勤医の技術指導・診療支援も行っている．また消化器内視鏡センター長として看護部及び技術部放射線技師との連携をとりながら，内視鏡センターの運営・統括を行っている．那賀川は消化器内科医長として，船津と共に後進の消化器内科医師の技術指導・診療支援を行いつつ，学会発表の指導にも尽力している．松本・西川は一連の消化器内視鏡技術を習得し，通常検査業務を主力としてこなしつつ，より高度な技術習得を目指し日々修練に励んでいる．藤原・関口・長谷川は後期レジデントとして日々消化器疾患の検査・診療において研鑽を積んでいる．10月から高島が着任し，肝臓疾患の専門診療に励んでいる．診療体制は月曜日から金曜日の午前・午後に消化器専門外来を開設し，検査業務として月曜日から金曜日までの午前は上部消化管内視鏡検査・腹部超音波検査を行い，月曜日から木曜日までの午後に下部消化管内視鏡検査を行っている．胆膵内視鏡検査は月曜日から金曜日の午後に行っている．休日夜間診療は，オンコール体制にて消化器系救急疾患に緊急対応している．紹介患者に関しては，全て消化器科専門医が初療に当たり，緊急を要する症例に対しては，救急外来にて迅速な診断・処置を行っている．

2023年のトピックス・実績

2023年の業績として，消化器病学会近畿支部例会に2題の発表を行った．愛仁会消化器カンファレンスを5月・11月に開催し，特別講演として高槻病院消化器内科澤井寛明先生に「標準治療が導入困難な進行胃癌に対する化学療法について」，蒼法律事務所 長谷部圭司先生に「説明義務の意味と範囲」の講演をいただいた．11月のカンファレンスでは各施設の内視鏡センターの看護師も参加し，内視鏡室運営でのリスクマネジメントについて活発な討論を行った．また施設間のスタッフの交流を深める目的で懇親会を開催し，普段は交流の少ない看護師も積極的に意見交換を行うことができた．がん検診受診率向上のため，2021年から取り組んでいるがん検診啓蒙キャンペーンを10月～11月にかけて行った．また肝臓指導医資格を持つ高島医師が着任し，西淀川区医師会及びカーム尼崎健診プラザ主催の企業懇談会にて肝疾患診療についての講演を行った．愛仁会消化器内科グループとして，神戸大学大学院医学研究科内科学講座消化器内科学分野医局との共同研究契約を締結し，神戸大学と連携し今後の共同研究活動への着手を開始した．

今後の展望

今後も苦痛の少ない内視鏡検査，超音波内視鏡検査などの専門的な内視鏡検査を提供していくことで，地域の中で特殊性をもった消化器診療を広げていく．また症例蓄積を利用した学会報告を行っていくことにより，紹介患者の増加・地域医療への更なる貢献を実現していきたい．

地域に向けては，がん検診の受診率向上を呼びかけるだけでなく，肝臓疾患の専門診療を広げ，生活習慣病としての脂肪肝・アルコール性肝障害に対する診療に取り組み，健診部門との連携も深めていく予定である．がん診療・消化器生活習慣病について，病院受診が必要となる前段階で西淀川区民の健康意識改善に取り組んでいきたい．

表．内視鏡検査実績

（単位：件）

		件数
上部消化管内視鏡総数		3,678
下部消化管内視鏡総数		2,085
ERCP		235
小腸内視鏡		10
カプセル内視鏡		2
EUS		202
EUS-FNA		32
EPT	上部	5
	下部	886
EMR	上部	5
	下部	0
ESD	上部	33
	下部	10
ERCP（採石）		115
ERCP（ステント）		65
Interventional EUS		11
消化管ステント	上部	10
	下部	20
止血	上部	67
	下部	43
食道静脈瘤治療		22
異物除去		20
食道狭窄拡張		12
特殊治療		
EHL		4
その他		
食道 24 時間 pH インピーダンス		26
ESWL		12
RFA		6
肝生検		11

糖尿病内分泌内科

スタッフ紹介

中島進介　（部長，2008年卒）
岡 亜希子　（医長，2011年卒）
羽鳥広隆　（医員，2012年卒）
影山智子　（専攻医，2019年卒）
小林基子　（専攻医，2019年卒）（～2023年3月）
大江晃央　（専攻医，2021年卒）（2023年4月～）

診療内容

2023年の専門外来の診療体制であるが，中島3.5単位，岡3.5単位，羽鳥2単位，影山1単位，小林1単位，神戸大学糖尿病内分泌内科から派遣された非常勤医師3名が計3単位を担当した．2023年3月に大学の人事異動により小林が退職したが，4月から専攻医1年目の大江が加入した．4月からは羽鳥2.5単位，影山2単位と単位数を増やし，大江も0.5単位を担当することで専門外来の単位数を維持した．

糖尿病認定看護師の田中友香看護師が担当する療養支援外来については6単位を継続し，外来療養支援の充実を図っている．

また，前年同様，肥満・糖尿病内分泌センターとして，減量外来（糖尿病・減量外科 北濵部長，4単位担当）での患者は遠方からの受診も多く，中島・岡・羽鳥・影山・小林・大江が随時糖尿病内分泌内科での併診対応を行った．

病棟においては糖尿病（1型・2型・妊娠糖尿病）及び高度肥満症の教育入院，内分泌検査入院，外科系周術期，化学療法，ステロイド療法時などの血糖管理を中心に行った．当院のNST活動についても引き続き，栄養管理科，薬剤科，理学療法科，検査科でチームを構成し週1回のNST回診を行った．

2023年のトピックス・実績

2023年の実績は外来糖尿病患者2,509名，肥満・糖尿病教育入院92名と，外来，入院患者数とも前年よりも増加した．内分泌疾患においては，主に外来となるが，甲状腺疾患1,118名，副甲状腺疾患81名，下垂体疾患296名，副腎疾患97名とこちらも前年よりも増加した．減量・糖尿病外科の年間手術件数は合計111件で，術前・術後と糖尿病，内分泌疾患のある患者について当科で併診を行った．

当科は，主に糖尿病・減量外科と共同して学術活動を行ったが，当科が筆頭演者となった学会発表は4件であった．

今後の展望

糖尿病治療については新規薬剤が続々と販売開始となり，多くの糖尿病は適切な外来治療を行うことで確実な血糖降下が得られ，合併症の進行も抑制できる時代となりつつある．

医療機器については，持続血糖モニター（CGM）の保険適応が2022年より拡大され，インスリンを使用している全ての患者に使用可能となった．またインスリンポンプについても，CGMを併用したインスリンポンプ療法（SAP療法）におけるハイブリッドクローズドループ（HCL）テクノロジーの進歩が目覚ましく，1型糖尿病患者においても安定した血糖マネジメントが可能となった．当院では積極的に最先端のCGM及びインスリンポンプに対応し，より精度の高い確実な治療を可能としている．外来診療の充実に向けて糖尿病認定看護師，栄養管理科及び検査科と連携し，糖尿病教育指導などを外来診療の中で効率よく行うことができるよう検討を進めている．

当科は，肥満・糖尿病内分泌センターとして糖尿病・減量外科，呼吸器内科，栄養管理科，リハビリテーション科と強固な連携があり，肥満症の外来・手術件数も順調に増加している．

今後も，千船病院肥満・糖尿病内分泌センターのこれらの特徴を学会や研究会でアピールすることで，地域との連携や，関西の主要病院との連携，さらに神戸大学との連携を深めていく．

糖尿病・減量外科（肥満・糖尿病内分泌センター）

スタッフ紹介

北浜誠一　（部長/センター長，2002年卒）
奥村慎太郎（非常勤　京都大学消化管外科，2006年卒）
宮内　彩　（非常勤　京都大学消化管外科）
減量チームコアメンバー
・糖尿病内分泌内科　中島進介，岡　亜希子，
　羽鳥広隆，影山智子，大江晃央
・呼吸器内科　住谷充弘
・精神科　山本誉麿（非常勤　さわ病院）
・栄養管理科　田中理恵子，奥村あゆ
・リハビリテーション科　村田尚寛，住平　望
・医事科
　減量コーディネーター　平井麻衣子，住所美沙季
　医師事務作業補助者　大河内映里，中野智枝
・管理科・医療通訳　伊藤マユミ
・臨床工学科　松尾　悠，中島将太
・公認心理師　小寺智子（非常勤　高槻病院心理室室長）

診療内容

当センターでは高度肥満症に伴う11の合併疾患に対し，多職種からなるメンバーが強みを活かしチーム医療を展開している．

2023年の外来診療体制では，第1，3，5月曜日午前の減量術後外来，午後の減量外来，金曜日の外科外来枠（担当：北浜）は91%が減量/GERD患者であり，平均3単位を減量/GERD外来としている．

減量外来では，栄養指導，運動療法と並行し，手術適応のスクリーニング，糖尿病内分泌内科専門医による二次性肥満の否定を全例に行っている．術前血糖コントロールが必要な症例，BMI＞50，遠方患者の場合などには積極的に教育入院を行い，術後のリバウンドに対してはGLP-1製剤などでの補助療法を行っている．睡眠管理は肥満症治療の一貫であるが自宅での簡易PSG検査で全例睡眠時無呼吸症候群のスクリーニングを行い，必要に応じて精密なPSG検査や圧調整目的の入院を行っている．特に高BMIの症例や難病指定である肥満低換気症候群における周術期の呼吸管理をシームレスに行っている．精神面の評価については木曜日の精神科診で耐術能のスクリーニングを行い，必要時に術後のサポートを行っている．また，自費診療で公認心理師による減量カウンセリングを行っている．腹腔鏡手術のスコピストは原則として講習後に一定のトレーニングを終えた臨床工学技士が行っている．英語以外を母国語とする患者も多く，医療通訳は重要な役割を果たしている．以上のように多職種が複雑に関与するため，チーム医療の円滑化を目的として減量コーディネーターが予約の調整や初診の聴取，臨床研究のサポートなど多岐にわたる業務を担っている．

減量チームコアメンバーによる減量カンファレンスは毎週1時間，外来を円滑に行うための減量外来カンファレンスは3か月に1回，ICUとのカンファレンスは外科と合同で週1回行っている．

胃食道逆流症などの上部消化管の機能性疾患の診断，治療の普及を目的に2023年にJapan Foregut Societyが結成され，創設メンバーとして当院より2名（北浜，船津副院長）が参画している．しばしば原因不明の慢性咳嗽として診断のつかないままになっている咽喉頭逆流症（LPRD）や内科的治療抵抗性の胃食道逆流症に対しては，粘膜障害の明らかでないNERDにおいても積極的に24時間pHインピーダンスモニタリングや食道内圧検査を実施し，手術適応を判断している．

2023年のトピックス・実績

①手術件数

修正手術を含めた減量・代謝改善手術件数は昨年に引き続きちょうど100件であり，これまでの減量・代謝改善手術総数は540件となった．肥満を伴わないGERDに対する手術件数は13件と倍増し，ロボット支援下胃手術は10例，そのうち減量手術既往のある者が6例であった．

複数の肥満関連疾患を伴う周術期リスクの高い患者を診療しており，手術の安全性を高めるために導入当初から早期退院プログラム（ERAS）を実施している．2023年の減量術後（修正手術含む）平均在院日数は2.6日であった．

2022年よりロボット支援下手術を導入したが，手術枠が月曜日のみのため2023年より外来コマ数を月2回減少させて対応している．効率化を図り1日当たりの患者数を前年比10%増加して対応することで，延べ患者数の減少を前年比-5%にとどめることができた．現在外来担当医師の育成中であり，今後は総患者数の回復を見込んでいる．

減量外来では1日の患者数の増加に伴い医師事務作業補助者のタスク増加がみられたが，中堅スタッフからジュニアスタッフへの教育の徹底，外来看護師との良好なコミュニケーションにより診療時間の短縮が可能となった．

肥満症と糖尿病に対する栄養指導件数は全体の約半数を占めているが，2022年の48%から2023年は55%へ増加した．2名の一時的な欠員にかかわらず3,749件と前年比2%増加した．

②大学病院への導入支援

減量・代謝改善手術の初期導入にあたり3病院より協力要請があり支援を行った．

・神戸大学医学部附属病院：1月に5例目のスリーブ術指導を行い，保険診療の導入が完了
・京都大学医学部附属病院：7月に症例検討会，8月に3例目の手術指導
・奈良県立医科大学附属病院：2例の手術指導（7月，10月）

③ロボット支援手術の導入

京都大学消化管外科 小濵和貴教授の御指導の下，ロボット支援下胃切除術の導入を行った．手術件数は徐々に増加している．

④eTEP-TARの導入

非常勤で腹壁ヘルニアを専門とする今村医師の執刀の下，高度肥満症治療後の腹壁瘢痕ヘルニアに対する新規術式の導入を行った．国内で実施している病院はまだ僅かであるが，サイズの大きな腹壁瘢痕ヘルニアに対し減量手術をブリッジング手術として用いる考え方は今後の主流になると考えられる．

学術面での業績

(i) 学術集会・講演会での発表

1) 2月の愛仁会学術集会及び6月の糖尿病セミナーおおさかで，平井が「高度肥満に対するチーム医療における減量コーディネーターの役割」について口演を行った．減量コーディネーターは当院で先駆けて導入し試行錯誤の上で役割を定義してきたが，肥満症治療の発展に伴いますます重要性が高まってくると考えられる．
2) 3月 日本内視鏡外科学会の内視鏡下縫合・結紮手技講習会で主にこれから技術認定試験を受験する医師を対象として，減量手術やGERD手術で多用する結紮縫合の応用手技について北浜がレクチャー及び実技指導を行った．ロボット手術全盛の時代が到来しているが，腹腔鏡下縫合結紮は現在でも外科医の基本手技として重要であると考えられる．
3) 5月 アジア太平洋減量代謝改善手術学会（APMBSS at Riyong，Thailand）で北浜が招待演者として，BMI>50に対するBMSについて口演を行った．
4) 5月 外科系連合学会（横浜）チーム医療のセッションでは，栄養士の酒田と臨床工学技士の松尾がそれぞれ「減量・代謝改善手術前後における栄養管理・指導介入について」「当院の減量・代謝改善手術における臨床工学技士の関わり」の口演で本邦でのhigh volume centerとしての経験を共有した．
5) 7月 第16回北播磨糖尿病療養指導フォーラムにおいて中島が肥満，糖尿病外科治療に対する当院のチーム医療について報告した．中島はそのほか新規糖尿病薬剤や先進糖尿病デバイスを活用した糖尿病診療，肥満・糖尿病治療の最新のトピックスについて，オンラインなどを通じ積極的に発表を行った．綿密な糖尿病管理，二次性肥満の否定，教育入院や術後補助療法など，高度肥満症治療において糖尿病内分泌内科医の果たす役割は大きく，タスク・シフト/シェアという考え方が広まるにつれ，チーム医療の重要性に焦点が当てられている．今後予測される手術適応の拡大や内科治療の発展に合わせた集学的医療について今後も積極的に発信していただきたい．
6) 11月 第33回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会では，呼吸器内科の住谷が当院での減量・代謝改善手術における睡眠呼吸障害治療介入の成績について報告した．住谷は5月以降ほぼ毎月のペースで医師会などを対象として計7回の講演を行っており，当院における睡眠時無呼吸症候群及び肥満関連喘息の治療の実際について精力的に啓蒙活動を行っている．引き続き本邦の肥満関連呼吸器疾患のhigh volume centerとしてエビデンスを発信していっていただきたい．
7) 11月 第44回日本肥満学会・第41回日本肥満症治療学会学術集会（仙台）では一般演題4題，シンポジウム・教育セミナー各1題の発表を行った．一般演題で外科治療成績（高リスク者）の座長を務め，教育セミナーでは「肥満とがん」について北浜が教育講演を行った．合同シンポジウムでは「当院におけるスリーブバイパスの成績」について報告した．減量コーディネーターの住所からフォローアップ率の向上を目的として，自己中断に関する観察研究の結果を発表した．栄養科の奥村からBMS前後での食行動の変化について，糖尿病内分泌内科の大江より，当院における高齢者に対するBMSの良好な手術成績について，影山からは術前のテストステロン値とスリーブ術前後での体組成

変化の関連について報告した.

8）11月 Joint Congress On General Medicine 2023（フィリピン）のシンポジウム「肥満症診療・研究の新展開」で北浜が招待演者として指名され，本邦での減量手術の現状，当院の手術成績，患者教育やチーム医療におけるポイントについて概説した．フィリピンではまだBMSに対する保険適応がないこともあり糖尿病内分泌内科医から手術目的の紹介が乏しい現状であることを踏まえ，日本での保険適応承認の流れや内科・外科合同でのコンセンサスステートメントの発出など歴史的な背景と，当院で行っているチーム医療の現状について紹介した．翌日には東京で第1回JFSへの参加があり短期の滞在となったが現地の病院見学も行い，友好を深めた.

9）12月 第36回日本内視鏡外科学会総会では「私はこうやって減量・代謝改善手術を増やしました」と題したパネルディスカッションセッションで座長を務めた．広報活動を含め紹介患者を増やすための様々な工夫について報告があったが，紹介から手術に至る率が低いことが課題と考えられたため，各施設で徐々に（安全に）手術適応を拡大していく必要性について言及した．2024年に当院でのBMSフェローシップを希望しているApichart医師と，Wongsak医師（共にThailandの外科医）の現地症例での症例報告を聴講した.

10）12月 第14回神戸栄養研究会で「減量・代謝改善手術にまつわる栄養について」と題して全国の栄養士へハイブリッドで特別講演を行った．今回初の取り組みとして，神戸大学と当院の両方へ通院している患者についてそれぞれの病院の医療スタッフが，各々の視点で意見を述べ話し合いを行った．限られた診察時間では知り得ない患者の一面が浮き彫りとなり，必要な情報を引き出し施設間で共有することの重要性を再認識することになった．肥満症治療コーディネーター制度の普及とコーディネーター間での情報のやりとりが今後の課題になると締め括った.

(ii) 減量・代謝改善手術のための包括的な肥満症治療ガイドライン

2024年に発行予定となっている上記ガイドラインの策定委員に北浜が指名され，分担執筆を行った．10年ぶりに大きな改定を含んだガイドラインになる予定である.

(iii) 減量手術にまつわる和文2篇，英文1篇を報告した.

1）手術「腹腔鏡下スリーブバイパス術」

特集「肥満症・糖尿病患者に対する減量・代謝改善手術」へ寄稿依頼があり当院の手術手技を報告した．現在先進医療として限られた施設のみで行われているが，進行した糖尿病を有する患者への治療手段として保険収載が可能となるよう外保連を通して働きかけている.

2）Obesity Surgery.“Preoperative Serum Cortisol Level Is Predictive of Weight Loss After Laparoscopic Sleeve Gastrectomy in Men with Severe Obesity but Not Women.”

神戸大学との共同研究で減量術後の体重減少を予測する因子として男性では血性コルチゾール値が挙げられることを報告した.

3）総合診療「減量チームによる集学的介入が喘息コントロールの改善に繋がった肥満喘息の1例」

高度肥満症と喘息との関連はよく知られているが，周術期に喘息発作を起こすと致命的になることもあるため入念な術前管理が必要となる．初期研修医の井上による報告で，チーム医療により安全に手術が可能となり，術後に喘息が軽快した一例を報告した.

(iv) まとめ

2023年の当センターによる減量手術件数は100例，GERD手術13例，ロボット胃切除10例（胃癌など含む）であり，新規術式の導入や関西圏3大学への手術導入支援についても安全に行うことができた．講演会・学術発表は34件，和文論文2本，英文論文1本と件数こそ例年並みであったが，これまでの総手術件数が500例を超え，各部署から日本を代表する施設としての知見をシェアできたことは大きな進歩であり，国内外で減量・代謝改善手術の安全な普及に果たす役割は年々増加している.

今後の展望

・国際水準の集学的医療

当院ではスリーブバイパス術を先進医療として行い，全国5施設の先進医療認定施設と保険診療の認可へ向け共同研究を行っており，ERASを使用し良好な成績を報告してきた．2024年には外国人臨床研修制度を利用した国際フェローの応募があり，減量・代謝改善手術の拠点として肥満・糖尿病チーム医療の更なる普及へ貢献したい．BMSでは外国人患者も多いが，国により食習慣や文化的背景が異なり，医療者が異文化と個々の多様性を柔軟に受け入れられることが重要と考えている．文献からの学習にとどまらず国際学会などでの交流に加え，日常的に外国人研修生の受け入れを行うことでスタッフが国際人としての視野を持ち，患者の目線に立った国際水

準の集学的医療を提供できることが当センターの責務と考える．

・GERD診療

当院はスリーブ術後の難治性GERDに対する修正胃切除術を全国でも多く手掛け，2021年には手術手技について論文化し報告した．本年ロボット支援下での胃切除術を開始したが，症例を重ね報告を行う予定である．高度肥満症とGERDの両方の集学的治療に対応している施設は国内ではまだほとんどないが，来期GERDの内視鏡治療を得意とする医師の参画を見込んでおり，食道機能性疾患の治療についても力を入れていく予定である．

・未受診患者を受診へ

高度肥満症は糖尿病と同様，治療可能な慢性疾患であるが，そういった事実が周知されていないために受診に至らず様々な合併症を併発し続けている．地域の産業医や企業との連携を構築，「未受診の高度肥満症/糖尿病/睡眠時無呼吸症候群患者」を受診に繋げ，肥満症をコントロールしながら各専門科への橋渡しを行うことが当センターの使命である．今年は減量効果の高い糖尿病治療薬であるオゼンピックが発売され，2024年には新たな肥満症治療薬であるウゴービの発売が予定されている．当センターでは最新治療の組み合わせが行える強みを活かし，減量・代謝改善手術と内科的加療の更なるコラボレーションを予定している．

腎臓内科

スタッフ紹介

服部英明：日本透析医学会専門医，日本腎臓学会専門医・指導医，日本内科学会認定医・総合内科専門医，腎代替療法専門指導士

堂﨑良太：日本専門医機構内科専門医（2023年3月退職）

川崎　創：日本専門医機構内科専門医

井出文枝：日本専門医機構内科専門医（2023年4月入職）

高橋哲也：日本糖尿病学会専門医・指導医，日本内分泌学会専門医・指導医，日本病態栄養学会専門医・指導医，日本内科学会認定医・総合内科専門医，千船クリニック所長

診療内容

腎炎・ネフローゼ症候群，電解質異常，急性腎障害，慢性腎臓病，維持透析の合併症，急性血液浄化などを中心に入院加療を行っている．

血液透析室では入院・外来患者の血液透析や，腹膜透析血液透析併用患者の血液透析，腹水濃縮再還流療法，顆粒球除去療法などを行っている．ICUと隣接している利点を生かし，重症患者はICUにて血液透析を行っている．

腎センター外来では，腹膜透析患者，腎移植患者やドナー，内シャント造設準備中の患者などの診療を，腎臓内科と泌尿器科が共同で行っている．

腎センター専属看護師にて血液透析・腹膜透析や腎移植外来の介助を行っている．腎看護外来（腎不全保存期の患者の生活指導，透析療法選択，透析導入のサポート，腎移植の紹介）や腹膜透析導入患者の退院前・退院後家庭訪問を行っている．

2023年のトピックス・実績

血液透析・腹膜透析患者，保存期慢性腎臓病患者についてのカンファレンスを定期的に開催し，医師・看護師・臨床工学技士のみでなく，栄養士も参加する形とした．

2023年6月，第68回日本透析医学会総会にて「重篤なカフェイン中毒に対し速やかに血液透析を施行し救命できた2例」を服部英明が発表した．

2023年10月，第53回日本腎臓学会西部学術大会にて「水痘・帯状疱疹ウイルス感染に合併したSIADHに低用量トルバプタンが有効であった一例」を川崎 創が発表した．

井出文枝が日本専門医機構内科専門医を取得した．

今後の展望

腎炎・ネフローゼ症候群に対し，診断確定や適切な治療方針決定目的に，積極的に腎生検を行っていく．

腎センター外来にて，腎代替療法選択外来を積極的に行い，血液透析，腹膜透析などの積極的導入や，生体腎移植，献腎移植登録を進めていく．

表1．入院実績　（単位：件）

	2021年	2022年	2023年
AKI・CKDとその合併症	37	36	90
腎炎・ネフローゼ症候群	21	26	33
電解質異常	19	27	31
教育入院	1	2	0
膠原病・血管炎とその合併症	0	2	5
血液透析導入	19	17	16
血液透析の合併症	41	27	36
腹膜透析導入	2	3	0
腹膜透析の合併症	3	7	2
腎生検	11	15	10
PET検査	2	0	3
PTA	29	2	4
内シャント造設術	4	7	10
腹膜透析カテーテル留置	0	2	0
一般内科入院	—	—	38

※2023年分より分類の調整・変更を行った．

表2．血液透析実績

	2022年	2023年
総透析回数（回）	1,766	1,765
透析回数月平均（回）	147	147
導入患者数（人）	17	18
死亡患者数（人）	6	7

	2022年	2023年
持続血液濾過（回）	2	9
エンドトキシン吸着療法（回）	0	0
顆粒球吸着療法（回）	25	0
血漿交換（回）	3	0
腹水濾過濃縮再静注療法（回）	64	48

救急診療部

スタッフ紹介

主任部長：林　敏雅
　救急科専門医
医長：山下公子
　救急科専門医
　産婦人科専門医，社会医学系専門医
　日本DMAT隊員，JICA国際緊急援助隊隊員

診療内容

2011年4月に救急診療部として診療が始まった．2012年1月には救急科専門医指定施設に認定された．同年4月からは救急医2名による診療体制となったが，2016年には再び救急医1名となり，2018年より救急医2名による診療となった．院内にはもう1名救急専門医がおり，院内の常勤の救急専門医は3名となる．主たる診療は，日勤帯の救急搬送，外傷，一般外来受診予定であった患者が外来で緊急性が高いと判断された場合の対応，院内の急変への対応も行っている．院内救急体制の一部であるRRT（rapid response team）の一端も担っている．救急センターはER方式で行っており当科で初療を行った後に専門医の加療，若しくは入院加療が必要な場合には該当科への引き継ぎを行っている．

救急医は平日日勤での対応が主となっており，夜間帯は各科からの当直医師による診療となっているが，内科医師，整形外科医師，脳外科医師，外科系医師，産婦人科医師，小児科医師の強力な協力体制による救急受け入れを行っている．

2023年のトピックス・実績

コロナ禍で減少していた搬送件数が徐々に改善しつつあったが，今期は急激な増加が見られ，過去最高の搬送件数となり6,000件を超えることになった．一方で入院比率は31%と増加は認めておらず，搬送件数は増えているものの軽症患者の搬送が増加していると思われる．当院では受入時に受入患者の選別は行っていないため，大阪市の北西部の搬送状況が反映されているのではないかと思われる．

今後の展望

一般外来での受診と異なり，救急を受診する患者は，緊急的な対応が必要となることが多い．多くの受診を望むことは不適切なことではあるが，地域のニーズに合わせて，今後も積極的な受け入れを行っていきたい．

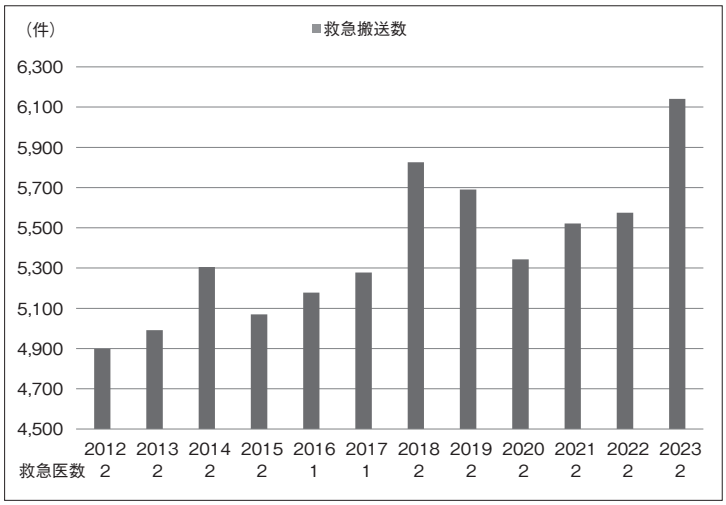


図1．救急搬送件数の推移

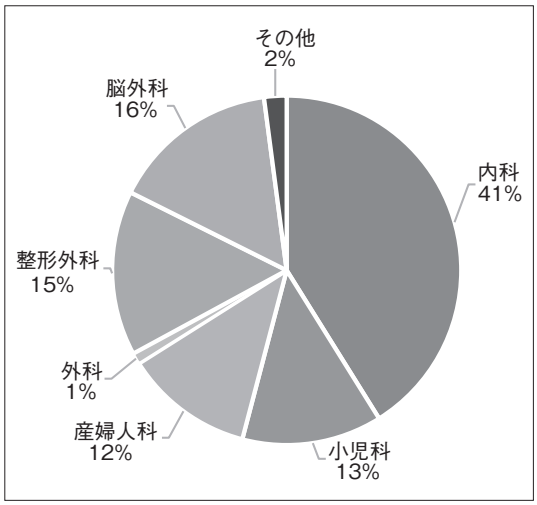


図2．搬送科別割合

外 科

スタッフ紹介

向井友一郎（副院長）
大浦康宏（主任部長）
山元康義（部長）
北濱誠一（部長）
西田久史（部長）（2023年4月～）
三原俊彦（医員）
今村清隆（非常勤）

診療体制又は活動内容

今年度は山元医師の定年による制限勤務に伴い主任部長を大浦医師が引き継ぐこととなった．また4月に済生会千里病院から西田医師が赴任され，山元医師が長年担ってきた胆肝膵領域を引き継いでいただくこととなり新旧交代を図った．

また年度後半においては次年度の働き方改革に向けた勤務時間の換算に向けて，朝のカンファレンス開始時間を勤務開始時間とする変形労働時間制をいち早く導入した．

2023年のトピックス・実績

da Vinci手術は26例に施行した．今年は大腸のみならず念願の胃にも適応を拡大し導入を行った．特に上部消化管領域では北濱医師の尽力によりスリーブバイパス等の他施設では行っていない術式もda Vinci手術で導入しており，今後のますますの活躍が期待できる．da Vinciは他科との有効利用を行い症例数の増加に努めているが，一例一例の手術時間が長いこともあり，ほぼda Vinci手術枠の上限に近づきつつある．今後手術室増室や2台目の購入，あるいは土日の手術室稼働が不可欠になると考えられる．

肥満減量手術は順調に症例を積み重ね西日本では症例数1位をkeepし，北濱は他施設への指導も積極的に行っている．

学会発表も北濱の2件の国際学会での発表のほか，肥満学会，内視鏡外科学会，Acute Care Surgery等の全国学会での発表を積極的に行い，2編の論文発表も行った．

今後の展望

本年度は三原が消化器外科専門医を取得した．

da Vinci手術の導入は順調に行われ症例を積んでおり，悪性疾患手術症例の増加に努めたい．

昨年報告したとおり今後の外科の生き残りの最大のポイントは外科医の確保であり，スカウト活動は継続していく予定である．

表．4年間の手術症例数の推移

（単位：件）

	呼吸器	血管外科	消化器・一般	乳腺	小児外科	合計
2020年NCD登録症例数	13	76	606	32	39	766
2021年NCD登録症例数	11	13	614	49	22	709
2022年NCD登録症例数	9	1	580	43	16	649
2023年NCD登録症例数	10	0	597	39	19	665

整形外科・関節センター

スタッフ紹介

常勤医師
・松田　茂（1997年卒　リハビリテーション科主任部長）
・鄭　克真（2002年卒 整形外科主任部長，関節センター長）
・原田義文（2007年卒　部長）
・前田琢磨（2016年卒　医員）（2023年3月退職）
・横田和斗（2018年卒 後期レジデント）（2023年3月退職）
・雲井洋文（2018年卒 後期レジデント）（2023年4月着任）
・片岡郁吾（2020年卒 後期レジデント）（2023年4月着任）
非常勤医師
・和田健佑（2015年卒　神戸大学大学院）
・赤羽志保（2006年卒）
・楠瀬正哉（2015年卒　神戸大学大学院）

それぞれの専門分野を活かして専門外来診療を設定し，地域医療に尽力している．後期レジデントは十分な臨床の経験と知識・技術を研鑽できるような環境を整備し，臨床研究と発表を行うように指導している．常勤医師は5名で，外来診療，病棟，手術業務，救急対応などを常に対応している．

診療内容

当科では，“Patient First”をスローガンとして，EBMに基づきつつも，「自分が患者や家族の立場であれば」という気持ちや考えを念頭に置いて診療することを心掛けている．

①外来・救急診療

初診を含め全て予約制としている．紹介患者専用予約枠を確保し，地域の医療機関からの患者紹介を円滑に行えるよう努めている．紹介患者数も順調に増加している．また，各スタッフの専門性を活かし，関節センター（鄭医師），手の外科（原田医師），リウマチ（松田医師）の専門外来を行い地域へ浸透している．

救急診療について，平日日中では，救急医からの相談や要請があった場合には専門科としての対応ができるように体制を整えている．平日の夜勤帯は整形外科医が当直をすることで時間外の近隣医療機関からの診療要請や救急搬送の要請に呼応できるようにしている．

②手術

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い，2021年は644件と減少した（2020年：798件）．大腿骨近位部骨折などの外傷疾患の受け入れをはじめとした地域医療の貢献を改めて心掛け，人工関節手術症例の紹介なども徐々に復調し，2022年は原田医師の手の外科領域の外来手術も加わって778件とコロナ拡大前（2019年：738件）に比べて増加し，2023年には888件と過去最高件数となった．人工関節手術に関してナビゲーションシステムを導入し精度の高い手術を提供するよう心掛けている．整形外科領域の手術や診療について手術室看護師向けに月に1回の勉強会を開催し，患者へより高度な技術と知識を持った手術を提供するように精進している．

③病棟診療

主に7階東病棟を利用し，毎日医師数名による回診を行っている．週に1回のリハビリカンファレンスでは，担当する医師，理学療法士と看護師に加えてMSWとの定期的なディスカッションを行い，患者個別の治療計画を立てている．また，月に1回の頻度で整形外科医師より勉強会を開催し，病棟看護師は整形外科患者が持つ特有の病識や病態を理解し看護に努めている．

2023年のトピックス・実績

人工関節手術において，2013年よりナビゲーションシステムというコンピューター支援手術を開始して以来10年という節目を迎えた．

2022年より赴任した手の外科専門医を取得している原田義文医師によって，上肢における外傷による緊急手術やばね指，手根管症候群などの慢性疾患に対する手術件数が向上している．

大腿骨近位部骨折に対する受け入れ，来院時後の迅速な対応と手術加療，麻酔科医や内科医をはじめとした院内の多職種連携，加えて骨粗鬆症に対する二次性骨折予防としてのFracture Liaison Service（FLS）を徹底している．

①人工関節手術

コンピュータを用いたナビゲーションシステムの利用により医者の勘に頼らない高い精度の手術提供に努めるとともに，術中の様々な条件でのデータ収集が可能であり，臨床研究や学会発表につながっている．上述のとおり2021年は新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い手術希望の紹介を含めた受診は低迷した（2011年：

64件，2013年：92件，2015年：97件，2017年：103件，2018年：130件，2019年：134件，2020年：134件，2021年：76件）が，ウィズコロナとして入院中の対策（入院時検査，健康状態確認の徹底，感染患者や外来患者との分離，術後入院リハビリプログラムの短縮化）を行い，ご紹介いただく周囲の医療機関への周知活動をもって手術件数は回復した（2022年116件）．2023年は手術件数は更に増えて126件となった．ただ，入院中の面会に制限があることが，高齢者にとって入院手術への意欲を下げることは否めない．当院では過剰な件数の回復や上昇を目指すよりも，一例一例に満足度の高い手術加療を提供できるように，質の高い医療を提供できるように心掛けることとしている．人工関節置換術後患者で構成する患者会（健歩の会）のレクリエーションは新型コロナウイルス感染症拡大後3年間中止せざるを得なかったが，2023年12月に久しぶりに開催した．手術を受けた患者に満足していただくこと，それを見る帯同者の職員にとってより診療の意欲向上へとつながると信じる．多くのコメディカルの協力の下，手術患者向けのしおりを作成活用し，病棟でのビデオリハビリ時間を設けるなど，今後につながる手術術後ケアに注力し満足度向上を目的とした活動に努めた．また，webを用いた地域医療機関への講演会開催や，ウェブテレビや動画などの広報活動を行い，人工関節手術を中心とした業務の拡充活動に尽力している．

②手の外科手術

手の外科専門医とは，生活習慣や災害，スポーツ活動によって発生する上肢全般，特に手に関する疾患と障害の発生予防・診療に関して，整形外科専門医資格を取得した後に指定医療機関で特別な研修を受け，日本手外科学会が認定した資格であり，全国でも1,000名程度しかいない．2022年に赴任した原田義文医師は手の外科専門医を取得しており，サブスペシャリティの能力を基に，最新の地域医療を提供し，地域住民の運動器の健康維持に貢献することに努めている．上肢の手術はコロナ前（2020年）で50件程度であったが，2023年は100件を超えた．

③大腿骨近位部骨折に対する院内外の連携

当院では大腿骨近位部骨折を「高齢者の単なる骨折」としてではなく，「骨折を有している高齢患者の一疾患」であるという概念の下，多職種連携アプローチに取り組んできた．2018年度より始動以降，手術待機平均日数の短縮，入院日数の短縮につながっている．当科では平均待機日数は1.5日未満を維持している．

大腿骨近位部骨折患者を「骨折を有している高齢患者の一疾患」として捉え，院内の内科医師との連携強化をより一層行う．本骨折を罹患した高齢者において約3～4割に何らかの術後合併症を発症するといわれている．2020年より入院以降から総合内科医師の協力が得られ，全身管理介入を依頼することで，より術後合併症の軽減に努めている．2023年の日本病院学会でこの件を発表し，優秀演題賞を受賞した．

一方，2019年より開始した「地域連携パス」を活用している．当院での骨折に対する加療と併行した骨粗鬆症治療の開始と転院先での加療継続により対側の近位部骨折や他の骨粗鬆症性骨折の予防に努めている．術後の日常生活動作など必要な情報を連携する医療機関へ提供し，地域近隣医療機関との連携，病診・病病連携を強化した．回復期リハビリ病院への転院を円滑に行い，術後の急性期入院期間の短縮が実現できている．

退院後のFLSを徹底し，院内職員2名（病棟看護師，理学療法士）が資格を取得の上，骨折後の患者の二次性骨折予防に努めている．

④研修医への指導

初期研修医への教育指導の一環として，「スキルアッププログラム」と称した当科主導での研修医の指導を月に1度行っている．診療材料メーカー協力の下，模擬皮膚を用いた縫合の練習や整形外科手術のワークショップを行うことで，初期研修医の技術向上の一助となるだけでなくコミュニケーションの向上となるよう努めている．

整形外科志望の研修医には外来診療からIC，手術業務まで後期研修に向けた実臨床の研鑽を積めるように指導した．加えて学術活動も併行して行い，日本人工関節学会での発表に繋がった．

今後の展望

①整形外科における専門性の向上

整形外科は専門分野が細分化されており，紹介する医療機関も紹介先の専門分野を知った上で紹介いただくことが多い．近隣の医療機関より当院へ名指しで紹介いただけるような新たな専門分野の獲得と拡大を目指す．

②近隣医療機関や院内職員との連携強化

人工関節手術業務の拡充はひとえに近隣医療機関からの紹介や当院で手術を受けた患者の高い満足度による口コミによると考えている．当科ではICTを用いた病診連携システムを構築し，近隣医療機関と患者相談や情報の共有が可能である．今後，院内外での科を超えた患者の紹介・逆紹介を更に積極的に行い，大阪市内での病病連携の拡充を目指したい．

加えて，各部署の看護師や理学療法士に向けて勉強会を毎週行っている．院内職員間で当科の業務内容を共有することで，人に勧められるような自信「Chibune

PRIDE」を持ったブランディング医療の提供を目指す．

③初期研修医，後期レジデントの教育

初期研修医への教育指導の更なる充実はもとより，当科の魅力を紹介しリクルートも積極的に行いたい．慢性期疾患を基礎として，急性期疾患に十分対応できるように指導したい．その上で学術活動を支援し，大学関連病院の一関連施設として教育機関の役割も果たしていきたい．

表．手術実績

（単位：件）

手術名			件　数						
			2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
関節センター手術	人工関節置換術	TKA（人工膝関節）	103	97	110	111	59	101	98
		THA（人工股関節）		33	24	23	17	15	28
	関節鏡視下手術，スポーツ手術		33	21	39	36	42	33	43
大腿骨近位部骨折（HF）	大腿骨頚部骨折	人工骨頭置換術	53	46	49	43	57	65	63
		骨折観血的手術	―	75	93	111	100	90	106
	大腿骨転子部骨折	骨折観血的手術							
		外傷手術（HF以外）	298	232	334	343	292	324	389
		上肢手術	―	0	―	51	33	77	105
		リウマチ	―	0	2	0	0	0	3
		下肢手術	―	0	―	34	22	36	30
		小児	―	0	31	32	4	26	9
		その他	129	147	56	14	18	11	14
合計			616	651	738	798	644	778	888

リハビリテーション科

スタッフ紹介

医　　師：2名
主任部長　松田　茂（1997年卒　日本リハビリテーション学会臨床認定医）
部　　長　住谷充弘（1997年卒　日本リハビリテーション学会専門医，日本呼吸ケア・リハビリテーション学会認定呼吸ケア指導士（初級））
科　　長　村田尚寛　理学療法士：20名　作業療法士：6名　言語聴覚士：6名
≪各種学会認定取得者≫
がん患者リハビリテーション料研修修了者：理学療法士3名，作業療法士2名，言語聴覚士2名
認定理学療法士（脳卒中）：2名　認定理学療法士（管理・運営）：1名　認定理学療法士（補装具）：1名
3学会合同呼吸療法認定士：2名　心臓リハビリテーション指導士：1名

業務内容

1. 理学療法業務

当院の理学療法の対象は，整形外科疾患が最も多い．その他では，脳血管疾患を中心とした脳外科疾患，内科では糖尿病，慢性呼吸不全，急性心筋梗塞後，外科では術前後の呼吸リハやADLの改善にも取り組んでいる．また超早期からの介入を開始．TKAと減量外科に関しては午前中の手術である場合，状態に合わせて術当日夕方からの離床を開始．退院に際しては，患者が円滑に日常生活を送れるよう退院時指導を行っており，引き続き理学療法が必要な患者には，外来にてフォローを行っている．

2. 作業療法業務

入院患者では，主に脳血管疾患の急性期，上肢骨折などの整形外科疾患を中心に作業療法を実施している．また，長期臥床後の廃用症候群などについても退院に向けてのADL訓練に積極的に介入している．外来患者では主に手の骨折などの整形外科疾患を中心に作業療法を実施している．

3. 言語療法業務

言語療法は，主に呼吸器内科，内科，脳神経外科からの依頼をもとに失語症・構音障害・音声障害・嚥下障害などの言語聴覚療法を行っている．また，医師，嚥下認定看護師，薬剤師，管理栄養士らを加えた多職種連携の環境下で定期的に嚥下回診を行い，もの忘れ外来，外来小児の言語発達検査等にも取り組んでいる．

4. 地域事業

地域の健康関連イベントやウォーキングイベントを開催．西淀川区主催イベントにてサルコペニア・認知症をテーマにブースを設置（年2回）．千船病院主催イベントにてウォーキングイベントを実施（年3回）．

その他，関連企業や団体とのイベントで健康ブースを設置（年2回）．今後も継続して地域への取り組みを行う．

2023年のトピックス・実績

2023年活動実績を表示する（図表1～2）．

小児領域での介入の拡充を図った．また地域イベントへの参加を積極的に行い，サルコペニア・認知症の啓蒙を行った．学会発表は第73回日本病院学会，第10回日本地域理学療法学会学術集会，第33回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会にて演題発表を行った．臨床チーム（整形外科・肥満糖尿病・認知症・心大血管・ウィメンズヘルス）では当院でのエビデンスの確立や研究発表に取り組んだ．

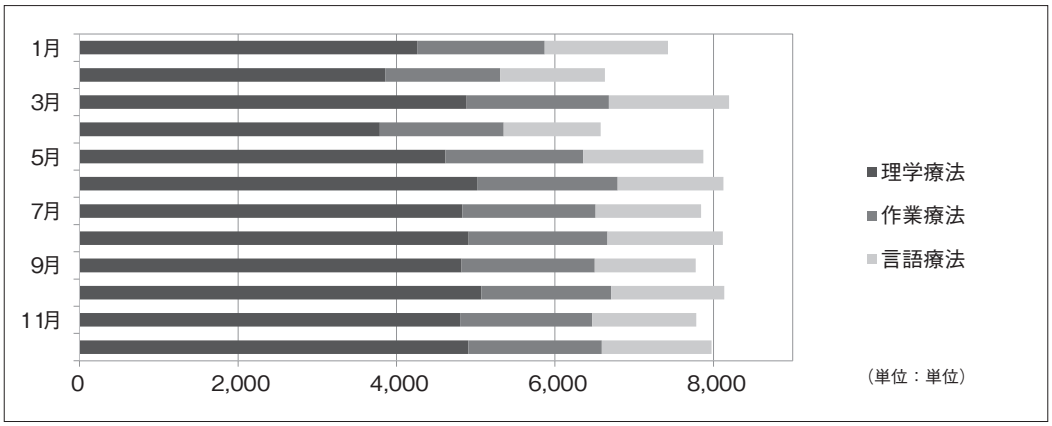
今後の展望

急性期病院のリハビリテーション科の役割として，今まで以上に早期介入，早期退院への取り組みが必要とされている．理学療法・作業療法・言語聴覚療法の3職種がチームとしての活動と臨床チームをより発展させ，早期退院や退院後の生活の安定につなげていきたい．また，2024年度の診療報酬改定に向けて急性期から在宅へ幅広いニーズに対応できるよう，それぞれの専門性を高め，技術の向上や地域事業への参画をすすめる．

図表１．リハビリテーション科活動実績

（単位：単位）

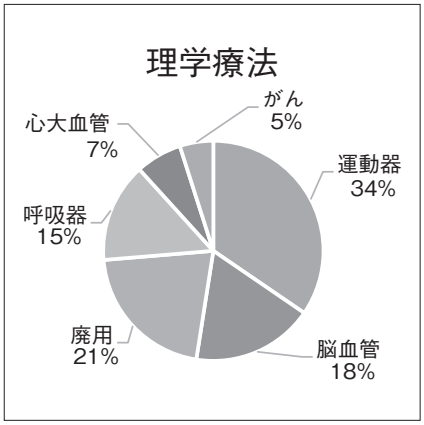
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
理学療法	4,259	3,859	4,885	3,789	4,616	5,017	4,833	4,911	4,820	5,069	4,803	4,906	4,647
作業療法	1,612	1,452	1,795	1,562	1,741	1,775	1,681	1,753	1,681	1,639	1,665	1,684	1,670
言語療法	1,555	1,320	1,516	1,224	1,516	1,332	1,331	1,453	1,276	1,427	1,314	1,384	1,387
合計	7,426	6,631	8,196	6,575	7,873	8,124	7,845	8,117	7,777	8,135	7,782	7,974	7,705

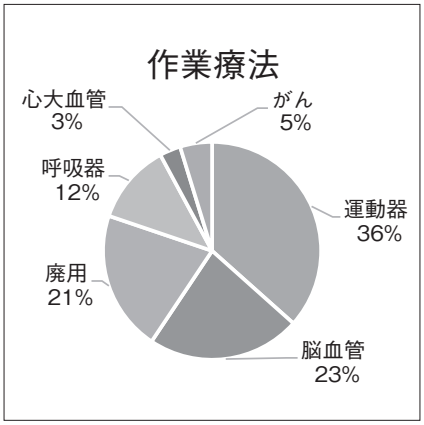


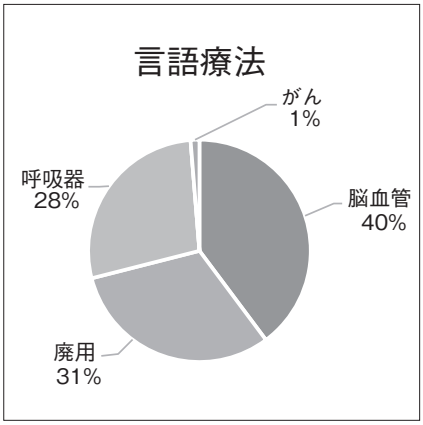
図表２．疾患別リハビリテーション内訳

（単位：件）

	運動器	脳血管	廃用	呼吸器	心大血管	がん
理学療法	11,949	6,199	7,331	5,050	2,352	1,701
作業療法	5,003	3,112	2,849	1,631	427	648
言語療法	—	4,330	3,397	3,013	—	139







泌尿器科

スタッフ紹介

常勤医師　川口理作（1979年卒，部長）
樋口喜英（1997年卒，副院長）
花咲　毅（2010年卒，医長）
新開康弘（2013年卒，医員）
（～2023年3月）
林　冠宏（2019年卒，医員）
（2023年4月～）
非常勤医師　山田祐介

診療内容

徐々に新型コロナウイルス感染症の影響が薄まり外来及び入院診療の質量が回復し，病院全体の活動性が高まるとともに泌尿器科の時間外診療や他科依頼手術を含む緊急対応が増加した．業績は上がるもスタッフ（特に病棟担当医）への負荷はかなり増えた．

腹腔鏡手術数（副腎腫瘍，腎癌，腎盂尿管癌，尿膜管摘除）は昨年同様で，ロボット支援手術は腎部分切除が2例，前立腺全摘は関連病院からの紹介もいただき29例と増加，腹腔鏡下膀胱全摘は3例であった．現在のところ腎悪性腫瘍手術の腎摘除にはロボットは使用していない．排尿障害に対する経尿道的前立腺手術は少なく，小児泌尿器科領域は院内外の紹介があるものの，ウイルス性感染症の増加があったためか昨年より少なかった．腎臓内科と連携する業務は増えており，腎不全外科領域のシャント手術は泌尿器科一般スケジュールと並行して行うことも多くなっている．特にシャント閉塞に対する血管内治療（VAIVT）は年間51例と増加しており，アンギオ室において月・金曜日午前の定期枠を確保して行っている．

2023年のトピックス・実績

腎センター：シャント閉塞に対する血管内治療（VAIVT）の紹介患者は増加傾向で外来手術治療が増加した．

腹腔鏡下膀胱全摘術及び尿路変向術：自診療科による腸管利用手術実施で合併症は認めていない．

当院婦人科における骨盤臓器脱手術前後の排尿ケアを当科で行っている．

今後の展望

・透析クリニック連携：経皮的シャント拡張術症例数増加．透析導入数維持のためのシャント手術増加．
・ロボット支援手術の適応術式拡大による症例数増加と適応疾患への実施による腹腔鏡手術件数の増加
・近隣医療施設からの救急要請への対応力増強

表．主要手術実績　（単位：件）

手術症例	件数
腹膜透析カテーテル留置	1
ブラッドアクセス造設術	20
経皮的シャント拡張術	51
腹腔鏡下副腎摘出術	1
腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	13
腹腔鏡下腎部分切除術（ロボット支援下）	2
腹腔鏡下膀胱全摘・尿路変向術	3
経尿道的膀胱腫瘍切除術	58
尿管膀胱吻合術（Boari/Psoas hitch）	2
腹腔鏡下前立腺全摘術（ロボット支援下）	29
経尿道的前立腺レーザー蒸散術	6
体外衝撃波破砕術	9
経尿道的尿管砕石術	72
経尿道的膀胱結石砕石術	5
陰嚢水腫根治術	9
停留精巣固定術	10
精巣捻転手術（対側固定あり）	5
腹腔鏡下尿膜管摘除術	1
尿道下裂形成手術	1
陰茎折症手術	1

脳神経外科

スタッフ紹介

部　長　朝田雅博（1973年卒）
　　日本脳神経外科学会専門医
部　長　岡田崇志（2001年卒）（～2023年3月）
　　日本脳神経外科学会専門医，脳卒中学会専門医
部　長　榊原史啓（2006年卒）（2023年4月～）
　　日本脳神経外科学会専門医・指導医，脳卒中学会専門医・指導医，脳神経血管内治療学会専門医，日本脳卒中の外科学会技術認定医
医　員　千田大樹（2015年卒）（～2023年3月）
専攻医　清水嘉偉（2019年卒）（2023年4月～）

診療内容

2021年度より日本脳卒中学会の研修教育施設，一次脳卒中センターにそれぞれ認定され，それに伴い脳卒中ホットラインを開設した．救命医や内科医にもご協力いただき，24時間365日脳卒中や脳卒中を疑う患者を受け入れ，t-PA静注療法や脳血栓回収療法を速やかに開始できる体制を取っている．また，2021年度より日本脳神経外傷学会の認定研修施設に認定され，頭部外傷診療にも積極的に取り組んでいる．

2021年4月から常勤医は3名体制となり，兵庫医科大学脳神経外科の支援を受け，週5日の脳神経外科当直を行っている．専門外来については，脊椎外科を陰山博人先生（毎週火曜日），小児脳神経外科・脳腫瘍を阪本大輔先生（第1，3水曜日）に担当いただいている．

2023年のトピックス・実績

毎週月曜の脳卒中カンファレンスでは，2023年度より尼崎だいもつ病院のリハビリスタッフに参加いただき，病院間の密な情報交換を行っている．また，医師・看護師・リハビリスタッフ・MSWに加え，病棟薬剤師や管理栄養士にも参加してもらい，それぞれの専門性を活かしたチーム医療を実施している．

2023年の手術総数は91件で，前年（75件）を上回った．中でも脳血管内治療は24件（前年14件）と大きく数を伸ばし，脳血管造影検査は134件と飛躍的に増加した．

今後の展望

西淀川区唯一の総合病院脳神経外科であり，t-PA静注療法及び脳血栓回収療法を含めた急性期脳卒中診療を行える一次脳卒中センターとして，西大阪の脳卒中医療を支えていく．また，外来診療及び救急医療を通して，患者一人ひとりに対して質が高く優しい医療を提供し，地域医療に貢献していく．院外では引き続き兵庫医科大学脳神経外科と緊密に連携を取り，院内では他の診療科や看護師，リハビリスタッフといった多くの職種と，円滑なチームワークを形成し，恒久的な脳神経外科診療体制を築いていく．

これまでに当院で初期研修を積んだ医師が数名，兵庫医科大学脳神経外科に入局した実績もあり，今後も大学と連携しながら，若手医師へ脳神経外科入局の勧誘を行っていく．また，今後彼らが千船病院で脳神経外科スタッフとして働きたいと思えるような，やりがいのある職場を作っていく．

表．実績　（単位：件）

		2023年
脳血管障害	脳内出血	3
	くも膜下出血	4
	未破裂脳動脈瘤	1
	頸動脈内膜剥離術	5
	バイパス術	2
	血管内手術	24
脳腫瘍	髄膜腫	1
	神経膠腫	0
	転移性脳腫瘍	1
	海綿状血管腫	0
脊髄脊椎	頸椎前方固定	2
	頸椎椎弓形成術	2
	腰椎椎弓切除術	3
機能外科	水頭症	15
	神経血管減圧術	1
頭部外傷	急性硬膜下出血	1
	急性硬膜外出血	1
	慢性硬膜下血腫	21
その他		4
合計		91

皮 膚 科

スタッフ紹介

常勤医師：松本いづみ

診療内容

外来診療：
・皮膚科一般
・病棟依頼診察
・褥瘡回診
・ダーモスコピーによる非侵襲的検査・診断
・男性型脱毛症に対するプロペシア（自費）の処方
入院診療：
・帯状疱疹，蜂窩織炎，褥瘡等
　集学的治療の必要な悪性疾患，紫外線照射装置による検査・治療が必要な場合は，他院へ紹介している．

今後の展望

千船病院での外来診療，千船クリニックでの訪問診療ともに地域医療に貢献するよう努めたい．

眼 科

スタッフ紹介

主任部長　中村礼恵
非 常 勤　中村　誠，今井尚徳，松宮　亘，長井隆行，高野史生

診療内容

外来では，一般眼科，小児眼科の診療を主に行っている．また，月に一度緑内障，神経眼科の専門外来を，週に一度小児眼科の専門外来を行っている．

手術は，白内障手術を中心に，硝子体手術，緑内障手術，斜視手術，霰粒腫等の外眼部手術を行っている．

また，全身麻酔下にて小児の霰粒腫等の手術も行っている．さらに抗VEGF薬の硝子体注射も施行している．

今後の展望

白内障手術，硝子体手術，緑内障手術，斜視手術のできる環境を整えて，手術件数を増やしていきたい．また，専門外来を充実させていきたい．

表．手術件数

（単位：件）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
白内障手術	14	14	13	17	20	16	19	14	12	19	15	11
硝子体+白内障手術	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
緑内障+白内障手術	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
緑内障手術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
外眼部手術	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1

耳鼻咽喉科

スタッフ紹介

常勤医師　伊集院隆宏
常勤医師　奥西真帆
常勤医師　鞆津匡宏

診療内容

耳鼻咽喉科外来担当医表参照（表1）.

活動内容

診療体制は昨年と特に変わっていない.

今後の展望

引き続き近隣の開業医及び高次機能病院とのより丁寧な病診連携を行っていきたい.

2024年4月より当科常勤医師の奥西真帆医師と鞆津匡宏医師の勤務が変更となる．奥西真帆医師はご家庭の事情より2024年7月より当院非常勤医師として勤務され，鞆津匡宏医師は開業の準備のため8月いっぱいで当院での診療を終わられる.

今後は当面主に伊集院一人で診療に当たることとなる．できる限り対応していきたいと思うが，働き方改革や医療安全等の兼ね合いもあり皆様方に多大なご迷惑をお掛けすることもあるかと危惧している.

引き続き皆様よりご指導ご鞭撻を賜りたい.

表1．外来担当医表

	月	火	水	木	金
午前	伊集院	伊集院	原田・手術	伊集院	奥西
	奥西	奥西		奥西	鞆津
午後	検査・外来手術 （完全予約制） 補聴器外来	検査・外来手術 （完全予約制） 補聴器外来	手術	検査・外来手術 （完全予約制）	検査・外来手術 （完全予約制）

表2．手術状況

（単位：件）

手術	件数	手術	件数
皮膚腫瘍摘出露出外３㎝未満	1	内視鏡下鼻腔手術Ⅰ型（下鼻甲）	6
外耳道異物除去術（単純なもの）	1	扁桃周囲膿瘍切開術	10
外耳道異物除去術（複雑なもの）	1	咽頭異物摘出術（簡単）	3
鼓膜切開術	39	咽頭異物摘出術（複雑）	1
鼓膜チューブ挿入（片）	13	アデノイド切除術	12
鼻中隔膿瘍切開術	1	中咽頭腫瘍摘出術（経口腔）	8
鼻腔粘膜焼灼術	15	口蓋扁桃手術（摘出）	63
鼻内異物摘出術	1	喉頭膿瘍切開術	1
鼻前庭嚢胞摘出術	1	喉頭声帯ポリープ切除　直達	1
鼻茸摘出術	1	口蓋腫瘍摘出術（口蓋粘膜）	1
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅲ型	10	軟口蓋形成手術	1
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅳ型	2	舌腫瘍摘出術（粘液嚢胞摘出術）	1
鼻副鼻腔腫瘍摘出術	2	頬腫瘍摘出術（粘液嚢胞摘出）	1
内視鏡下鼻中隔手術Ⅰ型（骨軟）	2	総計	199

小児科

スタッフ紹介

2023年の人事異動では，湊 紘太朗医師，松本聡太郎医師，清川笑里医師が当院の小児科後期研修プログラムとして，田中花衣医師が兵庫医科大学病院のプログラムでの研修として4月にスタッフとして加わった．国本一輝医師は，小児科後期研修プログラムに沿い，関連施設での研修のため異動された．榎本真由子医師は非常勤勤務となった．石村怜子医師は5月に産休に入られた．2023年のスタッフは，吉井勝彦（1984年卒），西野昌光（1978年卒），牟禮岳男（2002年卒），横田知之（2004年卒），水野洋介（2006年卒），木原沙紀（2007年卒），藤坂方葉（2009年卒），古林真佐美（2013年卒），井上翔太（2013年卒），住吉倫卓（2014年卒），英賀真二郎（2017年卒），堀部拓哉（2018年卒），田中花衣（2018年卒），野間瑞希（2019年卒），石村怜子（2019年卒），上地高志（2020年卒），近藤瑠乃（2020年卒），池田茂生（2020年卒），森脇彩賀（2020年卒），湊 紘太朗（2021年卒），松本聡太郎（2021年卒），清川笑里（2021年卒）の22名であった．

診療内容

1. 外来診療

午前は一般診察を行い，午後は一般診察に併行して，予防接種，乳児健診，神経外来，発達外来，腎外来，アレルギー外来，心臓外来，内分泌代謝外来，肥満外来などの特殊専門外来を実施した．表1に月別一日平均外来数，表2に月別時間外外来総患者数を示す．

2. 新生児センター

当院の分娩数は過去3年間，2,368，2,062，2,386例であり，新型コロナウイルス感染症の行動制限も終了し，分娩数の回復を認めた．新生児センターへの入院数や2,500g未満の低出生体重児の収容数は，それぞれ1,322，1,340，1,320例，280，249，228例と横這いだった．死亡例は2例であった．超低出生体重児として出生された児は2例で，一児は出生時の肺高血圧のため，もう一児は肝被膜下出血のためにショック状態となり死亡された．表3に2023年の新生児センターの保育成績を示す．感染対策のため，本年は新生児蘇生法講習会は院内向けに行った．

3. 一般病棟

表4に一般病棟の疾患別入院数を示す．入院数は過去3年間585，565，864例であった．新型コロナウイルス感染症流行で減少していたが，行動制限も解除され，徐々に入院数の回復を認めた．検査入院数も58例と順調に増加してきている．また，外来，救急搬送，紹介として入院経路を過去3年間で比較したが，入院経路は同様の傾向だった．本年は死亡症例はなかった．

4. レスパイト事業

大阪市より依頼があり，2019年4月より大阪市重症心身障がい児者等医療型短期入所事業の実施機関として，重症児の短期入所対応を開始しており，2023年は延べ9名の短期入所を受け入れた．

2023年のトピックス・実績

小児病棟として，6階病棟，8階西病棟が定着し，受け入れ態勢の改善があり，一般病棟入院数の増加に繋げられていると考えられる．今後も診療環境面の改善を進めていきたい．乳児血管腫の内服治療であるヘマンジオル導入目的の入院も開始した．また，神戸大学医学部5年次，6年次，兵庫医科大学6年次の病院実習の受け入れも継続して行っている．病院実習の経験から初期研修病院で当院を選択する学生も多く，今後も丁寧な対応を行っていく．当院は新専門医制度での小児科専門研修プログラムの基幹病院に認定されており，小児科専攻医1年目，2年目の医師を各3名ずつ受け入れた．後期研修医が小児科を専攻する場合，小児科専門医を取得することは勿論であるが，その後はsubspecialityとしての専門医取得も推奨している．当院ではsubspeciality分野として，新生児領域のほか，アレルギー領域の研修教育施設や小児神経領域の研修関連施設（研修認定施設 神戸大学附属病院の関連施設）の認定を取得しており，将来のsubspecialityを考えることのできる環境を作っている．臨床カンファランスでは，死亡例も含めリアルタイムでの症例検討を行っているが，前方視的な臨床研究検討も行い学会活動につなげていきたい．本年も，日本周産期新生児医学会，日本新生児成育医学会などでの学会活動を行った．地域での小児医療の研鑽として，西淀小児科懇話会で話題提供を行った．

▽カンファランス

周産期検討会　資料回覧のみ

症 例 検 討 会　火，水曜日　午前8時30分～9時00分

今後の展望

小児科研修を志す初期研修医も多く，症例確保が重要な課題となるため，スタッフ数を維持し，精力的な医療活動を行っていきたい．小児科の研修施設として，教育に当たる指導医の充実を図ることも重要である．加えて，小児科専門研修プログラムでは，論文の作成が必須であるため，学術活動の幅を広げていくことが必要と考えられる．一方，スタッフが多くなれば，医療的知識だけでなく，スタッフ間の意思疎通の不備も見られてくる．回診時に，患者情報の共有を徹底し，スタッフ全員が同様の方針を確認できるよう配慮していく．新生児蘇生法講習会については，従来の地域周産期医療の啓蒙活動として行っていた近隣の産科施設も参加可能な講習に戻していきたいと考えている．

表１．月別一日平均外来患者数

（単位：名）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
患者数	72	79	75	76	88	95	86	73	78	80	81	88

表２．月別時間外外来患者数

（単位：件）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
患者数	134	144	99	107	171	142	162	153	158	144	156	148

表３．新生児センター入院数

（単位：名）

出生体重（g）	入院数	院内出生	緊急母体搬送	院外出生	人工換気数	転院数	死亡数	死亡率（%）
～499	3	3	1	0	3	1	1	33.3
500～999	13	13	6	0	13	1	1	7.7
1,000～1,499	16	16	2	0	14	0	0	0
1,500～1,999	43	42	7	1	22	1	0	0
2,000～2,499	153	152	8	1	31	1	0	0
2,500～	1,092	1,081	3	11	92	1	0	0
計	1,320	1,307	27	13	175	5	2	0.2

表４．一般病棟入院数

（単位：件）

呼吸器疾患	
気管支炎 （このうち RSV24，hMPV8）	100
肺炎・気管支肺炎 （このうち RSV16，hMPV13，インフルエンザ菌 19，肺炎球菌 8，マイコプラズマ 4）	88
細気管支炎 （このうち RSV35，hMPV2）	45
気管支喘息・喘息性気管支炎	68
クループ症候群	2
急性扁桃炎・咽頭炎 （このうちアデノウイルス 15，A 群溶連菌 4）	29
急性中耳炎	3
急性上気道炎	3
誤嚥性肺炎	1
肺膿瘍	1
副鼻腔炎	1
消化器疾患	
感染性腸炎 （このうちノロウイルス 10，アデノウイルス 7，カンピロバクター 4）	41
回腸末端炎・腸管膜リンパ節炎	5
腸重積症	8
急性虫垂炎	7
胃食道逆流症	4
潰瘍性大腸炎	1
単純性イレウス	1
急性膵炎	1
上腸間膜動脈症候群	1
総胆管拡張症	2
腸回転異常症	1
粘血便・褐色嘔吐	2
神経疾患	
熱性けいれん	92
てんかん・無熱性痙攣	24
胃腸炎関連痙攣	3
頭部外傷	8
意識消失発作	4
髄膜炎（細菌性・ウイルス性）	8
急性脳炎・脳症	1
蘇生後脳症	2
潜在性二分脊椎	1
熱性せん妄	5
代謝・内分泌疾患	
周期性嘔吐症・ケトン性低血糖症	5
バセドウ病	1
ビタミン D 欠乏症	1

感染症	
手足口病	4
突発性発疹症	7
伝染性単核球症	2
インフルエンザ	20
COVID-19	19
新生児・乳児発熱	36
蜂窩織炎	21
菌血症	5
深頸部膿瘍・化膿性リンパ節炎	5
腸チフス	1
感染性発疹症	1
Gianotti 症候群	1
ヘルペス性歯肉口内炎	2
レプトスピラ症	1
腎泌尿器疾患	
尿路感染症	22
ネフローゼ症候群	3
急性尿閉	1
その他	
川崎病	26
アナフィラキシー	19
食物蛋白誘発胃腸炎	4
IgA 血管炎	1
ループスアンチコアグラント関連凝固異常症	1
在宅移行目的	1
異物誤飲	3
急性薬物中毒	2
熱中症	3
免疫性血小板減少性紫斑病	4
溶血性貧血	1
予防接種副反応	1
新生児黄疸	3
ループス腎炎	1
パッチテスト	1
ヘマンジオル導入	3
哺乳不良	11
検査	
成長ホルモン負荷試験	11
食物負荷試験	47
レスパイト	9
合計	873

産婦人科

スタッフ紹介

本山　覚　1977年卒，名誉院長
・専門：婦人科腫瘍，周産期，性感染症，女性漢方
吉田茂樹　1990年卒，副院長・部長
・専門：婦人科悪性腫瘍，内視鏡技術認定医，骨盤臓器脱，周産期，日本がん治療認定医機構・がん治療認定医，同機構・暫定指導医
岡田十三　1994年卒，周産期センター長・主任部長
・専門：周産期，産婦人科，産婦人科救急，子宮鏡手術
村越　誉　1996年卒，先端医療分野主任部長
・専門：婦人科悪性腫瘍，周産期，胎児超音波検査，子宮筋腫，内視鏡技術認定医，がん治療認定医
稲垣美恵子　1997年卒，女性科主任部長
・専門：生殖内分泌，内視鏡技術認定医，周産期，日本頭痛学会認定専門医，がん治療認定医
大木規義　1998年卒，婦人科主任部長
・専門：婦人科悪性腫瘍，内視鏡技術認定医，周産期，がん治療認定医
城　道久　2006年卒，医長
・専門：周産期医療，内視鏡技術認定医，超音波専門医，がん治療認定医

以下　専門：周産期，婦人科一般　各病院に6か月派遣
北井沙和　2017年卒，医員
河谷春那　2018年卒，医員
北　采加　2018年卒，医員
苔原つばさ　2019年卒，医員
二木ひとみ　2019年卒，医員　産休育休
伊賀川奨大　2020年卒，専攻医　大阪母子医療センター
清瀬ますみ　2020年卒，専攻医
福田大輔　2020年卒，専攻医　リプロダクション大阪
光岡真優香　2020年卒，専攻医
吉武壮生舜　2020年卒，専攻医　神戸大学
鈴木裕紀子　2021年卒，専攻医　兵庫県がんセンター
津田洋之介　2021年卒，専攻医　リプロダクション大阪
永山明穂　2021年卒，専攻医　西神戸医療センター
根来柚衣　2021年卒，専攻医　神戸大学
和田知春　2021年卒，専攻医　近畿大学プログラム
岩本麻衣子　2021年卒，専攻医　兵庫医大プログラム
澤田史奈　2021年卒，専攻医　神戸大学プログラム
中山佳奈　2022年卒，専攻医　兵庫医大プログラム
廣西　紋　2022年卒，専攻医　兵庫医大
一宮素奈　2022年卒，専攻医　明石医療センター
佐野友香　2022年卒，専攻医　明石医療センター
藤田彩花　2022年卒，専攻医　神戸大学
安斎　怜　2022年卒，専攻医　淀川キリスト教病院
柴田直輝　2022年卒，専攻医　西神戸医療センター
日下真美子　2022年卒，専攻医　神戸大学
辻　拓弥　2022年卒，専攻医　淀川キリスト教病院

診療体制並びに活動目標

連携施設出向中の後期研修医を除き，産婦人科医師26名（名誉院長1名・部長5名，医長1名，医員4名，後期研修医15名）の体制で，産科・婦人科の全領域をカバーしている．大阪府地域周産期母子医療センター指定により活発に同センター運営を行い，母体搬送に対応するとともに，大阪府産婦人科一次救急医療ネットワークにおいて府下産婦人科一次救急の半数を超える救急車を受け入れ，地域産婦人科救急の要として日々努力している（厚生労働省HP産婦人科救急DPC患者数 全国2位：1位は鹿児島市民病院）．

2023年のトピックス・実績

2019年，当院の年間分娩数は1,846件と過去最高を記録し，小阪産院を抜き大阪府下で分娩取り扱い件数1位を達成した．さらに24時間対応の無痛分娩を開始したことから，これを上回るペースで増加し，年間分娩数は，2020年2,122件，2021年2,373件と急速な勢いで増加した．2022年以降，異例の分娩数制限を行ったにもかかわらず，年間分娩件数は2022年2,323件，2023年2,345件と高水準，月当たり平均200件を維持することができた（大阪府下1位・全国順位5位）．また24時間対応無痛分娩は，2021年766件，2022年722件，2023年1,001件と，3年連続増加した（図1）．

一方，産科婦人科合わせた手術実績は，手術点数ベースで前年並みの高水準（2019年3,846万点→2020年4,047万点→2021年4,592万点→2022年4,671万点→2023年4,535万点）を達成した（図2）．5名の産婦人科内視鏡技術認定医が中心となり，鏡視下手術件数（2019年565件→2020年647件→2021年698件→2022年706件→2023年663件）が今期も増加したことが大きく寄与したものと考える．

特に婦人科領域において，より先進的な医療への取り

組みを継続しており，da Vinci Xiを用いた婦人科ロボット手術件数（良性）は，大阪市立総合医療センターに次いで大阪府下第2位，全国第7位となった．

また当院産婦人科は，『新専門医制度・産婦人科研修プログラムにおける基幹施設』に認定されており，新たに8名の産婦人科後期研修医を採用したが，この採用人数は全国13位であった（表）．過去7年間で合計53名の後期研修医を採用し，これら多数の後期研修医採用を背景に，明石医療センター，高槻病院などの愛仁会系列病院はもとより，阪神間における多数の施設に後期研修医を派遣し，地域の産婦人科診療に多大なる貢献を行っている．

臨床成果の学術成果への記録活動も積極的に行っており，これら多数の専攻医の学会発表も積極的に行っている．

今後の展望

24時間対応可能な無痛分娩の導入により，大阪府における無痛分娩のメッカとなることを目指し，年間分娩数2,400件の維持を目標とする．

一方婦人科領域では，5名の内視鏡技術認定医を中心に，最新型「da Vinci Xi」を用いたロボット手術を積極的に行い，今後更なる婦人科手術件数の増加に貢献できるものと考えられる．

産婦人科救急医療，産科分娩件数，da Vinci Xiを含めた婦人科手術件数，並びに新専門医制度における基幹施設としての研修医獲得人数，これら産婦人科の全ての分野において全国10指に入る病院を目指す．

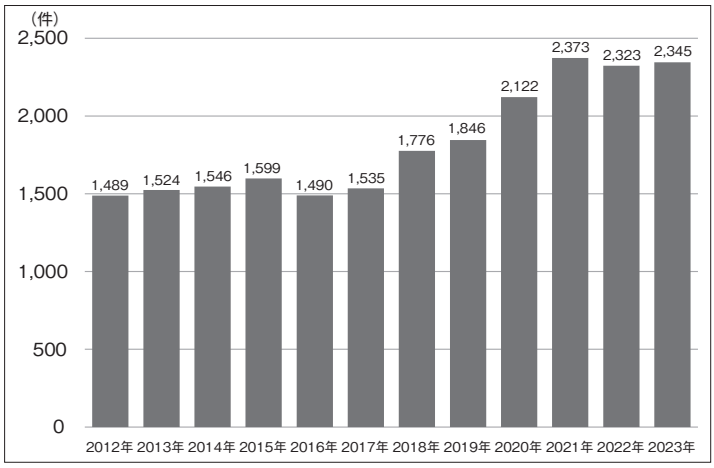


図1．年間分娩件数の推移

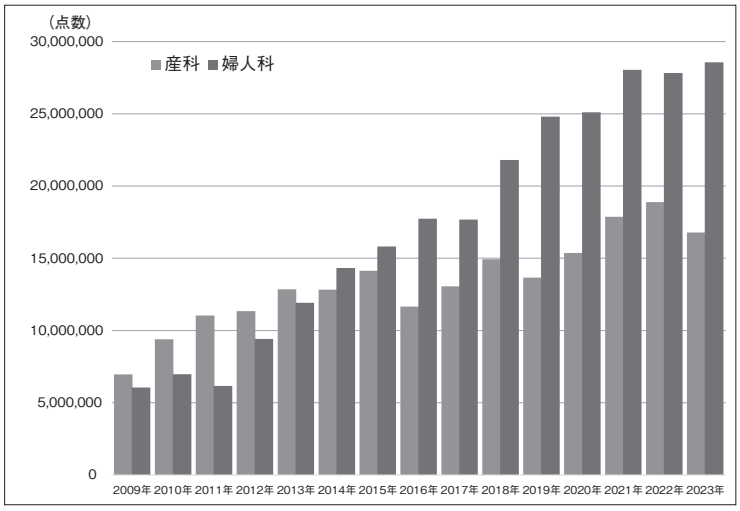


図2．手術実績（手術点数）の年次推移

表．後期研修医採用数の年次推移

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	合計
定　員	8（名）	8（名）	8（名）	8（名）	8（名）	8（名）	8（名）	56（名）
採用数	8（名）	5（名）	8（名）	8（名）	8（名）	8（名）	8（名）	53（名）
充足率	100（%）	62.5（%）	100（%）	100（%）	100（%）	100（%）	100（%）	94.6（%）

麻 酔 科

スタッフ紹介

1. 常勤医
   主任部長　水谷　光（1993年卒，専門医・指導医）
   部長　河野克彬（1967年卒，専門医・指導医）
   部長　奥谷　龍（1979年卒，専門医・指導医）
   医員　藤田和子（1989年卒，専門医・指導医）
   部長　魚川礼子（1998年卒，専門医・指導医）
   医長　木村靖子（2004年卒，専門医・指導医）
   2023年8月入職
   部長　角　千里（2005年卒，専門医・指導医）
   医長　星野和夫（2007年卒，専門医・指導医）
   医長　大山泰幸（2008年卒，専門医）
   医員　村松　愛（2009年卒）
   2023年3月退職
   医員　平塚　剛（2017年卒）
   2023年4月入職
   専攻医　滝西史麻（2019年卒）
   2023年4月入職，9月退職
   専攻医　西　進介（2019年卒）
   2023年10月入職
2. 非常勤医
   若干名

診療内容

手術麻酔：麻酔科管理 4,291例/年
（うち全身麻酔 2,249例/年，帝王切開 642例/年，無痛分娩 998例/年）
ICU：関与していない
術前外来：月曜日から金曜日の午前
無痛分娩外来：月曜日と水曜日の午後
ペインクリニック外来：木曜日の午後
手術症例カンファレンス：毎朝
M&Mカンファレンス：月曜日の朝
抄読会：火曜日の朝

2023年のトピックス・実績

手術件数，全身麻酔件数，無痛分娩の全ての件数が増加した．それだけでなく，大きな事故がなく業務を続けられていることが何よりの誇りである．麻酔診療において安全は最優先事項であり，そのためには人的資源が欠かせない．ぎりぎりの人数ではとても安全は確保できず，余裕を持った人員配置が必要である．効率的な手術部の運用や，緊急手術の受け入れや，突発的事象への対応も，余裕がなければならない．産休育休や突発的な休みへも対応しなければならない．安全確保のためだけでなく，更なる人員確保の条件としても余裕は必要である．増員を目指すためには，現職員が余裕を持って業務に当たっていないといけない．

今後の展望

これまでどおり，安全で快適で無駄のない麻酔診療を目指す．手術を行うには，麻酔科医と手術部看護師が必要である．現在は業務量に比して常勤麻酔科医が少ないので増員が必要だが，そのためには現職麻酔科医が幸せでなければならない．また，薬剤師らへ業務移行を進めたい．術後患者の安全と手術部運営の効率化のためにPACU（post-anesthesia care unit）を開設したい．

無痛分娩についても，これまでどおりの安全で快適で無駄のない鎮痛を提供したい．そのためにも，手術部で使っている部門システムを産科病棟へ拡張し，薬剤師らへ業務移行を進めたい．

画像診断科

スタッフ紹介

前田哲雄
田中　豊（～2023年3月）
石田　愛（2023年4月～）

診療内容

画像診断科では，各診療科や地域の先生方の依頼に応じて，各種の画像検査，画像診断，診断装置を利用したインターベンショナル・ラジオロジー（IVR）を行っている．画像検査には胸部・腹部・骨・乳腺などのレントゲン検査（単純X線撮影），胃透視・注腸などの消化管造影検査，尿路造影検査，CT検査，MR検査，核医学検査（RI），血管造影検査などがある．IVRはX線診断技術を応用した治療で，肝がんに対する肝動脈塞栓術や産後子宮出血に対する子宮動脈塞栓術などを施行している．

2023年のトピックス・実績

過去4年間の主な検査件数を表に示す。

今後の展望

2023年3月には長年千船病院放射線科を支えてこられた田中医師が退職，4月から新任医師として石田医師が赴任となった．画像診断においてはCT・MRIでの件数は横ばいであるが，RIの件数が減少傾向である．当科のみで件数増加は困難であるが，検査体制の更なる充実を図ることや他院への広報活動により以前程度までの件数回復を図りたい．

表．過去4年間の主な検査件数　（単位：件）

検査名	年	総件数
MRI	2023年	6,954
	2022年	6,585
	2021年	7,301
	2020年	6,571
CT	2023年	15,114
	2022年	14,190
	2021年	15,253
	2020年	14,847
腹部血管造影検査	2023年	19
	2022年	12
	2021年	24
	2020年	36
核医学検査	2023年	383
	2022年	417
	2021年	495
	2020年	494

病理診断科

スタッフ紹介

医師：
主任部長　名方保夫
（病理専門医，1980年卒，2004年7月着任，2023年3月退職）
部長　八十嶋　仁
（病理専門医，1979年卒，2014年4月着任）
医長　渡邊隆弘
（病理専門医，2009年卒，2019年4月着任）
臨床検査技師：常勤5名
伏見翔一郎（国際細胞検査士），
佐藤　圭（国際細胞検査士），
木下佳乃（細胞検査士），
玉岡紗矢佳（国際細胞検査士），
井上弘規（細胞検査士）

診療内容

病理診断科（病理検査室）の主たる業務は，病理組織診断，術中迅速病理組織診断，細胞診断，術中迅速細胞診断及び病理解剖である．病理組織診は，生検及び手術標本診断に分類される．生検では腫瘍性か非腫瘍性か，良性か悪性かの判定が，今後の患者の治療方針決定に重要である．手術標本診断は，腫瘍（特に悪性）において重要であり，その組織型の最終診断，切除標本における深達度，脈管侵襲の有無，切除断端における腫瘍細胞の有無及びリンパ節転移の有無などが，今後の治療方針決定の一助となり得る．術中迅速病理診断は，良性あるいは悪性の判定，リンパ節転移の有無及び切除断端の決定を短時間で標本を作製診断し，術中における治療方針決定の一助となり得る．さらに細胞診断及び術中迅速細胞診断は，組織診断との併用や，組織採取が困難な部位（穿刺細胞診）あるいは体腔液診断に重要な場合が多い．病理解剖は，医師の卒前及び卒後の医学教育や今後の臨床医学の発展に多大の貢献をもたらすものであり，当科の業務としては極めて重要な位置付けにある．なお，CPCは原則として2か月に1度，午後5時15分より開催され，活発な論議も展開され，特に臨床研修医の卒後医学教育に役立っている．

2023年のトピックス・実績

2023年3月末，長年にわたり病理診断科の診療に貢献されてきた名方保夫主任部長が退職された．4月より渡邊隆弘医長が部長へと昇進し，病理診断科の長を務めている．5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類感染症へと移行し行動規制の緩和がなされてきたが大きな混乱はなく，臨床各診療科，臨床検査部門，事務部門，看護部門の多大な支援協力により，病理組織診断及び細胞診件数は例年の水準を維持し（各項目の2023年実績は，図表1～3を参照），2023年病理診断科及び病理検査室の業務は円滑に遂行された．剖検数は10体を下回ったが前年と同水準であり，初期臨床研修医に必要な症例数を満たした．

今後の展望

大阪府より承認され当院の病床数は10月1日より16床増床の308床となった．病理組織・細胞診断数のこれまで以上の増加が見込まれる．迅速かつ正確な病理組織診断，病理細胞診断が遂行されるよう，臨床検査技師スタッフと協力して更に努力を重ねたい．

これからも田中智洋検査科科長の下，臨床検査部門とも密に連携しながら，迅速な業務の遂行に努めたい．

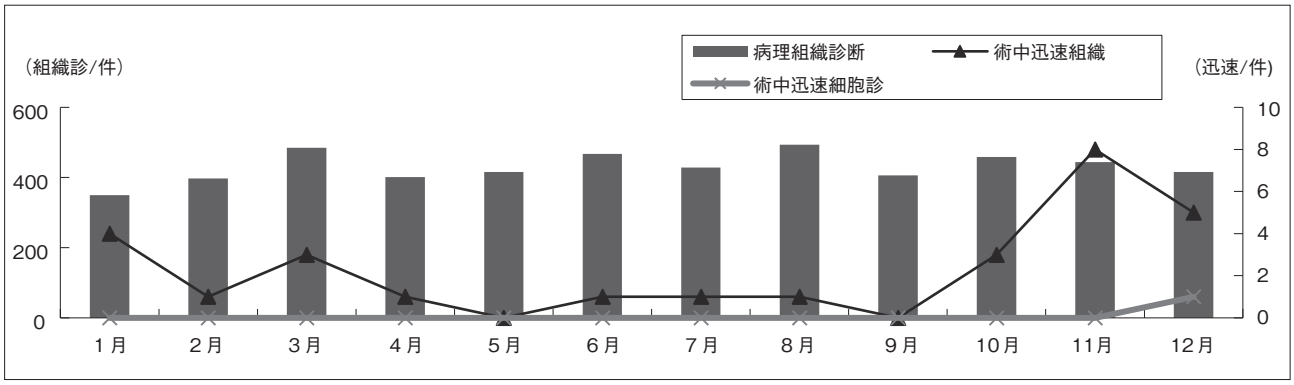
兵庫医科大学病院病理診断科（主任教授：廣田誠一先生）からは，4月の人事異動でこれまで御診療いただいた和田沙由理先生に代わり，新たに井出良浩先生，木原多佳子先生を非常勤医師として招聘し御診療いただいている．活発な人的交流による，更なる病理組織・細胞診断の精度向上が期待される．

最後に，卒前卒後の医学教育及び今後の臨床医学の発展のために，病理解剖を御承諾された御遺族の御篤志に深甚なる敬意を表するとともに，多忙な臨床の場において病理解剖の承諾を得るべく努力された診療部スタッフに謝意を述べたい．

図表１．病理組織診断・術中迅速診断件数

（単位：件）

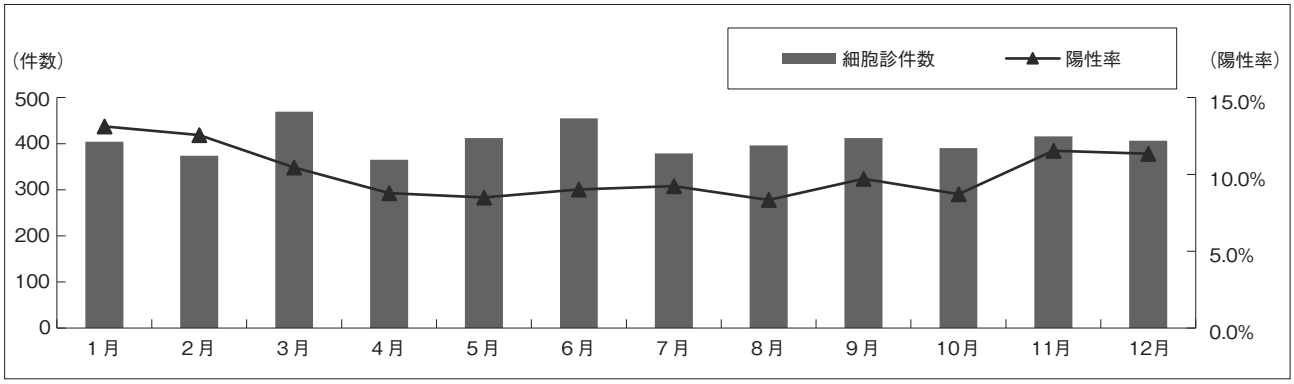
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
病理組織診断	350	397	485	401	416	467	428	494	406	459	444	416
術中迅速組織	4	1	3	1	0	1	1	1	0	3	8	5
術中迅速細胞診	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1



図表２．細胞診件数と陽性率

（単位：件・%）

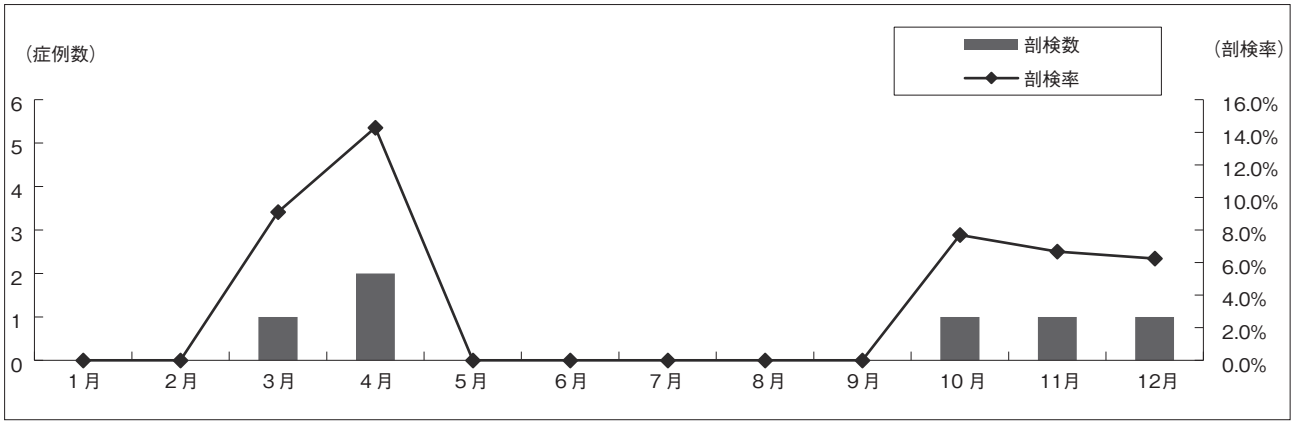
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
細胞診件数	404	374	469	365	412	455	379	396	412	390	416	406
陽性数	53	47	49	32	35	41	35	33	40	34	48	46
陽性率	13.1%	12.6%	10.4%	8.8%	8.5%	9.0%	9.2%	8.3%	9.7%	8.7%	11.5%	11.3%



図表３．病理解剖数と剖検率

（単位：件・%）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
剖検数	0	0	1	2	0	0	0	0	0	1	1	1
剖検率	0.0%	0.0%	9.1%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	6.7%	6.3%



千船クリニック（透析部門）

スタッフ紹介

髙橋哲也：千船クリニック所長
日本糖尿病学会専門医・指導医，日本内科学会認定医・総合内科専門医，日本内分泌学会専門医・指導医，日本病態栄養学会専門医・指導医

非常勤医師
神戸大学医学部附属病院腎臓内科医師ほか，計5名

診療内容

透析室
・対象：慢性腎臓病（CKD）の初期から末期（透析患者）
・診察室（2室）：主として透析未導入の慢性腎臓病
・透析ベッド40床＋隔離用個室3床：4クールの血液透析治療（血液透析濾過治療を含む）
・看護師外来：透析治療法選択時の情報提供，食事療法の食材等説明

2023年のトピックス・実績

①維持透析患者（血液透析HD）：維持透析患者数は2023年平均でHD（含HDF）117名（前年130名），年間総HD回数18,213回（前年20,163回）で前年から減となっている．
②栄養指導：栄養科の協力で，維持透析患者のベッドサイド栄養指導を継続．

今後の展望

全国的に透析患者数の新規導入数の減少と死亡患者数の増加により，2022年には慢性透析患者数は初めて減少に転じた．2023年はコロナ禍に加えて，様々な合併症の併発による緊急入院や死亡例の増加による患者数の減少により医業収入の減少となったが，同時に人件費も抑制することで経常利益は確保できている．

今後，透析医療を取り巻く環境は，診療報酬面でも厳しい状況が続くことが予想され，今後の千船クリニックの方向性もこのような患者数の全体の減少，一方では高齢透析患者の増加とケアの複雑化を踏まえて慎重に検討していく必要がある．

Ⅱ

尼崎だいもつ病院

回復期リハビリテーション病棟
地域包括ケア病棟
障がい者病棟
全199床

〒660-0828
兵庫県尼崎市東大物町1丁目1番1号
TEL.06-6482-0001

院長　松森良信（～2023年3月）
　　稲本真也（2023年4月～）

診療部総括（病棟，外来）

スタッフ紹介

稲本真也（内科，循環器内科，院長），瀧本 裕（総合診療科，副院長），加東 武（整形外科，主任部長），吉田和也（整形外科），中村道三（脳神経内科），大東陽治（脳神経外科），荒川鉄雄（循環器内科），中田秀史（消化器内科），古川公嗣（脳神経内科），山鳥嘉樹（循環器内科），嶋 聡子（リハビリテーション科），吉井大祐（脳神経内科），濱浪嘉登（リハビリテーション科）で診療を行った．

診療内容

病棟構成とベッド数としては3階障がい者病棟29床，4階地域包括ケア病棟50床，5階回復期リハビリ病棟60床，6階回復期リハビリ病棟60床で運用．急性期を脱しても，まだ医学的・社会的・心理的なサポートが必要な患者に対して，多職種がチームを組んで集中的なリハビリテーションを実施し，心身ともに回復した状態で自宅や社会へ戻っていただくために入院医療を展開した．脳血管疾患や大腿骨頸部骨折患者に加え，切断患者，パーキンソン病（計画的短期入院）やALSなど神経難病の患者も積極的にリハビリテーションを行い，退院後も通院リハビリテーション，併設老健施設，訪問看護ステーションと協力し地域医療・介護の一翼を担った．

外来部門としては内科，消化器内科，循環器内科，糖尿病内分泌内科，脳神経内科，整形外科などを標榜し，毎日2～3診体制で外来診療を行った．当院退院後の患者に対し，当院外来がかかりつけ医機能を発揮できるよう，外来診療体制の整備を開始した．2022年11月から運用を開始した救急外来も継続し，さらに千船病院の支援の下での小児科・産婦人科外来も継続中である．

2023年のトピックス・実績

1年間の退院患者は1,289名であり，平均在院日数は65.2日であった（表1）．主病名のICD-10による疾患大分類では，3階障がい者病棟では，パーキンソン病，ALS，脊髄小脳変性症，進行性核上性麻痺，多系統萎縮症などの神経難病が122名（70.5%）と大部分を占めた．4階地域包括ケア病棟では，回復期リハビリ病棟でのリハビリテーションが困難な骨折・脳血管障害，感染症治療後の廃用症候群の患者が多く，循環器系の疾患が79名（18.7%），整形外科疾患が52名（9.6%）を占めた．5階，6階回復期リハビリ病棟では，脳血管障害を中心とした循環器系の疾患が282名（42.9%），大腿骨頚部骨折など骨折患者を含む損傷，中毒及びその他の外因の影響が199名（30.3%）であった（表2）．

外来部門としては，2022年11月から運用開始した救急外来は，延べ患者数340名であった．また2022年12月から開始した小児科は延べ患者数374名，産婦人科は延べ患者数652名であった（表3）．

紹介元は病院設立の経緯もあり，尼崎総合医療センターが39.3%を占めたが，50%を割り比率は低下してきている．尼崎市内の他病院が31.3%，兵庫県内（尼崎市外）が13.5%，大阪府が11.7%であった（表4）．

退院時の転帰は自宅退院が65.8%，病状悪化による急性期病院，療養病院など他病院への転院は14.0%，施設入所が19.4%と自宅退院が減少，転院施設入所が増加している．10名（0.8%）の患者がお亡くなりになった（表5）．

また，近隣急性期病院等で加療後すぐ自宅に帰れない患者を転院で受け入れ，ADL評価や心臓リハビリテーションを積極的に行っており，退院後も通院可能な方には外来心臓リハビリテーションを継続している．

今後の展望

今後の診療報酬改定により厳しくなると予想される地域包括ケア病棟1の施設基準，回復期リハビリ病棟1の施設基準を堅持しつつ満床に近い利用を達成する．

また，地域への医療の提供として外来機能充実及びリハビリテーション医療の外来・地域展開，新たなエビデンス構築など，フレイルや認知症予防などを含めたリハビリテーションの新たな取り組みにも着手していく．

表1．病棟別・退院患者数，平均在院日数

病棟名	退院患者（名）	平均在院（日）
3階障がい者病棟	173	60.4
4階地域包括ケア病棟	460	35.3
5階回復期リハビリ病棟	323	65.9
6階回復期リハビリ病棟	333	64.9
総計	1,289	65.2

表2．疾患大分類（ICD-10）別・病棟別　退院患者数

（単位：名）

	3階障がい者病棟	4階地域包括ケア病棟	5階回復期リハビリ病棟	6階回復期リハビリ病棟	総計
Ⅰ．感染症及び寄生虫症	1	6	1	0	8
Ⅱ．新生物	10	16	1	2	29
Ⅲ．血液及び造血器の疾患	0	4	0	0	4
Ⅳ．内分泌，栄養及び代謝疾患	4	21	3	2	30
Ⅴ．精神及び行動の障害	0	2	1	0	3
Ⅵ．神経系の疾患	122	54	7	11	194
Ⅶ．眼及び付属器疾患	0	0	0	0	0
Ⅷ．耳及び乳様突起の疾患	0	0	0	0	0
Ⅸ．循環器系の疾患	7	79	119	163	368
Ⅹ．呼吸器系の疾患	3	34	0	2	39
ⅩⅠ．消化器系の疾患	1	26	1	0	28
ⅩⅡ．皮膚及び皮下組織の疾患	1	11	1	0	13
ⅩⅢ．筋骨格系及び結合組織の疾患	6	52	61	69	188
ⅩⅣ．尿路性器系の疾患	0	19	0	0	19
ⅩⅤ．妊娠，分娩及び産褥期疾患	0	0	0	0	0
ⅩⅥ．周産期に発生した病態	0	0	0	0	0
ⅩⅦ．先天奇形，変形及び染色体異常	0	0	0	1	1
ⅩⅧ．症状，徴候，異常検査所見	0	14	1	0	15
ⅩⅨ．損傷，中毒，外因の影響	17	99	121	78	315
ⅩⅩ．傷病及び死亡の外因	0	0	0	0	0
ⅩⅩⅠ．健康状態への影響要因	0	0	1	0	1
ⅩⅩⅡ．特殊目的コード	1	22	6	5	34
総計	173	459	324	333	1,289

表3．外来患者数

救急患者数

（単位：名）

科名	延べ患者数	実患者数
内科	27	22
整形外科	313	251

科別外来患者数

科名	延べ患者数	実患者数
内科	1,705	429
呼吸器内科	242	134
消化器内科	443	145
循環器内科	1,350	194
脳神経内科	172	29
整形外科	1,386	177
リハビリテーション科	708	50
産婦人科	652	337
小児科	374	339
糖尿病内分泌内科	232	42
合計	7,264	1,876

表4．紹介元医療機関（入院患者）

（単位：名）

紹介元医療機関	紹介数	比率
尼崎総合医療センター・難病センター	506	39.3%
（　うち　尼崎総合医療センター　）	462	35.9%
（　うち　難病センター　）	44	3.4%
尼崎市内	402	31.3%
兵庫県（尼崎市外）	173	13.5%
大阪府	151	11.7%
他都道府県	7	0.5%
当院外来	42	3.3%
ケアプランセンターだいもつ	4	0.3%
だいもつ訪問診療	1	0.1%
合計	1,286	100.0%

表5．退院時の転帰

（単位：名）

	退院数	比率
自宅退院	848	65.8%
転院	181	14.0%
（うち　尼崎総合医療センター）	61	4.7%
転所	250	19.4%
（うち　老健施設）	124	9.6%
死亡退院	10	0.8%
合計	1,289	100.0%

Ⅲ

高　槻　病　院

7:1急性期病院
総合周産期母子医療センター
小児救命救急センター
地域医療支援病院
JMIP（外国人患者受入れ医療機関認証制度）認証医療機関
大阪府外国人患者受入れ地域拠点医療機関
ICU·PICU·SCU/MFICU·NICU·GCU
全477床

〒569-1192
大阪府高槻市古曽部町1丁目3番13号
TEL.072-681-3801

院長　髙岡秀幸

総合内科

スタッフ紹介（2023年12月31日現在）

主任部長：筒泉貴彦
医　　長：濵田　治
医　　員：恒光綾子，中原　舜，加藤由紀子
専攻医：近藤俊介，冨手生成，田崎雄大
診療看護師：向井拓也，小林達也，猪熊咲子

診療内容

外来：総合内科は高槻病院の初診外来を担当しており，種々の症状を呈する患者の初期評価を行っている．門戸の広い入り口として患者を受け入れ，自科での対応のみで良いか専門科に相談が必要かを判断する．再診外来では主に初診外来で対応した患者の加療が短期間である際のフォローアップ，あるいは総合内科に入院されていた患者の退院後の複数回のフォローアップに利用している．いずれも病態が安定した際は極力かかりつけ医に患者をお返しするようにしており，急性期病院と開業医との良好な関係を維持できるように努力している．すなわち開業医からの紹介に対しては依頼内容に対して真摯に対応し，問題が解決したら患者をお返しすることで高槻市の中枢病院としての役割を果たすことを目指している．

入院：一般外来及び救急外来からの急性期疾患が入院患者の多くを占めている．高齢者において頻度の高い誤嚥性肺炎，尿路感染症，複数の病態が関与する食欲不振や衰弱（Failure to thrive）症例が多いが，不明熱，多関節炎などの診断に難渋する症例も相談されるケースが増加している．基本的に入院依頼のあった症例については特殊な理由がない限り全例受け入れており，必要に応じて専門科と協力の上診療を行う．予定入院とは異なり，緊急性を伴う病態が多いが柔軟な対応を心掛けている．入院チームは科内2チームで構成されており，日替わりで入院の対応を行っている．各チームは1名の指導医，2名の後期研修医，初期研修医1～2名及び診療看護師で構成されている．診療看護師も診療に関与しており，看護師としての側面から患者の診療の質の向上に大きく役立っている．主に急性期診療後の症例を担当し，患者の安全な退院及び転院において必要な対応を網羅的に行っていることが特徴である．2018年度より整形外科疾患である大腿骨近位部骨折及び椎体骨折に対する診療を，当科を主科として整形外科と協力して行うことが開始されている．欧米ではOrthopedic Co-Management（OCM）と呼ばれており，整形外科の病態以外の種々の内科疾患，周術期管理，安全な退院のための準備などを包括的に診療することで患者への診療の質の向上を目指して行っている．高齢患者のニーズに即しているためか，1年を通じた入院患者数は1,000名以上と年々増加傾向であり，昨年度同様，他科の外来及び入院患者のコンサルテーションも随時行っている．

教育：若手医師及び看護師への教育面においても役立つべく，毎朝のカンファレンスや回診時の教育セッション，看護師勉強会において尽力している．

2023年のトピックス・実績

訪問診療：高齢社会に伴い外来受診が困難な症例，終の棲家として自宅を選択するも依然として医療のニーズがある症例に対して，総合内科主体の訪問診療を2020年度より愛仁会しんあいクリニックで始動しており患者数は順調に増加している．更なる拡大を目指していく．

研究：京都大学医療経済学分野の今中雄一教授のご協力の下，愛仁会との共同研究が開始されている．臨床の現場におけるエビデンス構築のため臨床研究及び論文作成をより積極的に行っている．

教育：院内の若手医師への教育のみならず院外における森ノ宮医療大学での診療看護師卒前教育，同法人内の特定看護に係る看護師への教育に活躍の場を広げている．

今後の展望

高齢社会である本邦においてはますます種々の病態をバランスよく診療する総合内科医にニーズが高まることが予想される．高槻病院での急性期診療，愛仁会しんあいクリニックでの在宅診療を継続しつつ，来年度より同法人内の井上病院において腎疾患症例を主とした亜急性期診療にも着手していく．総合内科の必要性を臨床の場だけでなく学会発表や論文からも発信していく．

呼吸器内科

スタッフ紹介

船田泰弘　1995年卒，主任部長
中村美保　2002年卒，医長
松村佳乃子　2009年卒，医長
岩坪重彰　2010年卒，医長
大内愛子　2016年卒，専攻医（2023年4月～）
山岡貴志　2016年卒，専攻医
村上翔子　2016年卒，専攻医
日詰健太郎　2019年卒，専攻医（～2023年3月）
阪本萌永子　2021年卒，専攻医（2023年4月～）
＊西村春佳　2009年卒（非常勤）

診療内容

肺炎，喘息，COPDなどのcommon diseaseを始め，肺癌の集学的治療，重症呼吸不全患者の集学的治療，チーム医療で取り組む慢性呼吸器疾患など幅広い診療を行っている．診療体制は従来どおり屋根瓦方式のチーム制（2チーム制）で診療及び初期研修医・専攻医の指導を行った．

2023年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症の入院患者は53名と昨年と比べて若干減った程度であったが，重症患者は少なかった．

入院患者数は延べ835名（昨年810名）と増加した．入院患者の内訳は，新型コロナウイルス感染症53，肺炎・気管支肺炎111，誤嚥性肺炎21，結核4，肺膿瘍8，膿胸10，胸部悪性腫瘍220（非小細胞肺癌178，小細胞肺癌36，悪性胸膜中皮5 など），気管支喘息30，COPD増悪31，間質性肺疾患82，気胸42，血痰・喀血3，胸水貯留19などであった．肺炎（誤嚥性肺炎含む）と肺癌で半数近くを占める点は昨年までと同様であるが，2023年はコロナ禍で減少していた気管支喘息の入院が増加傾向であった．死亡退院は63名であった．終夜睡眠ポリグラフィ（PSG）が127（昨年84）と大幅に増加したが，要因は不整脈内科からの紹介増であった．入院での気管支鏡検査は16件（外来での気管支鏡検査140件；総計156件）と昨年より回復傾向を認めた．なお，今年も呼吸器内科・外科・放射線治療科・病理診断科・メディカルスタッフが参加する肺癌キャンサーボード及び，骨転移ボードを毎月開催した．

今後の展望

2023年は新型コロナウイルス感染症が5類相当に変更された．引き続き新型コロナウイルス感染症患者への対応は必要であったものの，新型コロナウイルス感染症以外の入院患者数が増え，活動は回復傾向にあると考えられた．2024年はコロナ禍前（2019年以前）の水準に活動を回復させられるよう，更に実績を伸ばしたい．

表．2023年の延べ入院患者数と転帰（　）内は昨年

（単位：名）

	患者数	死亡		患者数	死亡
呼吸器感染症			呼吸器悪性腫瘍		
新型コロナウイルス感染症	53(60)	4(7)	非小細胞肺癌	178(149)	11(17)
肺炎・気管支肺炎			小細胞肺癌	36(77)	4(4)
細菌性肺炎	105(77)	4(8)	悪性胸膜中皮腫/胸腺癌/その他	5/1/0(4/1/4)	1/0/0(0/0/0)
ニューモシスチス肺炎	1(5)	1(1)	閉塞性肺疾患		
レジオネラ肺炎	1(4)	0(0)	気管支喘息	30(21)	0(0)
肺真菌症(アスペルギルス症)	2(1)	0(0)	COPD増悪	31(31)	5(4)
誤嚥性肺炎	21(47)	5(2)	その他		
結核/非結核性抗酸菌症	4/6(2/5)	0/1 (1/0)	気胸	42(62)【手術13(22)】	2(1)
ウイルス性肺炎（RS，インフルエンザ）	4(0)	0(0)	胸水	19(17)	3(2)
肺化膿症/膿胸	8/10(6/11)	0/2 (0/0)	気管支拡張症	1(4)	1(0)
間質性肺疾患			血痰・喀血	3(5)	0(0)
肺線維症・非特異性間質性肺炎	54(57)	10(18)	血管炎・肺胞出血	0(2)	0(0)
特発性器質化肺炎	6(2)	1(0)	肺塞栓症	0(1)	0(0)
過敏性肺臓炎	3(4)	0(0)	その他	48(36)	5(4)
薬剤性肺炎	6(2)	0(0)	検査入院		
放射線肺臓炎	2(4)	0(0)	終夜睡眠ポリグラフィ検査	127(84)	
好酸球性肺炎	8(4)	0(0)	気管支鏡検査	16(18)【入外合計156(123)】	
膠原病関連間質性肺炎	3(3)	0(2)	局所麻酔下胸腔鏡検査(胸水入院)	1(4)	

循環器内科

スタッフ紹介

髙岡秀幸　（1986年卒）
中島健爾　（2002年卒）
松寺　亮　（2006年卒）
佐野浩之　（2008年卒）
湯口　賢　（2010年卒）（～2023年3月）
谷村幸亮　（2012年卒）
田中悠介　（2013年卒）
神末真由　（2016年卒）
片平龍太郎（2017年卒）
山田真博　（2019年卒）（～2023年3月）
名村咲音　（2020年卒）
尾家勇哉　（2021年卒）
齋藤勝太郎（2021年卒）
林　友貴　（2021年卒）　計14名

診療内容

入院患者は，主に救急外来からの直接入院や近隣医療機関からの外来紹介である．診療内容は，冠動脈を含めた心機能評価，冠動脈インターベンション（PCI），下肢動脈形成術（EVT），救急心不全加療を主としている．また，弁膜症の術前評価にも力を入れており心臓血管外科と共に質の高い医療を提供している．3年前に開始した心臓ホットラインは引き続き継続しており，24時間体制で主に開業医から直接電話を受けられるように対応している．また，平日は従来の内科当直に加えて循環器内科当直を立てて，夜間救急患者の受け入れを強化している．総じて大きな合併症もなく患者を安全に近隣医療機関に逆紹介できており，信頼を構築できているものと感じている．

2023年のトピックス・実績

待機的PCIは手術適応（機能的な虚血の証明が必須）の厳格化から全国的に減少傾向である．当院においても減少が危惧されたが昨年とほぼ同等の件数を維持している（表1）．

本年より機能的評価の中でも冠微小循環を評価する機器であるCoroflow™を導入した．機能的評価を積極的に行うようになり，心筋虚血を探し出し血行再建に移る症例が多くなったように感じる．また，胸痛診療においてもこれまでは狭心症疑いであれば冠動脈の器質的狭窄の有無だけの評価であったのが，非閉塞性冠動脈疾患（INOCA）の診断を行えるようになり，患者が抱えるストレス・不安の低減，近隣医療機関からの信頼獲得に寄与していると感じている．

ロータブレーター，ダイヤモンドバック，エキシマレーザーなど高度石灰化病変をデバルク（削り取る）する機器を適正に使用し，昨年と同様に術後合併症は少なく安全に治療が行えており，入院日数減少にも寄与している．

末梢動脈インターベンションに関して，特に下肢EVTは専門性を持ち複雑病変に対しても行うようになり本年も増加傾向である（表1）．

また，心エコー図検査による診断・治療のプロセス，カテーテル手技を通して若手医師の育成にも力を入れ，昨年に引き続き，当院循環器内科への入職を希望する若手医師の数は安定している．学会発表や論文投稿にも力を入れており，本年度はcase reportが海外誌に採択されることができた．

今後の展望

今後も重点が置かれるのは急性冠症候群の症例獲得であるが，救急隊への啓蒙はもちろんのこと心臓ホットラインの拡充を行い，近隣医療機関，特に病院とも更なる連携を図り症例数を確保したい（表2，図）．末梢動脈疾患に関しても複雑病変に更にチャレンジし症例数を増やしたいと考えている．これからも心臓血管外科，不整脈内科と共にハートチームとして相互関係強化を図り，患者の共有化を目指していきたいと考えている．

表1. 入院患者数・検査実績　（単位：名・件）

	2021年	2022年	2023年
入院患者数	1,016	1,064	1,067
PCI総数	235	245	242
緊急PCI	74	106	91
経皮的心肺補助（PCPS）	6	3	7（うちIMPELLA 4）
EVT	48	88	92
シャントPTA	92	98	97

表2. 心臓ホットライン　疾患別　（単位：件・%）

	2021年	2022年	2023年
急性冠症候群	12（35）	17（45）	12（37）
心筋炎，心筋症	3（9）	2（5）	5（15）
不整脈	10（29）	14（37）	8（24）
肺塞栓，深部静脈血栓症	4（12）	0（0）	1（3）
大血管疾患	1（3）	0（0）	0（0）
心不全	4（12）	5（13）	7（21）
合計	34	38	33

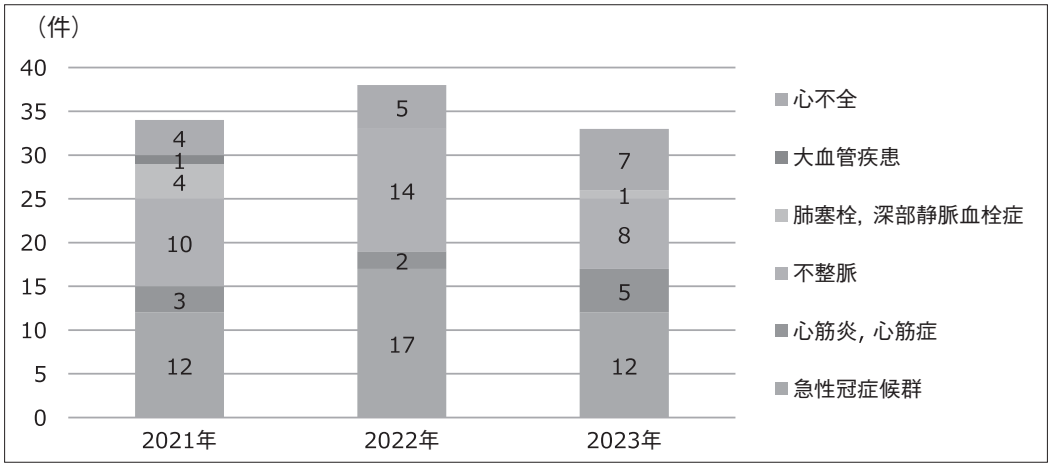


図. 心臓ホットライン　年間推移

消化器内科

スタッフ紹介

大須賀達也（1997年卒　主任部長）（～2023年11月）
澤井寛明　（2005年卒　医長）
角山沙織　（2004年卒　医長）
小川浩史　（2007年卒　医長）
鍋嶋克敏　（2010年卒　医長）
谷本直紀　（2012年卒　医員）
池内愛実　（2013年卒　医員）
南條　望　（2017年卒　医員）（～2023年3月）
石原美﨑　（2018年卒　専攻医）
金丸薫子　（2018年卒　専攻医）
増田祥子　（2018年卒　専攻医）
安部恵里佳（2019年卒　専攻医）（～2023年3月）
岩本陽菜　（2019年卒　専攻医）
影山達也　（2019年卒　専攻医）
関口尚人　（2020年卒　専攻医）（～2023年3月）
瀬底　翼　（2021年卒　専攻医）

診療内容

消化管や肝胆膵の良性・悪性疾患など多岐にわたる消化器領域の疾患に対し，弱点の少ない診療体制を構築している．消化器内科スタッフが専門性を活かし，救急外来や地域の医療機関と密接に連携し，オープン検査など内視鏡検査の積極的な受け入れを行い，質の高い医療の提供を目指している．また定期的なレクチャーや動物切除消化管検体を用いた内視鏡治療のトレーニングを通じて，研修医や専攻医の教育にも力を入れている．

2023年のトピックス・実績

引き続き消化器内科外来の担当医を午前午後に配し，当日紹介患者にも柔軟に対応できる体制を継続している．また紹介に関する問い合わせの返答が遅いことが問題となっていたため，できるだけ速やかな対応を徹底し，紹介患者数の増加に努めている．診療実績を表1～2にまとめた．入院は，入退院支援，リハビリの早期介入，病棟カンファレンスを行い，平均在院日数は増加なく維持している，また積極的なESDなどの内視鏡治療やキャンサーボードを導入し高度な集学的癌治療を行うことによって前年より入院平均単価は上昇傾向である．外来化学療法も積極的に行っており，外来平均単価は引き続き上昇傾向である．

内視鏡関連では，EGDフォローアップシステムの導入などによりコロナ禍で減少した件数は概ね改善し，治療内視鏡の割合もコロナ前より増加している．また学会発表や論文作成など学術活動も精力的に行った．

今後の展望

2024年4月より石原美崎，金丸薫子，増田祥子が神戸大学附属病院・大学院に，瀬底 翼が神戸医療センターに異動する．一方，2024年4月より，専攻医1年目として毛芝舞哉と菅原一馬（甲南医療センターから）が，専攻医3年目として松尾悠矢（奈良県総合医療センターから）が赴任する．スタッフの減少に伴い，専攻医の確保は以前にもまして重要となっている．日本専門医機構からのシーリング制度の影響は小さくなく，人材の確保には大学病院などとの連携が重要となる．化学療法の入院から通院加療への移行，内視鏡治療の外来治療への移行などの影響で総入院数は減少傾向にあるが，近隣クリニックからの紹介患者を迅速に対応することにより，消化器内科外来からの入院数を維持するよう心掛けたい．また内視鏡検査が可能なクリニックは引き続き増加しており，検査数を維持・増加させることは容易ではなくなっているが，健診センターとの連携を開始し検査数の増加を目指したい．高度急性期病院ならではの専門的かつ迅速な診療を必要とする症例や，併存疾患，問題点を有する症例にも幅広く対応し，質の高い消化器診療を行うことで地域医療に貢献していきたい．

表1. 診療活動実績

	2019年度	2020年	2021年	2022年	2023年
新入院（人）	1,456	1,486	1,456	1,357	1,355
入院平均単価（円）	51,000	58,196	59,657	59,785	62,361
平均在院日数（日）	11	11	10	10	10
外来延べ患者数（月平均）（人）	1,537	1,431	1,442	1,363	1,444
平均単価（円）	24,208	26,452	27,320	28,152	30,046
化学療法（外来）（件）	986	1,109	1,424	1,466	1,436

※2020年より年報の対象期間が1月1日～12月31日

表2. 内視鏡活動実績

（単位：件）

	2018年度	2019年度	2020年	2021年	2022年	2023年
総数（うち治療）	6,382（1,303）	6,490（1,367）	6,178（1,381）	6,141（1,477）	6,098（1,503）	6,309（1,684）
上部（うち治療）	3,567（268）	3,537（249）	3,355（313）	3,411（252）	3,269（301）	3,385（303）
下部（うち治療）	2,410（804）	2,484（855）	2,301（839）	2,203（967）	2,376（962）	2,426（1,108）
ERCP関連（うち治療）	239（231）	281（263）	352（229）	342（258）	273（240）	292（273）
超音波内視鏡（EUS-FNA）	166（33）	188（35）	170（43）	185（45）	180（24）	206（36）
ESD（食道・胃・大腸）	88	73	78	60	66	88

※2020年より年報の対象期間が1月1日～12月31日

糖尿病内分泌内科

スタッフ紹介

陳 慶祥（1995年卒 主任部長），吉田健一（2007年卒 医長），三浦 洋（2010年卒 医長），平賀千尋（2013年卒 医員）の4名であるが，2024年4月に陳 慶祥が退職，2024年4月に小林基子（2019年卒 専攻医）が入職予定，2024年5月を以て平賀千尋は愛仁会リハビリテーション病院へ異動となるため，2024年6月より3名に減員となる．

診療内容

糖尿病及び内分泌全般を主な対象としている．陳は外来及び科全体のマネージメントに徹している．吉田，三浦，平賀は病棟での患者対応及び初期研修医の指導，他科からの血糖及び内分泌のコンサルトを引き受けている．吉田はNST回診も行っている．外来では腎移植患者の糖尿病診療や産婦人科との連携での妊娠糖尿病や糖尿病合併妊娠の管理も行っている．1型糖尿病患者においてインスリン強化療法でコントロール困難な患者に積極的にCSII（持続インスリン皮下注入）療法及びSAP（センサー付きインスリンポンプ療法）を導入している．血糖変動の激しい患者等にはisCGMやrtCGMを用いたインスリンの調整を行っている．NST委員会の下部組織である医師，看護師，栄養士，薬剤師，臨床検査技師，理学療法士，事務員からなる「糖尿病ケアチーム」が2か月に1回糖尿病教育入院，外来糖尿病患者に関するミーティングを行っている．山下みどり糖尿病看護認定看護師が，糖尿病看護外来にて，糖尿病性腎症進展予防の指導，妊娠関連の糖尿病患者の指導，外来インスリン導入，CSII及びSAP患者の療養指導，isCGM，rtCGMの導入指導などを行っている．糖尿病足病変の患者の拾い上げを行い，「フットケア外来」にて，足のケアや療養指導を行っている．診療支援科が中心となって糖尿病患者友の会（よもぎの会）のサポートを行っている．内分泌疾患が疑われる患者は，入院にて内分泌負荷試験を行い，詳細な病態評価を行っている．

2023年のトピックス・実績

学会発表は2題で，いずれも研修医による発表であった．

また，実績の数字には表せないが，各内科系・外科系や産科（妊娠糖尿病）の血糖コントロールの併診も当科が引き受けており，急性期・周術期・周産期の血糖管理に貢献している．

糖尿病専門医数は4名（指導医3名），内分泌専門医数2名（指導医2名）である．陳医師，平賀医師の異動に伴い糖尿病専門医数は2名に，内分泌専門医は1名に減る予定．

今後の展望

コロナ禍が落ち着きつつあり，2023年度より高槻赤十字病院の糖尿病内分泌内科常勤医が不在となったこともあって，他院からの紹介患者も増えつつある．引き続き当地域の糖尿病及び内分泌の拠点であることを院内外にアピールし，地域からの紹介患者の受け入れ，病院全体からの血糖コントロール及び内分泌疾患のコンサルトを積極的に受ける．主任部長の陳医師の退職に伴い，当科は体制の転換期にあり，しばらくは人員的にも厳しい状況が予想されるが，できる限り入院患者数の維持に努めたい．高槻病院の門前に開業する陳医師の診療所とも密に連携をしながら，幅広く病診連携を進めていく．

産婦人科との連携による妊娠糖尿病，糖尿病合併妊娠，妊娠合併甲状腺疾患診療の強化，糖尿病患者の定期的な合併症精査による血管病変の早期発見により，虚血性心疾患，脳血管疾患，下肢閉塞性動脈硬化性疾患の新規患者の掘り起こしにも努め，他科との連携を強めたい．また学会発表を定期的に行い，当科若手医師のみならず初期研修医にも積極的に学会発表の機会をもたせたい．

表．実績（2023年1-12月）

（単位：名）

外　来	
外来インスリン症例数	754
外来インスリンポンプ使用者数	53

入　院	
糖尿病内分泌内科の入院患者数	263
糖尿病の入院患者数	171
教育入院数（パス入院）	89

内分泌疾患入院患者数	
間脳・下垂体疾患	10
甲状腺疾患	1
副甲状腺疾患	3
カルシウム代謝異常	0
副腎疾患	12
性腺疾患	0

甲状腺検査件数	
甲状腺穿刺又は針生検	64
副腎静脈サンプリング	2

腎臓内科・人工透析科（高槻腎センター）

スタッフ紹介

髙橋利和（1994年卒）：
日本腎臓学会腎臓専門医・指導医
日本透析医学会透析専門医・指導医
日本内科学会認定内科医
日本内科学会総合内科専門医
徳島大学臨床教授，大阪医科薬科大学臨床教育教授
辻本吉広（1995年卒）：（～2023年3月）
日本腎臓学会腎臓専門医・指導医
日本透析医学会透析専門医・指導医
日本内科学会認定内科医
日本内科学会総合内科専門医
日本腹膜透析医学会認定医
黒川直基（2017年卒）：
後期研修医

診療内容

腎炎・ネフローゼ，透析導入などの入院受け入れを随時行っている．腎生検は検査日を火曜日午後とした．

人工透析科：25床で運用．月水金・火木土　午前・午後の計4クール行っている．

重症患者に対してはICUにて血液透析や特殊血液浄化を行った．

2023年のトピックス・実績

1）腎炎，ネフローゼを中心とした腎疾患の治療と末期腎不全の加療が入院患者の中心であった．

2）末期腎不全・透析に至る前の慢性腎臓病の段階での生活指導や病気に対する理解を深めることを目的とした腎臓病教育指導外来を2011年より開始．対象患者をCKDstageIIからとし，今年は計77件行った．新型コロナウイルス感染症の影響はあったが昨年より増加した．また，腎臓病療法指導士の資格取得のための研修施設に今年度も指定された．

3）各教育・施設認定に関する活動

2011年度より髙橋が徳島大学臨床教授となり，徳島大学の学生の学外教育の受け入れを行っている．また，2015年度より大阪医科薬科大学臨床教育教授となり，大阪医科大学6年生の学外実習も行うようになった．

4）透析室としての活動

通常の維持透析や透析導入に加え，LDLアフェレーシス，LCAP，PMA等の特殊血液浄化も昨年同様積極的に行っている（表参照）．

2023年は34名の透析導入を行った．新型コロナウイルス感染症の影響は軽微であった．

また，急性期病院の透析室としての活動に力を入れ，2023年は延べ275名の入院透析を行った．昨年とほぼ同等の件数であったが，入院透析依頼に関しての応需率は100％を達成した．

5）外来透析患者に対する腎臓リハビリテーション

愛仁会リハビリテーション病院透析室であった頃から，リハビリテーション科の協力の下，外来透析患者のADLの維持を目的に，透析中の床上でのリハビリテーションに力を入れてきた．高槻病院へ移転した後も，リハビリテーションセンターの協力で，積極的に継続できている．2023年は透析中のリハビリテーションが保険収載2年目であり，延べ1,472件行えた．また，腎臓リハビリテーション学会での発表も積極的に行った．

6）地域での活動

慢性腎臓病の啓発及びCKDネットワークの構築のため大阪医科薬科大学と協力し各方面への講演活動を行った．講演会形式も増え，来年は更に広域での連携を行う予定である．

今後の展望

当医療圏での末期腎不全に対する腎代替療法の導入の需要は増加しており，当科での導入件数も増加の一途である．今後も積極的に地域の需要に応えていきたい．

また，透析患者の予後の改善や高齢化のため，入院の件数も増えている．三島医療圏における透析クリニックとは有機的に連携がとれており，今後更に深化させていきたい．

腎臓リハビリテーションに関しては，2022年から保険収載され，我々の活動がようやく認められたと感じている．腎臓リハビリテーションの先駆的なユニットとして，今後も積極的な活動を行っていきたい．

表．特殊血液浄化件数　（単位：件）

GMA	LDL吸着	CRRT	CART	PE	PMX
13	2	130	4	48	2

不整脈センター

スタッフ紹介

山城荒平：副院長，不整脈センター長
田中友望
佐久間大輝
吉田雅晴（～2023年11月）
佐藤泰貴（2023年4月～12月）
黒田奈巳：非常勤

診療内容

不整脈専門外来を月・火・水・木・金曜日の午前及び木曜日午後に行っている．月・水曜日は山城が担当し，火曜日は黒田，木曜日は田中，金曜日は佐久間が担当している．また，水曜日にデバイスチェックの外来を行っている．

不整脈に対するカテーテルアブレーション治療を月曜日から金曜日に，ペースメーカーなどデバイスの植え込みを適宜行っている．

2023年のトピックス・実績

持続性心房細動に対して洞調律中に多極カテーテルで心房細動基質を調べ，Non-PV triggerを検出する方法で良好な成績を上げている．

リモートマグネティックナビゲーションシステムを用いたカテーテルアブレーションを1,000例達成した．

下大静脈欠損のため通常の方法でアブレーションできない症例に対して，上大静脈から心房中隔穿刺を行い，リモートマグネティックナビゲーションシステムを用いて治療する方法を確立し，全国から患者を紹介いただいている．ブルガダ症候群に対する心外膜アブレーションや，先天性心疾患術後に伴う頻脈に対してのアブレーションなど，他院で取り組むのが困難な症例に対してカテーテルアブレーションを施行している．この長期成績はCirculation誌（IF37.8）に掲載された．

ホームページをリニューアルし，我々の施行可能な医療を伝えている．YouTube上で不整脈センターちゃんねるの動画を公開し，20万以上の視聴数がある．オンライン相談や心電図相談をリモートで施行している．

今後の展望

あらゆる不整脈に対応できる利点を活かして，より遠方からの紹介患者が増えるように広報活動を行う．

大阪高槻心房細動アブレーションライブは現在オンサイトとwebで開催し，多くの方に参加いただいている．市民講座，シンポジウム，ライブデモを一体として当院で開催している．市民講座などを通じて，アブレーション治療の有用性を今後も広めていく．

脳神経内科

スタッフ紹介

松下達生（1990年卒　主任部長）
　日本内科学会　　認定内科医・指導医
　日本神経学会　　専門医・指導医・代議員
　日本頭痛学会　　専門医
立花久嗣（2006年卒　医長）
　日本内科学会　　認定内科医・総合内科専門医
　日本神経学会　　専門医・指導医
　日本脳卒中学会　専門医
　日本認知症学会　専門医・指導医
山形大志（2017年卒　専攻医）

診療内容

専門医2名，専攻医1名の体制で，月曜日から金曜日まで火曜日を除き午前は初診，紹介及び再診外来（月・水・金曜日：松下，木曜日：立花），午後は週4日（月・水・金曜日：松下，木曜日：立花，金曜日：山形）の再診外来，また水・木曜日午前は神戸大学脳神経内科からの非常勤医の応援を得て2診体制での診療を行っている．基本的に予約外来だが紹介の有無を問わず当日来院にもほぼ全てに応需している．立花は第2，4火曜日午後に認知症専門外来を，松下は第3火曜日午後に千船病院での外来診療を行っている．また神経救急については救急部からの要請に常時対応している．

針筋電図など侵襲検査を主に火・木曜日午後に行い，火曜日午前は病棟カンファレンスと全体回診，午後にはリハビリテーション科はじめコメディカル各部署と共に臨床カンファレンスを行っている．

2023年のトピックス・実績

スタッフ数は3名を継続，外来患者数は初診522名を含めて計6,319名であった．入院患者数は新規235名，延べ4,140名で，主な疾患では急性期脳血管障害，てんかん関連疾患，神経感染症，筋・末梢神経疾患，ギランバレーや多発性硬化症などの神経免疫疾患，パーキンソン病や多系統萎縮症，認知症などの変性疾患などであった．

脳血管障害については，超急性期のt-PA治療を含めた急性期治療はSCUで行い同時に早期リハビリ介入，慢性期は医師会主導型脳卒中地域連携パスを利用し，リハビリテーション病院をはじめとした回復期病院，かかりつけ医での継続加療を依頼しているが，ハイリスクや合併症などが不安定な例や当院他科併診例については適宜当科外来にて二次予防治療を継続し，また機能障害についてリハビリテーション科と連携し経時評価しつつ治療を行っている．頸動脈高度狭窄など観血治療適応症例は脳神経外科へ血管内治療等を依頼している．高槻市で27.7%と大阪府平均よりも高い地域高齢化の現状を反映し，また75万人規模の三島二次医療圏に脳神経内科医常勤の急性期病院が少ないことからもパーキンソン病300例超を中心とした神経変性疾患，特に特定疾患対象患者の外来患者数は引き続き増加傾向にあり，エリア内の多くを担当し三島地区の基幹施設として活動対応している．当科と大阪医科薬科大学脳神経内科，藍野病院及び近隣四医師会，歯科医師会，薬剤師会と保健所，地域包括センターなどによる三島圏域難病医療ネットワークにおいて，パーキンソン病類縁疾患やALSほか指定難病に対する基幹施設として地域連携を行っている．また愛仁会リハビリテーション病院と連携したパーキンソン病入院リハビリプログラムについて今後利用者数を増やしていきたい．てんかん患者は近年社会的注目度が高いが近隣に対応機関が少なく，他地域からの紹介や小児科からのcarry over例などを含めて救急からの入院，外来数とも多数あり，検査部生理検査部門の迅速な対応による評価のもと，外来では神戸大学脳神経内科からのてんかん専門医の応援も得て，診療に当たっている．認知症は当地域も高齢化とともに今後AD始めDLB，SD，VDなど更に増加傾向が予想され，立花による専門外来を置き，治験も行っている．パーキンソニズムを呈する例については，PD，DLBなどの鑑別診断にRI検査が有用視され診断基準にも組み込まれているが，当院で行えないものは近隣施設の協力を得て，診断・治療に専門性をより発揮できるよう努めている．松下は頭痛学会専門医でネット上サイトを見ての片頭痛来院者も増え，CGRP製剤の導入例も増加している．

今後の展望

学会専門医2名体制で，引き続き日本神経学会准教育施設認定を維持しており，神経疾患の診療，教育に努める．また脳血管障害急性期治療での最新知見に基づいた治療対応，分子標的薬はじめ新規薬剤や治療法の選択肢が増えてきている認知症，パーキンソン病はじめ神経変性疾患，てんかん，免疫性神経疾患，片頭痛などの領域

において，更に専門性，先端性を高めて最良の治療を提供していく．依然三島圏域に脳神経内科常勤の急性期病院が少なく，特に高齢化に伴い増加していく神経変性疾患等，専門的治療を要する分野では今後も基幹施設として当圏域での診療の中心的役割を担い応需し得るべく引き続き努めていく．また生活習慣病の増加から脳血管疾患の増加も見込まれ，慢性期は地域連携パスを通じ病診連携による近隣地域への逆紹介数の増加を目指す.

総合救急医療センター（救急科）

スタッフ紹介

センター長：秋元　寛（1983年卒）：救急科指導医・専門医，外科指導医，急性期外科認定外科医
主任部長：稲本真也（1992年卒）（～2023年3月）
医長：村井　隆（1999年卒）：救急科専門医，総合内科専門医（2023年5月～）
医長：増田　茂（2000年卒）：循環器内科専門医
医長：佐藤聖子（2002年卒）：救急科専門医，麻酔科専門医
医員：豊島千絵（2012年卒）：救急科専門医
専攻医：上田峻右（2023年10月～）
初期研修医：2名

診療内容

高槻病院総合救急医療センターは高槻病院の救急部門であり，2023年は救急搬送，病院間搬送，直接来院，紹介来院を含めて18,286例の救急患者を受け入れた．当センターは小児救命救急センター，成人の内因性救急である救急総合診療部門，外因性救急である急性期外科部門の3つの診療の柱を持っている．また当センターは初期研修医の救急研修の場として重要な位置を占めており，常に2名の研修医が交代で在籍している．救急科専門医研修プログラムの関連施設にも認定されており，救急科専門医を目指す若い専攻医の修練の場となっている．

小児救命救急センターは軽症から最重症の小児救急患者まで，小児科，小児外科，小児脳神経外科が一体となって担当し，2023年は6,695例の救急患者を受け入れている．成人救急は救急科が初療を担当し，院内の各診療科と連携し迅速な対応を行っており，2023年は11,591例の患者を受け入れている．脳卒中，急性冠症候群，心大血管疾患，急性腹症，消化管出血，外傷などの重症救急にも迅速に対応できるよう院内体制を整えている．脳出血，くも膜下出血，脳梗塞など脳卒中については一次脳卒中センターとして認定されており，脳卒中専用のホットライン「ブレインコール」を運用している．また心筋梗塞，狭心症などについても迅速に循環器内科が対応できるように「心臓ホットライン」を運用している．

2023年のトピックス・実績

過去5年間の救急件数の推移を示す（図1）．2019年は総救急患者数が18,628件であったが，2020年は新型コロナウイルス感染症の流行により救急搬送，直接来院や紹介来院，病院間搬送など救急車以外の来院数ともに約2,100件減少した．その後年々患者数は増加し，2023年は18,286件と2019年と同じレベルに回復した．特に救急搬送患者数は9,786件と過去最高となった一方，直接来院患者数は減少しており，地域医療の役割分担が徐々に明確となってきた．

成人と小児の救急搬送件数をみると，成人が67.7％，小児が32.3％とほぼ1/3を小児救急が占めており，当センターの特徴の一つとなっている（図2）．

2023年5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したが，相変わらず流行の波は繰り返しており，なんとか発熱患者に対応する院内体制を整え，救急センター内の隔離可能な診療ベッドをフル回転させながら「断らない救急」の維持に努めた．流行の波が来た1月には救急搬送依頼を断る件数が急増し（図3），1月の不応需率は43.2％とほぼ半数を断らざるを得ない数字となった．しかしその時期でも823件の救急搬送を受け入れており，総救急依頼件数が1,448件と通常の約2倍の搬送依頼が来ており，この地域の救急体制が極めてひっ迫していたことがよく分かる．1月以降は新型コロナウイルス感染症の落ち着きもあり不応需率は低下したが，1月の不応需率の高さの影響で年間を通しての不応需率は15.7％と高くなった．それでも昨年の不応需率20.3％より低下した．

2023年の救急搬送患者数は9,786件で，高槻消防からの搬入が66.6％となっていた（図4）．新型コロナウイルス感染症流行が落ち着いたこともあり，三島医療圏以外からの救急搬送は11.4％と昨年（14.4％）より減少した．

年代別救急搬送件数を図5に示す．当センターは小児救命救急センターでもあるので，小児と高齢者に大きな山があるのが特徴である．成人に限ると救急搬送患者のうち56.5％が70歳以上の高齢者であった（図6）．

全救急患者の転帰を図7に示す．31.9％の患者は入院となり，67.5％は治療後帰宅となっている（図7-a）．成人の救急搬送に限ると42.6％の患者が入院となっており，急性期病院としての役割を果たせていると考える（図7-b）．

当センターの疾患別救急搬送件数を図8に示す．79.0％が内因性救急であり，高齢者の内因性が多いという我が国の救急医療の現状をそのまま表している．

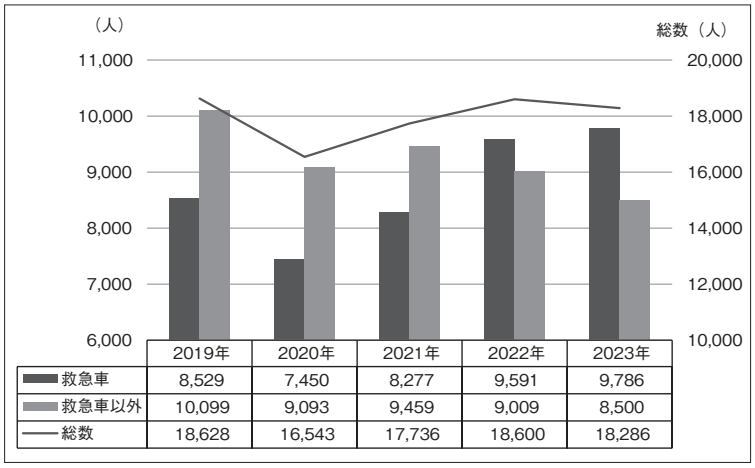
当センターで受け入れた全救急患者の重症度を図9

に示す．心肺停止，ショック，緊急処置（緊急手術，緊急カテーテル治療，緊急内視鏡など），集中治療管理（ICU，SCU，PICU，NICU，MFICU）が必要な症例などを重症・重篤患者として算出した．治療後帰宅可能な軽症患者は67.6％，入院が必要な中等症が27.1％，重症・重篤患者が5.3％であった．救急搬送患者の重症度を見ると，成人では中等症35.0％，重症・重篤が9.0％（図10）であり，ほぼ10人に1人は重症患者であった．一方，小児では79.8％の患者が帰宅可能な軽症患者であり（図11），重症・重篤患者は3.3％に過ぎなかった．

当院は救急隊の搬送実施基準で脳卒中，急性冠症候群，吐下血，急性腹症，外傷等の特定病態対応医療機関となっており，大阪府救急搬送支援・情報分析・集計分析システム（ORION）に従い特定病態別に搬入された患者を図12に示す．

今後の展望

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に分類されたが，相変わらず流行の波は訪れており，その都度地域の救急医療がひっ迫した2023年であった．2024年は「ウィズコロナ」あるいは「アフターコロナ」の体制を新たに構築しなおし，本来の救急医療体制を取り戻さなければならない．地域の行政，消防本部，医療機関と連携しながら更なる救急医療の発展に寄与したい．



	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
救急車	8,529	7,450	8,277	9,591	9,786
救急車以外	10,099	9,093	9,459	9,009	8,500
総数	18,628	16,543	17,736	18,600	18,286

図1．救急患者の推移

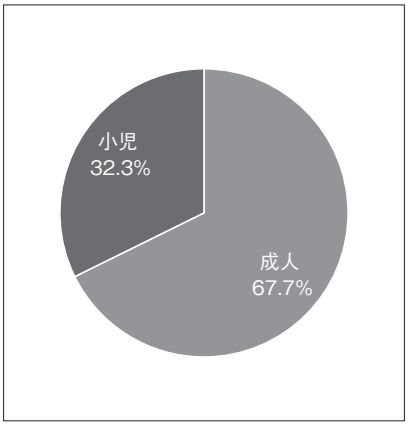
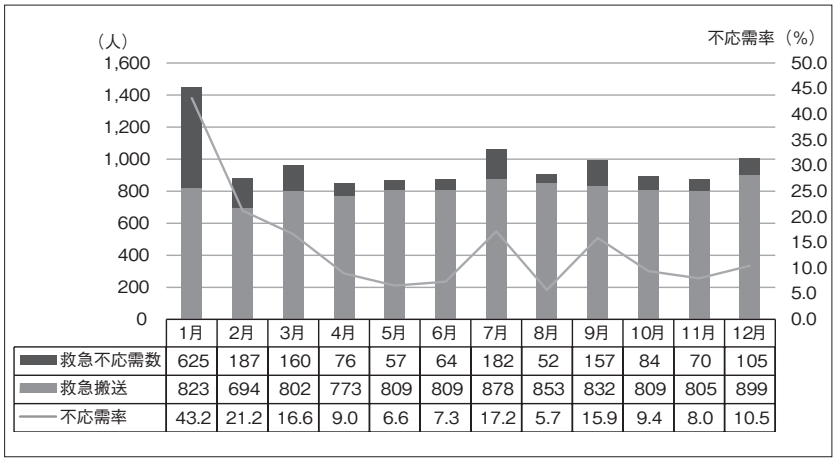


図2．救急搬送内訳



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
救急不応需数	625	187	160	76	57	64	182	52	157	84	70	105
救急搬送	823	694	802	773	809	809	878	853	832	809	805	899
不応需率	43.2	21.2	16.6	9.0	6.6	7.3	17.2	5.7	15.9	9.4	8.0	10.5

図3．月別不応需症例

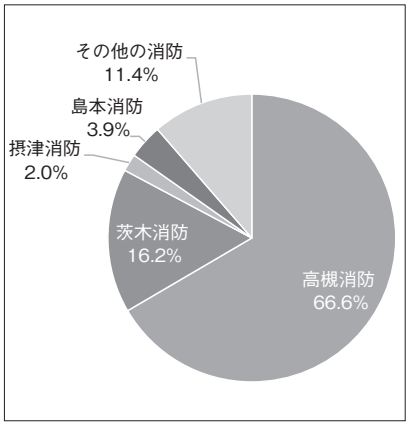


図4．消防本部別救急搬送件数

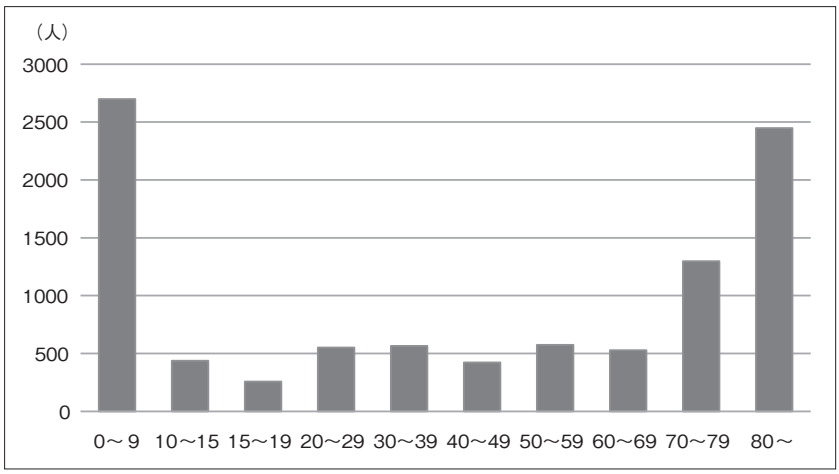


図5. 年代別救急搬送件数

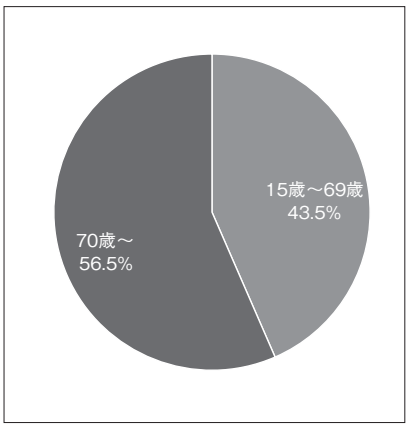


図6. 成人救急搬送患者の高齢者率

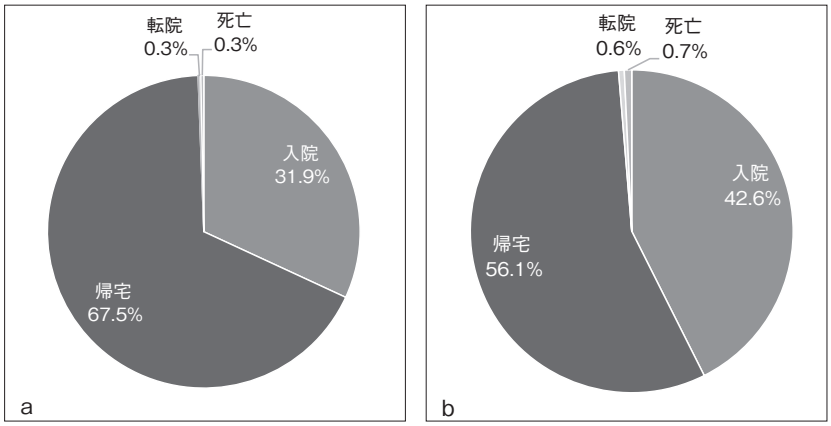


図7. a：全救急患者の転帰　b：成人救急搬送患者の転帰

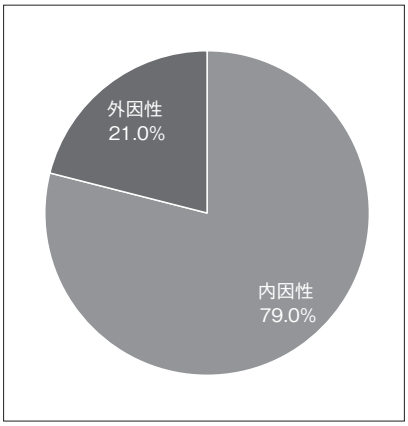


図8. 疾患別救急患者数

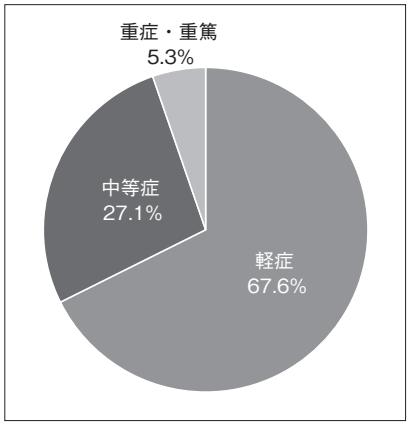


図9. 重症度別救急患者数

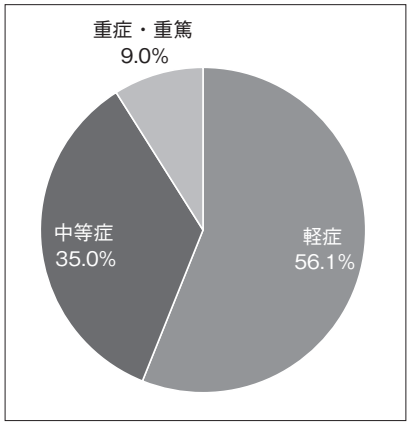


図10. 重症度別救急搬送患者数（成人）

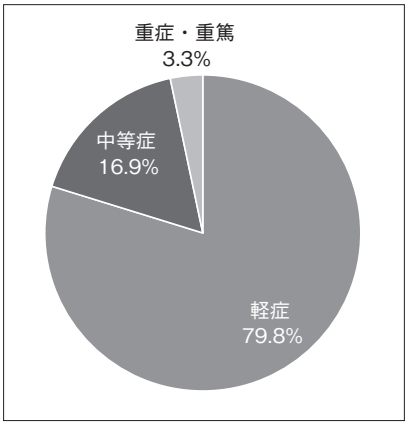


図11. 重症度別救急搬送患者数（小児）

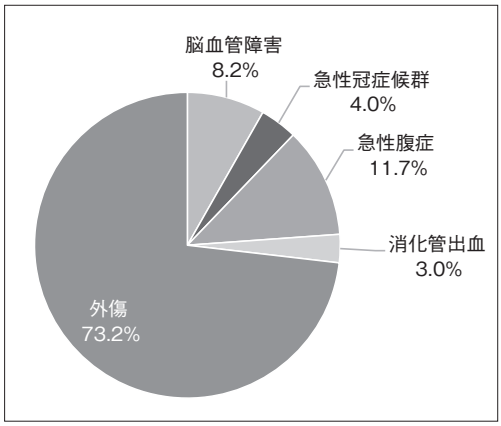


図12. 救急隊による特定病態救急患者数
（ORIONデータより）

精神科

スタッフ紹介

2023年のスタッフは，杉林稔主任部長，伊藤晴子医長（～2023年9月），井上由香医長，家田麻紗医長，島田稔医師（週半日非常勤）.

公認心理師は常勤6名　小寺智子，鈴木佳子，山本百合子，福島茜，河島千佳，水谷晴香.

診療内容

(1) 外来診療の継続.
(2) コンサルテーション・リエゾン活動の継続.
(3) 精神科リエゾンチームの継続的活動.
(4) 認知症ケアチームの活動開始.
(5) 緩和ケアチームへの継続的参加.
(6) 関連施設（ケーアイ）への週に1回の出向を継続.
(7) 高槻市の認知症対策連携強化事業の嘱託医を継続.
(8) 医師卒後研修における精神科の必修化に伴い，当院所属の臨床研修医全員に1か月，若しくはそれ以上の精神科研修指導.

2023年のトピックス・実績

・外来

2023年の初診患者数（院内他科からの紹介を含む）は425名［前年486名］であった．そのうち，院内他科からの紹介患者数は241名（56.7%）［前年267名（54.9%）］であった.

他病院・医院からの紹介患者は175名（41.1%）［前年205名（42.2%）］であった.

疾患別の患者数は，表1のとおりである.

・入院

精神科主科での入院治療は行っていない.

身体疾患を持つ患者に対する心理的ケアについて，他科の医師や看護スタッフの相談に乗り，連携して治療に当たるコンサルテーション・リエゾン活動を随時行い，精神科リエゾンチームによる介入を積極的に行った.

・認知症ケアチーム活動

週1回の定期回診により各病棟での認知症ケアの向上に努めている.

・その他

精神科リエゾンチームと臨床研修医指導については，家田医長を中心として常勤スタッフにて活動した.

緩和ケアチームについては，チーム員として伊藤医長が参加した.

認知症については，通常の精神科外来での対応に加えて，介護老人保健施設ケーアイでのコンサルテーション・リエゾン活動，高槻市の認知症対策連携強化事業の嘱託医を井上医長が担当した.

・心理療法，心理検査

2023年の心理士による心理療法は1,413件［前年1,011件］，心理検査は96件［前年33件］であった．患者の様々な心理的問題に対し，カウンセリング等を行った．NICU，周産期センター，小児センターでの心理ケアにも取り組み，心理士による訪床と随時カンファレンスを行った（表2～4）.

今後の展望

今後も他科との連携を深めながら，活発な臨床活動を展開していきたい.

表1. 精神科外来新患疾患分布

（単位：名）

	2021年	2022年	2023年
器質性症状性精神障害			
認知症（アルツハイマー型,血管型,等）	135	112	97
軽度認知障害	36	40	25
せん妄	61	56	69
器質性精神障害	15	12	4
症状性精神障害	0	1	0
その他	8	0	14
精神作用物質使用による精神及び行動の障害			
アルコール依存症	5	6	3
薬物依存症	2	0	0
統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害			
統合失調症（近縁疾患を含む）	14	17	14
妄想性障害	3	2	5
気分（感情）障害			
単極性うつ病	31	45	47
双極性障害（そううつ病）	5	3	6
単極性そう病	1	0	1
神経症性，ストレス関連性及び身体表現性障害			
不安神経症（パニック障害）	36	27	23
社会不安障害	0	3	1
恐怖症	1	0	0
心気症	1	2	1
強迫神経症	1	2	2
心因反応・適応障害	89	90	64
解離性障害	9	3	5
身体表現性障害（不定愁訴群を含む）	14	8	7
摂食障害	4	2	4
睡眠障害	27	23	17
人格障害	2	0	1
小児科領域			
発達障害	11	11	8
注意及び破壊的行動障害	1	2	2
摂食障害	0	0	0
心因反応，神経症	0	0	0
その他	0	0	0
その他			
心身症	0	1	1
その他	8	0	0
相談のみ（認知症を心配して受診した例含む）	3	0	0
精神疾患なし（同上）	9	18	4
合計	532	486	425

表3. 精神科外来・心理新規ケース

（単位：件）

	2021年	2022年	2023年
精神作用物質使用による精神及び行動の障害			
アルコール依存	1	0	0
薬物依存	0	0	0
大量服薬後	0	0	0
統合失調症型障害	3	2	0
気分・感情障害			
単極性うつ病	5	7	3
単極性うつ病（産褥）	0	0	0
双極性障害	7	4	2
神経症性,ストレス関連障害及び身体表現性障害			
不安神経症	4	7	6
強迫神経症	0	0	2
心因反応・適応障害	19	30	11
解離性障害	1	0	4
身体表現性障害	1	4	3
摂食障害	1	0	1
人格障害	2	2	1
発達障害	2	2	3
知的障害	2	1	0
脳機能不全	1	1	0
小児科領域			
神経症	2	0	0
心身症	0	0	0
心因反応	1	1	0
発達障害（疑い）	0	0	1
知的障害	0	0	0
不登校・引きこもり	0	1	0
非行	0	0	0
抜毛	0	0	0
吃音	0	0	0
緘黙	0	0	0
大量服薬後	0	0	0
家族相談	0	0	0
計（うち再初回）	52(7)	62(7)	37(1)

表2. 臨床心理活動

（単位：件）

	精神科			小児科			
	新規ケース	カウンセリング	心理検査	発達検査	その他の心理検査	カウンセリング	三角頭蓋心理検査
1月	4	118	7	25	2	2	3
2月	2	118	14	21	3	2	3
3月	2	144	6	37	2	3	6
4月	6	116	11	21	1	2	4
5月	5	118	8	21	0	0	4
6月	2	122	9	31	1	2	2
7月	2	116	6	33	0	0	6
8月	2	106	10	40	0	1	3
9月	1	108	8	31	0	1	4
10月	7	117	11	37	0	0	4
11月	2	112	1	26	0	0	6
12月	2	118	5	28	0	0	1
合計	37	1,413	96	351	9	13	46

その他
- 千船病院出向（小寺/毎月曜日）
- 明石医療センター出向（河島/毎月・水・金曜日）
- サミティベート：オンライン「こころの健康相談」（第1，3木曜日午後）
- 精神科リエゾンチーム回診参加（毎火曜日15時～16時）
- プレネイタルサポートチーム会議参加（第1木曜日13時）
- 精神疾患合併妊婦カンファレンス（第3水曜日15時半）
- NICU/GCU退院調整カンファレンス（隔週火曜日11時）
- 小児在宅支援チーム会議（毎金曜日13時～14時）
- 法人内ケース相談　第3火曜日15時及び随時
- 実習受け入れ：4月～京都橘大学大学院　毎週木曜日（集中実習7月）全19日
  5月～奈良女子大学大学院　週2回　全15日
  10月20日　関西国際大学　Web研修（13名受講）
- 本部事務職員新人メンタルヘルス研修（鈴木）
- 日本病跡学会　運営補助
- 緩和ケア研修会修了（福島・河島・水谷・下玉利）

表4. 周産期センター面接延べ件数

（単位：件）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
産科/N/G	94	78	104	102	113	111	107	115	102	85	105	104	1,220
小児病棟	11	8	9	15	3	18	9	11	24	22	10	18	158
合計	105	86	113	117	116	129	116	126	126	107	115	122	1,378

病理診断科

スタッフ紹介

常勤医師：3名
　伊倉義弘　（病理専門医研修指導医，細胞診指導医）
　大久保貴子（病理専門医研修指導医，細胞診指導医）
　岩井泰博　（病理専門医研修指導医，細胞診指導医）
非常勤医師：4名（全員が病理専門医）
検査技師：6名（うちサイトスクリーナー5名，認定病理技師3名）
事務職員：1名

診療内容

病理科の業務は組織・細胞標本の診断と剖検とで構成される．主に病理標本の顕微鏡観察所見に基づいて，患者様の治療方針を決定する重要な病理診断を行っている．患者様が不幸にして亡くなられた場合には剖検を行い，臨床診断と治療が適切であったか否かを検証する．いずれも病院が提供する医療の質の維持に関わる重要な業務であり，スタッフはその重責に応えるべく，外部評価機関のサーベイへの参加などを通じて日々研鑽を積んでいる．

常勤医師3名に加え，4名の非常勤医師と，サイトスクリーナー5名，認定病理技師3名を含む6名の病理検査技師で構成される診断チームが，迅速かつ質の高い病理・細胞診断，病理解剖症例の詳細な検討，臨床科カンファレンスへの参加，積極的な研究活動支援を目標に掲げ，精力的に取り組んでいる．

また当科は，新専門医制度の病理研修基幹・連携施設に指定され，独自の専門研修プログラムを持つ一方で，大学病院をはじめとする複数施設の病理診断科と協力し，病理医育成にも取り組んでいる．

2023年のトピックス・実績

1）組織診断件数：5,379件
2）術中迅速診断件数：143件
3）細胞診断件数：5,933件
4）剖検数（剖検率）：3例（0.8%）

4年に及ぶコロナ禍に，病理検体数は大きくその影響を受けたが，新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行により，少しずつ通常を取り戻しつつある．病理解剖は昨年と同数であるが，組織診，術中迅速，細胞診は増加に転じている．当院の診療・教育の質も向上したいと考えている．CPCについては，生検例や手術例を題材とした症例検討や，過去の提示症例を再検討するなど工夫を凝らした開催で対処してきた．通常となり，剖検数の回復を期待したい．

今後の展望

コロナ禍を脱して，検体数は増加傾向に転じ，病理に求められる業務内容も変化すると予想される．例えば病理検体を用いた遺伝子検索は既に日常的なものとなったが，DNA/RNAの量や品質が重要で，その向上が大きな課題である．腫瘍量や品質管理を徹底し，正確で迅速な診断を行い，治療・診断に貢献したい．またこれまで以上のタスク・シフト/シェアを実現するため，技師によるROSE（オンサイトで迅速病理診断）を推進・指導し，臨床側へ迅速な情報提供を目指したい．

小児科・新生児小児科（外来・小児病棟）

診療内容

小児科外来では午前に一般診療を3～4診体制で主に行っており，午後は乳児健診，予防接種，専門外来などを行っている．専門外来は心臓外来，神経外来，アレルギー外来，内分泌外来，腎臓外来，発達相談外来，在宅ケア外来と分野が多岐にわたり，他病院や他施設のスタッフとも連携して診療に当たっている．

救急外来では外傷も含めた二次・三次救急医療を提供しており，受け入れを断らない医療を原則としている．

小児科病棟は現在42床で運営しており，初期研修医・後期研修医・指導医による主治医グループ制で診療に当たっている．毎日朝夕のカンファレンスや週1回の長期カンファレンス，病棟部長・医長による病棟回診を通じて情報共有や研修医の指導を行っている．また，小児脳外科・小児外科・整形外科・形成外科など他科とも連携を行い必要な医療を提供できる体制を整えている．

2023年のトピックス・実績

外来延べ患者数は32,570名であり，そのうち小児科外来患者数は25,992名，救急外来患者数は6,578名，救急外来患者のうち時間外の患者数は5,394名であった．専門外来患者数は延べ18,195名でアレルギー外来受診数が特に多く，次いで発達外来，神経外来の順で多かった．外来の紹介患者数は2,805名でそのうち786名が受診同日に入院となっていた．

2023年の小児病棟入院患者数は3,295名であり日勤帯の入院患者数は2,153名，時間外入院患者数は1,142名であった．検査入院などの予定入院は1,576件で食物経口負荷試験目的の入院が主であった．新型コロナウイルス感染症が第5類となり社会生活が変化した影響かRSウイルスやインフルエンザウイルスなどの市中感染症による入院が増加傾向で，新型コロナウイルス感染症に関連した入院は前年の半分ほどにとどまった．

今後の展望

地域の二次救急・三次救急の中核病院として引き続き感染症を含めた急性期の入院に対応していくとともに，PICUやNICUと連携して集中治療後のリハビリテーションや在宅支援などの慢性期の医療にも引き続き力を入れていきたい．また，食物アレルギーを始めとしたアレルギー診療のニーズは高く，開業医から直接当院へ食物経口負荷試験の入院が申し込めるなどの地域連携を強化するシステム作りも今後の課題である．

表1. 主な入院疾患名

（単位：件）

	件数
アレルギー負荷試験	1,377
ウイルス性肺炎/細菌性肺炎	226
咽頭炎/上気道炎/副鼻腔炎/中耳炎	218
RSウイルス肺炎	151
川崎病	129
腎炎/腎盂腎炎	124
ウイルス性腸炎/細菌性腸炎	93
インフルエンザA/B	84
新型コロナウイルス感染症	80
てんかん発作/重積	79
頭蓋骨骨折/頭蓋内出血	47
痙攣	42
頭部以外の骨折/外傷	37
頭部打撲/頭部外傷/脳振盪	37
アナフィラキシー	33
低身長症	26
蜂窩織炎	25
IgA血管炎/紫斑病	24
新生児黄疸	23
脳炎/脳症	16
急性/慢性腎不全	15
呼吸不全	15
心疾患（心臓カテーテル検査・治療を含む）	14
ケトン血性嘔吐症	13
リンパ節炎	12
低血糖	12
熱傷	11
腸重積症	11
急性薬物中毒	10
心身症	8
哺乳不全	7
ウイルス性髄膜炎/細菌性髄膜炎	7
糖尿病	6
睡眠時無呼吸	6
消化管アレルギー	6
イレウス	5
虫垂炎	5
腎尿路系の先天奇形	5
小児喘息	4
腸間膜リンパ節炎	2
ABO不適合溶血性疾患	2
多形紅斑	2
気道内/消化管異物	1
突発性発疹症	1
その他	248
合計	3,299

表2. 小児科専門外来等　延べ患者数

（単位：名）

	患者数
01. アレルギー外来	3,701
02. 発達外来	2,160
03. 神経外来	1,726
04. 発達相談外来	1,691
内分泌外来計	1,139
05. 代謝・内分泌	507
06. 消化器・内分泌	632
07. 乳児健診	2,179
08. 予防接種	482
09. シナジス	1,018
10. 心臓外来	909
11. 腎臓外来	32
12. 在宅ケア外来	1,150

NICU・GCU

スタッフ紹介

2023年の新生児専任医師は池上 等，片山義規，武井安津子，岸上 真，長坂美和子，松村 俊，郷間 環，自見仁美，米田徳子，関谷朱音，松永麻衣，中原優，福田祥直（2023年4月～），岩田成弘（2023年4月～）の14名で，その他後期研修医3～4名，初期研修医1～2名がローテート医師として従事している．専任医師は全員小児科学会専門医を取得しており，さらに上級医は周産期新生児専門医も取得している．専任スタッフはそれぞれが何らかのサブスペシャリティーを持っており，総合的な新生児医療のスキルUPはもちろんであるが，それぞれのサブスペシャリティーをいかしたより高度な新生児医療を提供できるように研鑽を積んでいる．後期研修医には将来新生児医療の道に積極的に進みたいと思ってもらえるような経験やサポートを行って，未来の新生児医療の担い手の育成を行っている．

診療内容

現在NICU21床，GCU27床で運営している．当直は2名体制で行っており，院内出生児のみならず，院外からの搬送入院に対しても，迅速に対応できるような態勢をとっている．朝の回診は看護師や理学療法士，臨床心理士，NICU薬剤師などコメディカルと共に患者の情報共有や，治療方針についてディスカッションを行い，夕方は主にNICUの重症児について医師のみの回診を行っている．またあらゆる新生児疾患に対応すべく，小児外科・小児脳神経外科疾患・先天性心疾患についても常時即応体制にあり，PICUとの連携により，ECMOや血液浄化・透析などが必要な症例の受け入れも行っている．また近年，胎児診断技術の向上によって，様々な疾患が胎児期より分かるようになってきた．このような胎児診断がされた胎児・両親を病院の総力を挙げてサポートするために，2012年より産科・新生児科・小児外科・小児脳神経外科による診療部と各部門の看護師，SW，心理士，理学療法士などによる多職種によって構成される「プレネイタルサポートチーム」を発足し活発な活動を行っている．

2023年のトピックス・実績

2023年を振り返ると，実績面では778名の入院数で，過去最多の入院数であった．うち出生体重が1,000g未満の超低出生体重児は29名，1,500g未満の極低出生体重児は63名と，どちらもこの数年で最多であった（図1）．入院経路は院内出生が647名，緊急母体搬送からの入院数が137名，新生児搬送数も129名で共にこの数年で最多であった（図2）．院内出生児の増加は近年の高齢ハイリスク妊娠の増加による影響が大きいと思われる．死亡症例は4名であり，超早産児の死亡率は3.4%であり，極めて高い生存退院率であった．

今後の展望

周産期医療の発展に伴い，合併症なく退院できる重症例が増加している．しかし入院中の母子分離がその後の発達へ影響を与えることや，NICU退院児に対する虐待などの問題が生じてきている．そのような問題に対応すべく，完全個室管理を行える11床の病床を利用して，家族が自宅で過ごせるような環境で安全に集中治療を提供できるようになってきた．また周産期医療施設の集約化に伴い，本院に求められる医療レベルやマンパワーのレベルも今後ますます高まっていくことが考えられ，今後も集中治療の質を落とすことなく，家族が家族として過ごすことができるような環境の提供と家族全体のサポートを更に実践していく必要がある．昨今の傾向のように，今後も入院数増加に伴って，ベッドコントロールのやりくりが求められるが，バックトランスファーや院内での入院調整のシステムなどを構築し，地域からの紹介をお断りすることなく，北摂地域の周産期医療の中核を担っていく病院として，今後も責務を果たしていく必要がある．

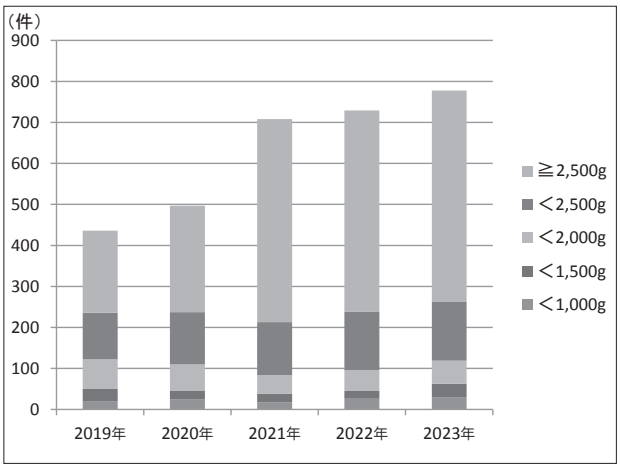


図1．出生体重別入院数の変化

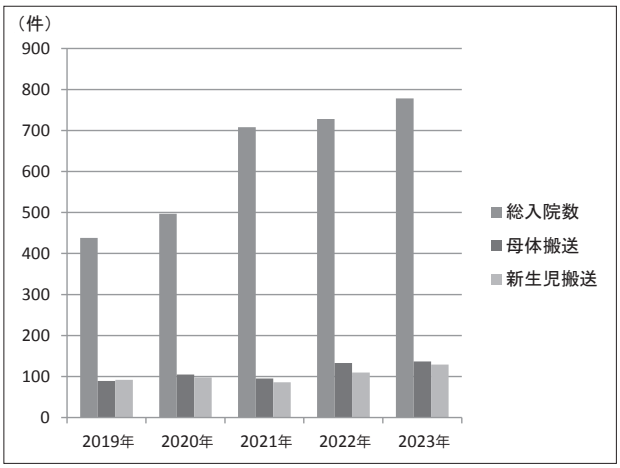


図2．経路別入院数の変化

PICU

スタッフ紹介

起塚，大西，篠本が専従医として原則的にPICU内に常駐している．

業務内容

重症小児の集中治療を内因性/外因性にかかわらず対応している．

2023年のトピックス・実績

2023年の入室者は572例で昨年の525例と比較すると47例の増加となった．増加の内訳ではその他が179例から265例に，術後管理が111例から133例に増加していたのが特徴であった．その他の多くはMRI撮影や熱傷処置などの鎮静目的の入室が主であった．入室理由では術後管理以外では大きな変化はないが，痙攣重積・急性脳症などの神経疾患が91例から47例に減少していた．治療内容では人工呼吸器管理は137例で変化はなかったが，血液浄化が1例から6例に増加していた．当科の血液浄化では急性腎不全以外に川崎病の血漿交換などを行っている．搬送手段について大きな変化はなかった．大阪府内はもちろんのこと，京都府や滋賀県からもドクターカーを活用して遠方からの症例を積極的に受け入れていた．

今後の展望

引き続き，地域のPICUとしての役割を遂行していく．

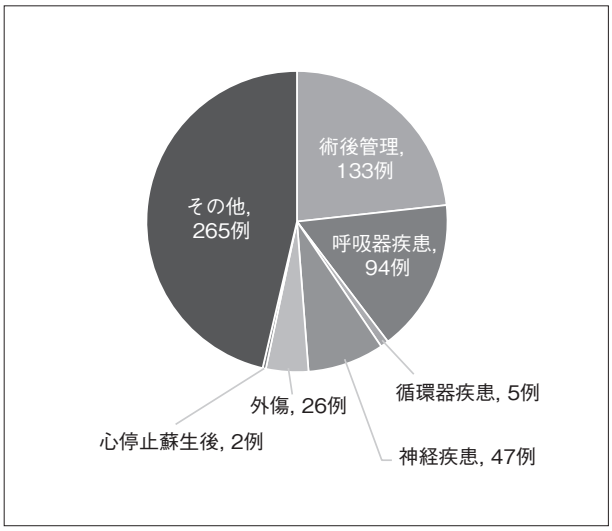
さらに京滋地域からの患者集約をより進めていきたい．

表1．主な治療内容　（単位：例）

人工呼吸器管理	137
NIPPV	31
脳低温・平温療法	8
血液浄化	6

表2．搬送手段　（単位：例）

院内	493
一般病棟	280
術後	133
ER	68
外来	12
転院搬送	79
大阪府	70
京都府	6
滋賀県	2
和歌山県	1



図．入室内訳

小児外科

スタッフ紹介

2023年の小児外科は小児外科主任部長 津川二郎（日本小児外科学会指導医・専門医），小児外科部長 久松千恵子（日本小児外科学会指導医・専門医），小児外科医長 服部健吾（日本小児外科学会専門医）の3名のスタッフと後期研修医 口分田 哲の4名体制で診療を行った．口分田は3月で神戸大学病院へ異動した．久松は3月で兵庫県立こども病院へ異動した．4月から新たに辻 恵未医師（日本小児外科学会専門医）と吉村翔平医師（日本小児外科学会専門医）が赴任し，常勤医師が全員小児外科専門医での診療が行われた．非常勤医師として小児外科部長　西島栄治が週2回の診療を行った．

診療内容

日本小児外科学会認定施設であり，小児外科医療における高次医療機関として365日24時間小児外科患者を受け入れ，診療を行っている．診療内容は小児の胸部（肺・横隔膜・胸壁）や腹部（消化管・肝胆膵・腹壁）疾患，泌尿生殖器疾患，新生児外科疾患，気道外科疾患，固形腫瘍など多岐にわたり，その他外傷や異物誤嚥・誤飲などの救急疾患についても対応している．

外来診療はスタッフを中心に交代で月曜日，水曜日，木曜日，金曜日の午前診を，水曜日，木曜日，金曜日は午後にも学童を中心とした外来診療を行っている．金曜日の午前診では西島部長が小児排泄・便秘外来を行っている．この外来では皮膚・排泄ケア認定看護師と共に習慣性慢性便秘症や二分脊椎症に伴う管理困難な便秘に対して排泄管理・指導を行っている．病棟では毎朝8時からPICUでの小児科，小児脳神経外科，小児麻酔科との合同カンファレンスを行い，その後に小児センター，NICU，GCUの総回診を行っている．入院症例の定期手術日は月曜日，火曜日，木曜日，金曜日で，日帰り手術を火曜日，木曜日，金曜日の午前に行っている．診療時間外は2名体制で24時間オンコール体制をとっており，常時患者の受け入れ及び緊急手術が施行できる体制となっている．

2023年のトピックス・実績

表に2023年の手術症例，新生児手術症例の内容を示す．総手術数は2022年と比べて少し減少した．新生児症例は，変わらなかった．鼠径ヘルニア根治術は93例で2022年と比べ1.5割ほど増加した．胸部・腹部疾患に対しても鏡視下手術や臍などを利用した傷跡が目立たない整容性を意識した手術の導入に積極的に取り組み，患者の早期回復や疼痛の緩和につながっている．急性虫垂炎は4例で，2022年と比べ大きく減少し最近10年間で最も少なかった．地域の医療変化（夜間休日診療所の移転など）の影響と考えており，来年の課題として取り組む決意である．新生児外科手術は13例で，2022年と変わりはなく，近年の出生数の低下が続いている影響は当科にとっても大きな問題である．小児泌尿器科疾患である膀胱尿管逆流症に対する外科的治療（内視鏡下Deflux注入療法，Cohen手術）を行い，手術症例数も増えつつある．Cohen手術は従来開腹手術であったが，低侵襲手術として腹腔鏡下（気膀胱下）手術が開発され，当科でも症例を選んで行っている．重症心身障害児（者）に対する医療にも取り組み，気管切開や胃瘻造設術，誤嚥性肺炎に対する喉頭気管分離術などの手術件数は増加傾向にある．小児のみならず，成人診療科からの紹介症例に対しても喉頭気管分離術を行い，いずれもQOLの向上につながっている．

当科では開設当初から小児気道疾患に対する検査や治療に力を入れており他府県からの紹介も多い．近年では声門下腔狭窄症の難治症例に対するpartial cricotracheal resection（PCTR）手術に取り組み，気管切開カニューレの抜管困難症の治療に成功している．

来期方針・抱負又は将来展望

当院は小児医療に強く，小児関連診療科（小児科，新生児科，小児集中治療科，小児外科，小児脳神経外科，小児麻酔科）や多職種がチーム一体となって治療に取り組んでいるのが強みだと思われる．小児医療の充実を院外にアピールして新生児・小児外科症例の増加につなげたい．2022年は，緊急手術の件数も減っており，特に急性虫垂炎の手術症例は減少していた．「断らない診療」を掲げ，高槻・三島医療圏以外からも紹介患者を増やし，手術症例の増加を目指したい．手術症例については治療対象となる子どもの苦痛や負担の軽減を図るべく，今後も低侵襲手術や創部が目立たない術式の可能性を追究していきたい．小児気道疾患についても引き続き積極的に治療に取り組んでいく．特に声門下腔狭窄症に関しては治療のゴールである気管切開からの抜管を目指した

い.

日本小児外科学会認定施設として豊富な症例を活かして小児外科専門医の育成に力を入れており，初期・後期研修医の研修や小児外科に興味がある医学生の見学を積極的に受け入れていく方針である.

表．手術症例

（単位：例）

手術	手術症例数	新生児手術症例数
横隔膜ヘルニア，弛緩症手術	0	
膿胸手術	2	
気胸手術	0	
肺葉切除術	0	
気管形成術（喉頭気管形成術含む）	0	
動脈管開存症手術	5	2
漏斗胸手術	0	
喉頭気管分離術	3	
腕頭動脈離断術	2	
気管切開術	11	
気管切開孔閉鎖術	6	
食道閉鎖症根治術	1	1
噴門形成術	6	
幽門狭窄症手術	6	2
十二指腸閉鎖症手術	1	1
腸閉鎖症手術	0	
腸回転異常症手術	4	4
新生児消化管穿孔，壊死性腸炎手術	4	3
小腸切除術	4	
人工肛門造設術	2	
胃・腸瘻造設術	4	
胃瘻・腸瘻・人工肛門閉鎖術	4	
腸重積症（観血的整復）	0	
虫垂切除術	4	
Hirschsprung病根治術	1	
鎖肛手術	2	
痔瘻・痔核手術	1	
胆道閉鎖症手術	0	
胆道拡張症手術	3	
鼠径ヘルニア手術	93	
卵巣腫瘍核出，摘出手術	6	
停留精巣手術	15	
精巣捻転手術	5	
精巣静脈瘤手術	1	
包茎手術	4	
膀胱尿管逆流症手術	4	
重複尿管切除術	1	
臍帯ヘルニア・腹壁破裂手術	0	
臍ヘルニア手術	17	
リンパ管腫硬化療法	1	
リンパ管腫摘出術	1	
副耳，頚瘻，耳前瘻切除術	4	
気管支鏡検査，処置	63	
消化管内視鏡（上部・下部）検査，処置	20	
ブロビアックカテーテル挿入・抜去術	6	
その他	23	
総症例数	340	13

ICU

スタッフ紹介

部長：岡　隆紀

心臓血管外科専門医（心臓血管外科専門医認定機構），日本外科学会指導医・認定医，日本胸部外科学会認定医，日本外科学会外科専門医，ヨーロッパ胸部外科学会正会員

部長：林田恭子

集中治療専門医（日本集中治療医学会），心臓血管外科専門医（心臓血管外科専門医認定機構），日本外科学会外科専門医

診療内容

毎日（土日祝日を除く）：ICU回診，カンファレンス，重症患者管理，補助循環管理など．

2023年のトピックス・実績

林田先生を中心に多職種での回診は高槻病院一番の回診と言っても過言ではないほど，熱いディスカッションがなされている．医療安全管理室と連携したRRS（Rapid Response System）は院内コードブルーを激減させている．現体制10年目に突入し，常に進化を遂げている．

今後の展望

学会参加・発表を含めた，スタッフ教育，研修医・新人看護師教育の充実を図りたい．

呼吸器外科

スタッフ紹介

主任部長：椎名祥隆（1986年卒）
　日本外科学会専門医
　日本外科学会指導医
　胸部外科学会指導医
　日本呼吸器外科学会専門医
医長：金　泰雄（2013年卒）
　日本外科学会専門医
　日本呼吸器外科学会専門医
専攻医：櫻井真倫（2019年卒）

診療体制

日本呼吸器外科学会認定施設修練施設
外来：月曜日（午後）椎名・金
　　水曜日（午前）椎名・金
手術：予定手術は火曜日と木曜日に行い，増加している緊急手術は随時行っている．
病棟：呼吸器外科病棟は7階南病棟で，症例によってはICUで術後管理を行った．

2023年のトピックス・実績

2023年は悪性腫瘍手術と膿胸の手術が増加した．悪性腫瘍手術は45例に達し，年間手術数が初めて100例を超えた（表）．

2023年も近畿大学外科研修プログラムの上記・櫻井医師が当科での後期研修継続となった．そのため3人体制が維持され，増加傾向にある膿胸などの緊急手術と緊急処置への対応が可能であった．

呼吸器・縦隔領域の悪性腫瘍に対しては，今後も大阪府がん診療拠点病院として呼吸器内科・呼吸器外科・放射線腫瘍科がこれまで以上に良好に連携し，効率的で専門化された治療を行う．

今後の展望

時代に即した手術方法の改良：肺癌の肺葉切除・区域切除に対する4ポート胸腔鏡手術（以下VATS）を1ポートVATSに変更していく．通常行われている4ポートVATSやロボット手術の創部は4か所なので，傷つける肋間神経は2-3本となる（同じ肋間に複数のポートを作成するため）．そのため術後の疼痛範囲は広いので，鎮痛剤使用量が多くリハビリも進みにくいことがある．1ポートVATSの創部は1か所のみなので，術後疼痛はより少ない．侵襲性と安全性から1ポートVATSは本邦の呼吸器外科ではすでに採用され，応用範囲は広く，必要器具も安い．一方，技術習得には他施設での手洗い見学が必要となる．すでに1ポートVATSを行っている住友病院やはりま姫路総合医療センターに金医師が手術見学に行っており，開始に向けて準備を進めている．

表．手術数　（単位：件）

疾患名	件数
肺悪性腫瘍	45
肺良性腫瘍	6
気胸	33
縦幅腫瘍	5
膿胸	8
外傷	3
その他	7
合計	107

心臓血管外科

スタッフ紹介

心臓大血管センター　センター長：大北　裕

日本外科学会専門医，日本胸部外科学会理事長，日本外科学会指導医，代議員，日本循環器学会専門医，評議員，日本脈管学会特別会員，日本血管外科学会名誉会員，日本心臓血管外科学会特別会員，日本心臓血管外科専門医認定機構委員，日本冠動脈外科学会評議員，日本心臓血管外科手術データベース機構委員，The Society of Thoracic Surgeon: Member (1996-), The European Association for Cardio - Thoracic Surgery: Member (1996-), The International Society of Cardiovascular Surgery: Member(1994-),American Heart Association Fellow in the Council in Cardiovascular Surgery (2002-), American Association for Thoracic Surgery: Member (1999-), Asian Society for Cardio-Thoracic Surgery: Council (2011-)

主任部長：岡　隆紀

心臓血管外科専門医（心臓血管外科専門医認定機構），日本外科学会指導医・認定医，日本胸部外科学会認定医，日本外科学会外科専門医，ヨーロッパ胸部外科学会正会員

部長：常深孝太郎

心臓血管外科専門医（心臓血管外科専門医認定機構・修練指導者），日本外科学会外科専門医，日本外科学会指導医・認定医，日本心臓リハビリテーション学会指導士，日本脈管学会専門医，日本血管外科学会血管内治療医

医長：大村篤史

心臓血管外科専門医（心臓血管外科専門医認定機構・修練指導者），日本外科学会外科専門医，日本外科学会指導医

専攻医：林　裕之

田中　綾（～2023年10月）

診療内容

成人心臓疾患・大血管（胸～腹部の動脈）疾患・末梢血管（手足の動脈）疾患・静脈疾患など.

2023年のトピックス・実績

大北センター長のもとに日本全国から難易度の高い手術依頼は一定数あり，存在感は発揮できたかと思われる.

特に大動脈弁の自己弁温存手術・ROSS手術は日本トップクラスの症例数・成績を誇っている.

コロナ禍で落ち込んでいた手術症例数も年度末に回復傾向である.

林　裕之医師が神戸大学関連施設間で争う冠動脈バイパスコンテストで高槻病院専攻医として前年度（前年度は久保沙羅医師がチャンピオン）に引き続きチャンピオンに輝いた.

今後の展望

心臓血管疾患をオールラウンドにこなしていき，地域の方のニーズと期待に応えていきたい.

研修医教育にも力を注ぎたい.

消化器外科

スタッフ紹介

副 院 長：千堂宏義（2023年4月～）
医　　長：細野雅義，大和田善之，池田太郎
専 攻 医：鍵山大起，仲西凜太郎，眞鍋裕宇
非 常 勤：家永徹也（特任理事）

診療内容

外来：平日毎日午前診・午後診を行っている．
病棟：6階東病棟の21床が割り当てられている．毎朝8時40分から申し送り，毎週火曜日の16時から多職種を交えた術後カンファレンス，16時30分からキャンサーボード及び術前カンファレンスを行っている．
手術：予定手術は毎日行っている．時間外緊急手術は毎日2名のオンコール・24時間体制で対応している．

2023年のトピックス・実績

手術件数は554件と前年を下回った．そのうち，腹腔鏡手術は386件であった．積極的に腹腔鏡手術を導入し，身体への負担がより少ない治療を目指している．

原則，診療ガイドラインに準拠して治療方針を決定し，消化器内科，放射線科，病理診断科と連携をとり，横断的な診療を行っている．胃癌及び大腸癌はほとんどの症例で腹腔鏡手術を行っており，肛門近傍の下部直腸癌に対しては症例によっては肛門温存手術を行っている．最初は切除不能でも消化器内科，放射線科などと連携をとって集学的治療を行い，切除可能となった段階で外科的切除を行っている．また，他臓器転移や再発があっても治癒切除が可能であれば積極的に外科的切除を行っている．

原発性肝癌や転移性肝癌も積極的に腹腔鏡手術を行っている．肝細胞癌は状況に応じてラジオ波，TACE，薬物療法，放射線治療を併用した集学的治療を行っている．そして区域切除，葉切除では腹腔鏡補助下肝切除（ハイブリッド手術）も行う．膵臓癌は切除可能症例は原則術前化学療法を行った後に外科手術を行い，症例によっては術後も化学療法を行っている．また，他の消化器癌同様切除不能症例で集学的治療によって切除可能となれば積極的に外科的切除を行っている．膵体・尾部腫瘍についても積極的に腹腔鏡手術を行っている．胆道癌（肝外・肝門部胆管癌，胆嚢癌，十二指腸乳頭部癌）は消化器内科や放射線科と協力して質の高い診断を行った上で各疾患に応じて治療方針を決定し，手術適応や切除範囲を決定している．

今後の展望

地域医療支援病院，がん診療拠点病院である当院は救急診療，がん診療を担う要であり，三島医療圏での確固たる地位確立を目指し，地域医療の基幹病院としての責務を果たす必要がある．当院で実践している医療を積極的に地域へ発信し，社会に広げていく必要がある．心に届く安心できる病院を目指し，常に患者の病状，生活環境に応じた最善の手術，医療を心掛ける．消化器外科は緊急手術対応において万全の体制をとっておりこれを維持し，手術・治療成績，在宅復帰率の向上に努めていきたい．また，肝胆膵領域の手術においても積極的に腹腔鏡手術を行い，実績を伸ばしていきたい．

表．手術実績　（単位：件）

項目		小計
消化管領域	食道悪性腫瘍	0(0)
	胃悪性腫瘍	34(25)
	結腸悪性腫瘍	58(51)
	直腸悪性腫瘍	12(12)
	小腸悪性腫瘍	4(0)
肝臓・胆道・膵臓領域	肝切除	7(7)
	胆道悪性腫瘍	6(0)
	膵頭十二指腸切除	7(0)
	膵体尾部切除	0(0)
	膵全摘	0(0)
	胆嚢摘出	113(105)
その他	虫垂切除	56(56)
	ヘルニア	143(119)
	消化管穿孔	13(6)
	腸閉塞	23(5)
	肛門疾患	21
	CVポート造設	57

（　）内：腹腔鏡手術

乳腺外科

スタッフ紹介

常 勤 医：三成善光，吉川勝広
非常勤医：家永徹也，下山京子

診療体制又は活動目標

週2日（月曜日/午前，火曜日/午前・午後）を手術日とし，週3～4例の乳癌手術を行う体制を整えている．さらに週1～3日（水曜日，木曜日，金曜日　いずれも午前中），局所麻酔手術（良性腫瘍切除，CVポート造設，抜去等）を行っている．

週1回（木曜日午後）を乳腺生検検査日に充て，ステレオタクティック吸引式針生検（マンモトーム生検），針生検（VAB，CNB），吸引細胞診を行っている．

外来は常勤医による週5日・8コマの外来，非常勤医による週3日・3コマの外来を行っている．

活動内容及びトピックス

当科では乳腺疾患全般に対して診療を行っている．乳癌については検診から検診精査，乳癌の診断，初期治療，再発治療，及び緩和ケアを行っている．医療の質の向上，医療の均てん化が重要であり，データやエビデンスに基づく標準的な診療を行うよう心掛けている．

乳癌の診断については，デジタルマンモグラフィー（トモグラフィー）装置，乳房超音波検査，MRIやCTなどの画像検査や，穿刺吸引細胞診，CNB，エコーガイド下VAB，ステレオタクティックマンモトーム生検装置などの生検デバイスを用いて，的確に病変部を描出，把握し，低侵襲に確定診断までができるようにしている．乳癌治療においては診断時に得られた腫瘍の情報（大きさ，リンパ節転移の有無，臨床病理学的な検索による癌の悪性度，Intrinsic subtype）から，より有効な治療法を検討している．症例によっては術前療法を行い，腫瘍の縮小，down stagingを行ってから，根治手術を行う．

乳癌手術については整容性，低侵襲性も考慮した乳房温存手術はもとより，cN0症例に対してはセンチネルリンパ節生検により腋窩郭清省略を行い，さらに非浸潤癌症例では腋窩手術そのものの省略も行い，術後の腕のリンパ浮腫の発生の低減を図っている．昨年は全乳癌手術症例106例中，79例にセンチネルリンパ節生検を行った．近年では乳房切除術を必要とする症例でも，整容性も考慮し，患者の要望によっては乳房全切除後にブレスト・インプラントを用いた乳房再建を検討している．乳房切除後乳房再建が適切にできるように，形成外科と協力している．さらに早期の乳癌に対しては，二次再建だけでなく一次（同時）再建も行える体制を整えている．

術後の補助療法については，手術標本から得られた情報をもとにホルモン療法，化学療法，及び分子標的療法の薬物療法と放射線療法を適切に行えるようにしている．再発治療においては多数の新薬（分子標的薬，免疫チェックポイント阻害薬等）が登場し，治療が多様化，複雑化してきた．加えて，患者と医療者の協働意思決定（Shared decision making）が求められるようになってきており，患者が適切な治療法を選択できるようにデータやエビデンスを情報提供し，患者の状況や腫瘍の状態，悪性度を考慮して，より良い治療法を提案できるよう心掛けている．

乳癌診療において様々に変化する診療に対して，多職種の参画によるチーム医療が重要となってきている．当科でも多職種からなる高槻乳癌臨床支援チームで定期的な乳腺カンファレンスを行い，症例検討を行っている．近年のがん診療では，通常の診療に加え，がんリハビリテーションや，心のケア（サイコオンコロジー）などが求められてきており，外科医，放射線科医，形成外科医，精神科医，薬剤師，看護師，理学療法士，臨床心理士などの多くの専門職との連携を図っている．

乳癌診療が複雑化するのに対応して，病理医に協力していただき，乳癌診療における院内データベースを作成し，診療にリンクさせることにより，業務の簡略化を行っている．

来期方針・抱負又は将来展望

乳癌の治療成績の向上に加えて，より侵襲の少ない手術，患者のQOLを重視した治療を行うよう努める．2024年に早期乳癌のラジオ波焼灼術が保険適応になり，当院でも実施できるように検討している．また，若年齢層の乳癌患者に対しては，若年女性の抱える社会的な要因（妊孕性保持，授乳期乳癌，就労支援）に対しても配慮していく．

また，がんゲノム医療が徐々に普及してきており，今後，がん遺伝子に関わる診療が重要性を増してきている．乳癌領域では遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）が

知られているが，当院は遺伝性乳癌卵巣癌総合診療連携施設の施設認定を取得した．遺伝診療センターと協力し，遺伝性乳癌卵巣癌症候群の診療に当たる．また，保険適応となっている遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）の乳癌既発症者の予防的乳房切除術を行っている．乳癌未発症者に対しての予防的乳房切除術（自費）については，倫理審査を終え，施行可能となった．

地域連携は診療を幅広く行うために重要で，地域診療所との連携が必要である．従来，乳癌患者に対して地域連携パスを用いて診療連携を行ってきたが，さらに，病院，診療所間の連続したきめ細かい診療を行えるよう，地域診療所とのWEBを用いた診療情報交換も行っている．

表．乳腺外科手術件数

（単位：件）

術式		症例数
乳房悪性腫瘍手術	乳房温存手術	30
	乳房切除術	63
	小計 （うちセンチネルリンパ節生検）	93 （67）
乳房良性腫瘍手術	乳房腫瘍切除術	11
CVポート造設・抜去術		47
その他（リンパ節生検など）		8
手術合計		159

脳神経外科

スタッフ紹介

前野和重
角野喜則
倉本仁美（2023年9月退職）
清水東与（2023年4月入職）
一瀬綾花（2023年4月入職）

診療内容

外　　来	月曜日～金曜日・午前	
専門外来	木曜日・午前	脳血管内専門外来
	木曜日・午後	脳腫瘍専門外来
検　　査	月曜日・木曜日	
手　　術	木曜日	
病　　棟	8階東病棟　SCU	

2023年のトピックス・実績

2023年も引き続き2人の専攻医を大阪大学から受け入れることができた．豊田佐織医師と倉本仁美医師が異動となり，新しく入職した一瀬綾花医師が成人脳外科を清水東与医師に小児脳外科の専攻医として働いてもらった．成人脳外科は3人体制で小児脳外科は2人体制で勤務している．指導医として角野医師に引き続き勤務してもらうこととなった．新型コロナウイルス感染症が収束したため大幅に手術件数を増やすことができた．2023年手術件数は小児脳外科と合わせて359件であった．2022年から1.5倍の増加である．脳卒中患者も増加している．これも地域から当院への信頼を得ることができたためと考えている．日本脳卒中学会から一次脳卒中センターに認定されたことが実績につながったと判断している．引き続き臨床成績を上げていきたい．今後は脳血管内，脳腫瘍の専門外来とSCU（脳卒中専門ケアセンター）について地域の人達へ更なるアピールを続けていく．

今後の展望

現在，当科の臨床診療は安定期に入ったと思われる．更なる発展のために教育・研究に力を入れていきたい．研修医・看護師の教育を積極的に行い，未来に向けた活気ある診療体制を構築しなければならない．同時に学会発表，論文投稿を行い社会的に認知も広めていく必要がある．さらに周囲からの期待・信頼を勝ち得るためにも，確実に診療実績を積み上げることが必要である．周囲の急性期病院を取り巻く環境は厳しくなっており高槻病院も生き残りをかけるため，これまで以上に積極的に脳卒中・頭部外傷などの脳外科救急に取り組み，地域医療の充実に貢献したい．今後は重症意識障害の患者の受け入れ件数を増やしていきたい．24時間体制での診察加療を継続して急性期高度専門病院として体制を整えていく．

小児脳神経外科

スタッフ紹介

原田敦子（1996年新潟大学医学部卒業）
倉本仁美（2018年関西医科大学医学部卒業）（2023年9月退職，脳神経外科と併任）
清水東与（2019年京都府立医科大学医学部卒業）（2023年4月着任，脳神経外科と併任）
一瀬綾花（2020年東京医科歯科大学医学部卒業）（2023年4月着任，脳神経外科と併任）

診療内容

脳神経外科の中で，子どもの中枢性疾患全てを取り扱う診療科であるが，日本で小児神経外科を標榜する医療機関は子ども病院を除くとまだ数か所しかない．当院は大阪府最大の総合周産期母子医療センターであり，全国でもトップクラスの周産期医療を担っている．また小児救急にも力を入れており，PICUを有し，小児救命救急センターにも認定されている．そうした中，小児脳神経外科は2012年4月に開設され，2024年3月で12年が経過する．開設当初より，頭部脊髄疾患の新生児搬送や頭部救急患者の受け入れを新生児科・小児科と連携して24時間体制で行ってきた．救急疾患以外では，水頭症，二分脊椎症，頭蓋骨縫合早期癒合症などの先天性中枢神経疾患を主に扱っている．

2023年のトピックス・実績

2021年8月より月に1回二分脊椎外来を開始した．二分脊椎症は整形外科，泌尿器科，小児外科と連携して長期にわたって経過を見る必要のある疾患であり，以前から二分脊椎外来の開設が望まれていた．二分脊椎外来開設に伴い二分脊椎症の手術症例も増加しており，2023年は17件の手術を行った．

2015年に開設した「赤ちゃんの頭の形外来」の受診者数は年々増加しており，2023年は77例の頭位性頭蓋変形に対してヘルメット治療を行った．それに伴い，頭蓋骨縫合早期癒合症の手術症例も増加しており，2023年は44件の手術加療を行った．頭蓋骨縫合早期癒合症の症例の中には，顔面や手指の疾患を合併することが多いため，大阪医科薬科大学形成外科 上田晃一教授，市立奈良病院再建形成外科 久徳茂雄先生の協力体制の下，治療に当たっている．

北摂，京滋での小児脳神経外科の拠点病院としての役割を果たすだけでなく，臨床的・学術的な質の向上にも努めており，2023年は9編の論文を作成した．また，脳神経外科とともに大阪大学脳神経外科の研修プログラムに在籍する後期研修医を3名受け入れ，指導を行った．高槻病院は多くの初期研修医を受け入れているため，初期研修医の指導も行っている．

今後の展望

地域の救急医療に貢献しつつ，専門性のある高度医療を提供していきたい．

表．手術実績内訳　（単位：件）

先天性疾患	術　式	件数
水頭症・くも膜嚢胞	シャント再建・抜去術	9
	脳室腹腔シャント術	6
	脳室ドレナージ術	8
	内視鏡手術	2
二分脊椎症・二分頭蓋	脊髄脂肪腫摘出術	13
	係留解除術	1
	先天性皮膚洞摘出術	1
	脊髄髄膜瘤修復術	1
	脊髄嚢胞開窓術	1
	頭蓋形成術	1
頭蓋骨縫合早期癒合症	頭蓋形成術	26
	脳圧センサー設置術	8
	内視鏡支援下縫合切除術	7
	頭蓋骨延長術	2
	骨延長器抜去術	1
その他	大孔減圧術	4
外傷	術　式	件数
硬膜下血腫	開頭血腫除去術	2
	頭蓋形成術	1
陥没骨折	陥没骨折修復術	3
血管障害	術　式	件数
モヤモヤ病	バイパス術	3
動静脈瘻・奇形	血管内手術	4
	動静脈奇形摘出術	1
その他	術　式	件数
	デブリドマン	8
	頭蓋骨腫瘍摘出術	1
計		114

整形外科・関節センター

スタッフ紹介

コンサルタント（スタッフ医師）5名
平中崇文（1988年卒主任部長）人工膝関節・関節鏡
岡本剛治（1992年卒部長）脊椎外科
藤代高明（1997年卒部長）人工股関節
小出　基（2012年卒医員）膝関節鏡・スポーツ医学
深井恭寛（2016年卒医員）膝関節（2023年4月～）
レジデント（研修医）3名
2023年の研修医は，2023年3月まで蒲池正宗（2018年卒），林　卓磨（2020年卒），井上諒真（2021年卒），荻野壮太（2019年卒），2023年4月から田中　翔（令和2年卒），岡島貴大（令和4年卒），4月から9月まで菅野龍彦（令和5年卒），10月から石田雄也（令和5年卒）が勤務した．

診療内容

1. 人工膝関節（関節センター）
総手術症例数，部分人工関節手術症例数ともに国内トップクラスの症例数である．昨年は年間497例を達成した．
2. 人工股関節（関節センター）
手術数が増加しており，年間症例数は120例になった．人工股関節の手術数は近隣地域では最多である．
3. 脊椎外科
手術症例数は，年間約60例に到達した．高槻の診療圏では最大の入院患者数となっている．
4. 再生細胞
脂肪組織由来再生幹細胞治療（ADRC）を用いた膝軟骨再生医療を2017年10月以来行っている．本年は培養系の細胞治療も開始した．
5. 医工連携
以前に開発したMagnam nail，トレスロックに加えてDSC IIを上市した．

2023年のトピックス・実績

1. YouTubeチャンネル
関節センターのYouTubeチャンネルを開設した．現在までチャンネル登録者数8,200名と好評である．また動画がきっかけで受診する方が多いばかりでなく，紹介受診でも動画を視聴している方が多く，今後ますます注力すべきであると実感している．
2. 海外交流
新型コロナウイルス感染症流行沈静化に伴い，交流が活発化している．ヨーロッパでの発表（股関節及び膝関節）を行うとともに，ベトナムの病院との連携を深め，センター長はベトナムでの医師免許取得により，メディカル部門での連携を深めていく．
3. 学術活動
学会発表はコンスタントに行い，国内外含めて20演題以上発表した．また英文雑誌投稿に注力し，2023年は合計13編の英文論文がpublishされた．今後も手術数と英語論文数にはこだわっていく．
4. 総合内科との共同治療
大腿骨近位部骨折，脊椎圧迫骨折を，総合内科主治医の全身管理，整形外科医執刀とお互いの特徴を生かした取り組みを行っていたが，今回更に進めて大腿骨近位部骨折の骨折予防リエゾンサービス体制を確立した．これにより診療報酬の加算とともに，医師会及び全国的に進めていく．

今後の展望

1. 脊椎外科センターの充実
年々増加しつつある脊椎外科を，内外にアピールして確固たるものとするとともに，脊椎変形の特殊外来の手術も解しており，より幅広い患者層にアピールしていく．
2. 人工関節の発展
人工関節数を膝関節400例，股関節120例を目標手術数として，近隣での絶対的な地位を維持する．またロボットや患者アプリの活用によりDX化を目指す．さらに，国内外の研修医を多く受け入れて指導的立場を堅持する．
3. 外国人患者の受け入れ
再生医療メディカルツーリズムを一例施行した．その後も打診がある．
4. 外国人医師の研修受け入れ
当院は外国人医師修練施設に認定されている．海外からの研修医を積極的に受け入れる予定である．2023年1月には台湾とインドから約1か月の研修を受けいれた．

泌尿器科

スタッフ紹介

・院長補佐　右梅貴信（2023年4月非常勤医より転任）
出身大学：大阪医科大学（1997年卒）
専門分野：泌尿器科一般・排尿機能・癌治療
学会など：日本泌尿器科学会　専門医・指導医
・主任部長　西田　剛
出身大学：大阪医科大学（2000年卒）
専門分野：泌尿器科一般・癌治療・排尿機能
学会など：日本泌尿器科学会　専門医・指導医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本透析医学会透析専門医
大阪医科大学泌尿器科教育准教授
・医　　長　内本泰三（2023年12月退職）
出身大学：大阪医科大学（2011年卒）
専門分野：泌尿器科一般・癌治療
学会など：日本泌尿器科学会　専門医・指導医
・専 攻 医　田中幹人（2023年3月退職）
出身大学：大阪医科大学（2019年卒）
・専 攻 医　柳原一隆（2023年4月着任　9月退職）
出身大学：川崎医科大学（2019年卒）
・専 攻 医　櫻井太佑（2023年10月着任）
出身大学：和歌山県立医科大学（2019年卒）
・専 攻 医　宮崎稜介（2023年10月着任）
出身大学：三重大学（2019年卒）
・非常勤医師　濱田修史
・非常勤医師　小山耕平
・非常勤医師　反田直希

診療内容

泌尿器科では，泌尿器科領域でのがん治療，尿路結石治療，排尿障害及び尿路感染の治療を行っている．外来診療はこれまでと同様，毎日（月～金曜日）診療を行い，予約なしの患者や緊急対応が必要な症例も可能な限り対応している．入院診療においては患者に負担の少ない治療を積極的に取り入れ，早期の回復を目指して診療を行っている．

尿路結石に関しては，負担の少ない体外衝撃波結石破砕と内視鏡下破砕術（結石除去効果が高いレーザー結石破砕装置を使用）を使い分けることで，より適切な加療を行っている．

また，大阪医科大学泌尿器科と連携を取り，より高度な先端医療を提供している．

2023年のトピックス・実績

尿路結石手術（体外衝撃波結石破砕，内視鏡下結石破砕）の手術件数は多く，複数の手段から選択することにより，結石治療のセンターとして機能している．

前立腺肥大症の治療が多様化する傾向にあり，当院でも抗凝固剤の中止が困難な症例に対して，経尿道的前立腺吊上術（ウロリフト）の導入を行った．

2023年より専攻医の増員により，外来業務や入院業務の充実化を図ることができた．

今後の展望

患者のニーズが多様化する状況で，丁寧な診療を心掛けながら，期待に応えられるようにする．丁寧な説明と適切な治療を提供し実施するよう心掛ける．

表．診療実績　（単位：件）

術式	件数	術式	件数
経尿道的膀胱悪性腫瘍手術	110	経直腸的前立腺生検	106
経尿道的前立腺切除術	20	尿管ステント留置，抜去	348
経尿道的前立腺吊上術(ウロリフト)	1	経皮的腎瘻造設術	5
経尿道的尿路結石除去術(レーザーも含む)	110	膀胱瘻造設術	2
経尿道的膀胱結石摘出術	19	腹腔鏡下副腎摘除術	2
体外衝波腎・尿管結石破砕	101	腎（尿管）悪性腫瘍摘除術	1
精巣摘出術	2	腹腔鏡下腎（尿管）腫瘍手術	6
陰嚢水腫根治術	7	膀胱悪性腫瘍手術（尿路変更あり）	2
包茎手術	3	尿膜管摘出術	1
外尿道腫瘍切除術	1	尿失禁手術（ボツリヌス毒素）	5

腎移植科

スタッフ紹介

部　　長　客野宮治（2023年3月退職．4月から非常勤医として勤務）

非常勤医　高原史郎（関西メディカル腎移植クリニック）

角田洋一（大阪大学泌尿器科）

中澤成晃（大阪大学泌尿器科）

診療内容

週4日（火～金曜日）1診制で，腎移植患者の腎機能フォローアップと免疫抑制療法，及び生活習慣病を含めた健康管理を客野，高原，角田，中澤が行っている．また，必要に応じて移植腎生検を2泊3日の入院で行っている．

表．実績　（単位：件）

1日平均外来数	7.9
年間入院数	10
年間手術件数	25

2023年のトピックス・実績

約170名の腎移植レシピエント及びドナーの腎機能維持と健康管理を担当している．

2023年の1日平均外来人数は7.9名/日であった．

移植腎生検を25件実施した．

2023年4月から常勤医が不在となり，入院中の担当医を泌尿器科にお願いしたため，入院件数が生検件数よりも少なくなっている．

1年間で大阪大学泌尿器科より3名の腎移植後の新患を受け入れた．

死亡は3名で，透析再導入は2名であった．

その他に患者の転居・転院に伴って患者数の増減があった．

今後の展望

大阪大学及びその関連施設から1年間に5～10名の新規患者を受け入れる予定である．

皮 膚 科

スタッフ紹介

福満祥子　2017年卒　（2022年4月入職）
髙橋甲介　2017年卒　（2022年5月入職）
瀬戸英伸　1984年卒　（1993年7月入職）

診療内容

【外来】
1日平均外来患者数：51人←52人（2022）←52人（2021）
紹介患者数：710人←745人（2022）←691人（2021）
生物学的製剤導入：22人←26人（2022）←18人（2021）
JAK阻害薬導入：9件←4件（2022）←3件（2021）
アレルギー検査：45件←37件（2022）←33件（2021）
【入院】
入院患者数：61人←70人（2022）←100人（2021）
病棟依頼：1,367件←1,095件（2022）←1,093件（2021）
往診：274件←304件（2022）←284件（2021）
褥瘡回診：265件←335件（2022）←346件（2021）
【手術】
手術件数（手術室）：
159件←163件（2022）←159件（2021）
手術総件数（手術室+外来処置室）：
308件←393件（2022）←295件（2021）
悪性腫瘍摘出術：24件←29件（2022）←17件（2021）
有茎皮弁・植皮術：4件←6件（2022）←3件（2021）
全身麻酔：6件←7件（2022）←18件（2021）

2023年のトピックス・実績

今まで15歳以上しか使用できなかった，重症アトピー性皮膚炎治療薬デュピクセント（デュピルマブ）が6か月以上の小児に使用可能となった．小児重症アトピー性皮膚炎患者の福音となることを期待している．

・入院患者内訳（表1）
・皮膚科の手術（表2）
・皮膚良性腫瘍（表3）
・皮膚悪性腫瘍（表4）
・炎症性皮膚疾患（表5）

今後の展望

昨年同様，皮膚癌・足壊疽患者が増えてきている．引き続き皮膚外科的分野に力を入れたい．また，2024年度より上級医の採用が予定されており，皮弁術・植皮術，全身麻酔手術の増加を期待したい．

表1．入院患者内訳　（単位：人）

細菌感染症	
蜂窩織炎	9
丹毒	4
壊死性筋膜炎	1
ウイルス感染症	
帯状疱疹	8
水痘	2
カポジ水痘様発疹症	1
皮膚良性腫瘍	13
皮膚悪性腫瘍	7
中毒疹・薬疹	3
皮膚潰瘍・褥瘡・足壊疽	7
天疱瘡・類天疱瘡	2
湿疹皮膚炎	0
蕁麻疹・アナフィラキシー	1
紅斑症（EEM EN）	1
血管炎	1
乾癬等	0
円形脱毛症	1
合　計	61

表2．皮膚科の手術　（単位：件）

良性腫瘍摘出術	143
悪性腫瘍摘出術	24
皮膚生検術	127
有茎皮弁作成術	1
遊離植皮術	3
デブリードマン	1
フェノール法	7
足指切断術	1
毛巣洞手術	1
合　計	308

表3．皮膚良性腫瘍
（生検→手術はダブルカウント）（単位：件）

母斑細胞性母斑など	12
粉瘤など	47
脂漏性角化症	25
線維腫など	15
皮膚付属器腫瘍	15
脂肪腫など	13
血管腫など	11
日光角化症	4
その他	24
合　計	166

表4．皮膚悪性腫瘍
（生検→手術はダブルカウント）（単位：件）

基底細胞癌	22
有棘細胞癌	9
ボーエン病	17
パジェット病	0
悪性黒色腫	0
転移性皮膚癌	4
その他	4
合　計	56

表5．炎症性皮膚疾患（生検施行）
（単位：件）

水疱症	12
血管炎	16
肉芽腫	7
脂肪織炎	2
膿皮症など	0
炎症性角化症	8
その他皮膚炎	25
その他	12
合　計	82

形成外科

スタッフ紹介

常勤医：黒川憲史
出口　大（～2023年3月）
久野勇年（2023年4月～）

診療内容

常勤医2名で診察を行っている．外来は，月・火・木・金曜日の午前中，水曜日は午後に初診を受け入れている．手術は，月曜日午後に主に全身麻酔を要するもの，水曜日午前中に局所麻酔を要するものを行っている．

2023年のトピックス・実績

2023年の実績を表1，2に示す．また，大阪医科薬科大学形成外科 教育連携施設となっている．

今後の展望

従前どおり，適切な形成外科的な治療や手術を提供し，必要に応じて関連施設との連携をとり，良好な協力体制を維持していく．

表1．形成外科新患者数・入院患者数・手術件数

形成外科新患者数	689名	形成外科手術件数	入院手術	全身麻酔	74件
形成外科入院患者数（重複入院は除く）	105名			腰麻・伝達麻酔	0件
				局所麻酔・その他*	42件
			外来手術	全身麻酔	0件
				腰麻・伝達麻酔	0件
				局所麻酔・その他*	118件

＊その他：無麻酔や分類不明

表2．手術内容区分

（単位：件）

疾患大分類手技数	入院手術			外来手術			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
外傷	17	0	5	0	0	34	56
先天異常	12	0	0	0	0	1	13
腫瘍	33	0	25	0	0	78	136
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	3	0	1	0	0	2	6
難治性潰瘍	6	0	10	0	0	0	16
炎症・変性疾患	2	0	0	0	0	3	5
美容（手術）	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	0	1	0	0	0	2
Extra レーザー治療	0	0	0	0	0	0	0
大分類計	74	0	42	0	0	118	234

産 科

スタッフ紹介

小辻文和　：1971年卒　部長（～2023年12月）
大石哲也　：1983年卒　部長
中後　聡　：1988年卒　主任部長　総合周産期母子医療センター長
加藤大樹　：2005年卒　医長
德田妃里　：2007年卒　医長
柴田貴司　：2007年卒　医長
細野佐代子：2008年卒　医員
西川茂樹　：2011年卒　医員
福岡泰教　：2012年卒　医員
飯塚德昭　：2013年卒　医員
河合春那　：2017年卒　医員（～2023年3月）
新田勇人　：2019年卒　専攻医（～2023年9月）
伊藤弘樹　：2020年卒　専攻医
森本　始　：2020年卒　専攻医
小島祥文　：2021年卒　専攻医（2023年4月～）
宇田菜都　：2021年卒　専攻医（2023年4月～）
米村優仁　：2021年卒　専攻医（2023年4月～）
産婦人科の常勤スタッフは以上14名であった．
千船病院からのローテ―ト研修医は以下の4名であった．
1月～3月：光岡真優香(2019年卒)，根来柚衣(2020年卒)
4月～9月：早川史保子（2020年卒）
10月~12月：三浦穂乃果（2020年卒）

診療内容

入院病床はMFICU6床を含め計54床で運用し，OGCS基幹病院，大阪北地区の産婦人科一次救急体制の中心である．新型コロナウイルス感染症が5類に認定されたことを受けて，MFICUは新型コロナウイルス感染症妊婦専用病床を廃止し，通常運用となった．通常の帝王切開は全てMFICU内に設置された産科専用手術室で行い，緊急時は病院到着後20分以内に児を出産可能である．外来は専門外来制とし，業務を効率化して午前3診，午後2診体制とした．病棟は，2チームによるチーム診療制を採用し，円滑な運営のみならず教育面でも効果を発揮している．

2023年のトピックス・実績

本年も大阪府内の緊急母体搬送の受入数は1位で，278件と昨年（286件）同様高いレベルを維持した．一方，近隣施設へのback transferは101件と昨年（86件）より大幅に増加し，引き続き周囲の医療施設から大きな信頼を勝ち得ている．スタッフの尽力により，緊急母体搬送の受け入れ不可はNICU満床の1例のみであった．

当科の顧問である川瀧元良先生（前県立神奈川こども医療センター部長）に，遠隔診断と毎月遠隔エコーカンファレンスでご指導いただき，産科超音波技師チームの胎児診断レベルが向上し，気管食道瘻の太いC型先天性食道閉鎖症や部分肺静脈還流異常症など，難度の高い疾患の出生前診断が可能となった．

遺伝部門の全面的な協力を得て，出生前診断（NIPT）認定医療機関（基幹施設）として活動し，NIPTを通じて自院のみならず地域医療に貢献している．

ここ数年，当院所属の専攻医が定期的に入職しており，離職者も少なく安定して診療スタッフが確保できつつあるが，千船病院所属の医師が1～2名，6か月交替で定期的に勤務いただけたことは，円滑な診療活動を支える大きな力となった．千船病院関係者のご尽力に，この紙面をお借りして，心より感謝を申し述べたい．

今後の展望

総合周産期母子医療センターにふさわしい出生前診断体制を発展させ，今後，出生前診断センターの確立を目指したい．また，新たに当院所属の専攻医への医師教育に更に力を注ぎ，働き方改革におけるA水準を維持できる人員確保を目指していきたい．

表．実績

（単位：件）

項目	件数
分娩件数（母の数，死産を含む）	945
帝王切開数（帝王切開率42%）	397
緊急帝王切開	185
腹膜外帝王切開	11
子宮底部横切開	4
妊娠子宮全摘数（産褥期を含む）	4
子宮頸管縫縮術数	62
緊急母体搬送数	323
Back transfer症例数	101
妊娠28週未満の早産	33
胎児異常	26
FGR	52
多胎	55
切迫早産（当院分娩例）	126
前置胎盤	14
常位胎盤早期剥離	2
妊娠高血圧症候群	86
糖尿病合併妊娠（妊娠糖尿病含む）	91

婦人科

スタッフ紹介

産科とは区別せず千船病院から後期研修医2名の応援を受けて13～14名で業務に当たった.

2023年の診療内容とトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症の影響が次第に薄れ，全体として例年を上回る婦人科症例数となった．高齢者の骨盤臓器脱症例は明らかに新型コロナウイルス感染症による受診控えにより減少していたが，増加に転じた.

①良性疾患含めた手術数はほぼ横ばい.

②悪性疾患，特に卵巣癌症例は増加した.

③産科母体搬送は例年通り多く，それに伴い婦人科症例も重症例や手術困難例が増加した．悪性腫瘍では高齢化と重症化により手術症例より放射線治療例が増加している．今後もこの傾向は続くと考えられる.

今後の展望・目標

腹腔鏡専門医取得が喫緊の課題である.

多くのスタッフが精度の高い手術手技を持つに至り，全体的にレベルアップした．研修医にも正確に伝承していくため，手術教育を引き続き重視していく.

骨盤臓器脱手術で培った技術を生かし，腟式手術を増やし，腹腔鏡手術とともに低侵襲手術を増加させることにより手術数増加を目指す.

婦人科腫瘍専門医（現在2名），細胞診専門医（3名），がん治療認定医（8名）取得を継続して努力する.

表1．良性疾患手術　（単位：件）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
腹式単純子宮全摘術	53	64	59	45	49	48
開腹子宮筋腫核出術	21	11	15	17	12	16
開腹良性卵巣腫瘍手術	26	17	20	26	33	27
開腹子宮外妊娠手術・卵管切除術	7	8	8	4	5	6
骨盤臓器脱手術	50	40	41	23	40	34
腹腔鏡手術	104	96	98	126	125	107
TCR	15	23	30	42	36	41
その他	6	6	7	5	10	15
計	282	265	278	288	310	294

表2．内視鏡手術　（単位：件）

		2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
腹腔鏡	卵巣腫瘍手術	64	41	49	85	83	68
	子宮筋腫核出術	2	1	0	0	0	0
	子宮外妊娠	15	15	15	13	16	13
	TLH	23	39	34	28	26	26
TCR		15	23	30	42	36	41

表3．悪性腫瘍関連手術　（単位：件）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
子宮腟部円錐切除(LEEP)	38	26	38	40	37	48
子宮頚がん手術	6	6	7	2	3	4
子宮体がん手術	16	18	13	16	14	21
卵巣がん手術	21	25	18	22	11	18
その他	2	1	2	4	4	1
計	83	76	78	84	69	92

表4．婦人科悪性腫瘍　（単位：件）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
子宮頚がん						
CIN3･AIS	43	25	35	40	36	44
Ⅰ期	7	3	7	2	2	5
Ⅱ	2	3	2	2	1	1
Ⅲ	1	4	2	0	2	2
Ⅳ	1	1	2	1	2	2
計	54	36	48	45	43	54
子宮体がん						
AEH	2	1	2	1	1	1
Ⅰ期	9	15	11	14	11	11
Ⅱ	2	2	1	1	2	1
Ⅲ	6	2	1	2	2	4
Ⅳ	2	0	0	1	1	2
計	21	20	15	19	17	19
卵巣がん						
Ⅰ期	6	13	11	12	6	11
Ⅱ	4	0	0	0	2	1
Ⅲ	7	9	7	8	2	7
Ⅳ	3	4	3	4	2	5
計	20	26	21	24	12	24

眼 科

スタッフ紹介

医　　師：清水一弘・宮本麻起子・
　　長嶋泰志（2023年12月退職）・富畑智子
ORT（視能訓練士）：長田・秋田・松原
検 査 員：山本
看 護 師：吉川・藤野・小柴・松原
小児外来：渡邊浩子
角膜外来：吉川大和

診療内容

一般外来：月～金曜日
小児外来：木曜日午後
検　　査：月～金曜日午後
手　　術：月曜日午前・火曜日午前・水曜日午後・木曜日午前

2023年のトピックス・実績

・神経眼科専門外来の立ち上げ

今後の展望

今期より神経眼科専門外来を立ち上げた．重症筋無力症・エタンブトール視神経炎に代表される薬剤障害や中毒など脳神経内科との協調が望まれ，眼科の中でも特に専門性の高い領域である．

来期は眼科手術件数の増加と小児眼科の充実を目標としている．手術では硝子体注射が3割ほど増加した．抗VEGFに代表される硝子体注射は糖尿病網膜症による黄斑浮腫や加齢黄斑変性，網膜静脈分子閉塞症による黄斑浮腫などに著しい効能があり，今後も増加が期待できる．更なる発展には高解像度の網膜断層撮影装置の導入が不可欠で，未熟児網膜症への適応拡大にも対応していきたい．

新型コロナウイルス感染症による影響も減少し，外来患者数は増加した．近隣のクリニックに眼科の特徴をアピールし，救急疾患も積極的に受け入れてきた結果と思われる．現在では手術室の時間割り振りを見直し，手術室稼働率の向上を目指している．新たな手術を新規導入するなどして，手術件数も順調に増加し，高齢化社会となり手術適応例はますます増加するものと期待できる．白内障手術用機器はセンチュリオン，手術用顕微鏡はサージカルガイダンス付きで，乱視矯正の精度も上がり，北摂地域では最も優れた機種で手術ができる環境が整っているため，高槻病院で行われている白内障手術が秀でた手術であることをアピールしていきたい．

多焦点眼内レンズも複数の種類を用意し，患者からの要望に応えている．2.2mmの極小切開や精度の高い乱視矯正は近隣の大学病院でも行われていない技術でLASIK眼や円錐角膜眼への眼内レンズ挿入も行っている．

新たな手術分野として眼形成を取り入れ，眼瞼下垂手術にも取り組んで成果が出ている．

近年，斜視や弱視など小児眼科を専門とする眼科医が減少する傾向にある．当院では未熟児網膜症や眼科小児奇形などにも対応できる小児眼科専門医が診療に当たっており，3名の国家資格を持った視能訓練士と共に診療の充実を図っている．

大学病院にも設置されていない機器が導入され，眼科地域医療をリードし，貢献できる眼科を目指している．

表．診療実績　（単位：件）

項目名		件数
外来総数	一般外来	12,693
検査総数	蛍光造影検査	37
	視野	919
	光干渉断層計	4,760
手術総数	白内障手術	651
	(再掲)ECCE	3
	(再掲)IOL縫着	0
	強膜内固定	0
	緑内障手術	0
	麦粒腫切開術	1
	霰粒腫切除術	5
	翼状片切除術	11
	腫瘍切除術	4
	斜視手術	0
	内反症手術	0
	眼瞼下垂	17
	硝子体切除術	149
	ケナコルトテノン嚢下注射	14
	硝子体注射	149
	YAGレーザー後嚢切開術	130
	部分・汎網膜光凝固術	102
	未熟児網膜症光凝固術	9

耳鼻いんこう科

スタッフ紹介

常 勤 医　星島秀昭
非常勤医　綾仁祐介
　　稲中優子

診療内容

昨年同様常勤医師1名と大阪医科薬科大学耳鼻咽喉科からの応援医師2名と共に外来診療を実施している．外来について，月曜日は原則初診患者のみの1診体制，火曜日と木曜日は非常勤医師と共に2診体制で外来及び入院患者の診療に当たっている，火曜日は綾仁医師，木曜日は稲中医師と大学中堅クラス以上のベテラン医師を交えての外来診療に当たっている．水曜日は手術日となっており，午後に関しては月曜日に外来手術若しくは検査，火・木・金曜日はエコーガイド下の細胞診検査，内視鏡下生検，声音と時間を要する特殊聴覚機能検査及び術後の処置などを行っている．入院については，昨年同様コントロール不良の高血圧や糖尿病など基礎疾患を有する突発性難聴並びに顔面神経麻痺症例や，扁桃炎や扁桃周囲膿瘍など，緊急に気道確保を要しない咽喉頭領域の急性上気道感染症患者の治療を行っており，悪性腫瘍や深頸部膿瘍及び喉頭蓋炎や喉頭浮腫，急性気道狭窄疾患などの外科的治療及び癌治療を必要とする疾患は，大阪医科薬科大学を含むより専門性の高い医療機関に治療をお願いしている．

2023年のトピックス・実績

昨年は新型コロナウイルス感染症の鎮静化とともに，受診の急激な増加がみられたものの，選定療養費徴収制度の普及も相まって外来患者数はほぼ安定傾向にある．また午後の外来検査や手術について，耳鼻科診療に関わる看護師を含む医療スタッフの人員不足により，予約日や時間設定などスケジュール上の制約を受ける影響が出てきている．今後さらに診療に悪影響を与えないよう注意を払っていく必要がある．

今後の展望

新型コロナウイルス感染症流行の再燃に注意した十分な感染予防対策を行った上で，大学病院と緊密な連携を取りつつ引き続き良質な医療を提供していく予定である．

放射線診断科

スタッフ紹介

主任部長　熊野正士（2023年2月～）
部　　長　清水雅史
部　　長　横川修作
医　　長　林　和宏
非常勤医師　7名
部　　長　髙橋　哲（イメージングリサーチセンター）

診療内容

血管造影・IVR，CT・MRIの件数と内訳はそれぞれ表の如くである．CTとMRIの検査件数は順調に増加している．血管造影・IVR件数も増加し，特にCTガイド下の膿瘍ドレナージを数多く実施した．

2023年のトピックス・実績

2022年10月から，レポーティングシステムの更新に伴い，注意喚起コメントを新設した．偶発的に見つかった病変に対し，検査依頼医や主治医との情報共有をより密にするためのものである．院内の報告書管理委員会において，注意喚起コメントの有効的な運用を実施していただいている．医療安全の観点から，より質の高い画像診断報告書作成のため，読影体制の強化を図っていく．

2023年からCTガイド下の膿瘍ドレナージの依頼が増え，年間で16件実施した．

今後の展望

CTは2021年に80列Primeを導入した．従来の320列Aquilion ONE，64列Aquilionと16列治療用CTの4台体制で，特に心臓CTの件数は増加している．

MRIはSiemens社製3TMRI Skyraと1.5TMRI Aeraの2台体制．今後，3台目の導入と既存2台のバージョンアップにより，現在生じている検査待ち時間の短縮と，より質の高い画像提供を目指している．

腹部血管造影は，CT-like imageを用いて高精度の塞栓術を施行している．

今後とも，病診連携を強化し，地域の画像センター，放射線治療センターとしての役割を務めていかなければならない．

表1．血管造影・内訳　（単位：件）

部位		IVR	合計
肝	肝癌	30(TAE)	30
	出血	2（止血）	2
膵	出血	2（止血）	2
消化管	出血	4（止血）	4
筋肉	出血	1（止血）	1
子宮	産褥出血	1（止血）	1
副腎サンプリング		2	2
総計		42	42

表2．CTガイド下IVR件数　（単位：件）

手技	合計
膿瘍ドレナージ	16
生検	2
総計	18

表3. CT検査件数

（単位：件）

	2023-01	2023-02	2023-03	2023-04	2023-05	2023-06	2023-07	2023-08	2023-09	2023-10	2023-11	2023-12	合計
脳	373	387	448	398	402	378	375	411	451	436	430	403	4,892
眼窩	1	1	2	1	2	1	1	4	1	1	2	0	17
副鼻腔	3	5	8	6	7	7	7	4	9	6	3	6	71
中・内耳	4	0	2	1	1	2	1	0	2	1	1	3	18
上中咽頭	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	4
頭部その他	5	2	7	4	5	3	6	4	4	5	2	8	55
頭部小児（外傷）	36	22	41	33	35	18	25	32	19	26	25	22	334
鼻-Ⅲ	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
耳-Ⅲ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
頭部小児	34	22	28	31	20	21	28	35	22	25	30	22	318
頭部CTA	1	4	12	6	6	2	4	3	4	9	7	6	64
頭部～頸部CTA	3	0	6	1	4	3	4	3	3	2	5	2	36
耳下腺・顎下腺	0	2	1	0	1	2	1	2	3	1	1	1	15
甲状腺	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3	7
頸部その他	3	1	2	4	5	3	1	1	2	3	4	5	34
下咽頭・喉頭	1	0	5	1	4	0	2	0	5	5	1	1	25
頸部小児	0	2	0	0	2	0	1	2	2	1	2	1	13
頸部CTA	1	4	1	1	0	2	0	0	1	1	0	1	12
胸部	244	219	280	282	282	291	306	303	315	336	356	332	3,546
肩	17	9	19	6	9	9	9	9	13	10	8	9	127
肩アルトロ後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
胸部その他	1	5	2	3	1	0	0	0	0	4	1	1	18
CT下肺生検	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
頸部上腹部	0	3	4	1	2	3	0	4	3	1	2	0	23
胸部上腹部	16	14	23	20	16	12	14	21	17	18	20	15	206
胸部小児	2	1	4	3	3	5	0	4	2	2	1	1	28
心臓	62	70	54	39	39	48	35	50	39	45	52	59	592
胸部CTA	0	1	0	1	1	0	0	3	0	0	0	0	6
心臓-大動脈	3	2	5	4	2	2	3	4	5	2	6	3	41
Ablation	30	18	29	26	38	45	17	22	29	27	31	27	339
Ablation+冠動脈	1	6	6	3	0	1	2	2	1	1	0	1	24
肺塞栓	1	0	1	1	0	3	0	0	0	0	1	0	7
肺塞栓+深部静脈血栓	0	1	2	3	4	5	6	4	2	7	5	14	53
肝臓～腎臓	14	13	37	16	18	20	15	21	25	25	17	18	239
肝臓～骨盤	277	274	293	322	301	318	304	318	349	375	329	319	3,779
肝臓	8	8	11	7	13	9	15	11	13	12	11	10	128
胆嚢	0	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	4
DIC-CT	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
膵臓	2	4	2	2	2	3	4	5	2	4	3	5	38
腎臓	3	4	2	2	1	2	2	1	0	2	2	1	22
腹部その他	0	2	1	3	1	4	4	1	4	2	2	2	26
腹部小児	2	3	2	2	3	1	1	1	3	2	2	2	24
腹部CTA	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
Colonography	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨盤部	11	6	12	9	12	7	7	8	3	9	8	13	105
骨盤オリーブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右股関節	8	1	6	7	6	4	3	8	3	3	5	2	56
左股関節	6	7	5	8	6	1	1	4	5	3	9	7	62
両股関節	51	48	51	61	70	34	51	40	34	41	41	53	575
骨盤部その他	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	1	4
股関節アルトロ後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨盤小児	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
骨盤CTA	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	3
右上腕部	3	0	1	2	3	0	3	2	3	0	1	3	21
左上腕部	1	1	3	5	5	3	1	1	0	0	3	0	23
両上腕部	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
右肘関節	3	3	2	5	3	2	1	1	1	2	0	2	25
左肘関節	3	1	2	6	5	8	3	3	3	5	6	3	48
両肘関節	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
右前腕部	1	0	0	1	1	0	1	0	0	3	1	0	8
左前腕部	1	0	0	0	1	0	1	1	4	2	2	0	12
両前腕部	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
右手関節	6	5	3	3	5	7	7	6	4	3	4	6	59
左手関節	8	7	6	4	1	3	5	7	4	5	5	4	59
両手関節	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	3
右手部	1	2	2	1	0	1	1	1	0	2	4	1	16
左手部	1	2	0	1	2	3	0	1	2	1	1	2	16
両手部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
右上肢アルトロ後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左上肢アルトロ後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
両上肢アルトロ後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右上肢小児	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
左上肢小児	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
両上肢小児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右上肢CTA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左上肢CTA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
両上肢CTA	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
右大腿部	2	3	4	1	1	4	5	0	0	1	1	6	28
左大腿部	2	0	0	0	2	0	0	1	2	5	2	0	14
両大腿部	0	0	0	0	0	2	0	1	0	1	0	1	5
右膝部	6	3	8	1	3	1	4	3	2	8	2	7	48
左膝部	7	6	6	4	6	4	8	6	7	1	1	2	58
両膝部	33	19	31	30	19	29	32	19	41	35	29	40	357

	2023-01	2023-02	2023-03	2023-04	2023-05	2023-06	2023-07	2023-08	2023-09	2023-10	2023-11	2023-12	合計
右下腿部	3	1	0	2	1	1	1	2	1	1	2	0	15
左下腿部	1	2	3	0	2	0	5	3	2	3	1	3	25
両下腿部	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	3
右足関節	6	2	2	3	1	2	3	2	2	0	1	3	27
左足関節	2	3	3	2	5	1	3	1	5	6	4	3	38
両足関節	0	2	1	2	0	0	0	0	1	0	0	1	7
右足部	2	2	2	0	3	2	1	1	1	3	0	5	22
左足部	1	0	0	0	0	3	0	4	4	3	0	6	21
両足部	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	2	1	7
右下肢アルトロ後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左下肢アルトロ後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
両下肢アルトロ後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右下肢小児	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
左下肢小児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
両下肢小児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右下肢CTA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
左下肢CTA	1	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1	1	6
両下肢CTA	7	9	15	13	13	19	15	17	13	8	6	11	146
右下肢（骨盤～下腿）	2	0	0	2	2	1	2	2	1	3	1	0	16
左下肢（骨盤～下腿）	2	2	3	2	1	3	1	1	1	2	4	5	27
両下肢（骨盤～下腿）	28	32	37	29	33	39	27	33	24	39	34	42	397
頚椎	4	7	8	7	9	7	12	10	10	14	10	12	110
胸椎	2	3	4	2	5	1	1	4	3	2	1	3	31
腰椎	32	32	48	29	29	45	40	37	34	41	28	26	421
仙椎	0	1	1	0	0	0	1	1	0	1	0	0	5
脊椎小児	0	0	1	0	0	0	0	2	1	0	0	0	4
胸部～骨盤	520	510	591	562	581	604	608	537	607	586	577	632	6,915
大動脈（胸部～骨盤）	65	84	110	101	94	95	82	74	83	93	86	93	1,060
大動脈（骨盤～下腿）	4	2	8	2	6	6	2	1	5	6	5	6	53
頚部～骨盤	62	63	76	72	78	59	83	45	79	83	63	54	817
広範囲小児	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
広範囲CTA	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
静脈（骨盤～下腿）	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
広範囲 肺塞栓	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
広範囲 肺塞栓+深部静脈血栓	7	11	7	5	10	9	9	7	4	7	7	7	90
下肢急性閉塞（胸部～下肢）	1	2	1	0	0	1	0	0	1	1	0	1	8
心臓血管外科	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
合計	2,056	1,999	2,408	2,220	2,263	2,237	2,232	2,183	2,357	2,435	2,324	2,374	27,088

表4. MRI検査件数

（単位：件）

	2023-01	2023-02	2023-03	2023-04	2023-05	2023-06	2023-07	2023-08	2023-09	2023-10	2023-11	2023-12	合計
脳＋脳MRA	253	276	283	285	266	323	311	291	276	320	284	277	3,445
下垂体	4	8	11	6	8	13	12	13	11	10	14	15	125
小脳橋角部	4	3	2	0	2	0	1	1	1	1	0	1	16
上中咽頭	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
副鼻腔	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右眼窩	0	2	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	5
左眼窩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
顎関節	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
舌・唾液腺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
頭部MRA	0	1	0	0	0	0	2	0	0	1	1	0	5
脳・眼窩	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
頭部その他	2	0	2	0	1	0	0	2	0	0	2	0	9
脳ドック	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
脳	41	48	57	52	49	37	64	69	52	63	61	58	651
脳・小脳橋角部	2	1	2	1	2	1	2	3	4	1	3	1	23
脳・2方向	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内耳	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	2	0	6
脳幹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳下腺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
海馬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳梗塞急性期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児脳	36	36	45	35	44	41	44	51	51	46	41	37	507
ドック	16	15	14	12	11	19	15	9	20	15	14	24	184
脳VSRAD	11	17	21	15	18	16	13	17	16	15	14	13	186
脳＋脳MRA（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
頭部MRA（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳ドック（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ドック（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児脳（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
下垂体（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳幹（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児脳+脊椎（鎮静下）	2	0	5	0	2	2	1	4	2	1	1	3	23
新生児脳（NICU・GCU）	9	4	12	7	9	8	13	15	12	9	10	14	122
甲状腺・副甲状腺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
下咽頭・喉頭	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
頚部その他	0	0	1	4	2	4	1	2	3	2	3	0	22
頚部MRA	2	5	3	1	1	0	2	1	1	4	1	1	22
小児頚部	2	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1	2	8
頚部MRA(モバイル)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
肺	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2

	2023-01	2023-02	2023-03	2023-04	2023-05	2023-06	2023-07	2023-08	2023-09	2023-10	2023-11	2023-12	合計
縦隔	4	2	4	1	2	2	1	5	2	1	2	1	27
右乳房	2	1	4	2	1	6	2	5	5	6	0	4	38
左乳房	3	2	0	3	0	3	0	0	2	1	2	2	18
胸部MRA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
胸部その他	2	1	3	2	2	1	0	0	2	2	2	3	20
AORTA・胸部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児胸部	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3
CORONARY	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心筋	2	6	6	2	5	0	3	6	8	4	5	7	54
肝臓	0	2	3	2	4	3	4	5	5	0	1	3	32
胆嚢	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	1	0	5
膵臓	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4
腎臓	5	1	2	0	0	5	2	2	2	2	0	3	24
副腎	2	1	1	1	0	1	4	2	0	4	3	1	20
MRUrography	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	4
腹部MRA	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
腹部その他	0	0	3	0	2	0	2	0	0	0	1	0	8
小児腹部	0	0	3	0	0	1	1	2	0	0	1	1	9
MRCP	52	58	93	83	83	91	74	77	90	94	81	83	959
肝SPIO	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
AORTA・腹部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上腹部	2	2	2	6	2	3	3	2	2	4	5	3	36
肝EOB	2	9	10	5	4	7	7	11	9	7	7	7	85
子宮卵巣部	54	51	59	52	57	62	53	59	44	54	68	67	680
膀胱部	1	3	4	6	0	5	2	4	1	4	2	7	39
前立腺	32	25	26	33	28	25	32	32	28	35	34	41	371
骨盤部MRA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨盤部その他	5	7	5	5	4	9	6	3	2	2	3	4	55
小児骨盤部	0	1	1	0	1	1	2	1	0	0	0	3	10
骨盤部・CE-MRA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
頚椎	43	34	39	40	30	37	32	38	47	42	36	49	467
胸椎	1	4	4	7	9	5	1	5	4	6	4	6	56
胸腰椎移行部	7	7	9	5	1	7	2	3	3	7	3	4	58
腰椎	108	89	127	111	129	142	119	133	118	118	104	103	1,401
仙椎	2	3	3	2	2	2	1	7	2	4	1	1	30
脊椎その他	1	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	5
全脊椎	6	9	9	6	4	4	5	7	7	4	7	12	80
脊椎・ミエロ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
頚椎（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腰椎（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児脊椎	15	16	8	7	12	11	13	9	10	9	13	9	132
右肩関節	7	13	10	5	12	5	4	8	5	8	10	4	91
左肩関節	7	4	7	6	9	6	6	13	7	5	2	7	79
右肘関節	1	1	0	2	0	2	1	2	2	2	1	1	15
左肘関節	1	0	2	0	1	1	3	1	1	1	0	0	11
右手関節	2	3	1	1	1	2	1	2	1	3	0	1	18
左手関節	1	0	1	2	2	2	1	2	1	1	5	2	20
右上腕部	2	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	6
左上腕部	0	1	2	0	1	0	0	1	1	0	1	1	8
右前腕部	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3
左前腕部	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
右手部	0	2	1	2	0	4	0	0	4	0	1	0	14
左手部	1	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	1	6
上肢・CE-MRA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右上肢その他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
左上肢その他	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
右小児上肢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左小児上肢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右大腿部	2	0	1	0	0	1	1	2	0	0	0	0	7
左大腿部	0	1	1	0	1	0	3	0	2	0	3	1	12
右下腿部	2	1	1	0	4	0	0	0	1	0	1	0	10
左下腿部	1	0	1	0	2	0	0	1	0	2	2	1	10
右足部	1	2	0	0	1	1	1	1	1	0	1	3	12
左足部	1	1	2	1	1	2	2	3	0	5	2	7	27
右股関節	8	6	7	6	14	6	6	8	8	14	8	6	97
左股関節	4	4	3	4	4	1	3	8	2	5	4	7	49
右膝関節	45	38	51	33	39	37	46	39	30	39	49	33	479
左膝関節	30	34	40	32	36	44	53	43	38	43	46	30	469
右足関節	0	0	2	1	2	0	1	2	3	1	2	0	14
左足関節	0	0	2	1	2	2	1	2	1	3	1	1	16
下肢・MRA	2	1	1	0	3	0	0	2	1	0	0	1	11
右下肢その他	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
左下肢その他	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
右膝関節（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左膝関節（モバイル）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右小児下肢	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2
左小児下肢	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
大動脈	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
胸部大動脈	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腹部大動脈	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全下肢動脈	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	857	871	1,032	900	937	1,016	994	1,041	957	1,037	978	978	11,598

放射線治療科

スタッフ紹介

放射線治療医：常勤　2名
　　非常勤　2名
放射線治療技師：9名
　うち，放射線治療専門放射線技師　2名
　うち，放射線治療品質管理士　3名
　うち，医学物理師　1名
看護師：4名
　うち，専従　1名

診療内容

放射線治療の主な疾患
　乳がん，肺がん，前立腺がん，脳転移，骨転移など

2023年のトピックス・実績

2023年の実績は表を参照されたい．

新しい放射線治療計画装置レイステーションが2022年3月に導入された．この装置により，正常組織への線量を低減することができ，より安全な治療計画が可能となった．また前立腺がんに対する放射線治療で用いることが多い強度変調回転照射（VMAT）の治療計画が容易となった．

今後の展望

レイステーションの導入によりIMRTの治療計画が容易となり，IMRT治療の主な対象であった前立腺がん以外にも，脳腫瘍，肺がんなどにもその適応を広げていきたい．

表．治療内訳　（単位：名・件）

件数	2021年	2022年	2023年
新患者数	186	155	185
放射線治療部位数	242	186	239
総照射件数	4,651	3,576	4,330

新患原発部位別患者数			（単位：名）
脳・脊髄	3	4	5
頭頸部	0	1	0
肺・気管・縦隔	54	50	58
食道	2	5	6
胃・十二指腸・小腸	1	2	2
大腸・直腸・肛門	4	2	1
肝・胆・膵	0	2	2
乳腺	82	55	79
泌尿器（含　前立腺）	25	23	19
子宮	13	7	6
その他女性生殖器	0	0	1
骨・軟部腫瘍	0	1	2
悪性リンパ腫	2	3	2
その他造血器	0	0	0
原発不明癌	0	0	1
良性疾患	0	0	0
小児	0	0	0
その他	0	0	1
計	186	155	185

麻酔科

スタッフ紹介

主任部長　西田隆也
部　　長　中島正順
医　　長　棚田和子
医　　長　丸山祐子
医　　員　井川大輝

部　　長　土居ゆみ
（小児周術期センター　センター長）

診療内容

手術室及び手術室外で全身麻酔管理症例を担当．それ以外に，リスクの高い患者の区域麻酔，局所麻酔管理を担当した．麻酔科術前外来を，水曜日，木曜日の午前，及び金曜日の午後に行った．

外科診療看護師（Nurse Practitioner: NP）の立ち上げとして，集中治療科の協力の下で，非定期的に月曜日及び金曜日に前川，信川麻酔看護師を派遣した．

従来の麻酔科から独立して2020年度より小児周術期センターを発足した．より小児の周術期に特化した医療及び環境を提供している．

2023年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症の影響が軽微となった年であり，手術症例は新型コロナウイルス感染症発生以前までに回復し，その間も順調に全身麻酔症例数は増加した．急性期充実体制加算に伴う全身麻酔での緊急手術症例は，年間400例超となっている．

人事としては，4月に上田診療看護師が麻酔科研修目的で入職となった．また，同月に信川麻酔看護師がNPの資格を取得するため，森ノ宮医療大学大学院進学となった．

今後の展望

2023年12月，井川医師が兵庫医科大学集中治療部入職に伴い高槻病院を退職した．また2024年1月に丸山医師が高槻病院を退職する．同月より，三宅医師が心臓血管麻酔主任部長として明石医療センターから高槻病院に異動となる．棚田医師の心臓血管麻酔専門医取得にあたり，心臓血管麻酔認定施設の再申請を進めていく．

2024年4月，上田診療看護師が退職する．

2024年4月，前川麻酔看護師がNPを取得予定のため，以降の集中治療部との連携を定期的とし，外科系NPの立ち上げ及び働き方改革に伴うタスクシフトを積極的にすすめていく．

2024年度中に，無痛分娩の開始を目標として，産科医師及び関係者との協力の下で進めていく．

また，引き続き，心臓血管麻酔専門医や集中治療医などの育成に尽力し，コメディカルの育成，地域連携に協力する．

リハビリテーション科

スタッフ紹介

欅　　篤

1979年　名古屋大学医学部卒
1986年　京都大学医学部大学院卒
京都大学医学博士
リハビリテーションセンター長
リハビリテーション科　主任部長
リハビリテーション科専門医・指導医・認定臨床医
脳神経外科専門医
認知症学会専門医・指導医
認知症サポート医
摂食嚥下リハビリテーション認定士
心臓リハビリテーション指導士
呼吸ケアリハビリテーション指導士
サルコペニア・フレイル学会　指導士
日本医師会認定　産業医
日本脳神経外科学会近畿地方会　評議員
日本認知症学会　代議員
日本脳神経外科認知症学会　理事・総務委員長
関西脳神経外科認知症研究会　副代表世話人
認知症イメージング研究会　世話人

診療内容

あらゆる急性期疾患に対応するリハビリテーション医療を行うべく，隣接する愛仁会リハビリテーション病院の回復期病棟，障害児（者）病棟，在宅部門と密接な連携を取り，新生児から高齢者まで，急性期から生活期まで連続したリハビリテーションを行う最初の窓口として機能できるように努めている．

脳卒中をはじめとする脳神経疾患等のリハビリテーション，整形外科の人工関節や脊椎・脊髄疾患にはクリニカルパスを運用した運動器リハビリテーションを，また循環器内科や心臓血管外科，呼吸器外科・内科とも連携し心大血管疾患，呼吸器リハビリテーションを行っている．また2012年秋から“がん患者リハビリテーション料”も算定実施できるようになった．大阪府のがん診療連携拠点病院として，がん患者に外科手術前後のみでなく，化学療法や放射線治療中も機能障害，能力低下を来すことなく治療が受けられるようにリハビリテーション医療を提供している．

活動内容

激増する高齢者の誤嚥性肺炎の原因となる嚥下機能障害に積極的に取り組み，入院直後の絶食期間中から鼻咽喉頭ファイバーによりベッドサイドで言語聴覚士や管理栄養士，看護師と嚥下機能の初期評価を行い，栄養提供方法を検討し間接あるいは直接嚥下機能訓練を開始している．頚部嚥下関連筋である舌骨上筋への電気刺激装置も導入され積極的に使用している．認知症に対してはリハビリテーションの視点から“認知症予防・初期もの忘れ外来”として特色のある診療を行っている．リハビリテーション科医師が診察を行い，リハビリテーション専門職（理学療法士，作業療法士，言語聴覚士）が神経心理検査のみでなく基本運動能力に加え体組成評価や口腔嚥下機能評価も同時に行う．これは認知症が高齢者の抱えるフレイル，ロコモ，サルコペニアといった運動器障害や誤嚥性肺炎の原因となる摂食嚥下機能障害と密接に関連していることにある．運動機能や摂食嚥下機能が低下すると認知症は確実に進行する．また認知症の進行に伴い運動機能が低下し転倒の危険性が高まり，嚥下機能の低下により誤嚥性肺炎を併発しやすくなるといった負のサイクルに陥る．それぞれの障害を早期に発見し訓練・指導を行うことにより，国民病となっている認知症の発症並びに進行抑制に寄与したいと考えている．

摂食嚥下支援チームを結成し，言語聴覚士，作業療法士，理学療法士などリハビリテーション専門職のみでなく看護師や管理栄養士，薬剤師も加わり，ベッドサイドでの嚥下内視鏡検査を行い，読影カンファレンスも行っている．

2023年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症も5月には5類に移行し，感染者数も落ち着き以前の診療体制に戻った感がある．女性スタッフが多いため，常に1－2名の産休，育休スタッフがいるため実働スタッフ数は定員以下の状況が続いている．

実績は表1～3を参照．

今後の展望

十分なリハビリテーション実施単位数を提供すると同時に，質の高いリハビリテーション医療を提供していきたい．

表1．理学療法処方件数

（単位：件）

	処方件数	%		処方件数	%
整形外科	893	15.4%	耳鼻咽喉科	0	0.0%
脳神経外科	392	6.8%	皮膚科	12	0.2%
小児外科	8	0.1%	産婦人科	287	5.0%
消化器・一般外科	186	3.2%	泌尿器科	92	1.6%
心臓血管外科	138	2.4%	神経科	0	0.0%
呼吸器外科	101	1.7%	放射線治療科	0	0.0%
糖尿病内分泌代謝内科	41	0.7%	形成外科	27	0.5%
呼吸器内科	481	8.3%	リハビリテーション科	0	0.0%
消化器内科	683	11.8%	小児脳神経外科	212	3.7%
循環器内科	557	9.6%	眼科	0	0.0%
腎臓内科	27	0.5%	腎移植科	2	0.0%
脳神経内科	158	2.7%	乳腺外科	9	0.2%
血液内科	41	0.7%	不整脈内科	29	0.5%
小児科	304	5.3%	総合内科	981	17.0%
新生児科	110	1.9%	救急センター	16	0.3%
			合計	5,787	100.0%

表2．作業療法処方件数

（単位：件）

	処方件数	%		処方件数	%
整形外科	173	8.7%	耳鼻咽喉科	0	0.0%
脳神経外科	335	16.8%	皮膚科	2	0.1%
小児外科	3	0.2%	産婦人科	5	0.3%
消化器・一般外科	20	1.0%	泌尿器科	14	0.7%
心臓血管外科	42	2.1%	神経科	1	0.1%
呼吸器外科	5	0.3%	放射線治療科	0	0.0%
糖尿病内分泌代謝内科	35	1.8%	形成外科	13	0.7%
呼吸器内科	208	10.4%	リハビリテーション科	0	0.0%
消化器内科	186	9.3%	小児脳神経外科	3	0.2%
循環器内科	213	10.7%	眼科	0	0.0%
腎臓内科	8	0.4%	腎移植科	0	0.0%
脳神経内科	122	6.1%	乳腺外科	2	0.1%
血液内科	1	0.1%	不整脈内科	5	0.3%
小児科	6	0.3%	総合内科	594	29.7%
新生児科	0	0.0%	救急センター	3	0.2%
			合計	1,999	100.0%

表3．言語療法処方件数

（単位：件）

	処方件数	%		処方件数	%
整形外科	10	0.5%	耳鼻咽喉科	0	0.0%
脳神経外科	304	14.5%	皮膚科	1	0.0%
小児外科	10	0.5%	産婦人科	1	0.0%
消化器・一般外科	26	1.2%	泌尿器科	14	0.7%
心臓血管外科	31	1.5%	神経科	1	0.0%
呼吸器外科	4	0.2%	放射線治療科	0	0.0%
糖尿病内分泌代謝内科	10	0.5%	形成外科	3	0.1%
呼吸器内科	168	8.0%	リハビリテーション科	0	0.0%
消化器内科	182	8.7%	小児脳神経外科	59	2.8%
循環器内科	138	6.6%	眼科	0	0.0%
腎臓内科	8	0.4%	腎移植科	0	0.0%
脳神経内科	141	6.7%	乳腺外科	2	0.1%
血液内科	2	0.1%	不整脈内科	3	0.1%
小児科	41	2.0%	総合内科	916	43.6%
新生児科	13	0.6%	救急センター	11	0.5%
			合計	2,099	100.0%

遺伝診療センター

スタッフ紹介

下記5名の臨床遺伝専門医，1名の遺伝看護専門看護師にて活動を行っている．

四本由郁（センター長）
：臨床遺伝専門医・指導医，小児科専門医，周産期（新生児）専門医

玉置知子（副センター長）
：臨床遺伝専門医・指導医（責任指導医），兵庫医科大学名誉教授

原田敦子　：臨床遺伝専門医，脳神経外科専門医，小児神経外科学会認定医

長坂美和子：臨床遺伝専門医，小児科専門医，周産期（新生児）専門医

下山京子　：臨床遺伝専門医，外科専門医，乳腺専門医

西村　望　：遺伝看護専門看護師，助産師

診療内容

・遺伝カウンセリング外来の開設
　週2回，水・木曜日午前・午後
・各種遺伝学的検査の実施
　保険・非保険診療の検査対応，研究機関での遺伝子・ゲノム解析に係る対応
・院内・外からの遺伝医療に関する相談
・遺伝カウンセリングの対象となる疾患領域
　小児領域：染色体疾患，先天異常症候群，てんかん，筋ジストロフィー　など
　周産期領域：NIPTを含む出生前診断，次子についての相談，不妊・習慣流産（染色体転座）など
　腫瘍領域：遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）・リンチ症候群などの遺伝性腫瘍，がんゲノム医療に係る相談
　成人領域：脊髄小脳変性症，ミトコンドリア病，遺伝性不整脈，マルファン症候群　など

2023年のトピックス・実績

・遺伝子・ゲノム解析に関連した施設認定
　日本人類遺伝学会　臨床遺伝専門医制度研修施設
　出生前検査認証制度等運営委員会　認証医療機関基幹施設
　日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構（JOHBOC）遺伝性乳癌卵巣癌総合診療協力施設
・2023年の遺伝カウンセリング・遺伝学的検査対応件数

表1．遺伝カウンセリング領域別外来患者数　（単位：名）

	患者数
小児	74
周産期	312
腫瘍	112
成人	70
合計	568

表2．遺伝学的検査実施件数　（単位：件）

	件数
染色体（保険適応）	83
染色体（自費）	4
遺伝子（保険適応）	66
遺伝子（自費）	175
合計	328

今後の展望

それぞれ各診療科からのコンサルテーションに対応し，保険・自費・研究にて遺伝子・ゲノムの解析，診断を行う．

各診療科と連携し，適切な遺伝医療の実践に繋げる．患者・クライエントの遺伝カウンセリングを行う．

Ⅳ

愛仁会リハビリテーション病院

回復期リハビリテーション病棟
障がい者病棟
全269床（うち障がい者54床）

〒569-1116
大阪府高槻市白梅町5番7号
TEL.072-683-1212

院長　吉田和也（～2023年3月）
　　越智文雄（2023年4月～）

診療部総括

スタッフ紹介

リハビリテーション科は，全てのスタッフが何らかの専門医を保持しており，日本リハビリ医学会専門医を12名，同医学会指導医を3名擁している．吉田和也（日本整形外科学会専門医，院長　～2023年3月31日），越智文雄（日本リハビリ医学会専門医，院長　2023年4月1日～），清水洋志（日本循環器学会循環器専門医，副院長），福田和浩（日本神経学会神経内科専門医，副院長），礒島さおり（日本内科学会総合内科専門医，副院長　～2023年3月31日），兒島正裕（日本脳神経外科学会専門医），磯山浩孝（日本リハビリ医学会専門医），李 容桂（日本小児科学会専門医），清水富男（日本整形外科学会専門医），湯川弘之（日本脳神経外科学会専門医），中島敦史（日本神経学会神経内科専門医），和田佳子（日本小児科学会専門医），加東 定（日本整形外科学会専門医　2023年10月1日～），宇都山欣也（日本リハビリ医学会専門医　2023年6月16日～），寺田明佳（日本小児科学会専門医），松岡美保子（日本リハビリ医学会専門医），藤井優子（日本リハビリ医学会専門医），中川亨（日本脳神経外科学会専門医　2023年12月1日～），水野佐枝（日本内科学会総合内科専門医），及び北垣次郎太（日本歯科保存学会専門医，歯科医師　2023年4月1日より常勤）で診療活動を行った．（資格は代表1つのみ提示，リハビリはリハビリテーションの略）．

診療内容

回復期リハビリ5病棟215床，障がい者病棟1病棟54床（重症心身障がい児病床を含む）にて入院診療を行った．回復期リハビリ5病棟は，回復期リハビリ病棟 入院基本料1と病棟専従医による体制強化加算を堅持した．外来診療は通院リハビリテーションに加え，専門外来として脊損外来，装具外来，痙縮治療外来，心大血管疾患リハビリテーション外来（心リハ外来），骨粗鬆症外来，摂食嚥下外来，書類外来を展開し，さらに当法人で唯一の歯科では，大阪府後期高齢者歯科健診，高槻市歯科検診（歯っぴー健診）を継続して，入院患者の口腔衛生・機能向上に寄与する診療を進めた．チーム医療の一環としては，栄養サポートチーム（NST），褥瘡対策，認知症ケア，脊髄損傷，排尿自立支援，整形外科，摂食機能療法，高次脳機能ワーキングの各専門チームによる回診を継続した．また引き続き三島圏域地域リハビリ地域支援センターや大阪府重度心身障がい児地域生活支援センターの責務も担っており，日本リハビリ医学会の研修施設として専門医の養成にも携わっている．

2023年のトピックス・実績

新型コロナウイルス感染症による影響は落ち着きつつあり，1年間の退院患者数は1,880名（月平均156.6名）と前期と大きな変わりはなかった．平均在院期間は51.9日（2022年は50.6日）と前期よりわずかに延長している（表1）．主病名のICD-10による疾患大分類では，脳血管疾患を含む循環器疾患が23.1%（前期25.4%），大腿骨頚部骨折など骨折患者を含む損傷・中毒外因疾患が34.2%（前期36.0%）と，当院の二大起因疾患の患者はいずれも減少していた（表2）．紹介元では，高槻病院は28.4%（前期31.1%）と大きく紹介数が減少したのに対して，高槻市内の他医療機関は43.3%（前期41.3%），大阪府下（高槻市外）の医療機関が23.4%（前年23.0%），大阪府外の医療機関が4.9%（前期4.6%）と，受け入れる医療圏の拡大が認められた．退院後の転帰は自宅退院が80.3%，手術目的や病状悪化による急性期病院への転院は7.3%であった（表3）．診療報酬から計算した居宅等復帰率は90.4%（前期92.7%）と若干前期より低い比率となった（表4）．学会活動としては，筆頭演者として日本リハビリ医学会学術総会などに10演題の発表を行い，2件の座長を務めた．また2編の論文の投稿と1編の著書発表を行っている．

今後の展望

新型コロナウイルス感染症が5月に感染症法の第5類となって以降，落ち着きつつありながらも病棟内での散発的発生がみられ，病床稼働率が低下する結果となった．入院相談件数は前期以上の件数があり，障がい者病棟でも前期並みの稼働率を確保したものの，期待した実績を下回ることとなった．次期には医療・介護の診療報酬同時改定があり，できるだけ早い入院可否判定や，障がい者病棟での長期入院患者数の増加と稼働率の上昇を図るとともに，栄養管理・口腔管理の充実，地域における嚥下障害評価・治療のハブ的役割を果たし，リハビリテーションにおける医療介護の連携推進など，診療部が率先して医療の質を向上させるよう努めていく．また新たな事業として，NASVA重度脊髄損傷者受入環境整備事業

や，大阪府の高次脳機能障がい者自動車運転評価モデル事業，及び高次脳機能障害に関する地域別実践研修に主導的に参画して，地域におけるリハビリテーションのリーディングホスピタルとしての地位を確固たるものとして，病院のブランド力を更に高めていく．加えて新たな事業として5月から始まった，公的保険外リハビリテーションを行う「アールリハビリステーション」への協力・関連を強化していく．

表1．診療科別･在院期間 退院患者数

診療科	退院患者(名)	平均在院(日)
リハビリテーション科（回復期）	1,169	64.4
リハビリテーション科（障がい成人）	337	42.7
リハビリテーション科（小児）	306	16
リハビリテーション科（その他）	68	45.8
計	1,880	51.9

表2．疾患大分類（ICD-10）別･診療科別 退院患者数

（単位：名）

	回復期	障がい	小児	その他	総計
Ⅰ 感染症及び寄生虫症	6	0	0	0	6
Ⅱ 新生物	9	0	0	0	9
Ⅲ 血液造血器疾患及び免疫疾患	1	0	0	0	1
Ⅳ 内分泌栄養代謝疾患	1	4	5	1	11
Ⅴ 精神及び行動疾患	0	0	8	0	8
Ⅵ 神経系疾患	22	116	176	1	315
Ⅶ 眼及び附属器疾患	0	0	2	0	2
Ⅷ 耳及び乳様突起疾患	0	0	0	0	0
Ⅸ 循環器疾患	349	64	0	21	434
Ⅹ 呼吸器疾患	3	0	0	0	3
ⅩⅠ 消化器疾患	1	0	0	0	1
ⅩⅡ 皮膚皮下組織疾患	0	0	0	1	1
ⅩⅢ 筋骨格結合織疾患	136	6	0	20	162
ⅩⅣ 泌尿生殖器疾患	0	0	0	0	0
ⅩⅤ 妊娠分娩産褥期疾患	0	0	0	0	0
ⅩⅥ 周産期疾患	0	2	3	0	5
ⅩⅦ 先天奇形･染色体異常	5	26	100	0	131
ⅩⅧ 症状･徴候・検査異常	0	16	1	0	17
ⅩⅨ 損傷・中毒外因性疾患	514	95	11	23	643
ⅩⅩ 健康状態の影響要因	120	4	0	0	124
ⅩⅩⅡ その他の特殊目的用コード	2	4	0	1	7
計	1,169	337	306	68	1,880

表3．紹介元医療機関・退院時の転帰

紹介元医療機関	紹介数	
高槻病院	539名	28.4%
高槻市内	821名	43.3%
大阪府下（高槻市外）	444名	23.4%
大阪府外	92名	4.9%
当院外来	0名	0.0%
計	1,896名	100.0%

転帰先	退院数	
自宅退院	1,510名	80.3%
転院	137名	7.3%
うち　高槻病院	62名	3.3%
転所	230名	12.2%
うち　老健施設	86名	4.6%
死亡退院	3名	0.2%

表4．在宅復帰率

①対象退院患者数		1,178名
	1．居宅	828名
	2．介護老人福祉施設	39名
	3．介護老人保健施設	81名
	4．他の回復期リハ病棟	0名
	5．4を除く病院，有床診療所	19名
	転棟	9名
	高槻病院	47名
	その他	44名
	6．その他(有料老人ホーム等)	79名
	7．再入院	32名
②	上記①のうち，退院先が居宅等であった	946名
③	居宅等復帰率　100×②/①	90.4%

V

愛仁会しんあいクリニック

〒569-1123
大阪府高槻市芥川町2丁目3番5号
TEL.072-681-5533

院長　家永徹也

診療部総括

スタッフ紹介

常勤医師
外　　科：家永徹也（1981年卒・院長）
整形外科：辻　充男（1980年卒・部長）
内　　科：前納一三（1979年卒・部長）

診療内容

地域の人々の生活に密着した「身近なかかりつけ医」として，「患者さま本位の心安らぐ医療の提供」を理念に，患者さんの生活やご家族の思いに寄り添った外来診療（内科・外科・整形外科・リハビリテーション科），各種健診や予防接種，訪問診療を行っている．

2023年のトピックス・実績

当院では開設時より，「かかりつけ医としての機能強化」と「訪問診療の拡充」を目標に掲げ，経営改善に取り組んでいる．

「かかりつけ医としての機能強化」では，患者が住み慣れた地域で安心して健康に過ごしていただくための取り組みとして，地域包括診療を継続して行った．新規患者獲得のため，外来患者から対象患者を選定し声掛けを行ったが，受診者の逝去などもあり，患者数は前年同程度の21名となった．かかりつけ患者は高齢の方が多いため，看護師による患者支援を行っている．高齢者の在宅生活が安全に継続できるよう，訪問診療への移行やケアマネジャーとの連携により，地域で患者を支援する地域包括ケアシステムのかかりつけ医としての役割を担った．

「訪問診療の拡充」では医師3名，診療看護師1名，看護師2名の体制で業務を行った．前年と比較して医師1名が減員となったが，グループホーム高槻あいわが開設し訪問診療として新規受入したこともあり，その結果，訪問診療件数1,169件，新規患者数43件となった．オーバーエイジの小児在宅患者の診療について高槻病院医師の協力を仰ぎ，看護部においても業務内容を改善し，当該受入体制の見直しを行い，受入体制の強化を行うなどの対策を行った．また，施設広報誌である「しんあい便り」を居宅介護支援事業所に継続して郵送し，当院の訪問診療について広報した結果，ケアマネジャーから訪問診療について定数の問い合わせがあり，訪問診療の利用件数の増加につながった．その他，高槻市居宅介護支援部会主催研修会に当院の訪問診療担当医が講師として参加し，近隣ケアマネジャーとの連携強化を図り，当院の訪問診療や担当医の広報を行った．

その他の活動として，新型コロナウイルス感染症ワクチンやインフルエンザワクチンを中心に2,481件の予防接種の実施，新型コロナウイルス感染症の診療について，大阪府と医療措置協定を締結し，かかりつけ患者だけでなく，一般外来の発熱患者に対しても診療・検査を拡大した．

以上の取り組みにより，外来医療収入は286,587,931円となり，月平均23,882千円（前年23,254千円）となった．また，2023年度の予算対比では償却前経常利益が379.8％となり，予算を大きく上回る結果となった．

今後の展望

次年は，コロナ禍に行ったオンライン診療の拡充に取り組んでいく．小児アレルギー患者や働き世代の睡眠時無呼吸症候群患者等はオンライン診療でのメリットをアピールし，高齢者には地域包括診療やNP外来で健康寿命増進のための指導やACPを行い，必要な患者には看護支援を行うなど，疾病や年代にマッチした診療を行うことで，かかりつけ医としての役目を果たしたい．そのためにも有益なICTを導入し，近未来的な診療所を目指し，老朽化した建物の新築につなげたい．

表1．活動状況

（単位：名，円）

		（1）延べ患者数		（2）平均単価	（3）医業収入	
入外区分	診療科	対象期間実績（延べ数）	1日平均	対象期間実績	実績金額	構成比
外来	内科	16,170	55.0	10,864	175,665,360	61.3%
	小児科	782	2.7	7,333	5,734,340	2.0%
	外科	5,244	17.8	6,955	36,469,467	12.7%
	整形外科	8,448	28.7	7,422	62,698,839	21.9%
	その他医業収入	0	0	0	6,019,925	2.1%
合計		30,644	104.2	9,352	286,587,931	

表2．訪問診療件数と骨塩定量検査件数

（単位：件）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
訪問診療件数	100	85	93	90	92	98	100	95	105	98	102	111	1,169
訪問診療新規患者数	0	2	0	11	4	3	3	2	5	3	3	7	43
骨塩定量検査件数	113	121	154	114	123	119	83	101	96	96	95	101	1,316

Ⅵ

明石医療センター

7:1急性期病院
地域周産期母子医療センター
地域医療支援病院
ICU･HCU/NICU･GCU
全382床

〒674-0063
兵庫県明石市大久保町八木743番33号
TEL.078-936-1101

院長　大西 尚

総合内科

スタッフ紹介

主任部長：木南佐織
部　　長：坂本　丞，石丸直人
医　　長：中島隆弘，官澤洋平，大西　潤（～2023年3月）
医　　員：水木真平，鶴田慧司郎
専 攻 医：坂田尚哉，藤井真理，尾本仁那（～2023年3月），廣瀬光基（2023年4月～），長陽二郎（2023年4月～），宇田早希（2023年4月～），北川菜々子（2023年4月～），稲田有作，荒木昭博（2023年4月～9月），山岡茉莉（2023年10月～）
（他科研修又は連携病院出向：田口涼子，山﨑　健，新宮資央）
診療看護師：渡部秀悟

診療内容

外来：内科初診外来は，総合内科指導医が中心となって担当し，幅広いプライマリケアニーズに対応し，患者中心のケアを重視した質の高い外来診療を提供している．専攻医も指導医の指導のもと，初診外来を担当し，多様な診療ニーズに対応している．再診外来は，生活習慣病などの慢性疾患や膠原病，精神疾患，難病に至るまで幅広く診療を行いつつ，地域の医療機関や介護施設と連携し，シームレスな医療サービスを提供している．初期研修医の外来は指導医が立ち合い，きめ細かく指導している．予防接種や健康診断を通じて，地域の公衆衛生向上に寄与している．

入院：3チーム制でチーム医療を行っている．各チーム指導医2～3名，専攻医2～3名，初期研修医1～2名の構成で，屋根瓦式のチーム医療を行い，毎朝カンファレンス・回診を行い，夕回診も行っている．病歴聴取や身体診察を重視し，適切な検査を行い，適切な治療計画のもと全人的な医療を行っている．また，多職種とのカンファレンスを定期的に開催し，チーム医療による安全で質の高い医療を提供できるよう努めている．外科系診療科の内科的マネージメントにも積極的に併診している．

2023年のトピックス・実績

入院診療に関して，整形外科領域の診療としては，2020年から大腿骨近位部骨折患者は全例総合内科が入院を担当し，Hip fracture templateを用いた周術期の全身管理を総合内科医が行い，術後の合併症の軽減，入院期間の短縮に寄与している．毎週，整形外科と合同でHip fractureカンファレンスを行い，周術期マネージメントから骨折予防を脆弱性骨折リエゾンサービスの一環として行っている．また高齢者を中心に心不全診療を担い，心不全の初期治療から，アドバンス・ケア・プランニング（ACP）までトータルケアに力を入れている．毎週循環器内科と合同で心不全カンファレンスを行い，治療方針を決定している．ACPの実践に注力し，総合内科スタッフが中心となり，病院全体研修会にてACP実践の普及・啓発活動を行った．

医療者教育も当科の重要な役割であり，指導医・専攻医による臨床現場で必要となる病態や疾患に関するポイントオブケアレクチャーや，初期研修医による症例プレゼンテーション能力の体系的評価，コンピテンシー（医師と習得するべき資質や能力）に関するレクチャー，グラム染色勉強会，専攻医によるClinical jazz形式での新患外来症例の振り返り検討を定期的に開催している．英語論文を批判的吟味して目の前の患者に最良のエビデンスを適用するジャーナルクラブ，臨床的疑問を入手可能な最良のエビデンスをもとに解決するClinical questionも行い，これらの一部はJ-hospitalist networkのホームページで公開されている．また，総合内科・プライマリケア領域の医学雑誌（ホスピタリストやMedicinaなど）の分担執筆を当院指導医・専攻医が担当した．

臨床研究は，医療統計の講師として和歌山県立医科大学下川敏雄教授，英文抄録・論文の作成法や英文校閲・査読の講師としてBen Phillis先生を定期的に招聘し，症例報告や臨床研究のサポートを継続して受けている．2023年は，英文医学誌に臨床研究原著論文4編，英文症例報告3編（うち2編は専攻医が作成）が収載された．

今後の展望

【診療の充実】

現状の課題としては，患者数の増加に伴う労働負担の増加が挙げられる．これらの課題を改善するために，診療プロセスの効率化や医師の増員が検討されている．今

後，AIを活用した診療システムもうまく活用し，これにより，診断精度の向上や治療効果の最大化が期待される．外来診療については，患者の治療後のフォローアップや生活指導を充実させるためのサポート体制を強化する．これにより，患者が安心して治療に専念できる環境を提供する．地域の医療機関や介護施設との連携を強化し，包括的な医療サービスを提供する．地域住民の健康維持や病気予防に寄与する活動も積極的に行う．

【資格，キャリアパス】

内科専門研修プログラム・総合診療専門医養成プログラムの基幹病院として専攻医が研修している．内科専攻医は必ず総合内科をローテートすることで，専門医プログラムの必要症例の多くをカバーでき，幅広く診療のできる専攻医育成につなげていく．当院で経験を積んだ医師が，まだ総合内科医の活躍が十分でない法人内外の医療機関にて総合内科指導医として活躍できるようなジェネラリスト育成を目指す．

【学術活動，臨床研究の推進】

大腿骨近位部骨折を内科医が整形外科医と共に診療することの臨床アウトカムについての研究，急性上気道炎の咽頭痛に対するトラネキサム酸のプラセボ対照無作為化対照試験、家庭医療専門医の緩和ケアニーズについての全国調査など，複数の論文を作成・投稿中である．これにより，医療の質の向上と新たな医療知見の発見が期待される．グラム染色と遺伝子診断を用いた急性腸炎の研究や感染性心内膜炎の疫学研究など多施設研究も実施中である．今後も初期研修医・専攻医の臨床研究指導を精力的に行う．

表．総合内科入院内訳

（単位：名）

入院患者（延べ人数）	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
感染症	213	249	254	278	262	250
呼吸器疾患	210	240	193	207	243	268
循環器疾患	127	165	347	300	189	142
消化器疾患	76	86	81	96	84	66
糖尿病・内分泌疾患	124	76	55	75	51	60
膠原病・アレルギー	66	74	79	73	73	89
血液疾患	27	29	28	21	19	18
脳・神経疾患	65	80	91	135	101	112
腎・泌尿器系疾患	70	95	120	136	165	159
整形疾患 (大腿骨近位部骨折)			176	294	243	255
その他	153	204	195	197	190	199
合計（延べ人数）	1,131	1,298	1,619	1,812	1,620	1,618

救 急 科

スタッフ紹介

医長：井上　彰　救急科専門医，集中治療専門医
医長：木下裕規　救急科専門医，集中治療専門医（2023年4月～）

診療内容

＜救急外来＞

平日日中の救急外来受診患者の初療を担当．初期研修医と共に診療し，救急診療を通してのプライマリケア・救急医学の教育も行っている．

＜その他＞

消防事後検証委員会・MC協議会等への参加，明石ICLSコースの開催，各種教育カンファレンスなどを開催している．

2023年のトピックス・実績

2019年度より新規に救急科を開設．前年度までは研修医が中心となり救急患者の対応が行われていたが，救急科開設に伴い平日日中の救急患者対応を救急科が初期診療を担当する体制となった．救急車の受け入れ件数は増加しており，開設前に比べ約20%増加した（下図）．コロナ禍においても感染対策を行いながら新型コロナウイルス感染症感染患者も含めて救急患者の応需を継続しており，高い応需率を維持している．

救急診療は教育も重要な役目であり，研修医教育にも力を入れている．2019年度から初期研修医の救急科ブロック研修を開始し，内科外科を問わず救急対応を行いながらエビデンスに基づいた標準診療の実践を通して教育を行っている．また，2021年度より内科後期研修医の救急研修も行っている．

消防MC体制への参画や消防事後検証委員会への参加等を通じて地域の消防体制の向上へも貢献しており，明石消防を中心とした地域の消防組織との連携も強化した．

明石ICLSコース，明石MCLSコースなど，各種コースや勉強会への参加も多数行っている．

今後の展望

【診療の充実】

地域の救急医療の基幹病院として，更なる救急診療の質向上やより適切な応需体制の構築を進めていく．

【救急教育】

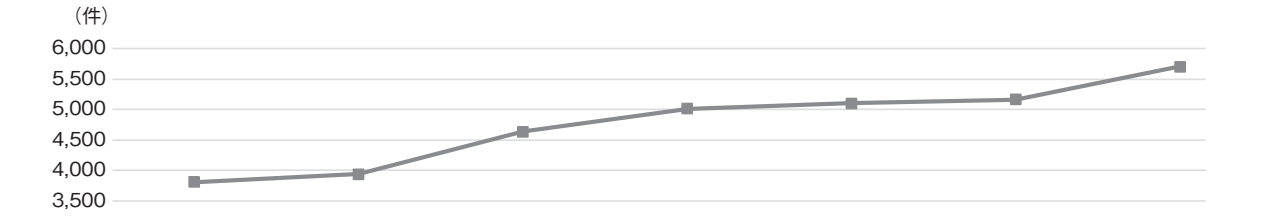
救急診療を通して初期研修医をはじめとした様々な立場への教育を実践していく．

【地域連携】

近隣施設との救急医療体制を通した連携や，明石消防を中心に当該地域における病院前診療体制の向上を目指す．

【その他】

・集中治療科と連携した集中治療診療への参画
・各種教育コースへの参画
・災害医療体制の構築



	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
救急車受入件数	3,808	3,939	4.639	5,018	5,107	5,166	5,707

図．救急車受入件数の推移

呼吸器内科

スタッフ紹介

院　長：大西　尚
部　長：岡村佳代子，畠山由記久
医　長：池田美穂
医　員：山崎菜々美
専攻医：塚本　玲，増田佳純，藤本葉月，榎本隆則（～2023年3月），松尾健二郎（～2023年3月），井上拓弥（2023年4月～），古川湧也（2023年4月～）

診療内容

外来：

明石市で唯一の呼吸器内科のある病院（癌専門病院を除く）として毎日呼吸器内科医による外来を行っている．2013年8月新病棟開設に合わせて呼吸器内科外来も1診体制から2診体制に増え，より多くの紹介患者に対応できるようになった．

入院：

呼吸器内科は本館5階病棟を主体に入院診療を行っている．入院診療は上記スタッフを中心になされるが，臨床研修制度のため卒後1～2年目の研修医も病棟診療に加わる．

2006年度から当院は後期研修医を募集しているが，2023年には当院呼吸器内科研修プログラムに後期研修医2名と，1年間他院に出向していた2名が戻り計4名が当院で研修を行った．

週2回（月，金曜日）チャートカンファレンスで各症例のプレゼンテーション，ディスカッションを行い，その後に病棟を回診している．また水曜日は後期研修医向けのレクチャー兼カンファレンスを行い，相談症例の検討や情報共有を行っている．

2023年のトピックス・実績

今までは内科・呼吸器内科として内科を全般的に診療していたが，2015年4月より総合内科が新設されたため，より専門性をもって診療していくことが求められるようになった．しかし今後も専門性を伸ばしながらも特化しすぎず，「患者から学べ」をモットーにベッドサイド診療の重要性を指導し，患者に起こっている事実や事象・本質を見抜くことを重要視し，現場での最適解を常に模索することを常に努力し呼吸器内科医として幅広く診療を行うことを心掛けていく．

診療対象疾患としては，①肺炎を始めとする呼吸器感染症，②肺癌の診断・治療，③びまん性肺疾患の診断と治療，④気管支喘息発作，COPD急性増悪や気胸など呼吸不全に対する急性期治療，⑤肺気腫，間質性肺炎等による慢性呼吸不全に対する呼吸器リハビリテーション，在宅酸素療法の導入や在宅人工呼吸器療法の導入，⑥睡眠時無呼吸症候群に対するPSG検査（2014年度から入院でのCPAP導入は中止）等が挙げられる．

2023年は新型コロナウイルス感染症がウィズコロナの方針が鮮明となったことでよりフットワークの軽い病棟運用が可能になった．その結果，気管支鏡検査数も例年実績を維持しつつ入院患者数は前年から増加し活動性を確保した．

近隣の地域連携を更に強化し顔が見えるつながりを重視するため近隣のクリニック，医院，病院への紹介状作成の強化，密な情報提供を心掛けており，地域密着型医療を更に実践していく．

2022年から医長以上のスタッフが4名体制となっており，2023年も同数のスタッフを確保した．より継続的な専攻医のリクルートもしっかり行っている．呼吸器専門医研修を踏まえて今後も神戸大学呼吸器内科との連携を図りながら更なる診療体制の強化に取り組む予定である．

今後の展望

明石医療センター呼吸器内科は，明石市・加古川市を含む東播磨地域で唯一の呼吸器疾患全般を診療可能な科であり，今後更に地域医療機関との連携が重要と考えている．近隣医院からより信頼されるよう絶え間ない診療を目指し，軽症から重症まで幅広く診療することを心掛けている．呼吸器中核病院として，また呼吸器内科を目指す後期研修医の教育・研鑽の場として今後もますます努力し，魅力的な呼吸器内科を目指していく．

循環器内科

スタッフ紹介

主任部長：民田浩一
部　　長：平山恭孝，衣笠允雄
医　　長：平石真奈，西川達哉，石橋健太，平井暁男，松尾真典（～2023年9月），野田　翼（～2023年8月15日）
専 攻 医：山田真博（2023年4月～），門原響生（2023年4月～）

診療内容

循環器急性期診療の充実を図るため24時間循環器ホットラインの活用，循環器当直体制を導入し維持している．播磨地区ECPRネットワークに参加し，積極的に適応症例にECPRを導入している．アンギオ装置2台入れ替えに伴い虚血性心疾患や末梢血管疾患におけるカテーテル治療，不整脈アブレーション，デバイス治療の更なる充実を図った．大動脈弁狭窄症に対する順行性経皮的大動脈弁バルーン拡張術を定期的に施行している．心不全診療については，総合内科と合同カンファレンスや多職種カンファレンスを開催し，外来心臓リハビリテーションへの移行など多職種連携心不全診療の基盤を作り，継続的介入を行うことで心不全診療の充実，再入院率の低下などを目標に体制を構築した．

2023年のトピックス・実績

IPWカンファレンス　週1回開催
カテカンファレンス　毎日開催
ECPRシミュレーション　月1回開催
総合内科との心不全合同カンファレンス　週1回開催
心不全院内教育ビデオ制作
心不全多職種ワーキング　月1回開催
心不全看護外来の開始
心不全多職種介入レジストリー開始

今後の展望

弁膜疾患に対するカテーテル治療（TAVI等）を導入するための準備を行っていく．心不全疾病管理のため多職種と協働で外来心臓リハビリテーション及び心不全看護外来の充実を行う．

研修医・後期研修医，メディカルスタッフの指導・教育を充実することで院内の循環器診療の底上げを引き続き図る．

心不全多職種ワーキングを中心に多職種で院内に心不全の啓蒙を進める．

消化器内科

スタッフ紹介

名誉院長：澤井繁明（～7月）
主任部長：中島卓利
部　　長：吉田俊一，門　卓生，石田　司（10月～非常勤）
医　　長：古松恵介（～3月），當銘成友，松岡晃生
　　芦名茂人（4月～），益子由佳子，田中太郎
医　　員：大西紘平（～3月），名方勇介（8月～）
　　瀧本　将
専 攻 医：塩屋暁子，中村碩孝，井上　築
　　岡田真治（～3月），影山達也（～3月）
　　朝原総一朗（～3月），長谷川貴久（～3月）
　　橋本宏之（4月～），安部恵里佳（4月～）
　　大野聖真（4月～）

診療内容

4月の体制変更後，スタッフ10名，専攻医6名で再スタートした．胆膵診療をけん引してきた古松医長が大学人事で異動，8月には名方勇介が千船病院から異動してきたが，消化管内視鏡治療や炎症性腸疾患の診療をけん引してきた石田部長が実家継承のため，10月から非常勤勤務となった．外来の3診体制，入院診療は専攻医と指導医での2名主治医体制を継続し，外来診療，入院診療，救急診療，消化管及び胆膵領域の内視鏡検査及び治療も質量とも地域の基幹病院にふさわしいレベルを維持できた．新入院患者カンファレンス，内視鏡治療カンファレンス，部長回診などを通じ診療科として，外科との合同カンファレンスなどを通じ病院として患者の診療情報の共有に努めた．

2023年のトピックス・実績

古松医長の後任として大学から派遣された芦名医長が當銘医長と共に胆膵診療の中心メンバーとして活動した．田中医長は，兵庫医科大学の炎症性腸疾患カンファレンスに定期的に参加させていただき，当院の炎症性腸疾患診療の向上に貢献している．当科の特徴である高度な内視鏡検査及び治療も質量とも十分な実績であったが，近隣の診療体制の向上などにより秋ごろから救急での消化器疾患の搬入が減少したため，明石救急とカンファレンスを行い，その回復に努めた．

今後の展望

10月に実家継承のため，退職非常勤勤務となった石田司が来年度中に常勤勤務に復帰する予定である．消化管内視鏡治療や炎症性腸疾患の診療などをけん引してくれると期待している．

現在の専門医カリキュラム上，短期間で入れ替わる専攻医が希望するような診療内容及び体制の維持が必須である．外来入院診療，内視鏡診療，救急受け入れ態勢，緊急検査治療態勢などの維持，更なる向上には，専攻医を含めた充実したスタッフが必要であるため，在籍中の若手中堅医師の成長に加え，神戸大学消化器内科医局との密接な連携，交流が不可欠である．

より高度な専門的でかつ迅速な診療に加えて，多くの併存疾患，問題点を有した症例にも幅広く対応し，一般的な消化器診療に加え，質の高い診療を行うことを目指すことで，診療科及び医師としてのステップアップにつなげ，地域医療に貢献していきたい．

表．主な内視鏡検査・治療件数　（単位：件）

	2020年	2021年	2022年	2023年
新入院数	1,970	1,997	2,076	1,997
上部消化管総数	6,266	6,516	6,345	6,152
食道・胃ESD	100	101	113	82
止血術	85	107	114	75
食道静脈瘤治療	42	44	19	17
胃瘻造設	12	16	20	37
嚥下内視鏡	71	72	91	63
下部消化管総数	3,130	3,317	3,154	3,149
ポリペクトミー・EMR	1,143	1,283	1,176	1,100
大腸ESD	54	63	63	60
止血術	47	95	84	120
胆膵内視鏡総数	554	576	523	478
超音波内視鏡	309	316	315	339
EUS-FNA	40	36	50	50
小腸カプセル内視鏡	30	31	31	26
バルーン内視鏡	13	13	20	23

腎 臓 内 科

スタッフ紹介

【常勤医師】

主任部長：米倉由利子（2003年卒）
総合内科専門医，日本透析医学会専門医，日本腎臓学会専門医・指導医，日本腹膜透析医学会認定医，腎代替療法専門指導士，腎臓リハビリテーション指導士

医　　長：大田健人（2012年卒）
内科認定医，日本腎臓学会専門医，日本透析医学会専門医

医　　員：金銅研吾（2017年卒）
内科専門医

医　　員：高木泰尚（2017年卒）
内科専門医

【非常勤医師】

西　慎一：神戸大学医学部腎臓内科　教授（～2023年3月）

河野圭志：神戸大学医学部腎臓内科　助教

錦　恵那：神戸大学腎臓内科　医員

診療内容

1）腎炎診療

・ANCA関連血管炎（顕微鏡的多発血管炎，多発血管炎性肉芽腫症）

例年5～10症例前後のANCA関連血管炎（ほとんどが顕微鏡的多発血管炎）の初発・寛解導入療法を実施している．血漿交換，リツキシマブ併用の集学的治療を実施する体制が確立できており，高齢症例であっても良好な生命予後を達成している．また，リツキシマブの維持投与を行うことにより，ステロイドを大幅に減量した状態での寛解維持が達成でき，再燃症例が少ない．2022年6月から新たな血管炎治療薬の選択肢として本邦においても使用可能となったC5a受容体阻害薬（avacopan）の使用も開始した．ANCA関連血管炎診療における位置づけを，症例を積み重ねながら確立していきたい．一方で，当科紹介時にすでに高度の腎障害に至っており透析回避できない症例が依然として多い．より早期の治療開始ができるように，かかりつけ医や他科への啓蒙を続ける必要がある．

・難治性ネフローゼ症候群

巣状分節性糸球体硬化症，典型的病理組織像をとらない症例など，診療に苦慮する症例が多かった．全身状態が保持されている時期を逸さずに腎生検を行いその後の治療につなげることの重要さを痛感した．難治性ネフローゼ症候群においてはLDL吸着療法を含めた集学的治療を行っても末期腎不全への進行，重篤な感染症，血栓塞栓症を併発し，長期入院を余儀なくされることが多い．患者管理としても当科の診療としても大きな課題である．

・その他の糸球体腎炎

IgA腎症に対するステロイドパルス療法（ステロイドパルス連続3クール，又はステロイドパルス2か月間隔3クール（Pozzi方式）の二つの治療プロトコル）は安定した治療成績を得ている．

2）慢性腎臓病診療

CKD教育入院，透析看護科看護師によるCKD外来，看護師・管理栄養士による糖尿病透析予防外来を含めた多職種アプローチを行っている．当院の多職種介入の実績を資料として提供した多機関臨床研究の結果，多職種介入が腎予後改善に有用であることが確認され，これを根拠にして2024年の診療報酬改定において慢性腎臓病透析予防管理料が新設された（Clin Exp Nephrol. 2023; 27（6）: 528-541）ことは特筆すべきである．

2020年以降，新型コロナウイルス感染症の流行下に集合開催を見合わせていた患者教室（「いきいき腎臓病教室」）を，2023年は集合開催することができた．患者のみならず同席した家族が熱心に取り組んでいる様子が印象的であり，CKDは患者を中心として家族も含めたチーム医療が必要であることを感じた．今後も患者のニーズを探りながら継続したい．

3）腎代替療法（Renal replacement therapy : RRT）

【血液透析】

長期維持透析患者での合併症発生・死亡は不可避であるが，新規病態発生時や体調悪化時に，できる限り全身状態を維持して病態を乗り越えるべく，医師による診療に加えて看護師，栄養士による集学的サポートを依頼している．さらに，2023年にはプレフレイルの患者に対して理学療法士による介入を依頼し，状態悪化を回避することができた症例を経験した．状態変化時の早期発見，早期介入により，高齢患者の管理向上を目指したい．

【腹膜透析】

新規導入は高齢者を含めて4名であった．腹膜透析は透析液の開発や患者指導の向上などにより従来の考え方

よりも長い期間にわたり治療継続できる可能性が知られてきている．年齢によらず症例数を拡大したい．

【腎移植希望症例】

かねてから生体腎移植希望であった1名が先行的腎移植を実施し生着を得た．また，別の1名が生体腎移植希望で大学病院での精査を終え，現在移植待機中である．移植希望症例において，ドナー選定が障壁になることが多い（マージナルドナー）．より早期に移植という選択肢を提示することにより，ドナーの全身状態把握・精査・治療ができること，移植後のドナーの内科管理が次の課題である．

【若年末期腎不全症例】

未診断の末期腎不全・尿毒症状態で受診し維持透析導入になる症例は常に一定数存在するが，2023年は特に若年症例を複数経験した．腎代替療法選択（血液透析/腹膜透析），早期腎移植に向けての情報提供/専門医紹介など，十分な情報提供を迅速に行いながら社会復帰を進めることが必要であったが，その際にも看護師や医療福祉相談員による社会的・心理的サポートが大きな支えになった．

4）入院透析，特殊血液浄化，アフェレシス治療

術後/急性期病態に伴う急性腎障害，特に乏尿性腎不全のために一旦透析管理が必要になった例において，救命のみならず透析離脱し得た症例を複数経験した．主治医，集中治療科との協力を継続したい．持続血液透析（CHD）/持続血液ろ過透析（CHDF）の症例は例年どおり多く，ICU，HCUの双方で実施している．腹水ろ過濃縮再静注療法，炎症性腸疾患に対する顆粒球吸着療法は，例年どおり多くの症例で依頼いただいている．

5）稀少疾患

アルポート症候群（腎生検，遺伝子検査での診断），常染色体優性多発性嚢胞腎（トルバプタン），Fabry病（酵素補充療法）の診療を積極的に実施している．

2023年のトピックス・実績

1）薬剤科，調剤薬局との連携拡充

2023年は医薬連携の拡充を実感した一年であった．2022年3月に，CKDシールの運用を開始したが，初年度はごく少数の患者にしか配布できず，調剤薬局からその運用状況について問い合わせもあった．2023年は薬剤科が主体となって，当院入院中のCKD症例に対して薬剤科から腎臓内科主治医（他科の症例は主任部長）へ確認した上でCKDシールを配布する，という運用を開始した．その結果，急速に配布数が増加した．

CKDシールの運用開始以降，明石市薬剤師会との双方向の情報共有の場を持つことができている．薬剤科科長を筆頭に，全ての薬剤師の方の助力によるものであり，深謝したい．調剤薬局との顔の見える関係への進展，明石西神戸医療圏での安全な薬剤管理につなげるべく，今後更に協力を進める方針である．

2）学術活動

高木医師は，臨床症例の病理学的検討，症例検討など複数の発表を積極的に行った．金銅医師は腎動脈超音波検査に関連した臨床研究を遂行中であり，次期にデータの統合，学会発表を予定している．科員それぞれが，臨床から得たテーマを基に，学術活動を拡充している．

今後の展望

① 腎不全診療の強化
　（ア）通院維持透析患者数増加．栄養管理・サルコペニア対策の充実．
　（イ）腹膜透析患者数増加（高齢者への拡充）．
　（ウ）腎移植の啓蒙．
② 腎炎，ネフローゼ症候群診療の充実
　（ア）早期患者紹介の啓蒙．
　（イ）寛解導入率の向上，ハイリスク症例診療の充実（抗体製剤，アフェレシス治療など集学的治療により）．
③ 学術活動
　学会発表，論文執筆の活性化

表1．入院症例の内訳　（単位：件）

	入院目的	2019年度	2020年度	2021年	2022年	2023年
慢性腎臓病関連	慢性腎臓病教育入院（パス）	21	16	39	16	22
	その他（治療内容調整，急性増悪，感染症など）	102	83	84	85	66
血液透析関連	血液透析新規導入	38	43	48	51	58
	合併症入院（うっ血性心不全，感染症など）	19	31	28	20	23
	ブラッドアクセストラブル（閉塞，感染）	1	3	3	4	2
腹膜透析関連	腹膜透析新規導入	0	2	1	1	4
	PD関連感染症（腹膜炎，出口部・トンネル感染）	2	5	4	1	4
	治療調整,その他	1	3	3	2	0
腎炎治療	IgA腎症	27	27	33	22	16
	一次性ネフローゼ症候群	6	9	15	12	18
	ANCA関連血管炎	8	6	3	7	10
	ループス腎炎	1	0	1	0	1
	紫斑病性腎炎	0	5	4	1	0
	その他の急速進行性糸球体腎炎	0	1	3	1	5
	IgG4関連腎疾患	0	0	0	1	1
	尿細管間質性腎炎	0	0	1	1	2
その他	急性腎傷害（腎後性腎不全含む）	7	10	8	9	15
	電解質異常	データ集計なし	7	12	9	5
	腎生検入院	32	20	24	28	34

（一部病態の重複あり）

表2．特殊治療　（単位：件）

	2019年度	2020年度	2021年	2022年	2023年
LDL吸着療法	7	0	6	0	0
血漿交換療法	0	7	13	24	35
エンドトキシン吸着療法	15	4	3	1	7
顆粒吸着療法	28	2	32	34	40
腹水ろ過濃縮再灌流法	24	53	47	26	45

※2020年以降，エンドトキシン吸着はAN69-ST膜を用いたサイトカインコントロール治療で代替している症例が多い

表3．腎代替療法導入数，腎生検症例数　（単位：件）

	2019年度	2020年度	2021年	2022年	2023年
血液透析新規導入数*	38	43	48	51	58
腹膜透析新規導入数	0	2	1	1	4
血液透析延べ回数	4,304	4,772	4,328	4,228	4,426
経皮的腎生検件数	39	25	31	35	44

*自科症例のみ

表4．腎病理診断　（単位：件）

	病理診断	2019年度	2020年度	2021年	2022年	2023年
一次性糸球体疾患	IgA腎症	17	13	15	14	15
	微小変化型ネフローゼ症候群	5	0	1	1	5
	膜性腎症	3	0	1	5	3
	膜性増殖性糸球体腎炎	1	4	1	0	0
	菲薄基底膜病	1	0	0	4	3
	巣状分節性糸球体硬化症	1	2	1	0	1
二次性腎疾患	アミロイドーシス	0	0	0	0	1
	ANCA関連血管炎	2	1	1	1	0
	紫斑病性腎炎（IgA血管炎）	0	4	3	0	1
	ループス腎炎	1	1	2	0	1
	肥満関連腎症	1	0	0	0	0
	糖尿病性腎症	2	0	2	3	1
血管病変	良性腎硬化症	1	0	0	2	2
	悪性腎硬化症	0	0	0	0	0
	血栓性微小血管症	0	0	0	0	0
間質性病変	尿細管間質性腎炎	0	0	1	1	4
その他	微小糸球体変化	2	1	2	1	1
	oligomeganephronia	2	0	0	0	0

（一部病態の重複あり）

糖尿病・内分泌内科

スタッフ紹介

千原和夫（主任部長　1945年卒）
中村友昭（医長　2006年卒）
新井尚樹（医員　2017年卒）（～2023年4月）
宮部祥花（医員　2017年卒）（～2023年4月）
中辻　萌（医員　2017年卒）（2023年4月～）
藤井研己（医員　2018年卒）（2023年4月～）

診療内容

当科は2017年4月に新規開設以来，2023年12月末で6年9か月になる．医師の人事は神戸大学糖尿病・内分泌内科との連携で行われてきており，2017年常勤2名，非常勤1名，2018年常勤1名，非常勤1名，2019年～2021年常勤3名，2022年常勤4名体制で診療を行っている．4名体制のうち，上級医の2名は日本糖尿病学会及び日本内分泌学会の専門医と指導医の有資格者，残りの2名は両学会の専門医取得を目指す若手医師であり，当院での臨床経験と診療実績が受験資格を得る上で重要な要素となっている．当科は2017年10月1日より日本糖尿病学会専門医制度規則に基づく認定教育施設(I)の認定，2018年4月1日より日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度における認定教育施設の認定を受け，さらに日本専門医機構が進める新しい内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医制度における認定教育施設の認定も受けた．したがって若手2名の医師は1～2年の赴任期間で入れ替わるが，大学の人事担当者の話では，当院の疾患の種類と患者数の多さに加え指導体制が若手には人気があり，赴任を希望する若手が多く挙手するとのことで，大学は現状を今後も続けたい意向である．現在の外来診療ブースは，月曜日から金曜日の週5日で毎日1枠（水曜日は2枠）の外来専門診療枠を使用させていただいており，専門医資格取得を目指す若手医師にできるだけ多くの紹介新規患者の診療を経験できるように外来診療ブースを割り振っている．一方，患者には最高水準の診療が提供できるように，若手医師の外来診察中，千原は電子カルテが直ぐ見れる場所に待機し，彼らが判断に困った時にはリアルタイムで電子カルテを閲覧し，スマートフォンで話しながら診断・診療上の指導を行っている．また，入院患者の診療も主治医として自ら考え，診断や治療方針を作成できるように彼らの主体性を重んじながら，日々彼らの記載した診療録を常にチェックし，気付いた点はその時点で連絡をとり，患者にとって最良の医療を提供できるように熱い会話を重ねてきた．外来及び入院患者に対するリアルタイムの個別指導は彼らの専門医としての実力を養う上で最良の手段であるだけでなく，当院の糖尿病及び内分泌疾患の診療レベルの向上，ひいては近隣の医療機関からの信頼を得る上でも重要と考えている．糖尿病及び内分泌疾患の外来患者数及び入院患者数は，新型コロナウイルス感染症まん延下で少し減少し，2023年はほぼ横ばい状態であった．一方，当科の診療患者数には計上されないが，院内他診療科からの紹介やコンサルテーションが増え，特に外科系診療科から周術期の血糖管理依頼件数や妊娠中及び周産期の甲状腺疾患の管理件数が増えている．

2023年のトピックス・実績

学会活動は，日本糖尿病学会年次学術集会及び近畿地方会，日本内分泌学会学術総会，臨床内分泌代謝Update，日本糖尿病学会・妊娠学会年次学術集会に合計9演題を発表した．中でも第33回臨床内分泌代謝Updateで藤井医師が発表したTSH産生下垂体神経内分泌腫瘍と橋本病の合併例は，TSH産生下垂体腫瘍が自律性にTSHを分泌しながらも甲状腺ホルモンのネガティブフィードバック調節を受けていること，またそのセットポイントレベルは通常より高いことを確認できた貴重な症例で，現在論文作成の準備中である．診療実績は表に示す．内分泌疾患の内訳で，甲状腺疾患は明石で新規に開業された「くどう甲状腺クリニック」との連携が進み，小康状態の患者を紹介することができるようになったこと，また大西脳神経外科病院との連携が進み下垂体疾患の紹介が増えてきたことが特記すべき点である．

今後の展望

多職種で構成された糖尿病ケアチーム（Diabetes Care Team : DCT）の活動の活性化とケアの質の向上を図りたい．明石地区を対象とした「糖尿病患者の会」の準備が進行中であるが，課題の解決を急ぎたい．内分泌疾患の診療内容の更なる充実を図り，明石地域の最後の砦的存在を目指したい．

表．診療実績（患者数）

（単位：名）

疾患分野	2023年	2022年	2021年	2020年
糖尿病				
外来診療	1,857	1,785	1,814	1,716
入院患者	311	350	347	327
甲状腺疾患	492	613	548	465
副腎疾患	75	107	144	129
下垂体疾患	37	26	49	37
副甲状腺・Ca代謝疾患	40	48	64	59

小 児 科

スタッフ紹介

主任部長：横山直樹（1988年卒）
部　　長：梁川裕司（1990年卒）（～2023年3月）
医　　長：藤原安曇（2006年卒）
医　　長：中西啓太（2010年卒）（2023年4月～）
医　　長：藤井順子（2012年卒）
医　　員：大山正平（2011年卒）
専 攻 医：西原智子（2018年卒）（2023年4月～）
専 攻 医：内藤沙苗（2018年卒）（2023年4月～）
専 攻 医：吉岡慶太（～2023年3月）
非常勤医師ほか：藤井栄一（神経外来）
　　河島千佳（公認心理師）

診療内容

専 門 外 来：アレルギー，神経，腎，心臓，発達，1か月健診，シナジス外来，予防接種，発達心理検査，心理相談
小 児 入 院：小児10床
　　小児入院医療加算4
新生児入院：NICU6床，GCU10床
　　新生児特定集中治療室管理料2
　　小児入院医療加算3
時間外救急：東播磨臨海小児二次救急輪番体制
院　　外：明石市乳幼児健診，学校心臓検診，就学相談明石こどもセンター（児童相談所）検診

2023年のトピックス・実績

コロナ禍が明け，市中感染症の増加と共に，小児紹介患者数・小児入院数は増加した．急性疾患での入院数の増加のため，入院での食物負荷試験件数は制限され，外来での対応件数が増加した．また，昨年と比べ，無痛分娩件数増加（12→99件）に伴う総分娩数（841→1,076件）の増加，及び帝王切開件数（242→359件）の増加により，新生児入院数も増加した．

＜診療実績（表1～3）＞
・患児紹介受け入れ件数：昨年より増加（1,102→1,282）
・一般小児入院数：昨年より増加（647→709）
・食物負荷試験入院：昨年より減少（186→130）
・新生児入院数：昨年より増加（624→786）
・院外新生児搬送入院数：昨年より減少（59→52）
・早産児，低出生体重児の入院数：昨年より減少
　35週未満（32→27），出生体重2,000g未満（32→29）
・人工呼吸管理件数：昨年より増加（40→73）
・発達検査52件，心理療法28件
・心理師訪問：NICU101件，産科6件，小児科1件

＜教育＞
・初期研修医：院内ローテ研修6名（各1か月）指導
・後期研修医：神戸大学小児科専門医研修プログラム
　　1名指導
・家庭医研修：総合内科医師3名指導
・学生実習：神戸大学2名指導

＜明石医療センター主催＞
・第12回新生児蘇生法Aコース講習会
　受講者16名　2023年5月27日
・第8回新生児蘇生法Sコース講習会
　受講者16名　2023年12月9日
・第363回東播小児臨床談話会　2023年12月21日

＜トピックス＞
・アレルギー専門医教育研修施設認定
　日常の専門的なアレルギー診療並びに，専門医取得に向けての教育，指導を積極的に取り組んでいる．
　日本アレルギー学会認定専門医が2名在籍し，上記施設認定を受けた．
・児童相談所との連携強化
　医学的評価を含めた一時保護入院件数の増加

今後の展望

○一般小児
・時間外入院受け入れ対応の強化
○周産期医療の拡充
・地域周産期母子医療センターとして，ハイリスク分娩・新生児に対する受け入れと母子支援の質の強化
○地域貢献
・明石こども子育て応援メッセをはじめ，市民に対する医療・育児面での情報提供など
○小児科専門医の育成
・複数の専門医研修プログラムの連携施設として，ローテ後期研修医を積極的に教育，指導し，当院で活躍できる次世代の人材の育成

表1．一般小児入院（疾患別）

（単位：件）

領域	主な疾患	件数
呼吸器系感染症	肺炎，気管支炎，RSV感染症，インフルエンザウイルス感染症，ヒトメタニューモウイルス感染症，クループ症候群	343
消化器系感染症	感染性胃腸炎，ノロウイルス感染症，細菌性腸炎	35
その他の感染症	中耳炎，化膿性リンパ節炎，蜂窩織炎	26
アレルギー・血管炎関連	気管支喘息，川崎病，アナフィラキシー，IgA血管炎	81
神経関連	熱性けいれん，てんかん，髄膜炎	23
消化器関連	腸重積症，虫垂炎，イレウス，潰瘍性大腸炎	10
内分泌・代謝関連	アセトン血性嘔吐症，脱水症，ケトン性低血糖症，糖尿病，肥満症	14
腎・泌尿器関連	尿路感染症	9
新生児関連	新生児黄疸，体重増加不良，発熱	9
食物経口負荷試験		130
成長ホルモン分泌刺激試験		20
新型コロナウイルス感染症		3
その他		6
計		709

表2．新生児入院（週数・体重別）

（単位：件）

在胎週数	件数
30-31週	0
32-34週	27
35-36週	67
37週-	692
計	786

（単位：件）

出生体重（g）	件数
-1,499	2
1,500-1,999	27
2,000-2,499	114
2,500-3,999	637
4,000-	6
計	786

表3．新生児入院（疾患別）

（単位：件）

主傷病名	件数
帝切児症候群	171
新生児一過性多呼吸	170
新生児黄疸	84
早産児	56
前期破水母体児	48
低出生体重児	45
新生児嘔吐	40
妊娠糖尿母体	27
新生児仮死	25
新生児呼吸窮迫症候群	22
糖尿病母体児	18
胎便吸引症候群	12
新生児感染症	9
無呼吸発作	8
巨大児・過体重児	8
水腎症	7
向精神薬服用母体児	7
先天性心疾患・不整脈	7
新型コロナウイルス感染症感染母体児	6
ABO・Rh不適合	6
極低出生体重児	5
気胸	5
バセドウ病母体児	5
新生児メレナ	1
梅毒母体児	1
その他	16
計	809

放射線科

スタッフ紹介

主任部長：鷲尾哲郎
部　　長：小泉　正
非 常 勤：山口雅人　神戸大学放射線科特任教授

診療内容

CT，MRI，RIの読影業務が主となっている．他院からの依頼検査にも対応している．

IVRは肝癌の治療（TACE），止血術（消化管出血，喀血），CTカイド下生検，ドレナージ，心臓血管外科の依頼にて大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術の血管系処置を行っている．

2023年のトピックス・実績

読影件数は消化管透視を除いて増加しており，高い水準を維持している．

IVRは減少傾向であるが，血管系はここ数年の件数が多かったことの反動と思われる．肝癌の治療（TACE）の減少は肝炎の減少もあり，全国的な傾向である．

今後の展望

読影件数に関しては常勤2名で対応するのが困難な状況であり，大学の医局に増員を要望している．

表1．読影件数　（単位：件）

項目	件数
消化管透視	237
CT	22,110
MRI	5,935
RI	216

表2．IVR件数　（単位：件）

項目	件数
血管系（ステントグラフトなど）	52
TACE	15
止血（消化管出血，喀血）	9
CTガイド下生検，ドレナージ	7
その他	7
計	90

外 科

スタッフ紹介

外科主任部長：芦谷博史
外科部長：水田憲利　　外科部長：豊川晃弘
外科部長：常見幸三
外科医長：大坪　出　　外科医長：福田善之
外科医長：藤木和也（～2023年3月）
外科医員：草野俊亮　　外科医員：菊地拓也
外科専攻医：宮﨑隼人（2023年4月～）

診療内容

2001年開院初年度の全手術件数は230件であったが，以後は順調に増加し2016年には1,000件を超えた．しかし加古川中央市民病院の開設と2018年に乳腺科が廃止となり手術件数は漸減していたが，2019年の全手術件数は前年の800件から約900件まで回復した．2020年はコロナ禍にもかかわらず全手術件数は前年から増加し938件になった．2021年は新型コロナウイルス感染症の爆発的流行により，手術件数はやや減少の873件となったが，2022年はコロナ禍から回復し951件と，消化器外科としては過去最高となった．2023年度は862件と前年からやや減少したが，このうち胃癌，大腸癌などの悪性腫瘍に対する手術は192件，緊急手術は205件（全体の24%）と地域医療に貢献している．

特に腹腔鏡手術では，日本内視鏡外科学会技術認定医を中心に，胆石症はもとより鼠径ヘルニア，急性虫垂炎などの良性疾患や胃癌，大腸癌などの悪性疾患にまで適応を広げている．閉塞性大腸癌に対しては，消化器内科と連携し，ステント留置後に人工肛門を回避した根治手術を行うなど低侵襲，機能温存を意識した治療を心掛けている．さらにはロボット支援手術も複数名で対応できる体制となっている．

また，抗がん剤治療にも力を入れており，術前術後に加え，再発例に対しても積極的に行っている．

鼠径ヘルニアの手術は年間185件で，2017年から腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術（TAPP）を導入しているが，年々増加傾向にあり，そのうち124件（67%）がTAPPを施行している．最近では腸管嵌頓による緊急手術例や再発例などにも積極的に行っている．

2023年のトピックス・実績

医局人事で2021年度から芦谷（H8年卒），大坪（H17年卒），2022年度から草野（H25年卒），2023年度から宮﨑（R3年卒）が派遣されてきた．日本内視鏡外科学会技術認定医である芦谷（大腸），水田（大腸）．大坪（胃）を中心に指導体制を組み腹腔鏡手術に当たっている．

病院として低侵襲手術に取り組んでおり，近年，外科でも腹腔鏡下手術が徐々に増加していたが，2023年は，大腸癌120例のうち，106例（88%）が腹腔鏡下手術症例であった．その他胃癌，ヘルニア，急性虫垂炎やイレウス等の手術にも適応を広げている．また，ロボット支援下手術も2020年より直腸癌で開始し，2023年は直腸癌18件，結腸癌7件だった．学術面においては水田，大坪，福田，草野，菊地，宮﨑が国内学会，研究会，講演会で12件の発表を行い，4編の論文を発表した．

今後の展望

近年，低侵襲手術がほぼ標準術式と考えられるようになっており，消化器外科の領域でも腹腔鏡下手術の適応拡大は欠かせない課題である．後進の内視鏡外科学会技術認定医取得に向けて外科として取り組んでいる．並行してロボット支援手術の増加，さらには，がん手術件数の増加を図りたい．

心臓血管外科

スタッフ紹介

主任部長：林　太郎（心臓疾患，血管外科担当）
部　　長：三里卓也（心臓疾患，血管外科担当）
医　　長：安　健太（心臓疾患，血管外科担当）
医　　員：吉谷信幸（心臓疾患，血管外科担当）
後期研修医：林　裕之（心臓疾患，血管外科担当）

診療内容

心臓疾患：虚血性心疾患，弁膜症（大動脈弁，僧帽弁，三尖弁），不整脈（心房細動 等），先天性心疾患　など
大動脈疾患：急性・慢性大動脈解離，胸部及び腹部大動脈瘤
末梢血管疾患：急性・慢性動脈閉塞，閉塞性動脈硬化症，末梢動脈瘤，下肢静脈瘤，透析患者におけるシャント作製・シャントトラブル　など

2023年のトピックス・実績

2023年の手術件数は，心臓胸部大血管領域126例，血管外科領域275例であった．近隣病院や開業医からの緊急手術依頼は積極的に受け入れている．最近の傾向では冠動脈バイパス術が増加しており，冠動脈バイパス手術時に内視鏡下大伏在静脈採取を導入した．

一般的に，心臓血管外科領域の手術は人工心肺装置を使用して心停止下で行う手術であり，他領域の手術より高侵襲の手術となるが，心臓血管外科領域でも術式の低侵襲化は進んでいる．当科でも，現在心臓弁膜症症例では複合疾患など難易度の高い症例が増えており，胸骨正中切開症例の割合が増加しているが，適応症例があれば低侵襲手術である右小開胸下心臓手術（MICS）を行っている．その他にも，通常の胸骨正中切開症例において，スーチャレス弁を用いた大動脈弁置換術や，心拍動下冠動脈バイパス術，そして冠動脈バイパス手術における内視鏡下大伏在静脈採取を行っており，低侵襲を目指した術式を取り入れている．さらに患者背景や解剖学的条件が整えば，胸部及び腹部ステントグラフト内挿術を積極的に行っており，入院患者の早期退院・早期社会復帰を目指している．そして下肢静脈瘤においても，血管内焼灼術（ラジオ波）を基本術式とし，低侵襲を目指している．

血管外科においては，腹部大動脈瘤に対する開腹人工血管置換術をはじめ，急性動脈閉塞などの緊急手術症例，シャント作成症例やシャントトラブル症例が多いのも，当科の特徴である．また最近は，末梢動脈疾患やシャントトラブル症例で，循環器内科と共に血管内治療も同時施行するなど，症例に応じ協力体制で手術を行っている．

今後の展望

突然発症することの多い循環器系疾患には迅速な診断と治療が必要である．当科では，近隣医療機関との地域連携を強化し，あらゆる心臓大血管及び末梢血管疾患を今後も受け入れていく．また，緊急症例も随時受け入れていく．

表. 手術症例数

心臓外科　（単位:件）

先天性心疾患	
ASD	0
ASD+PS	0
ASD+PAPVR	0
VSD	0
VSD+PS	0
VSD+AR	0
VSD+MR	0
VSD+2ch. RV	0
PDA	0
ECD	0
CoA complex	0
IAA complex	0
T/F	0
PA with VSD	0
PA with IVS	0
DORV	0
Taussig-Bing	0
TGA	0
TAPVR	0
Single Ventricle	0
Tricuspid atresia	0
Mitral atresia	0
HLHS	0
AS and/or AR	0
MS and/or MR	0
Rupt. aneurysm of Sinus Valsalva	0
Others(cyanotic)	0
Others（non-cyanotic）	0
計	0

（単位：件）

後天性心疾患・胸部大動脈瘤その他				
弁膜症		総数	弁形成	CABG 併設
	Aortic	11	1	4
	Mitral	4	3	0
	Tricuspid	0	0	0
	A+M	1	0	0
	A+T	1	0	0
	M+T	10	7	0
	A+M+T	4	1	0
	その他（Pなど）	0	0	0

虚血性心疾患		総数	off pump CABG	動脈グラフト使用例
	単独CABG	39	10	39
	心筋梗塞合併症に対する手術			
	aneurysmectomy・左室形成術	0		
	VSP	2		
	cardiac rupture	0		
	MR（乳頭筋断裂・虚血性）	4		
	その他	1		

不整脈に対する手術（Mazeなど）	16	
収縮性心膜炎に対する手術	0	
心臓腫瘍（粘液腫など）	2	
その他の開心術	2	

胸部大動脈瘤			
解離性	Stanford A 急性期	28	
	慢性期	2	
	Stanford B 急性期	1	
	慢性期	3	
非解離	上行	2	
	基部置換術	6	
	弓部	6	
	基部＋上行＋弓部	0	
	弓部＋下行	0	
	下行	0	
	胸腹部	0	

肺塞栓症	0	
ペースメーカー留置	0	
計	126	

血管外科　（単位：件）

疾患名と術式	大動脈													末梢動脈																
	非解離	解離性												末梢動脈瘤	急性動脈閉塞				閉塞性動脈硬化症など					動静脈瘻	下肢静脈瘤		深部静脈血栓症	内シャント	その他	計
		上行	弓部	下行	胸腹部	腹部	ステント留置		Stanford A 急性期（2週以内）	慢性期	Stanford B 急性期（2週以内）	慢性期	ステント留置			血栓除去	血行再建術	その他・切断		血行再建	交感神経切除	ステント・拡張	その他・切断			ストリッピング				
明石医療センター	65	0	6	0	0	36	23	16	0	0	2	6	8	10	12	12	0	0	32	30	0	2	0	0	37	0	0	87	16	275

呼吸器外科

スタッフ紹介

田内俊輔（主任部長）
本田貴裕（専攻医）
大橋千裕（専攻医）（～2023年3月）

診療内容

原発性肺癌，転移性肺腫瘍などの腫瘍性疾患，気胸，膿胸などの胸腔内病変，縦隔・胸壁疾患等に対して主に手術療法を行う．

2023年のトピックス・実績

ロボット支援胸腔鏡手術も順調に症例を伸ばしている．今後も適応を検討しながら通常の胸腔鏡下手術との使い分けを行っていく．また気胸，膿胸に対するReduced Port Surgeryを行い，より低侵襲な手術を心掛けている．

今後の展望

ロボット支援手術を含めた胸腔鏡手術を含む低侵襲手術から，心臓血管外科をはじめとした他科との連携を含む拡大手術まで行っている．また気胸，膿胸，外傷など急性期病院ならではの準緊急的に手術が必要な症例も積極的に受け入れていく．今後も幅広い患者層の受け入れを行っていくため地域との連携を密に行い症例数の確保に努めたい．

整形外科

スタッフ紹介

伊藤整形外科主任部長，矢野整形外科部長，脇整形外科医長の3名は昨年と変わらず．松島リハビリ主任部長が3月に退職し非常勤となり，新倉整形外科医長が新たに4月よりスタッフに加わった．レジデント（専攻医）は，1月～3月末までは昨年から引き続き，卒後6年目福本医師，卒後5年目高見医師の2名で，4月以降は卒後6年目江川医師，卒後5年目安見医師の2名で，1年間を6名の診療体制で行った．伊藤・矢野は脊椎疾患，脇は外傷～救急，新倉は上肢疾患，専攻医はスタッフと共に種々の疾患の診療に当たった．

診療内容

1）外来　整形外科としては，月・水・金曜日の初再診，木曜日の紹介初診という体制で臨んだ．救急科の対応により，手術中などでの人手不足時の診療断りが今年も大幅に減少した．救急科とは密に連携して，外来診療から入院への引継ぎを行った．

2）手術　2023年（1月1日～12月31日）の手術件数は897件で，新型コロナウイルス感染症流行による影響を受けて大幅な減少となっていた昨年を大きく上回った．手術の内訳は外傷が中心であるが，脊椎外科，関節外科，手の外科，小児に至るまで症例は満遍なく，かつ豊富である．緊急度の高い感染症例，麻痺症例，開放骨折や脱臼に加え，小児の骨折や高齢者の大腿骨近位部骨折も準緊急として，可能な限り搬送当日の手術を行うように対応した．外傷手術が救急受入の数に応じて増加しており，手術内容も高度になってきている．症例によっては，指導医を他機関より招聘して行い，更なるレベルアップを試みている．

内科的合併症を有する患者の手術への対応が引き続き必要とされており，近隣医療施設からの紹介も多い．全身状態が悪いケースが多く，患者管理の難易度も高くなっているが，総合内科・麻酔科の強いバックアップと連携で対処している．大腿骨近位部骨折に対しては，2019年以降はヒップフラクチャーセンターとして対応している．

2023年のトピックス・実績

・ヒップフラクチャーセンター：運用が4年目となり，大腿骨近位部骨折の対応についての初療は救急科と連携し，入院が決定すれば総合内科と連携しながらの診療がスムーズに行えている．

・骨折リエゾンサービス（FLS：Fracture Liaison Service）：以前より高齢者の症例に対しては，手術を行うと同時に骨粗鬆症加療を施行しており，その延長上として多職種協働でのFLSを2022年に立ち上げた．脆弱性骨折患者がFLSの恩恵を享受し，二次骨折を回避，QOLを維持し，可能な限り多くの病院・医院において二次骨折予防の取り組みを効率的に行えるよう指標を提供することを目的とし運用を継続している．

・経皮的椎体形成術（BKP：Baloon Kypoplasty）：寝たきりの原因の一つである椎体骨折の治療として，経皮での椎体へのセメント注入治療があり，2023年より当院でも開始した．圧迫骨折患者の急性期の疼痛軽減に効果があり，対象の圧迫骨折患者に行いADLの改善を得ている．

・手の外科治療：以前より対応していた外傷疾患に加えて，顕微鏡を使用した神経血管縫合といったマイクロ手術や，手の慢性疾患治療も行うようになった．

今後の展望

『医師の働き方改革』もあり，以前に行っていた長期休暇中の手術加療や，時間を問わない救急対応は今後も敢行するのは難しい状況である．限られた時間の中での対応を目指し，ヒップフラクチャーセンターからさらに骨折リエゾンサービスへと質向上を行うことで，実績維持・増加を目指している．また，新たな治療として脊椎領域でも経皮的椎体形成術（BKP）治療が導入され徐々に実績をあげている．以前は対応できなかったマイクロ手術を行うことが可能となった．絶対数の少ない症例であるが，可能な範囲での治療実績を目指している．

表．手術実績　（単位：件）

手術名	件数
脊椎外科	65
人工関節手術（股関節・膝関節）	43（17・26）
人工骨頭置換	99
外傷（上肢・下肢・手部足部）	512（162・241・109）
スポーツ	23
上肢・手	63
下肢	46
小児（主に外傷）	39
腫瘍（良性腫瘍）	7
合計	897

産婦人科

スタッフ紹介

副院長，主任部長：宮原義也（1996年卒）婦人科悪性腫瘍手術，婦人科化学療法，周産期管理
部長：細谷俊光（1996年卒）腹腔鏡手術，子宮鏡手術，周産期管理
部長，ロボット手術・低侵襲手術支援センター　副センター長：松岡正造（1998年卒），婦人科低侵襲手術，周産期管理
医長：林田恭子（2003年卒）腹腔鏡手術，周産期管理
医長：江島有香（2010年卒）腹腔鏡手術，周産期管理
医長：夏山貴博（2013年卒）腹腔鏡手術，ロボット手術，周産期管理（2023年4月～）
医長：山崎　亮（2013年卒）腹腔鏡手術，周産期管理（～2023年3月）
医員：北口智美（2014年卒）腹腔鏡手術，産婦人科全般（2023年4月～）
医員：下川　航（2014年卒）腹腔鏡手術，産婦人科全般（～2023年3月）
医員：嶋村卓人（2016年卒）腹腔鏡手術，産婦人科全般（～2023年3月）
医員：三木玲奈（2017年卒）腹腔鏡手術，産婦人科全般
後期研修医：新田勇人（2019年卒）産婦人科全般
後期研修医：野々川結依（2020年卒）産婦人科全般（2023年4月～）
後期研修医：一宮素奈（2021年卒）産婦人科全般

診療内容

現在常勤11名で外来，病棟，手術，救急診療を行っている．そのうち産婦人科専門医：8名，指導医：3名，産婦人科内視鏡技術認定医：1名，婦人科腫瘍専門医：1名，周産期新生児学会専門医：2名である．神戸大学，千船病院及び高槻病院研修プログラムに属しており常時1-2名の後期研修医を受け入れている．

外来は婦人科及び初診は担当医制，産科はフレキシブルな対応が可能な交代制としている．午前3診，午後1診で1日平均100-120名の患者の診察に当たっている．

2023年のトピックス・実績

【実績】

2023年の分娩実績を表1に示す．総分娩数は1,058件であり前年比128%と大幅に増加した．

2023年の総手術件数を表2に，低侵襲手術件数（腹腔鏡手術＋ロボット手術＋子宮鏡手術）の推移を図1に示す．

総手術件数は867件であり前年比107%と増加したが，低侵襲手術件数はわずかに減少した．また帝王切開術は351件と前年比144％であり大幅に増加した．これは分娩数増加に伴うものと考えられた．

2023年の紹介実績は1,256件であり昨年（1,249件）とほぼ同等であった．紹介元である医療機関は主に明石市内であるが，姫路，加古川，高砂から神戸まで非常に広範囲から初診紹介を受けている．

【トピックス①】

2023年の総分娩数は1,058件と8年ぶりに1,000件を突破した．無痛分娩を導入したことが大きな要因と考えられるが他にも産科外来におけるシステム化，診察ブースの増設，4Dエコー，明石市内の産婦人科2医院の協力を得てセミオープンシステムの開始，助産師外来の充実なども要素と考えられる．

【トピックス②】

2022年9月より産婦人科医ではなく麻酔科専門医が行う無痛分娩を開始した．無痛分娩外来を設置し危険性について説明し計画無痛分娩を行っている．2023年12月までに149症例に対し無痛分娩を行い，合併症やトラブル無く良好な結果を得ている（図2）．

今後の展望

①分娩数増加に向けた取り組みとして24時間対応の無痛分娩をできるだけ早く導入する．
現在は計画無痛分娩のみであるができるだけ早期に24時間対応の無痛分娩を開始したい．これにより更なる分娩数増加が期待できる．

②分娩数増加及び外来患者数増加に対応するためセミオープンによる妊婦検診システムの拡大
現在，明石市内の産婦人科2医院の協力を得てセミオープンシステムを開始した．今後さらに協力医院を拡大することで患者サービスの向上や分娩数増加が期待できる．

③ロボット支援下子宮全摘術手術の件数増加
子宮筋腫や骨盤臓器脱といった良性疾患だけでなく，子宮体癌などの悪性腫瘍に対するロボット支援下子宮全摘術手術も導入したい．

④悪性腫瘍手術の増加により日本婦人科腫瘍学会認定研修施設を目指す．

以上を今後の目標としたい．

表1．分娩実績

	件数
総分娩件数	1,058
分娩様式	
正常	707
帝王切開	351
死産	12
双胎	26
無痛	99
院内助産	124
初産	539
経産	519
体重別（g）	
1,000～1,499	2
1,500～1,999	24
2,000～2,499	103
2,500～3,999	923
4,000～	6

（単位：件）

	件数
週数別（週）	
～21	7
22～29	3
30～31	1
32～34	24
35～36	48
37～41	974
42～	1
年齢別（歳）	
～19	2
20～29	320
30～39	656
40～	80

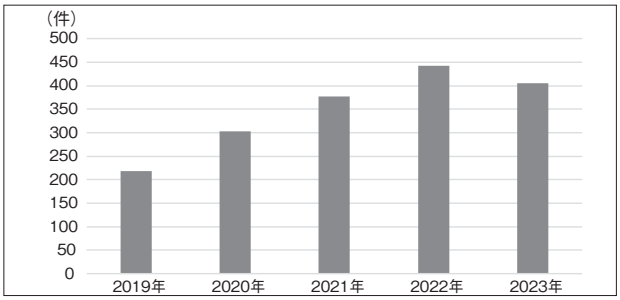


図1．低侵襲手術件数

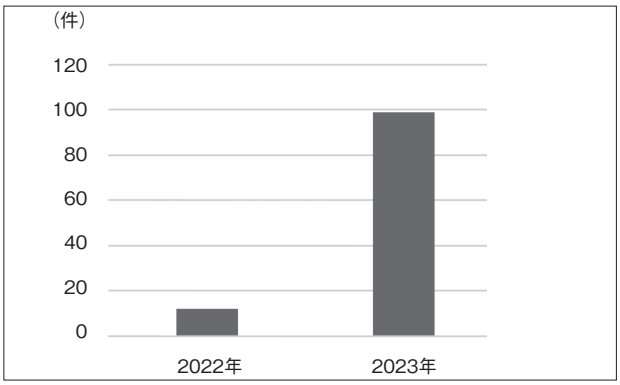


図2．無痛分娩数

表2．手術件数

（単位：件）

		件数
開腹手術		
	単純子宮全摘術	21
	附属器摘出術	0
	子宮筋腫核出術	5
	悪性腫瘍手術	12
	異所性妊娠手術	0
	その他	24
	合計	62
腹腔鏡手術		
	子宮全摘術	103
	卵巣腫瘍摘出術	127
	子宮筋腫核出術	36
	悪性腫瘍手術	2
	異所性妊娠手術	36
	仙骨腟固定術	12
	ロボット支援下子宮全摘術	24
	ロボット支援下仙骨腟固定術	24
	その他	6
	合計	370

		件数
経腟手術		
	円錐切除術	36
	子宮鏡	36
	腟式子宮全摘術	0
	その他	12
	合計	84
帝王切開術		
	予定	157
	緊急	194
	合計	351

総合計	867

麻 酔 科

スタッフ紹介

主任部長　三宅隆一郎
部　　長　岡本健志
医　　長　藤島佳世子
　　松尾佳代子
　　濱﨑　豊
　　山崎翔太
医　　員　田中　舞
　　山田真士
　　森本優佳子
　　菅野　睦（産休中）
専 攻 医　欅田紗季
　　松本あい
　　今岡　航
　　西　進介（2022年10月より大阪市総合医療センターにて出向研修）

診療内容

○手術室・アンギオ室・内視鏡室・LDRでの麻酔業務を行った.
○夜間当直帯のICU業務と緊急麻酔を行った.
○入退院支援での麻酔科術前診察を行い，家族を含めた麻酔の術前説明・周術期歯科連携の充実を図った.

2023年のトピックス・実績

○松尾医師による無痛分娩の開始
○明石市消防局所属の救命士の挿管実習を行った.

今後の展望

日本麻酔科学会と日本心臓血管麻酔学会の専門医修練施設であり，幅広い知識と必要な情報・経験を得られるよう麻酔研修プログラムを作成して，全国から麻酔科専攻医を受け入れている．連携施設から専攻医の研修を受け入れて，相互連携を強めている．また，日本集中治療医学会の専門医研修指定病院でもあり，サブスペシャリティとして集中治療領域の知識向上を図って周術期の安全に役立てている.

松尾医師を中心として産科麻酔科医による安全かつ満足度の高いlabor analgesiaを提供することで地域における無痛分娩のニーズに対応している．今後も周産期麻酔の件数と分娩件数の更なる増加を目指していく.

充実した研修を通して麻酔科医の確保と，愛仁会麻酔科の連携を強化して急性期医療を行う医療機関としての向上を目指していく.

表．麻酔科実績

【合　計】（単位：件）

手術件数	3,361	（うち手術室内　3,188，手術室外　173）
提供停止症例数	0	

【手術部位】（単位：件）

a．脳神経・脳血管	0	h．頭頸部・咽喉部	4
b．胸腔・縦隔	181	k．胸壁・腹壁・会陰	263
c．心臓・血管	521	m. 脊椎	82
d．胸腔＋腹部	0	n．股関節・四肢（含：末梢神経）	701
e．上腹部内臓	320	p．検査	3
f．下腹部内臓	876	x．その他	52
g．帝王切開	358	合　計	3,361

【麻 酔 法】（単位：件）

A．全身麻酔（吸入）	661	F．硬膜外麻酔	5
B．全身麻酔（TIVA）	321	G．脊髄くも膜下麻酔	740
C．全身麻酔（吸入）+硬・脊，伝麻	844	H．伝達麻酔	9
D．全身麻酔（TIVA）+硬・脊，伝麻	643	X．その他	26
E．脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔（CSEA）	112	合　計	3,361

【経験必要症例】（単位：件）

胸部外科	149
脳神経外科	0
心臓血管外科（1群）	131
心臓血管外科（2群）	234
帝王切開	358
小児（6歳未満）	3
合　計	875

集中治療科

スタッフ紹介

多田羅康章
小阪真之
米田優美

診療内容

・集中治療室における患者管理
・ICU入室予定の緊急手術対応（麻酔科対応困難時）
・入退院支援室での周術期外来
・無痛分娩担当麻酔科医不在時の対応
・術後患者疼痛管理及びAPS回診

2023年のトピックス・実績

・内科後期研修プログラム医師の研修
・他施設の認定看護師・特定行為研修の受け入れ
・早期離床リハビリ・早期栄養加算の獲得
・集中治療科専門医機構研修開始

今後の展望

・特定行為・認定看護師増加による人工呼吸器管理のタスクシェア
・内科後期研修プログラム医師の研修増加
・NPプログラムを含めた看護師特定行為資格者の増加に向けた研修先の提供
・術後患者疼痛管理の強化
・集中治療加算1取得に向けた施設設備面以外での準備
・集中治療加算1取得に向けた施設面での計画推進

Ⅶ

井　上　病　院

10:1急性期病院
地域包括ケア病棟
血液透析治療
腹膜透析治療
訪問診療/訪問看護/訪問リハビリテーション
全127床
外来血液透析ベッド200床

〒564-0053
大阪府吹田市江の木町16番17号
TEL.06-6385-8651

院長　右梅貴信（～2023年3月）
　　辻本吉広（2023年4月～）

腎臓内科

スタッフ紹介

藤原木綿子：日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医，日本透析医学会透析専門医・指導医，日本腎臓学会腎臓専門医・指導医，PKD認定医

一居　充　：日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医，日本透析医学会透析専門医・指導医，日本腎臓学会腎臓専門医・指導医，日本医師会認定産業医

前田忠昭　：日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医，日本腎臓学会専門医，日本透析医学会専門医

福永　慎　：2023年3月退職
日本内科学会認定内科医，日本透析医学会透析専門医・指導医，日本腎臓学会腎臓専門医，日本透析アクセス医学会VA血管内治療認定医

奥手祐治郎：日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医，日本腎臓学会専門医

山口聖良　：2023年7月退職
日本内科学会認定内科医，日本腎臓学会腎臓専門医

診療内容

（入院病棟）

・対象疾患：腎炎・ネフローゼ症候群（腎生検を含む），急性・慢性腎不全，血液透析や腹膜透析の導入，透析患者の合併症管理

（外来）月曜日－土曜日，専門医による腎専門外来・対象：糸球体腎炎，慢性腎臓病
水曜日－多発性嚢胞腎外来

月2回直近で内科外来通院予定のCKDG5の患者について，CKDチームによる多職種カンファレンスを実施している．チームから提案し，腎看護外来で適切な時期に腎代替療法説明を計画実施している．

2023年のトピックス・実績

腎炎，ネフローゼを中心とした腎疾患の腎生検診断・治療と，慢性腎不全患者の外来診療，透析導入，合併症加療を行った．腎生検は14件実施し，生検結果の内訳は微小変化型6件，IgA腎症4件，その他4件であった．CKD教育入院は8件であった．

外来部門では2018年から活動を開始し，腎臓病療養指導士7名を含むCKDチームを主軸に活動を継続した．チームは腎臓内科医師・看護師（内科・腹膜透析科）・社会福祉士・栄養士・健康運動指導士・薬剤師・事務で構成されている．2023年は内科外来へCKD患者345名が通院し，そのうちCKD5期の110名にチームが介入した．声を掛けやすい診察待ち時間に看護師・社会福祉士が関わるようにし，患者背景の把握や，半年から年単位の時間をかけた均一なCKM（Conservative Kidney Management）含む腎代替療法選択説明を行っている．また2022年から腎看護外来を開設し，腎代替療養指導士の資格を持つ看護師がじっくり患者と対話する時間を確保した．

CKD3-4期への取り組みとしては，腎不全の進行を予防するため，健康運動指導士・栄養士を中心にした腎臓リハビリを行い，2023年は26名に介入した．

透析患者の入院部門では，透析導入HD45件，PD12件だった．透析患者の合併症入院1,144件であった．透析患者の合併症の入院の1位はシャントトラブルで225件（19.7%）であった．

特殊血液浄化として，CHDF6件，腹水濾過濃縮再静注法2件，血漿交換0件，レオカーナ310件を行った．

外来透析部門では，透析患者656名の管理を行った．その中でもオーバーナイト透析が前年に引き続き好評を得ており，44名と2022年より15名増加した．その他在宅透析6名，腹膜透析44名の診療を行った．

今後の展望

当院は日本腎臓学会，日本透析医学会，日本糖尿病学会の教育施設である．2021年には腹膜透析研修施設の認定があり，腹膜透析研修を年2回行い，8名の受講があった．

高齢化社会になっていく今後10年は，当院が実績をもつ幅広い透析の提供を継続して行うとともに，嚥下障害や骨折，閉塞性動脈硬化症など高齢に伴う合併症加療を他科と協力して対応していく．また腎臓専門病院として近隣のクリニックと連携を続け，保存時腎不全CKD3bからのCKDチーム介入により，腎不全進行抑制や，腎代替療法選択説明にも引き続き力を入れていく．

保存期腎不全の取り組みとして，腎臓リハビリでは，運動が腎予後に影響するデータを集約解析し，今後さらに井上病院が地域のCKD医療をけん引することを目標とする．

循環器内科

スタッフ紹介

常勤医1名　高井栄治　1994年卒業
非常勤の循環器専門医2名（大阪大学医学部2名）

診療内容

主に透析患者，慢性腎臓病患者の循環器疾患に対して，循環器専門医として，入院，外来診療を行った．循環器合併症に際して，基幹病院と適切に連携を行った．

常勤医として，外来，入院の担当以外，循環器診療についてのコンサルテーションを受け，対応している．

2023年のトピックス・実績

循環器外来受診患者数は延べ1,402名であった．その内訳は移植腎患者51名，透析患者262名と，腎臓，透析専門病院に特徴的な比率であった．

常勤医が受け持った，循環器入院患者は121名であった．

今後の展望

透析患者では，冠動脈疾患，閉塞性動脈硬化症などの動脈硬化性疾患と，心臓弁膜症，不整脈が高頻度で出現している．

虚血性心疾患では，無症候性心筋虚血が多く，急性冠症候群の発症には注意が必要である．適切な時期に，心筋虚血，冠動脈病変の評価，治療が行えるよう丁寧に診療し，基幹病院と連携を行っている．

大動脈弁狭窄症では，病態管理と基幹病院との連携が特に重要である．治療については，人工弁置換術が中心であり，適切な手術時期の判断が重要である．透析患者における保険診療が開始されたTAVI治療も考慮して慎重に診療している．

透析患者での心房細動における抗凝固療法は，現状ワーファリンのみであるが，人工弁患者など以外では禁忌とされている．しかし，心内血栓，脳血栓塞栓症2次予防には必要であると考えている．出血性合併症の懸念があり，導入，管理は慎重に行っている．

血栓塞栓症予防以外に，心不全や透析困難症回避のためカテーテルアブレーション治療が有効であり，基幹病院と適切に連携している．透析患者のアブレーション治療の成功率，再発率を懸念し，心拍数コントロールの重要性を再認識し，診療を行っている．

透析患者だけではなく，入院，外来の非透析患者に対しても真摯に丁寧な診療を行っている．近隣基幹病院だけでなく，法人内連携も積極的に行っている．

吹田，江坂地域の患者に役立つ医療を提供できる環境を，今後も強化していく方針であるが，常勤医が2023年度で異動となったため，非常勤医へのコンサルタントで対応する．

眼科

スタッフ紹介

眼科医　常勤1名（前田裕宇樹）
　　非常勤3名（福山　尚，佐藤圭子，吉田史子）
検査員　3名（福崎みなみ，矢野ゆうか，掛谷昌代）

診療内容

外眼部疾患から眼底疾患までの診療を行い，必要時には症状に応じて専門医へ紹介している．

2023年のトピックス・実績

白内障手術や硝子体注射治療，適宜視野検査を行っている．

視野検査	402件
白内障手術	81件
硝子体注射	25件

白内障手術，硝子体注射は兵庫医科大学から派遣された非常勤医師とともに行っている．

第3水曜日の午後には視覚障害申請のための外来を行っている．

今後の展望

透析患者，糖尿病患者の眼合併症の診断・治療を適切に行い，長期に通院を継続できる眼科を目指す．また，白内障手術を積極的に行っていく．

糖尿病内科

スタッフ紹介

2023年は日本糖尿病学会認定教育施設として，糖尿病研修指導医が3名，糖尿病専門医が2名在籍して臨床と研究に従事している．また，糖尿病療養指導士として7名（看護師が3名，管理栄養士が3名，薬剤師が1名），糖尿病看護認定看護師が1名，フットケア指導士が5名活動している．

診療内容

糖尿病専門外来は毎日行う体制で，日本糖尿病学会指導医，専門医による糖尿病の診断・治療を行うとともに，外来糖尿病教室や糖尿病教育入院を担当している．さらに，地域医療を重要視し，糖尿病内科医師全員が他科と協力して一般内科の診断治療や救急対応の担当にも従事している．糖尿病合併症は，全身の合併症を診療する必要があり，他専門科と連携を行っている．糖尿病教育入院は，約1週間の入院期間中に医師，看護師，薬剤師，管理栄養士，理学療法士，臨床検査技師とのチーム教育医療により，糖尿病の知識や自己管理の向上に寄与する．多様な要望に合わせ，注射手技の獲得や低血糖の対処法の指導など週末短期入院も行う．糖尿病性腎症は，早期の糖尿病性腎症から腎不全治療，透析導入まで一貫した治療が可能で，腎機能に合わせた血糖管理を行っている．フットケア外来は毎週1回開設しており，糖尿病合併症管理料の算定ができている．地域の健康増進と疾病予防の目的のため行ってきた健康教室は，新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，引き続き2023年も開催は休止し，ホームページや待合室のテレビ放映での啓蒙活動を行った．

2023年のトピックス・実績

糖尿病の外来診療では，糖尿病の薬物・注射療法を行った人数は年間749名と毎年多数の通院患者が通われている．また糖尿病透析予防指導は，2023年の登録者数は12名であり，数年継続されている方も多数登録している．フットケア外来では30名に糖尿病合併症管理料の算定がなされた．一方，入院については，糖尿病教育クリニカルパスの運用数は11件であった．

今後の展望

患者数が増加し続けている糖尿病は本院の基幹診療部門である慢性腎不全，人工透析の原疾患として，その初期診療から保存期，透析導入まで一貫して医療を行える本院の医療体制の重要性は，繰り返し強調されるべきである．高齢化社会における糖尿病診療は，個々の病歴や合併症，社会背景を踏まえた治療が求められ，多職種でのチーム医療が必要である，また，糖尿病は種々の血管病変，各種の悪性腫瘍，そして今後更に増加する認知症などとの関連性も明らかであり，その診療の重要性は地域医療のためにゆるぎないものである．今後も糖尿病学の進歩に遅れることなく，最良の医療を提供できる体制を維持していきたい．

消化器内科

スタッフ紹介

2023年も2022年と同様に，上部消化管内視鏡検査は大野恭太，下村菜生子が，下部消化管内視鏡検査，嚥下内視鏡検査，内視鏡的治療の止血術，大腸ポリープ切除術，内視鏡的胃瘻造設術，胃瘻ボタン交換は大野恭太が担当した．胃瘻造設は下村菜生子の協力のもとに施行した．消化器専門外来は大野恭太が担当した．他には非常勤医が肝臓専門外来を開いている．本院の診療機能から見ると，マンパワーとしては満足できる状況であり，消化器外科が稼働していない現状ではこれ以上のマンパワー導入は非現実的であろう．

診療内容

定期の消化器外来は従来通り週2回，定期の上部消化管内視鏡検査は週3回，下部消化管内視鏡検査は週2回である．嚥下内視鏡検査は火曜日，あるいは金曜日の午後，胃瘻交換は月2回金曜日午後，内視鏡治療については必要時に随時施行した．非透析患者の消化器関連の入院患者があれば可能な限り大野が担当していることもこれまでと同様であった．

2023年のトピックス・実績

2023年（2023/1/1から12/31，以下同様）の上部消化管内視鏡検査は387例であり，前年（2022/1/1から2022/12/31，以下同様）の451例より減少となった．新型コロナウイルス感染症流行で検査間隔が延長しても大きな問題がなかったことから，定期検査の間隔がそのままとなったことが大きいと思われる．また下部消化管内視鏡検査は2023年167例であり，前年196例より，やはり大幅な減少となった．消化管出血の内視鏡的止血術は8例，大腸ポリープ切除術は41例であった．嚥下内視鏡検査は19例（前年12例），内視鏡的胃瘻造設術が8例（前年12例），胃瘻交換が40例（前年31例）であった．胃瘻造設は本院の透析患者が長期経口摂取不能な場合に，主治医の依頼で行っている．胃瘻交換の大半は院外の施設からの紹介患者であり，法人（愛仁会）の老健施設からの依頼以外に，他施設や在宅からの紹介もあり，本院での造設例以外の症例も受け入れており，放射線科の協力の下，透視台での作業を行っている．

また内視鏡システムをオリンパス社製からフジフィルム社製へと変更した．同社のシステムは2種類の特殊光観察とAI診断機能を有しており，診断能の向上に繋がることが期待される．2024年度の診療報酬改定では大腸ポリープ切除術時には加算が設定されているので，取得の調整を行っている．

今後の展望

消化器外科のない本院での消化器内科の活動には限界があることは同様である．特に胆道系の疾患を扱うためには，複数の熟達した消化器内科医と，そのバックアップとなる消化器外科の存在が必須であり，癌診療への対応を避けられないとなれば本院では扱えない．また緊急での外科対応が，ある確率で必ず必要となる腸閉塞は，内科単独で完結可能な症例であっても，切れ目のない経過観察とそれに付随した適切な対応が必要であり，やはり受け入れ困難である．消化管出血も対応する医師が一人であれば，時間帯によっては対応困難となる．本院の消化器内科は，本院の維持透析患者の消化管出血が本院で対応できるか否かの見極めのために存在意義がある．抗血栓剤を内服している患者が多く，微細な病変から繰り返し出血するケースが多数を占め，出血性ショックには至らないのが通常であり，一人医長体制でも何とか対応可能である．実際2週間に一人程度の緊急内視鏡検査の要請は，このような症例がベースとなっている．嚥下内視鏡検査は嚥下造影検査に比べて，ベッドサイドで被爆することなく容易に施行でき，ますます増加してくる誤嚥性肺炎の患者の嚥下機能の評価，嚥下リハビリの効果判定には有力なメソッドであり，NSTチームを通じての依頼によって施行している．胃瘻造設の必要性の見極めにも有用である．下部消化管内視鏡検査については本院で検査が再開されて8年目となり，2回目，3回目の大腸内視鏡検査を希望されるリピーターの増加が検査数の維持に大切である．ただベースとなる透析患者の高齢化が進んでおり，経過観察も卒業となるケースも増えてきている．検査数が減少する要因の一つである．消化器外科がないことから，内視鏡検査，治療において事故を起こさない安全な対応を行うことを最優先に施行している．これまでのところ大腸ポリープ切除後，あるいは他の内視鏡手技後の重篤なトラブルは最小限に抑えられている．

今後もこの安全な内視鏡検査，内視鏡的治療を維持することが第一であることに変わりはない．

泌尿器科

スタッフ紹介

大北恭平
川越淳平（2023年4月～9月）
道場啓介（2023年10月～）
本年も引き続き常勤医2名での診療体制となっている．

診療内容

外来診療，入院診療及び手術加療を行っている．詳細は後述する．

2023年のトピックス・実績

尿路悪性腫瘍手術（副腎，腎，膀胱，前立腺，陰嚢）を行っている．昨年に引き続き，経直腸的前立腺生検，経尿道的手術，尿管ステント留置術，腎瘻造設術などを行っている．また，腎腫瘍に関しては腹腔鏡下手術も積極的に行っている．さらに2021年より経尿道的尿管結石破砕術（f-TUL）を導入し，結石治療も積極的に行っている．

2023年泌尿器科手術件数を表に示す．

表．手術件数

（単位：件）

手術名称	件数
経尿道的尿管ステント留置術	20
経尿道的尿路結石除去術（レーザーによるもの）	6
膀胱悪性腫瘍術（経尿道・電解質溶液利用）	6
経尿道的尿管ステント抜去術	5
尿道狭窄拡張術	2
腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	2
膀胱腫瘍摘出術	2
経尿道的尿管ステント留置術	1
陰嚢水腫手術（その他）	1
外尿道腫瘍切除術	1
経皮的腎（腎盂）瘻造設術	1
腹腔鏡下腎摘出術（良性腫瘍）	1
包茎手術（環状切除術）	1
膀胱結石摘出（膀胱高位切開）	1
膀胱結石摘出術　経尿道的手術	1
総計	51

今後の展望

昨年に引き続き，泌尿器科は2名体制で日々の診療に当たっている．

また，手術では2021年より経尿道的尿管結石破砕術（f-TUL）を導入し，手術件数の獲得に努めている．また近年ロボット手術が主流となっている泌尿器科手術であるが，当院においては，患者背景（透析患者が主であることなど）もあり，腹腔鏡下腎摘除術を積極的に行っていこうと考えている．来年も引き続き，結石治療をはじめ，前立腺生検，経尿道的手術や腹腔鏡手術も継続し，更なる手術件数の上昇を目指したい．

透析内科

スタッフ紹介

常勤透析専門医や常勤腎臓内科専門医及び糖尿病専門医が中心となって，約600名の患者の透析回診を行っている．また看護師・臨床工学技士・医療事務（診療支援科）も，現場で透析患者の診療に携わっている．

診療内容

当院には外来透析200床の透析ベッドがあり，常勤透析専門医・腎臓内科専門医・糖尿病専門医が中心となって透析管理を行っている．基本的に1名の患者に対してデータ回診医1名と透析管理医師2名で回診しており，複数の目で患者の状態を把握できる診療体制となっている．様々な透析合併症の早期発見を行うために，回診医の指示などにより各種アセスメントの充実，様々な指導が行われている．

2023年のトピックス・実績

2022年に診療報酬改定時に，「透析時運動指導等加算」が新設された．血液透析患者に透析中の運動療法を20分以上実施することで算定できることとなった．当院でも実施に向けて運動療法のプログラムを作成し，2023年より本格的に開始した．まず透析棟6階の午後の対象者から開始し，現在までに20名程度の患者で実施している．

透析患者の高齢化によりADL低下や低栄養状態の患者が増加している．それに対し，2017年8月より【いつまでも元気にプロジェクト】が開始された．栄養・運動・疲労/睡眠を3つの柱として取り組んでいる．このプロジェクトを周知し更に広めていくために，2023年春に透析棟の職員へ勉強会を開催した．その後，疲労/睡眠の取り組みについては，臨床工学技士と看護師を中心に疲労度検査と疲労/睡眠のアンケートを順次実施し，結果をもとに透析条件や睡眠時の無呼吸検査などの提案を行っている．また運動については，新型コロナウイルス感染症により一時期中断していた健康度チェックを2023年に再開した．さらに2021年から通院透析患者に対し，新たに栄養評価としてNRI-JHの評価を開始した．栄養状態が悪い患者に対しては，栄養士が直接患者に聞き取りを行い，栄養状態改善を目指す取り組みを続けている．

2018年9月からオーバーナイト透析を開始した．2023年は，オーバーナイト透析患者が35名から42名へ増加した．開始後5年以上が経過し，この1年特にニーズが高まり順調に患者数が増えている．さらに在宅血液透析に対して潜在的な希望があると考えられ，2023年秋に多職種によるチームを立ち上げた．希望者の聞き取りから介入及びその後の指導についての流れを作成中である．

今後の展望

透析中の運動療法を開始し1年が経過している．課題となっていた映像システムについて準備が整う予定である．これに伴い今後6階以外のフロアの患者へも対象を拡大し，さらに患者数の多い午前透析患者へと広めていく方針となっている．そのためには多職種が協力して実施することが必要で，この1年の取り組みの結果を職員へ報告する勉強会を開催する予定となっている．

また透析患者の新たな集患を目的に，オーバーナイト透析を立ち上げ順調に進んでいる．その後希望者が増えており，受け入れを増やす体制を順次行っている．さらに在宅血液透析の可能性を考え，まずは夜間透析やオーバーナイト透析を希望している方へ治療法について新たに情報提供し，まずは治療法の選択肢が複数あることを知ってもらう取り組みを検討している．

放射線科

スタッフ紹介

森本　章
田中佐織
応援スタッフ
読影：非常勤医師　3名
透析シャントPTA：常勤内科医師　1名
　　非常勤医師　4名

診療内容

（画像診断）

CT・MRIなどの検査依頼が他科の医師からあった場合に，最も適切な撮影方法を診療放射線技師に指示し，安全で最適な検査を提供し，撮影されたCT・MRIの検査報告書を速やかに作成するよう心掛けている．

（透析シャントPTA治療）

狭窄や閉塞が原因で生じているシャントトラブルに対し，カテーテル治療を行っている．予約受付スタッフが適切に予約を振り分けてくれていることで，1時間/件の予約枠はほぼ埋まっている状態を維持している．シャント血栓閉塞治療も準緊急で予約外での対応を行っている．大半がエコー下PTAで行うようになり，放射線被曝も造影剤使用率も大幅に減少している．

2023年のトピックス・実績

2020年

CT	5,067件
MRI	1,856件
シャントPTA	1,231件

2021年

CT	5,127件
MRI	1,869件
シャントPTA	1,380件

2022年

CT	5,021件
MRI	1,992件
シャントPTA	1,391件

2023年

CT	4,969件
MRI	2,043件
シャントPTA	1,377件

今後の展望

画像診断に関しては最も多く紹介検査を依頼いただいていた近隣クリニックが閉院となり，紹介検査が減少傾向である．地域クリニックからの検査紹介を増やすために，当院の検査をもっと知っていただけるように努めていきたい．また地域基幹病院からの転院患者の病状把握を迅速に行えるように放射線科としてサポートしていく．

シャントPTAに関しては，当院でトレーニングを希望する医師が入職し始めており，トレーニングシステムの構築に取り組み始めている．その一方で，医師を確保できない場合に備え，診療放射線技師にエコー助手をしていただき，エコー下シャントPTAに取り組んでいる．シャントPTA件数はこれまで増加し続けてきたが，人工血管シャントの静脈吻合部狭窄へのステントグラフトや内シャントの狭窄に薬剤塗布バルーンによって長期開存できる症例が増加し，症例数が若干減少した．他施設からの治療紹介を増やすためにも，これまで以上に紹介していただきやすい環境を整えていきたい．

麻酔科

スタッフ紹介

坂本　元主任部長と稲田拓治部長（嘱託職員）の2名体制で麻酔業務を行っている．

診療内容

全身麻酔症例は月曜日から土曜日まで毎日対応している．また脊髄くも膜下麻酔のほか，小手術や血管造影検査に対するエコーガイド下神経ブロック，ハイリスク症例の局所麻酔下手術の全身管理，末期透析患者に対する緩和ケアなどの業務を積極的に行っている．

2023年のトピックス・実績

1.　活動実績

麻酔科管理症例数は394件であったが，約6割が透析患者，7割が重症加算対象患者であるのが当院の特徴である．

2.　新型コロナウイルス感染症対策

流行最盛期には自家製エアロゾルテント（ポリ袋）を使用し，麻酔導入前から抜管後まで患者の頭部をシールし飛沫の拡散を予防していたが，新型コロナウイルス感染症が5類に移行して感染症患者も減少したため，その対策を解除した．しかし，症例によっては無換気麻酔導入法を継続している．

3.　業績

日本麻酔科学会70回学術集会『全身麻酔中の体位別至適PEEPの検討～腹臥位にPEEPは不要である～』稲田/坂本

LiSA（周術期管理を核とした総合誌）2023;30:97-100.『透析患者の麻酔管理　12術中管理　カテーテル挿入』稲田

今後の展望

1.　症例数の増加は見込めないが，ハイリスク症例は確実に増えている．外科医と協力して，積極的に手術麻酔を行っていきたい．一方で，末期透析患者に対する手術の是非の見極めと患者及び家族への説明が重要となってくるので，単に同意を求めるのではなく，緩和ケアを含めた幅広い選択肢を提供し，ACPも推進していく必要がある．
2.　当院では約8割の症例に神経ブロックを併用している．全国的に麻酔関連の医療訴訟は神経ブロックが多い．現在までに問題となった合併症はないが，日常の繰り返しの中でも注意力を欠かすことなく，緊張感を持って業務に臨みたい．
3.　新型コロナウイルス感染症は5類に移行したが，今後新型株の流行やコロナ以外の新たな呼吸器感染症が発生する可能性は常に想定しなければいけない．全身麻酔はエアロゾル汚染のリスクであり，手術室スタッフの安全のためにも対策と準備を怠らないようにしていきたい．
4.　引き続き，学会での発表と論文作成を精力的に行っていきたい．

表1．麻酔方法別

（単位：件）

方法	件数
全身麻酔	72
全身麻酔＋硬・伝麻	258
伝達麻酔	54
くも膜下麻酔	7
その他	3
計	394

表2．ASA　PS（リスク分類）

（単位：件）

分類	件数
1（健康）	36
2（軽症）	117
3（重症）	220
4（瀕死）	10
1－4（緊急）	11
計	394

表3．年齢別

（単位：件）

年齢	件数
～18歳	0
～65歳	102
～85歳	233
86歳～	59
計	394

外科

スタッフ紹介

藤原一郎
福永　慎（透析関連手術）
山口聖良（透析関連手術）

診療内容

・血液透析関連手術
・腹膜透析関連手術
・その他：鼠径ヘルニア，内痔核などの手術

2023年のトピックス・実績

・全手術件数は減少であった．
・CAPD関連手術は微増であった．CAPD導入症例は困難を伴うことが多いが，CAPD関連手術は当院の特徴的治療の一つでもあるので今後も注力していきたい．
・AVF関連手術は微増にとどまった．AVG関連手術が減ったが，PTA関連のデバイスの改良によりPTA治療のウェイトが上がったためと考えられる．当院のPTA治療は非常に充実しているので手術が必要となる症例のAVF，AVG手術は極めて困難なことが多々ある．手術合併症の予防に細心の注意を払いたい．

今後の展望

最近は近隣のクリニック・病院のアクセストラブルにも積極的な介入が行われるよう病院として取り組みが行われ，円滑な受診や転院ができるようになってきた．難症例も多いが他職種と連携して患者に最良と考えられる医療を提供し，透析医療の先進的立場を維持していきたい．

表．手術数

（単位：件）

AVF　105件（△16）	造設	62	CAPD　24件（△4）	SMAP	6
	再建	20		CAPDカニュレーション	5
	静脈転移を伴う再建	2		出口部作成	6
	瘤切除	4		出口部変更	1
	静脈バイパス	3		抜去	6
	血流抑制	1		腸管癒着剥離術，固定	0
	血栓除去	0	留置型Wルーメン　45件（▲3）	留置，入れ替え	31
	閉鎖	11		抜去	14
	血管切除	2	その他　10件（▲10）	鼠径ヘルニア（腹腔鏡）	5
AVG　46件（▲31）	造設	27		鼠径ヘルニア（切開）	2
	バイパス	2		痔核切除	0
	抜去	9		ジオン硬化療法	0
	置換	4		CVポート	2
	血栓除去	2		臍ヘルニア，腸切	0
	閉鎖	2		腹壁瘢痕ヘルニア（腹腔鏡）	1
	グラフト縫合	0		腹壁瘢痕ヘルニア（切開）	0
	皮膚弁植皮	0		腹壁膿瘍	0
動脈表在化　1件（△0）		1		直腸脱（腹腔鏡）	0
				その他，創処置	0
			総計		231

心臓血管外科

スタッフ紹介

副院長・心臓血管外科主任部長　谷村信宏
心臓血管外科専門医・修練指導者　日本外科学会専門医・指導医　日本脈管学会認定脈管専門医・指導医
日本フットケア･足病医学会評議員，フットケア指導士及び学会認定師
日本胸部外科学会専門医会員（認定医）
ICD（インフェクションコントロールドクター）　近畿外科学会評議員

診療内容

主に末梢血管外科診療を行っているが，必要に応じて一般外科診療・外科救急診療にも対応している．

1. 包括的高度慢性下肢虚血（CLTI）への対応

血管内治療（EVT）だけでなく，外科的血行再建術にも積極的に取り組んでいる．当院の末梢血管症例においては，透析を伴った重症例が多いため，血管内治療で対応することが多かった．ただし，当科の十八番であるdistal bypass術の症例数は関西の血管外科施設の中でも1，2を争う症例数となっている．また神経ブロックを多用する低侵襲麻酔で，高齢者・重症患者に対しても安全に手術を行うことができるため，他院で手術不能とされた症例でも，必要に応じて手術することが可能であることも功を奏している．これらの手術成績は，学会等でも積極的に発表しており，可能な限り外科的血行再建術に移行するように方針転換してきた成果が認められてきており，他施設からの紹介も増加している．全国的にも，重症透析例に対する末梢血管手術を行っている施設が少ないため，今後も積極的に進めていきたいところである．さらに，足部壊死に対する下肢切断も形成外科医の協力の下，自科で行うことによって，包括的高度慢性下肢虚血（CLTI）に対する一貫治療を行っている．

2. 院内フットケアチームの創設

糖尿病内科木津部長とも協力し，院内のフットケア指導士･特定看護師等を中心に，院内フットケアチームを創設した．定期的に会合を持ち，情報共有を図りつつ勉強会も開催している．院内全体での下肢救済への取り組みを更に進めているところである．診療報酬としても「下肢創傷処置」や「下肢創傷処置管理料」も新たに算定できるようになり，チームの活動に追い風をいただいており，さらに発展させていきたい．

3. 新しい治療法の導入

HGF遺伝子治療用製品（コラテジェン®）及び新しいLDL-aphereis（レオカーナ®）を導入し，包括的高度慢性下肢虚血（CLTI）への治療選択肢が増加した．レオカーナ®については関西一の使用症例数があり，学会等でも発表の機会を得ている．

患者数の年次推移は概ね横ばいであった．また，本年も紹介患者は院内紹介だけでなく，院外からの紹介が増加しており，血管外科診療における施設間連携も功を奏していると考えられる．末梢血管の手術症例数については増加傾向であり，特に外科的血行再建術については治療方針の外科的手術への移行もあり，血管内治療と共に増加していた．今後も末梢血管手術に注力していくことに変わりはなく，それに関連した形成外科的手技についても積極的に関わっていきたい．

今後の展望

1. 院内フットケアチームもできており，今後も院内スタッフ教育に力を入れ，地域医療面でも市民公開講座や研究会等を主催して地域連携を深めたい．そのほか，当院で主催している北大阪フットケア勉強会，さらに関西血管外科倶楽部等に参加して関西の血管治療医やフットケアに携わる医療従事者と広く連携しており，今後もこの活動を更に広めていきたい．
2. 学会及び研究会等にて引き続き発表を行っており，愛仁会井上病院の知名度も上がってきている．今後も引き続き活動を広めていきたい．また，2025年度に日本フットケア・足病医学会関西地方会を主催することも決定しており，この分野での更なる発展を目指したい．
3. 当院は元々透析患者の診療が得意であり，他施設ではまねのできない部分である．この強みをいかし，今後も透析症例の包括的高度慢性下肢虚血（CLTI）に対して積極的に診療を行いたい．
4. 今後も当院での診療拡大を図るべく，新たな人材確保にも留意したい．

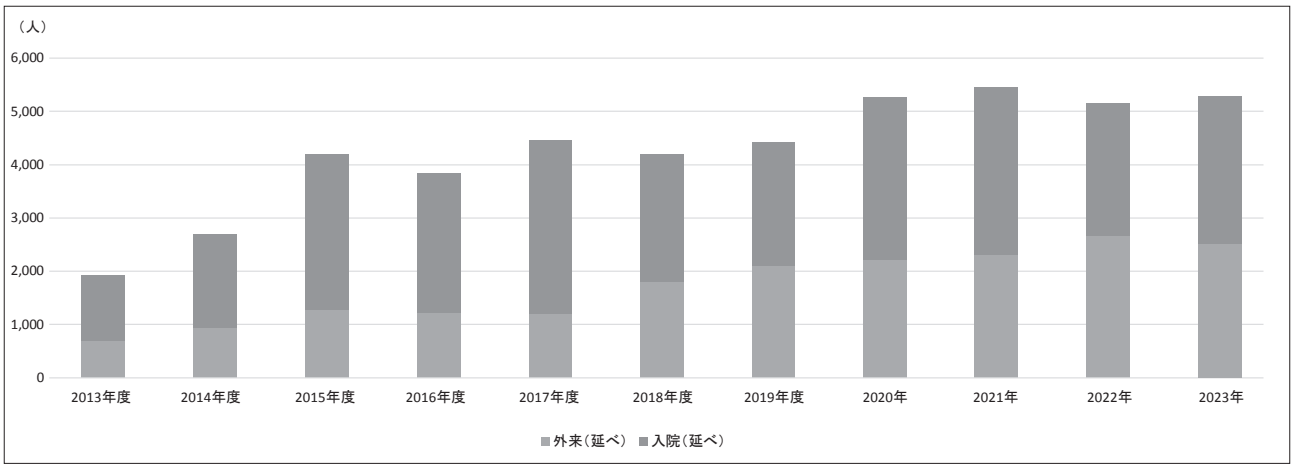


図1．患者数の年次推移（2020年以降年報の対象期間が1月1日～12月31日）

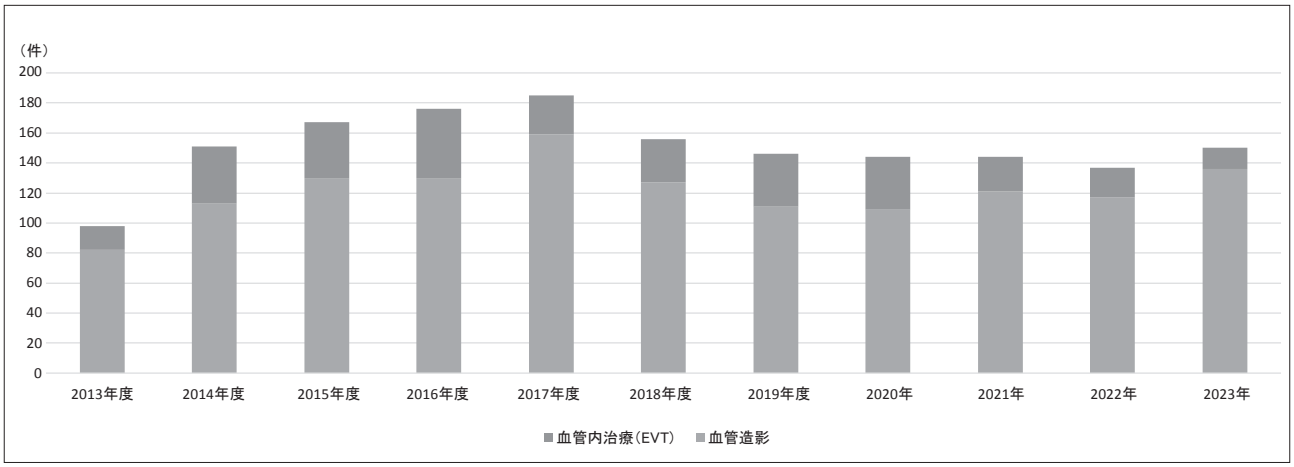


図2．血管造影及び血管内治療の年次推移（2020年以降年報の対象期間が1月1日～12月31日）

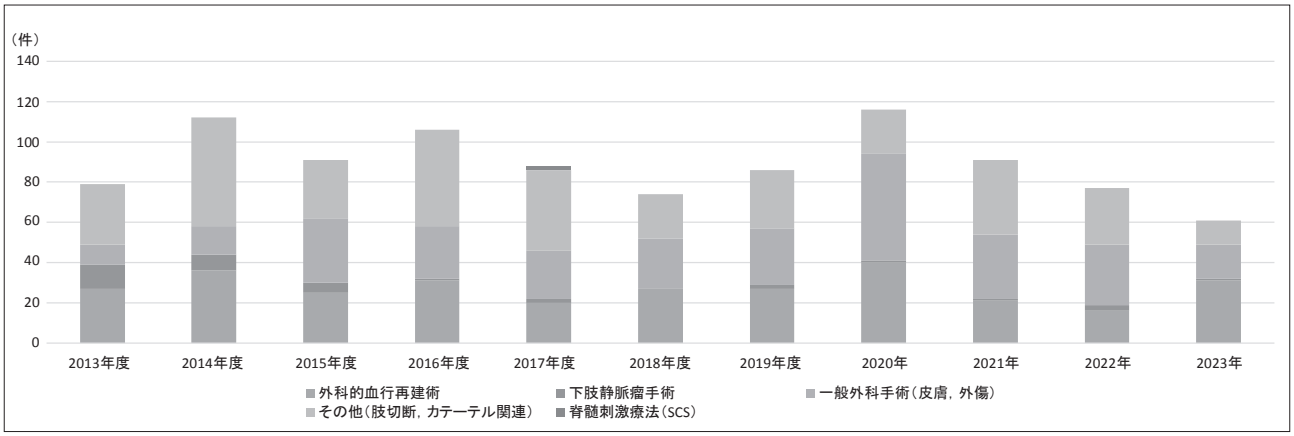


図3．手術症例の年次推移（2020年以降年報の対象期間が1月1日～12月31日）

リハビリテーション科

スタッフ紹介

リハビリテーション科
担当副院長　佐藤宗彦
科長　　山口勝生
副主任　　山﨑勇人
副主任　　外間志典
＜理学療法士＞　16名
＜作業療法士＞　4名
＜言語聴覚士＞　3名
＜健康運動指導士＞　1名

診療内容

①地域包括ケア病棟の運営
②入院患者のリハビリテーション
③外来患者のリハビリテーション
④透析患者の“いつまでも元気にプロジェクト”
⑤法人内の医療・介護施設と一体化したリハビリテーション運営

2023年のトピックス・実績

①2022年6月から要望の多かった訪問リハビリテーションを開始した．当初より依頼が多くあり，患者満足度の点からも，収益の点からも大きな進歩となっている．
②2020年4月から作業療法士の確保・環境整備により，PT・OT・ST三位一体のリハビリテーション遂行という悲願を達成できた．さらに作業療法士を3名体制に強化した．それにより疾患別リハビリテーションの施設基準が上がり，脳血管・廃用症候群がⅡからⅠとなったので，スタッフのモチベーションという点からも，収益の点からも，大きな進歩となった．
③2020年4月からリハビリテーション室が従来の2倍の広さとなり，窓も大きく，明るく広いリハビリ室となった．さらに3階に移動することにより，病棟からリハビリ室への患者移動の利便性が大きく向上した．これにより患者の満足度も向上している．
④2018年1月より地域包括ケア病棟の施設基準Ⅰを取得した．開設以来，PTの山﨑勇人を中心として順調に運営している．
⑤透析患者の健康寿命延伸のため，“いつまでも元気にプロジェクト”という，健康度チェック・生活運動指導を行っている．
⑥誤嚥性肺炎治療プロジェクトの一環として，入院患者の嚥下リハビリテーションにも力を入れている．研修を受けて，吸引実施資格を取得したPT3名，ST2名がおり，プロジェクトに貢献している．胃瘻造設時嚥下機能評価加算及び摂食嚥下機能回復体制加算1の算定も可能となった．
⑦腎臓リハビリテーションを行っている．CKDの患者の治療をリハビリテーションという面からもサポートしており，重要な役割を果たしている．

今後の展望

①作業療法士を4名体制にする（2024年4月から実現予定）ことによって，増加している作業療法の需要に応えていく．
②需要の多い訪問リハビリテーションを更に充実する．
③地域包括ケア病棟を更に発展させる．具体的には，様々な部署との連携・家庭訪問などの積極的実施等により，稼働率100%を達成し，在宅復帰率70%以上をキープする．
④透析患者の健康寿命延伸という目的に対し，リハビリテーション科として，運動・作業・言語聴覚嚥下機能の向上という視点から，三位一体の最大限の貢献を行う．臨床研究も更に推進していく．
⑤腎・糖尿病・骨粗鬆症専門病院として，それぞれ腎臓・糖尿病・骨粗鬆症リハビリテーションに力を入れていく．
⑥病院として誤嚥性肺炎治療に力を入れるとの方針があり，2024年4月から総合内科チームも井上病院に加わっていただけるので，言語聴覚士もチームの一員として最大限のパフォーマンスを発揮する．胃瘻造設時嚥下機能評価加算及び摂食嚥下機能回復体制加算1の算定継続のため引き続き施設基準要件の維持に努める．実績で示した吸引実施資格を取得したPTを増やしていく．
⑦愛仁会グループ施設の力添えもあり，リハビリテーション科の人的資源であるスタッフも年々充実してきている．新たな仲間も増えお互い切磋琢磨している．モチベーションの高いスタッフが，三位一体となり，明るく広くなったリハビリ室を活かし，ポテンシャルを最大限に発揮していきたい．

リウマチ科

スタッフ紹介

リウマチ科担当副院長　佐藤宗彦
日本リウマチ財団登録ケア看護師　2名

診療内容

関節リウマチ・乾癬・脊椎関節炎患者に対する，投薬・手術・リハビリテーション加療を行っている．

2023年のトピックス・実績

①当院は北摂地域の関節リウマチの拠点病院になっており，650名以上の関節リウマチ・乾癬・脊椎関節炎患者の継続加療を行っており，そのうち約400名に生物学的製剤・JAK阻害剤を使用している．バイオシミラーを含む9種類の生物学的製剤，5種類のJAK阻害剤を患者の症状に応じて，適切に使い分け使用している．
②学術的には，講演が75件であった．講演を聴いた医師・コメディカルに当院を紹介され初診した患者も多かった．

今後の展望

①北摂地域の関節リウマチの拠点病院の役割を担っていくために，700名以上の関節リウマチ・乾癬・強直性脊椎炎患者の継続加療を目指していく．
②リウマチケアナース，薬剤師，リウマチ科に従事する事務職員など，モチベーションの高いスタッフに恵まれており，“リウマチチーム医療によるリウマチ患者のトータルケアの推進”を基本理念として，臨床でも学術部門でも更なる高みを目指していく．
③医療経済的にも，減薬・スペーシング・バイオシミラーなどの導入により，永続的な高品質の医療を追求していく．
④この分野はベネフィット・リスクなどに関するエビデンスが日進月歩で進歩しており，常に新しいエビデンスを取り入れ，それに基づいた医療を行っていく．

整形外科

スタッフ紹介

整形外科担当副院長　佐藤宗彦

診療内容

①透析整形外科，②関節疾患，③脊椎脊髄疾患，④外傷・骨折，⑤骨粗鬆症に対する診療を行っている．

それぞれに対し，保存加療・手術加療を行っている．

2023年のトピックス・実績

Ⅰ：トピックス

骨粗鬆症をベースとした椎体骨折に対する椎体形成術並びに脊椎固定術の手術が当院でも施行可能となり，その手術が激増した．骨粗鬆症に対する有効性が最も高い骨形成促進薬であるロモソズマブは，当院の導入症例が世界で最も多いため，様々な情報発信を行った．

Ⅱ：実績

①手術：件数は月平均17.8件であり，年間でも目標であった200件を達成できた．昨年に比べ脊椎外科手術，特に上記した椎体形成術が増加した．また人工膝関節に関しても2019年9月より高槻病院の平中崇文センター長を招聘し，人工膝関節手術をしていただいている．手術時間も驚くほど短く，出血も少量で，侵襲も少なく，患者満足度の高い手術である．

②入院：1日平均入院患者数は，28.0人であった．救急また他施設からの入院転院の受け入れを積極的に行っている．そのため吹田周辺には救急を受け入れている基幹病院が数多くあるが外傷手術も多かった．また“入院転院依頼を断らない”をモットーにしているため，入院転院の受け入れも多かった．

③外来：1日平均外来患者数は，72.2人であった．2017年12月よりDXAが導入され，骨粗鬆外来をスタートし，骨粗鬆患者が著しく増加した．手術の増加が外来患者の増加にもつながっている．

④学術：和文総説3編，学会研究会発表3件，講演が57件であった．講演を聴いていただいた医師・コメディカルに当院を紹介され初診した患者も多かった．

今後の展望

①手術：椎体形成術並びに脊椎固定術の手術が可能となり，その手術も激増しており，積極的に情報発信を行い，当院の椎体形成術を多くの人に認知していただくように努力していく．脊椎を始めとし，前記全ての分野における前進を図る．継続して手術につながる救急を積極的に受け入れていく．平中崇文先生のお力をお借りしたハイレベルな人工膝関節手術を多くの患者に提供していく．

②入院：上記の手術目的入院を増やす．継続して，手術につながらない救急も積極的に受け入れていく．他院からのリハビリテーション目的，地域包括ケア病棟などへの紹介患者も積極的に受け入れているのでそれを継続する．

③外来：救急を始めとし，全ての分野における前進を図る．特にDXAの有効利用による骨粗鬆症患者の増患・個別化精密医療の推進を行う．

④学術：透析整形疾患の研究．一般整形疾患の患者啓発活動の更なる前進及び骨粗鬆症研究の推進を図る．

表．手術症例

（単位：件）

症例	件数
手術症例（うち透析患者）	214（44）
関節外科	105（12）
人工関節　股関節	7（2）
膝関節	32（1）
膝関節再置換術	2
足関節	0
人工骨頭挿入術　股関節	17（4）
股関節周囲骨折整復固定術	31（5）
肩腱板手術	1
膝肩関節滑膜切除半月板手術（鏡視下含む）	13
関節形成術	0
人工関節抜去	0
関節リウマチ足	2
手の外科	25（15）
手根管症候群	23（13）
手根管症候群の再発	2（2）
ばね指	0
その他	0

症例	件数
脊椎外科	35（5）
頚椎	7（1）
胸腰椎	2
腰椎	14（3）
椎体形成術	7
椎体形成術＋固定	4
抜釘術	1（1）
外傷外科	28（6）
骨折整復固定術	24（6）
腱縫合術	4
切断術	4（3）
大腿	2（2）
下腿	2（1）
足趾	0
断端形成	0
抜釘術	7
脱臼整復術	4
腫瘍	0
その他	6（3）

Ⅷ

井上病院附属診療所

健診センター
ケアプランセンター
ヘルパーステーション

〒564-0053
大阪府吹田市江の木町14番11号
TEL.06-6386-9525

院長　石津弘視

腎移植外来

スタッフ紹介

非常勤医師：5名
看　護　師：3名　※看護科長は健診センターと兼任
看 護 助 手：1名
事　　務：2名

診療内容

主に大阪大学医学部附属病院で腎移植手術を受けた後の患者の長期的なフォローアップを行っている．移植腎が長期に生着することを目的とし，移植腎が機能喪失する前に生命を失うことがないよう，癌検診や合併症予防に努めている．癌検診は，効率的に検査が受けられるよう，患者ごとに個別的な定期検査スケジュールを計画し実施している．また，合併症に関しては，データや自己管理の状況を確認し，必要な指導を実施している．高齢者も増加しており，在宅療養生活が困難な場合には，在宅サービス等と連携を取り支援している．また，ドナーのフォローアップも行っている．

2023年のトピックス・実績

新患3名（大阪大学医学部附属病院より），転入3名，転出5名，腎看護外来紹介3名，透析再導入5名（うち井上病院での維持透析4名），死亡3名．
※転出に関しては，患者の高齢化に伴って通院困難となり，近医に転院や在宅療養となっている．

問題のある患者に対して看護計画を立て，必要な情報を収集して統一した支援が行えるように，必要時にはカンファレンスを行った．訪問看護や調剤薬局等と協力し，患者が療養生活に困ることがないように支援した．

今後の展望

移植腎の長期生着・患者の高齢化により，通院困難や在宅療養が困難なケースが増加している．その患者にあった支援を模索し，最善な選択ができるようにしていく．また透析再導入の患者には，最適な時期に最適な療法選択ができるよう支援するとともに再導入への受け入れができるように支援していく必要がある．

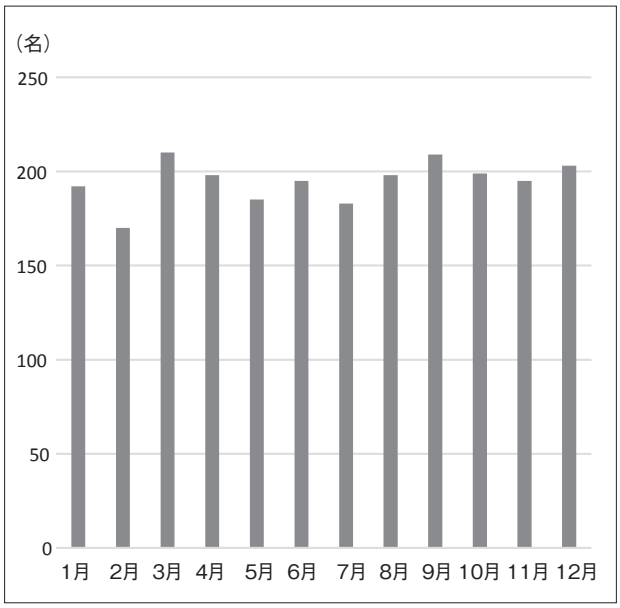


図1．月間受診者数

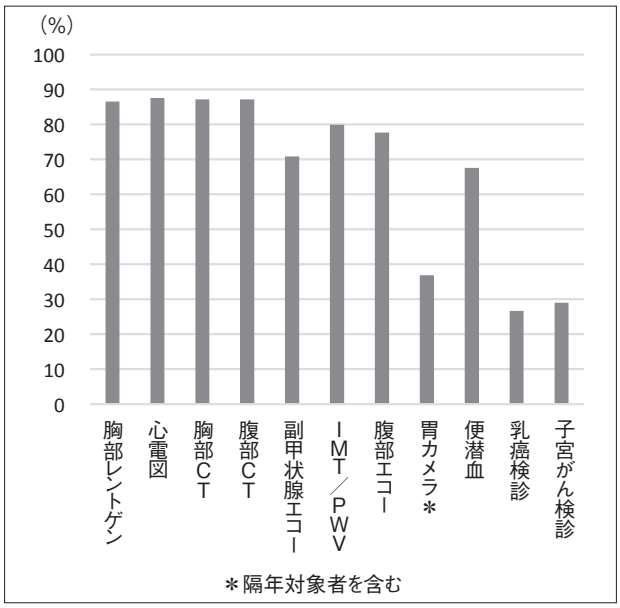


図2．検査実施率

Ⅸ

井 上 診 療 所

人工透析
透析ベッド30床

〒567-0046
大阪府茨木市南春日丘7丁目9番19号
TEL.072-620-0700

院長　岸本博至

井上診療所

スタッフ紹介

常勤医師1名　　岸本博至院長
非常勤医師4名　牧野寛史，眞田文博，山本　翔，浅田侑樹
看護師8名，准看護師2名，看護助手3名
臨床工学技士8名，事務職員2名

診療内容

透析ベッド数は30床で，午前，午後の受け入れ態勢を取っている．一般の外来透析だけでなく，隣接する介護老人保健施設ひまわりに入所される高齢・要介護者の透析治療も行っている．また，血液透析（HD）以外にも，オンラインHDFをはじめ顆粒球除去療法（GMA/LCAP），LDL吸着療法（LDLアフェレーシス）などの特殊な血液浄化にも対応している．

2023年のトピックス・実績

前期に引き続き，新型コロナウイルス感染症やインフルエンザウイルス等の感染対策を徹底し，感染発生時は診療所の限られた空間で隔離対応を行いながら，透析診療を継続した．介護老人保健施設ひまわりと隔週で行う合同運営会では井上病院及び愛仁会本部の部長も交えて医療・介護の連携や事業継続について協議を重ねた．

2023年は経年劣化が進んでいる透析関連機器の中長期的な更新計画を作成して，9月に透析用水作製装置を更新した．また，透析ベッドのマットレスを体圧分散性や防水性に優れた物へ更新し，11月には診療所内の照明機器をLED化して透析環境の改善及び水光熱費の削減を進めた．

10月には透析支援システムをERGからFNWへ移行して診療記録や情報共有に関する業務効率化を促進した．また，透析室で勤務する看護師と臨床工学技士の協力体制を更に強化し，日々のリーダー業務が双方で行えるように業務調整を行った．職員教育では，職員一人ひとりの目標管理を継続して，上長による定期面談を実施した．施設内研修を計画的に実施して，介護老人保健施設ひまわりとの合同勉強会や外部研修への参加を促進した．

※以下（　　）は2022年実績．

2023年の活動実績は，延べ患者数が13,753名（14,038名）で前期より285名減少した（図）．

延べ数では，一般の外来患者数が4,397名（4,610名），老健ひまわり利用者数が9,270名（9,181名）で前期よりも外来患者数が減少した（表1）．実人員では，外来患者数369名（386名），老健ひまわり利用者数759名（768名）で老健ひまわり及び外来患者数がともに減少した．2023年の転入は48名（49名），転出が57名（47名）で転出数が大幅に増加した（表2）．患者数が減少傾向であり，新規患者の獲得に向けた営業活動を継続したが，透析患者の死亡を含む転出に対して転入が追いつかなかった．

今後の展望

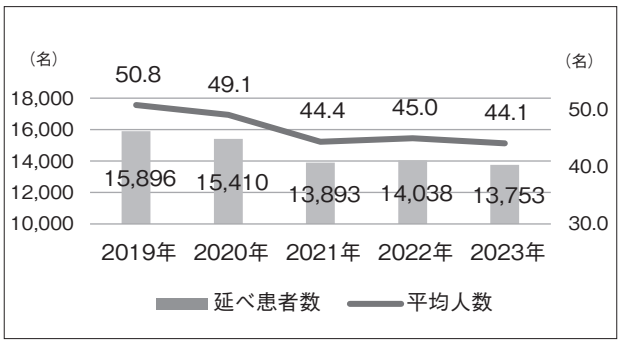
年間通して安定した透析診療が行えるように，2024年は感染に強い組織体制を確立する．介護老人保健施設が隣接する井上診療所の特徴を活かし，高齢者透析に特化した透析診療が継続できるように老健ひまわり及び井上病院との連携を強化し，患者支援が一体的に行える体制を整備する．そのためには，適正なマンパワーの確保と専門職同士の密な連携による相乗効果を促進し，職員一人ひとりが専門職として志高く，自己実現に向けてチャレンジができる職場環境の整備を進めるため，以下の点を重点的に取り組む．

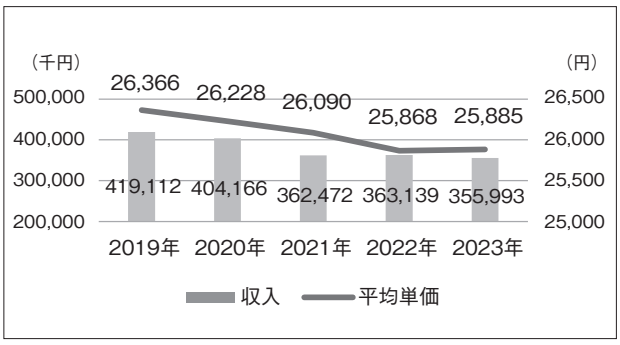
Ⅰ．事業の安定継続と収益性の確保
感染症のクラスター発生ゼロを目指し，年間通して安定した事業継続ができ，計画的な予算管理ができる．

Ⅱ．透析診療の質の向上及び付加サービスの充実
個々に合わせた透析診療を行うために，関連機関との患者情報の共有や医療・介護の連携体制を強化する．高齢の透析患者及び家族が，負担少なく通院透析を継続できるように送迎サービスの強化やアメニティの充実を進める．

Ⅲ．効率的な業務体制の整備
各専門職の業務を整備し，ICT機器を有効活用しながら効率的な業務改善を進める．

Ⅳ．計画的な建物管理と透析関連機器の更新
透析関連機器の更新計画に基づき，計画的な機器更新を進める．老朽化が進む施設の建物設備を設備管理委託業者と連携して維持管理する．





図．延べ患者数と収入の推移

表１．透析患者数（利用者数）とコンソール1台当たりの生産性

（単位：名）

	外来患者数		ひまわり利用者数		合計	生産性（/1台）	レオカーナ件数
	実人員	延べ数	実人員	延べ数			
2022年合計	386	4,610	768	9,181	13,791	3.0	42
2023年1月	30	365	66	798	1,163	3.0	0
2月	31	336	65	720	1,056	3.0	10
3月	32	387	69	832	1,219	3.0	16
4月	32	355	66	774	1,129	3.0	3
5月	31	378	66	811	1,189	3.0	0
6月	33	368	66	798	1,166	3.0	0
7月	31	383	63	785	1,168	3.0	0
8月	31	393	63	801	1,194	3.1	0
9月	30	367	60	769	1,136	3.1	0
10月	30	340	59	724	1,064	3.0	0
11月	29	360	57	743	1,103	3.0	4
12月	29	365	59	715	1,080	3.0	5
2023年合計	369	4,397	759	9,270	13,667	3.0	38

表２．透析患者の転入・転出件数

（単位：名）

	転入				転出			
	井上病院	他病院	その他	合計	井上病院	その他	死亡	合計
2022年合計	26	23	0	49	13	15	19	47
2023年1月	1	1	0	2	0	0	2	2
2月	2	4	0	6	0	5	2	7
3月	3	6	0	9	1	1	3	5
4月	0	0	0	0	1	1	0	2
5月	1	1	0	2	1	2	0	3
6月	4	3	0	7	1	4	0	5
7月	0	2	0	2	1	1	4	6
8月	3	1	0	4	0	4	1	5
9月	4	1	0	5	2	4	3	9
10月	3	2	0	5	1	3	2	6
11月	1	1	0	2	3	2	0	5
12月	3	1	0	4	0	0	2	2
2023年合計	25	23	0	48	11	27	19	57

愛仁会グループ活動統計

千船病院

■ 入院延べ患者数	■ 平均入院患者数	■ 新入院患者数	■ 退院患者数
96,647 人／年	265 人／日	11,187 人／年	11,187 人／年

■ 病床稼働率	■ 平均在院日数	■ 入院平均単価
89.4 %／年	7.6 日／年	83,217 円／年

■ 外来延べ患者数	■ 平均外来患者数	■ 外来平均単価
205,861 人／年	837 人／日	10,997 円／年

■ 開業医紹介数	■ 救急搬送数	■ 入院救急搬送数	■ 外来救急搬送数
14,464 件／年	6,121 件／年	1,907 件／年	4,214 件／年

■ 初診料算定対象患者数	■ 延べ新生児数	■ 分娩数
20,199 人／年	6,143 人／年	2,373 件／年

■ 手術件数（合計）

3,746 件／年

■ 手術件数（内訳）

内科	22 件	泌尿器科	423 件	眼科	235 件
外科	598 件	整形外科	823 件	耳鼻咽喉科	51 件
脳神経外科	79 件	産婦人科	1,515 件		

■ 死亡数	■ 剖検数	■ 剖検率
174 人／年	6 件／年	3.4 %／年

尼崎だいもつ病院

■ 入院延べ患者数	■ 平均入院患者数	■ 新入院患者数	■ 退院患者数
69,309 人／年	190 人／日	1,293 人／年	1,289 人／年

■ 病床稼働率	■ 平均在院日数	■ 入院平均単価
95.4 %／年	52.7 日／年	39,753 円／年

■ 外来延べ患者数	■ 平均外来患者数	■ 外来平均単価
7,277 人／年	30 人／日	8,846 円／年

■ 開業医紹介数	■ 初診料算定対象患者数	■ 死亡数	■ 剖検数
1,582 件／年	1,221 人／年	10 人／年	0 件／年

高槻病院

■ 入院延べ患者数	■ 平均入院患者数	■ 新入院患者数	■ 退院患者数
164,698 人／年	451 人／日	16,445 人／年	16,471 人／年

■ 病床稼働率	■ 平均在院日数	■ 入院平均単価
94.6 %／年	9.0 日／年	86,996 円／年

■ 外来延べ患者数	■ 平均外来患者数	■ 外来平均単価
255,535 人／年	1,039 人／日	16,698 円／年

■ 開業医紹介数	■ 救急搬送数	■ 入院救急搬送数	■ 外来救急搬送数
30,708 件／年	9,786 件／年	3,468 件／年	6,318 件／年

■ 初診料算定対象患者数	■ 延べ新生児数	■ 分娩数
27,566 人／年	9,782 人／年	977 件／年

■ 手術件数（合計）
5,527 件／年

■ 手術件数（内訳）

消化器内科	3 件	乳腺外科	160 件	眼科	842 件
不整脈内科	68 件	脳神経外科	210 件	耳鼻咽喉科	10 件
小児外科	333 件	小児脳神経外科	115 件	皮膚科	153 件
呼吸器外科	106 件	泌尿器科	340 件	形成外科	179 件
心臓血管外科	264 件	整形外科	1,181 件	腎移植科	25 件
消化器外科	585 件	産婦人科	938 件	小児科	15 件

■ 死亡数	■ 剖検数	■ 剖検率
317 人／年	2 件／年	0.6 %／年

愛仁会リハビリテーション病院

■ 入院延べ患者数	■ 平均入院患者数	■ 新入院患者数	■ 退院患者数
92,427 人／年	253 人／日	1,896 人／年	1,880 人／年

■ 病床稼働率	■ 平均在院日数	■ 入院平均単価
94.1 %／年	48.0 日／年	41,845 円／年

■ 外来延べ患者数	■ 平均外来患者数	■ 外来平均単価
6,188 人／年	25 人／日	12,672 円／年

■ 初診料算定対象患者数	■ 死亡数
840 人／年	1 人／年

愛仁会しんあいクリニック

■ 外来延べ患者数	■ 平均外来患者数	■ 外来平均単価	■ 初診料算定対象患者数
30,644	106	8,242	1,667
人／年	人／日	円／年	人／年

明 石 医 療 セ ン タ ー

■ 入院延べ患者数	■ 平均入院患者数	■ 新入院患者数	■ 退院患者数
131,313	360	12,279	12,271
人／年	人／日	人／年	人／年

■ 病床稼働率	■ 平均在院日数	■ 入院平均単価
94.2	9.7	83,295
%／年	日／年	円／年

■ 外来延べ患者数	■ 平均外来患者数	■ 外来平均単価
156,791	637	18,810
人／年	人／日	円／年

■ 開業医紹介数	■ 救急搬送数	■ 入院救急搬送数	■ 外来救急搬送数
14,658	5,707	3,155	2,552
件／年	件／年	件／年	件／年

■ 初診料算定対象患者数	■ 延べ新生児数	■ 分娩数
21,194	2,396	1,077
人／年	人／年	件／年

■ 手術件数（合計）

3,459 件／年

■ 手術件数（内訳）

内科	16 件	外科	853 件	心臓血管外科	472 件
消化器内科	12 件	泌尿器科	11 件	呼吸器外科	156 件
循環器内科	195 件	整形外科	883 件	産婦人科	861 件

■ 死亡数

410 人／年

■ 剖検数

6 件／年

■ 剖検率

1.5 %／年

井上病院

■ 入院延べ患者数

35,140 人／年

■ 平均入院患者数

96 人／日

■ 新入院患者数

1,889 人／年

■ 退院患者数

1,852 人／年

■ 病床稼働率

75.8 %／年

■ 平均在院日数

17.8 日／年

■ 入院平均単価

54,704 円／年

■ 外来延べ患者数

55,785 人／年

■ 平均外来患者数

190 人／日

■ 外来平均単価

21,792 円／年

■ 開業医紹介数

2,453 件／年

■ 初診料算定対象患者数

6,425 人／年

■ 手術件数（合計）

819 件／年

■ 手術件数（内訳）

外科	232 件	眼科	106 件
整形外科	215 件	内科	113 件
泌尿器科	56 件	血管外科	97 件

学術業績集

千船病院

口頭発表（2023/1/1 ～ 2023/12/31）

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科（課）	発表者
1	第243回内科学会近畿地方会	急激な経過で死亡したpheochromocytome multisystem crisis（PMC）の一例	'23/3	大阪市	循環器内科	安藤　輝，好木康明，黒瀬　潤，濱田晶子，二宮幸三，尾崎正憲
2	大阪西部消化器疾患地域連携の会	ガイドラインに基づいた慢性膵炎の治療	'23/8	大阪市	消化器内科	那賀川　峻
3	日本消化器病学会近畿支部　第119回例会	経過中に好酸球増多を来たし多発小腸潰瘍により診断した好酸球性胃腸症の1例	'23/9	大阪市	消化器内科	関口尚人，船津英司，長谷川貴久，藤原　葵，西川浩介，松本　慶，那賀川　峻
4	日本消化器病学会近畿支部　第119回例会	イレウス管留置にて手術を回避できた胆石性イレウスの一例	'23/9	大阪市	消化器内科	谷川貴久，那賀川　峻，長谷川貴久，藤原　葵，西川浩介，松本　慶，船津英司
5	カーム尼崎2023年度企業懇談会	脂肪肝と全身疾患	'23/12	大阪市	消化器内科	高島英隆
6	第60回日本糖尿病学会近畿地方会	胃蜂窩織炎を発症した1型糖尿病の一例	'23/10	神戸市	糖尿病内分泌内科	羽鳥広隆
7	第44回日本肥満学会学術集会	当院における高齢者の高度肥満症に対するスリーブ状胃切除術の効果	'23/11	仙台市	糖尿病内分泌内科	大江晃央
8	第44回日本肥満学会学術集会	術前の遊離テストステロン値とスリーブ状胃切除術前後の体組成変化との関連性についての検討	'23/11	仙台市	糖尿病内分泌内科	影山智子
9	第6回神戸内科疾患学術集談会	当院における高齢者の高度肥満症に対する減量・代謝改善手術の効果	'23/12	神戸市	糖尿病内分泌内科	大江晃央
10	第51回日本救急医学会総会・学術総会	救急車から在宅看取りまで　救急医が訪問診療に携わる意義	'23/11	東京都	救急診療部	山下公子
11	Asia Pacific Metabolic and Bariatric Surgery Society 2023	BMI>50に対する減量・代謝改善手術	'23/5	タイ	外科	北浜誠一
12	日本外科系連合学会	減量・代謝改善手術前後における栄養管理・指導介入について	'23/6	横浜市	外科	酒田藍子，田中理恵子，奥村あゆ，森井梨恵，荒川綾子，藪野優香，小畑由佳，中島進介，岡　亜希子，羽鳥広隆，影山智子，小林基子，住谷光弘，北浜誠一
13	日本外科系連合学会	当院の減量・代謝改善手術における臨床工学技士の関わり	'23/6	横浜市	外科	松尾　悠，木下　亮，北浜誠一
14	第15回日本Acute Care Surgery学会学術集会	電動自転車の飲酒運転事故による外傷性大腸穿孔の1例	'23/10	東京都	外科	三原俊彦
15	Joint Congress On General Medicine 2023	Health Care Team for weight loss and Bariatric surgery	'23/11	フィリピン	外科	北浜誠一
16	日本肥満学会・日本肥満症治療学会	当院における高齢者の高度肥満症に対するスリーブ状胃切除術の効果	'23/11	仙台市	外科	大江晃央，中島進介，影山智子，羽鳥広隆，岡　亜希子，住所美沙季，平井麻衣子，住谷充弘，北浜誠一
17	日本肥満学会・日本肥満症治療学会	術前の遊離テストステロン値とスリーブ状胃切除術前後の体組成変化との関連性についての検討	'23/11	仙台市	外科	影山智子，中島進介，大江晃央，羽鳥広隆，岡　亜希子，住所美沙季，平井麻衣子，住谷充弘，北浜誠一

学術業績集

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
18	日本肥満学会・日本肥満症治療学会	我が国におけるスリーブプラスの導入　当院におけるスリーブプラスの長期成績	'23/11	仙台市	外科	北浜誠一
19	日本肥満学会・日本肥満症治療学会	専門医に聞く　肥満関連健康障害肥満とがん	'23/11	仙台市	外科	北浜誠一
20	日本肥満学会・日本肥満症治療学会	我が国におけるスリーブプラスの導入　当院におけるスリーブプラスの長期成績	'23/11	仙台市	外科	北浜誠一
21	日本肥満学会・日本肥満症治療学会	専門医に聞く　肥満関連健康障害肥満とがん	'23/11	仙台市	外科	北浜誠一
22	第36回日本内視鏡外科学会総会	胃穹窿部有茎性GISTの胃前庭部嵌頓例に対して単孔式腹腔鏡下胃内手術を行った1例	'23/12	横浜市	外科	平野　歩，大浦康宏，三原俊彦，北浜誠一，向井友一郎
23	第36回日本内視鏡外科学会総会	慢性特発性大腸偽性腸閉塞症に透視下大腸内視鏡を施行し腹控鏡下人工肛門増設術が有効であった1例	'23/12	横浜市	外科	三原俊彦，大浦康宏，向井友一郎
24	第53回日本人工関節学会	ナビゲーションシステムを用いたTKAの術前後における内外反，内外旋の可動域の変化と術後成績の関係性	'23/2	横浜市	整形外科	横田和斗
25	第140回中部日本整形外科災害外科学	下腿骨骨折術後に生じたCheckrein変形に対し多数腱延長術を要した1例	'23/4	奈良市	整形外科	前田琢磨
26	第140回中部日本整形外科災害外科学会学術集会	関節リウマチ患者に発症した中指MP関節ロッキングの1例	'23/4	奈良市	整形外科	原田義文
27	中部日本整形外科災害外科学会	Seymour骨折の治療経験	'23/4	米子市	整形外科	片岡郁吾
28	兵庫脳神経外科手術手技セミナー	Distal transsylvian approachにおける初心者が陥りやすいポイント	'23/2	神戸市	脳神経外科	榊原史啓
29	阪神SAH Expert Meeting	ピヴラッツを用いたスパズム管理	'23/5	尼崎市	脳神経外科	榊原史啓
30	第288回小児科学会兵庫県地方会	カポジ水痘様発疹症との鑑別を要したeczema coxsackiumの一例	'23/2	Web	小児科	湊　紘太朗
31	第288回小児科学会兵庫県地方会	ナプロキセン単剤で寛解した全身型若年性特発性関節炎(s-JIA)の2例	'23/2	Web	小児科	上地高志
32	第25回西淀小児科懇話会	発熱と関節痛を主訴に来院した13歳男児の一例	'23/6	大阪市	小児科	松本聡太郎
33	第25回西淀小児科懇話会	軽微な胃腸症状と発熱を主訴に来院したインド人男児の1例	'23/6	大阪市	小児科	細川笑里
34	第59回日本周産期・新生児医学会学術集会	正常正期産児の大腿骨遠位骨端核発現の関連因子の検討	'23/7	名古屋市	小児科	池田茂生
35	第67回日本新生児成育医学会学術集会	巨大嚢胞性肺疾患に対し，片肺換気/NIV-NAVAが奏効した超低出生体重児の一例	'23/11	横浜市	小児科	堀部拓哉
36	近畿鏡視下手術WEBセミナー	コメンテーター	'23/1	大阪市	産婦人科	大木規義

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
37	23rd APAGE Annual Congress	Comparison of laparoscopically-assisted vaginal hysterectomy (LAVH) and total laparoscopic hysterectomy (TLH) for benign uterine disease	'23/1	Singapore	産婦人科	Akiho Nagayama, Yasushi Kotani, Takaya Sakamoto, Chiharu Wada, Naho Fukuda, Kosuke Murakami, Noriomi Matsumura
38	第15回日本ロボット外科学会学術集会	ロボット支援子宮全摘術を行い，術中に尿管損傷が疑われたが，術中・術後に先天性単腎症と診断した，双頸双角子宮の1例	'23/2	名古屋市	産婦人科	辻　拓弥，城　道久，大木規義，安田立子，稲垣美恵子，村越　誉，吉田茂樹
39	産婦人科疾患と片頭痛を考える会（福井県産婦人科医師連合）	知っておきたい頭痛の知識～女性の頭痛を中心に基礎から最新治療まで～	'23/2	Web	産婦人科	稲垣美恵子
40	千葉頭痛セミナー	片頭痛におけるエストロゲンの役割と治療オプション	'23/2	Web	産婦人科	稲垣美恵子
41	女性の片頭痛治療を考える会（滋賀県産科婦人科医会共催）	知っておきたい女性頭痛診療のエッセンス	'23/3	Web	産婦人科	稲垣美恵子
42	AJOVY HOT MONTH Day3	働き盛り・子育て世代の女性に届けたい頭痛診療のNew Wave	'23/3	Web	産婦人科	稲垣美恵子
43	片頭痛expert meeting～女性医学の立場から～	講師　ライフイベントにより複雑化する女性の片頭痛を診るときのポイント	'23/3	Web	産婦人科	稲垣美恵子
44	第1回TLH手術手技座談会	TLHの工夫，明日からの臨床へ	'23/4	大阪市	産婦人科	大木規義
45	第二回片頭痛治療最前線	月経時片頭痛を紐解く～基礎から最新治療まで～	'23/4	Web	産婦人科	稲垣美恵子
46	大阪女性医療フォーラム	知っておきたい女性の頭痛～産婦人科で相談を受けた時のポイント	'23/4	大阪市	産婦人科	稲垣美恵子
47	日総研セミナー	CTGが分かれば，胎児の様子が見えてくる	'23/4	Web	産婦人科	岡田十三
48	頭痛いろは塾シーズン2	キホンを知って深める女性の頭痛診療	'23/4	福岡市	産婦人科	稲垣美恵子
49	第75回日本産科婦人科学会学術講演会	有棘縫合糸を用いて安全に妊娠中の子宮筋腫核出術を行った1例	'23/5	東京都	産婦人科	根来柚衣，城　道久，牧　尉太，苔原つばさ，岡田十三，増山　寿，吉田茂樹
50	第75回日本産科婦人科学会学術講演会	術後に診断された卵巣甲状腺腫性カルチノイドの一例	'23/5	東京都	産婦人科	瀧川　若，大木規義，鈴木裕紀子，胡　脩平，徳永詩音，苔原つばさ，二木ひとみ，北　采加，北井沙和，稲垣美恵子，吉田茂樹
51	第75回日本産科婦人科学会学術講演会	子宮仮性動脈瘤における臨床的背景と治療法選択に関する後方視的検討	'23/5	東京都	産婦人科	米田圭明，吉田茂樹，吉武壮生舜，苔原つばさ，二木ひとみ，城　道久，稲垣美恵子，村越　誉，大木規義，岡田十三，本山　覚
52	第75回日本産科婦人科学会学術講演会	ロボット支援下子宮全摘術後に卵巣茎捻転を生じた1例	'23/5	東京都	産婦人科	北口智美，大木規義，城　道久，安田立子，稲垣美恵子，村越　誉，岡田十三，吉田茂樹

学術業績集

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
53	第75回日本産科婦人科学会学術講演会	MTXの副作用およびCOVID-19罹患による7週間の治療中断後，寛解導入が可能であった臨床的侵入奇胎の1例	'23/5	東京都	産婦人科	城　道久，小倉直子，徳永詩音，大木規義，村越　誉，吉田茂樹
54	女性のライフスタイルと片頭痛を考える会	知っておきたい女性の頭痛診療～基礎から最新治療まで～	'23/5	Web	産婦人科	稲垣美恵子
55	地域で診る片頭痛を考える	「レイボーの使いどころ～メカニズムと使用経験から考えてみる」	'23/5	Web	産婦人科	稲垣美恵子
56	浜松頭痛医療連携の会	Q＆Aで深める女性の頭痛診療	'23/6	Web	産婦人科	稲垣美恵子
57	第148回近畿産科婦人科学会学術集会	COVID-19で7週間の治療中断後，MTXで寛解できた臨床的侵入奇胎の1例	'23/6	和歌山市	産婦人科	苔原つばさ，城　道久，徳永詩音，小倉直子，二木ひとみ，稲垣美恵子，大木規義，村越　誉，吉田茂樹
58	第148回近畿産科婦人科学会学術集会	有棘縫合糸を用いて安全に妊娠中の子宮筋腫核出術を行った1例	'23/6	和歌山市	産婦人科	根来柚衣，城　道久，牧　尉太，苔原つばさ，岡田十三，増山　寿，吉田茂樹
59	第148回近畿産科婦人科学会学術集会	当院で経験したfetal brain death syndromeの3例	'23/6	和歌山市	産婦人科	大西和哉，城　道久，安田立子，北　采加，村越　誉，岡田十三，吉田茂樹
60	Migraine expert seminar 北陸	女性頭痛外来におけるCGRP製剤の使用経験～月経時片頭痛を中心に	'23/6	Web	産婦人科	稲垣美恵子
61	千船病院地域連携協議会	ロボット手術・鏡視下手術の現状と展望	'23/7	大阪市	産婦人科	大木規義
62	第59回日本周産期・新生児医学会学術集会	片頭痛と妊娠高血圧症候群に関する前向きコホート研究	'23/7	名古屋市	産婦人科	野々川結依，稲垣美恵子，吉田茂樹，岡田十三，村越　誉，大木規義，城　道久
63	第59回日本周産期・新生児医学会学術集会	品胎妊娠に対してDelayed interval delivelyを行った2症例の検討	'23/7	名古屋市	産婦人科	濱田一磨，岡田十三，北　采加，北　沙和，城　道久，稲垣美恵子，大木規義，村越　誉，吉田茂樹
64	第59回日本周産期・新生児医学会学術集会	Family centered cesarean delivery～多職種で考える～	'23/7	名古屋市	産婦人科	岡田十三
65	横浜市産婦人科医会月例研修会	ライフステージで考える女性の頭痛診療	'23/7	横浜市	産婦人科	稲垣美恵子
66	片頭痛スキルアップセミナー	女性のライフイベントと片頭痛～QOL向上のためのヒント～	'23/8	島尻郡	産婦人科	稲垣美恵子
67	婦人科Meteoric Riseイベント第1回セミナー	ロボット手術　ビデオクリニック講師	'23/8	Web	産婦人科	大木規義
68	女性の片頭痛治療を考える会	働き盛り・子育て世代の女性に届けたい頭痛診療のNew Wave	'23/8	大阪府	産婦人科	稲垣美恵子
69	第1回大和川産婦人科セミナー	特別講演「困難症例の子宮全摘攻略法－定型化が通じない！崩れた戦略の立て直し方－」	'23/9	Web	産婦人科	大木規義
70	Headache academy in Osaka	片頭痛女性のためのプレコンセプションケア	'23/9	Web	産婦人科	稲垣美恵子

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
71	第63回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	異所性妊娠に対する腹腔鏡下卵管切除術・子宮卵管角部切開術後にPEPと診断しMTX療法を行った1例	'23/9	大津市	産婦人科	津田洋之介，城　道久，稲垣美恵子，大木規義，村越　誉，吉田茂樹
72	第63回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	ロボット手術で有用な基靭帯2段階切離法は，通常の腹腔鏡下子宮全摘術でも有用か	'23/9	大津市	産婦人科	柴田直輝，大木規義，北井沙和，津田洋之助，長澤佳穂，伊賀川奨大，苔原つばさ，二木ひとみ，吉武壮生舜，北　采加，城　道久，稲垣美恵子，村越　誉，吉田茂樹
73	第63回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	多発子宮粘膜下筋腫・子宮内膜ポリープに対し，腹腔鏡と子宮鏡を併用した手術を行い，妊娠に至った一例	'23/9	大津市	産婦人科	北井沙和，佐伯　愛，北　采加，大木規義，吉田茂樹
74	第63回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	筋腫による基靭帯血管の解剖学的偏移を逆に利用し，安全に全腹腔鏡下子宮全摘術（TLH）を実施した子宮頸部筋腫の2例	'23/9	大津市	産婦人科	城　道久，苔原つばさ，根来柚衣，稲垣　美恵子，大木規義，村越　誉，吉田茂樹
75	第63回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	レボノルゲストレル放出子宮内システムが留置から11ヶ月後に180度回転して子宮筋層内へ迷入し，子宮鏡下に回収した1例	'23/9	大津市	産婦人科	伊賀川奨大，城　道久，稲垣美恵子，瀧川　若，吉田茂樹
76	第63回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	ロボット子宮全摘術における，基靭帯2段階切離手技の有用性	'23/9	大津市	産婦人科	大木規義，北井沙和，柴田直輝，津田洋之介，長澤佳穂，伊賀川奨大，苔原つばさ，二木ひとみ，吉武壮生舜，北　采加，城　道久，稲垣美恵子，村越　誉，吉田茂樹
77	第63回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	ランチョンセミナー6　誰もが遭遇する困難症例への手術戦略　子宮内膜症のTLH攻略法－真っ向勝負はダメ！出血させずに勝ち切る方法－	'23/9	大津市	産婦人科	大木規義
78	第5回日本周産期麻酔学会webセミナー	麻酔科医が知っておくべき，症例から学ぶ CTG 判読のポイント	'23/9	Web	産婦人科	岡田十三
79	第127回日本産科麻酔学会教育動画講演	子宮破裂に気付くのはいつ？	'23/9	Web	産婦人科	岡田十三
80	Da Vinci 婦人科ビデオクリニック Webinar	ビデオクリニック講師	'23/9	Web	産婦人科	大木規義
81	第46回日本産婦人科手術学会	ロボット子宮全摘術における基靭帯2段階切離手技の有用性	'23/9	東京都	産婦人科	大木規義，北井沙和，柴田直輝，津田洋之介，長澤佳穂，伊賀川奨大，苔原つばさ，二木ひとみ，吉竹壮生舜，北　采加，城　道久，稲垣美恵子，村越　誉，吉田茂樹
82	婦人科Meteoric Riseイベント第2回セミナー	ロボット手術　ビデオクリニック講師	'23/10	Web	産婦人科	大木規義
83	Kampo Online Seminar	各ライフステージで考える女性頭痛診療で良く遭遇する頭痛	'23/10	Web	産婦人科	稲垣美恵子
84	婦人科内視鏡下手術 Webinar	特別講演1「尿管損傷を起こさないための，膀胱子宮靭帯の処理」小林栄仁　座長	'23/10	Web	産婦人科	大木規義
85	北海道の頭痛診療を考える会	ライフイベントにより複雑化する女性の片頭痛を診るときのポイント	'23/10	札幌市	産婦人科	稲垣美恵子
86	第61回日本癌治療学会	A case of a malignant tumor arising from an ovarian mature teratoma that was diagnosed 17 years ago	'23/10	横浜市	産婦人科	Yoko Kashima, Chiharu Wada, Mamiko Ohta, Chiho Miyagawa, Noriomi Matsumura

学術業績集

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
87	秋田ギネラパ研究会	特別講演「膜解剖に基づいた子宮全摘術」～技術認定医試験を上手に合格する方法～	'23/10	秋田市	産婦人科	大木規義
88	AMGEN MONTHLY HEADACHE DAY　頭痛診療のTips Series	Q＆Aで深める女性の頭痛診療	'23/10	Web	産婦人科	稲垣美恵子
89	日総研セミナー	CTGが分かれば，胎児の様子が見えてくる 胎児心拍数モニタリング判読ざんまい	'23/10	大阪市	産婦人科	岡田十三
90	第5回南大阪産婦人科手術手技検討会	「当院での腹腔鏡下仙骨腟固定術～苦労した症例を中心に～」増田公美コメンテーター	'23/10	大阪市	産婦人科	大木規義
91	知っておきたい産婦人科，女性科医のための頭痛セミナー	知ることで女性診療がもっと良くなる～頭痛のTips～	'23/11	Web	産婦人科	稲垣美恵子
92	どうする頭痛？女性のライフスタイルから考える	働き盛り・子育て世代の女性に届けたい頭痛診療のNew Wave	'23/11	Web	産婦人科	稲垣美恵子
93	第51回日本頭痛学会総会	改めて学ぶ頭痛学3　片頭痛と女性ホルモン	'23/12	横浜市	産婦人科	稲垣美恵子
94	第51回日本頭痛学会総会	シンポジウム8「母子の健康へ向けた頭痛管理：妊娠計画から妊娠中のアプローチ」	'23/12	横浜市	産婦人科	稲垣美恵子
95	第38回女性医学学会学術集会	教育講演4「女性に多い頭痛～片頭痛を中心に～」	'23/12	徳島市	産婦人科	稲垣美恵子
96	第38回女性医学学会学術集会	スポンサードセミナー2「女性の頭痛に向き合おう～頭痛診療の成功事例と皆様へのメッセージ」	'23/12	徳島市	産婦人科	稲垣美恵子
97	第9回日本産科婦人科遺伝診療学会学術講演会	HBOC血縁者診断が治療方針に有用であった良性卵巣腫瘍の一例	'23/12	名古屋市	産婦人科	村越　誉，藤田彩花， 安斎　怜，岩本麻衣子， 清瀬ますみ，岡田十三， 四本由郁，玉置知子
98	TLH Video Clinic ＆ Lecture -The First-	ビデオクリニック講師	'23/12	Web	産婦人科	大木規義
99	多診療科で診る片頭痛治療	チームで取り組む新たな片頭痛治療	'23/12	Web	産婦人科	稲垣美恵子
100	疼痛診療UPDATE	知っておきたい女性の頭痛診療～基礎から最新治療まで～	'23/12	大分市	産婦人科	稲垣美恵子
101	日本手術医学会教育セミナー	講演：医療者が理解すべき洗浄滅菌の基本事項	'23/2	岐阜市	麻酔科・手術中材センター	水谷　光
102	第2回日本周産期麻酔科学会	妊娠31週に発症した急性腹症に対し緊急帝王切開後および試験開腹術を施行した一症例	'23/3	福岡市	麻酔科	藤田和子，魚川礼子， 角　千里，仲野有紀， 村松　愛，藤間凡未， 丸山祐子，星野和夫， 水谷　光
103	第2回日本周産期麻酔科学会	コーディネーター：今から無痛分娩をはじめる麻酔科医へ無痛分娩の基本を学ぼう	'23/3	福岡市	麻酔科	魚川礼子
104	第2回日本周産期麻酔科学会	インストラクター：今から無痛分娩をはじめる麻酔科医へ無痛分娩の基本を学ぼう	'23/3	福岡市	麻酔科	角　千里
105	第2回日本周産期麻酔学会	シンポジウム：肥満妊婦の安全を考える「合併症妊婦の周産期管理」	'23/3	福岡市	麻酔科	魚川礼子

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
106	第2回日本周産期麻酔科学会	当院での無痛分娩立ち上げ	'23/3	福岡市	麻酔科	松尾佳代子，魚川礼子
107	第2回日本周産期麻酔科学会	無痛分娩後に片側外側大腿皮神経障害を発症した3症例	'23/3	福岡市	麻酔科	丸山祐子，魚川礼子，角　千里，藤田和子，村松　愛，星野和夫，水谷　光，奥谷　龍
108	第2回日本周産期麻酔科学会	無痛分娩後に片側外側大腿皮神経障害を発症した3症例	'23/3	福岡市	麻酔科	出田桃香，魚川礼子，角　千里，村松　愛，藤田和子，大山泰之，星野和夫，水谷　光，奥谷　龍
109	第10回区域麻酔学会	全身麻酔も脊髄くも膜下麻酔も困難な大腿骨頸部骨折手術の麻酔を持続脊椎麻酔で対応した	'23/4	大阪市	麻酔科	水谷　光，土屋正彦
110	第29回広島感染防止及び滅菌業務研究会	講演：滅菌は医療の基礎で担当者は病院を支えている	'23/4	広島市	麻酔科・手術中材センター	水谷　光
111	第70回麻酔科学会	2次施設で対応困難であったため3次施設へ搬送することで救命できた常位胎盤早期剥離の1症例	'23/6	神戸市	麻酔科	藤間凡未，魚川礼子，村松　愛，星野和夫，角　千里，奥谷　龍
112	第70回麻酔科学会	硬膜外無痛分娩から帝王切開術へ移行した際に硬膜外麻酔で手術麻酔管理が可能と判断した因子についての後ろ向き観察研究	'23/6	神戸市	麻酔科	仲野有紀，魚川礼子，下川俊雄，吉川徳茂
113	2023 AAMI eXchange	Standards for sterilization in a healthcare setting ― presented by JSMI	'23/6	Long Beach, CA	麻酔科・手術中材センター	Fukatsu K, Mizutani K, Sakai T, Benedict A
114	第98回日本医療機器学会	院内滅菌供給部門だけでなく委託先の院外滅菌センターも含めて評価ツールを活用	'23/6	横浜市	麻酔科・手術中材センター	水谷　光，中村陽一，古西一貴，吉田篤史
115	第98回日本医療機器学会	講演：手術医療に欠かせない滅菌供給部門の役割―麻酔科医の立場から	'23/6	横浜市	麻酔科・手術中材センター	水谷　光
116	第98回日本医療機器学会	滅菌技術の医療現場への適用の歴史―その起源と日本への導入―	'23/7	横浜市	麻酔科・手術中材センター	栗原靖弘，水谷　光
117	第98回日本医療機器学会	シンポジウム：医療職はSDGsに無関心「医療機器における「もったいない」―医療の世界もSDGsを考える時代」	'23/7	横浜市	麻酔科・手術中材センター	水谷　光
118	日本手術看護学会近畿地区大阪ブロックセミナー	講演：麻酔セミナー ―手術室看護師に必要な麻酔の知識	'23/7	大阪市	麻酔科・手術中材センター	水谷　光
119	第69回日本麻酔科学会関西支部学術集会	脊髄損傷合併妊婦に脊髄幹麻酔を行った一例	'23/9	大阪市	麻酔科	滝西史麻，魚川礼子，多田羅康章，平塚 剛，奥谷　龍，水谷　光
120	第1回日本手術医学会教育セミナー	講演：手術室スタッフが知っておくべき滅菌のこと	'23/9	宮崎市	麻酔科・手術中材センター	水谷　光
121	第13回北摂セントラルサプライ研究会	講演：病院機能評価の評価者を返り討ちにあわせよう	'23/9	吹田市	麻酔科・手術中材センター	水谷　光
122	第80回岐阜県滅菌業務研究会	講演：滅菌担当者は病院の安全と経営を支えている	'23/9	岐阜市	麻酔科･手術中材センター	水谷　光
123	第49回新潟県中材業務研究会	講演：滅菌は医療の基礎で担当者は病院を支えている	'23/10	新潟市	麻酔科・手術中材センター	水谷　光
124	第45回日本手術医学会	手術室が本当に清潔かは環境測定しないとわからない	'23/11	横浜市	麻酔科・手術中材センター	水谷　光

学術業績集

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
125	第127回日本産科麻酔学会	胎児ドックを契機に遺伝性圧脆弱性ニューロパチーが判明した妊婦の無痛分娩管理	'23/12	豊中市	麻酔科	河村　泉，角　千里，藤田和子，星野和夫，平塚　剛，魚川礼子，奥谷　龍，水谷　光
126	第127回日本産科麻酔学会	講演：産科患者のPDPH	'23/12	豊中市	麻酔科	角　千里
127	第127回日本産科麻酔学会	コメンテーター：帝王切開術後合併症	'23/12	豊中市	麻酔科	角　千里，淀川祐紀
128	第15回北陸中材業務・感染対策研究会	講演：滅菌担当者は病院を支えている	'23/12	金沢市	麻酔科・手術中材センター	水谷　光
129	第43回日本臨床麻酔学会	シンポジウム：私のこだわり―母と子に優しい帝王切開の麻酔―「母子に優しい麻酔環境を整える―肥満妊婦の麻酔」	'23/12	宮崎市	麻酔科	魚川礼子
130	第51回日本救急医学会総会・学術総会	当院救急センターにおける腔内異物症例の検討と他科連携における救急医の役割について	'23/11	東京都	臨床研修センター	富山大勝

論文発表（2023/1/1 ～ 2023/12/31）

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	所属科(課)	著　者
1	総合診療	総合診療病棟　減量チームによる集学的介入が喘息コントロールの改善につながった肥満喘息の1例	33(11)	1392-1395, 2023	外科	井上拓弥，住谷充弘，北浜誠一，竹嶋　好，中島進介
2	大阪救急	未治療乳がんの救急搬送症例の検討	107	7-12, 2023	外科	向井友一郎，桃野鉄平，三原俊彦，大浦康宏，北浜誠一，山元康義
3	手術	【肥満症・糖尿病患者に対する減量・代謝改善手術】腹腔鏡下スリーブ・バイパス術（解説）	77(4)	459-465, 2023	外科	北浜誠一
4	中部日本整形外科災害外科学会雑誌	関節リウマチ患者に発症した中指MP関節ロッキングの1例	66(4)	579-580, 2023	整形外科	原田義文
5	Journal of Stroke	Mode of imaging study and endovascular therapy for a large ischemic core: Insights from the RESCUE-Japan LIMIT.	25	388-398, 2023	脳神経外科	榊原史啓
6	愛仁会医学研究誌	皮下腫瘍との鑑別に苦慮した浅側頭動脈瘤の1例	55	43-45, 2023	脳神経外科	清水嘉偉
7	周産期医学	新生児遷延性肺高血圧症を呈した先天梅毒の一例	53	414, 2023	小児科	横山陽子
8	愛仁会雑誌	腸重積との鑑別が困難であった回腸末端炎の3例	54	45, 2023	小児科	近藤瑠乃
9	小児内科	脊髄圧迫症で発症したEwing肉腫の1例	55	1533, 2023	小児科	桝田千晶
10	周産期医学	多血児に新生児遷延性肺高血圧症を発症し集中管理を要した双胎貧血多血症例	53	1670, 2023	小児科	山本香織
11	愛仁会医学研究誌	無頭蓋症に両上下肢の拇指欠指症を伴った稀な1例	54	48-50, 2023	産婦人科	荒木裕子，岡田十三，城　道久，大木規義，安田立子，稲垣美恵子，村越　誉，吉田茂樹
12	愛仁会医学研究誌	子宮仮性動脈瘤における臨床的背景と治療法選択に関する後方視的検討	54	5-9, 2023	産婦人科	米田圭明，吉田茂樹，城　道久，苔原つばさ，二木ひとみ，大木規義，村越　誉，前田哲雄，岡田十三

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	所属科(課)	著　者
13	産婦人科の実際	腟前庭部全面を覆う陰唇癒着症に対し再発予防の観点から考察したZ形成術による治療報告	72	1063-1068, 2023	産婦人科	早川史保子，岡田十三，吉田茂樹
14	産婦人科の実際	双頸双角子宮に対する腹腔鏡下子宮全摘術後に，先天性片側腎無形成症の診断に至った1例	72	961-966, 2023	産婦人科	荒木裕子，城　道久，大木規義，北井沙和，北　采加，苔原つばさ，二木ひとみ，村越　誉，吉田茂樹
15	産婦人科の実際	経腟分娩後10日目に突然発症した遅発性の産褥外陰血腫の1例	72	651-653, 2023	産婦人科	吉武壮生舜，城　道久，安田立子，岡田十三，吉田茂樹
16	産婦人科の実際	妊娠初期から多発子宮筋腫による子宮後屈を認め，妊娠後屈子宮嵌頓症を想定し安全に帝王切開術を実施できた1例	72	551-555, 2023	産婦人科	中村達矢，城　道久，小川史子，大木規義，安田立子，岡田十三，吉田茂樹
17	産婦人科の実際	COVID-19罹患により化学療法(MTX)レジメンを長期中断したが寛解導入に成功した臨床的侵入奇胎の1例	72	317-322, 2023	産婦人科	徳永詩音，城　道久，小倉直子，苔原つばさ，二木ひとみ，稲　美恵子，大木規義，村越　誉，吉田茂樹
18	産婦人科の進歩	良性卵巣腫瘍茎捻転に対する術前CT値と肉眼的壊死所見，病理学的壊死・出血に関する後ろ向き検討	75	221-229, 2023	産婦人科	胡　脩平，安田立子，渡邊隆弘，徳永詩音，城　道久，村越　誉，岡田十三，吉田茂樹
19	ペインクリニック(0388-4171)	【周産期の痛み】周産期頭痛の診断と治療	44	140-147, 2023	産婦人科	稲垣美恵子
20	診断と治療(0370-999X)	【頭痛診療の新たなステージ】頭痛診療におけるコンサルテーションのタイミング　婦人科	111	1523-1527, 2023	産婦人科	稲垣美恵子
21	日本頭痛学会誌	女性の頭痛の“Ask Now?”　女性のデリケートな状況を男性医師にもわかるように	49	553-556, 2023	産婦人科	稲垣美恵子
22	日本頭痛学会誌	子宮内膜症～女性の健康問題としての現状と課題～	49	557-559, 2023	産婦人科	稲垣美恵子
23	Case Rep Womens Health.	Successful myomectomy using barbed sutures at 15 weeks of gestation: A case report.	39	e00550, 2023	産婦人科	Negoro Y, Shiro M, Maki J, Kokehara T, Masuyama H, Yoshida S.
24	Case Rep Womens Health.	Type 3 vasa previa with no low-lying placenta, with central umbilical cord insertion at the upper uterine segment, and with aberrant vessels on the broad membrane: A case report.	40	e00558, 2023	産婦人科	Shiro M, Kiyose M, Suzuki Y, Sano Y, Ikagawa S, Yoshida S.
25	医療機器学	滅菌保証に関する実態調査報告書6	93(8)	523-545, 2023	麻酔科・手術中材センター	水谷　光，江島　豊，木村　登，久保木　修
26	麻酔	扁桃摘出術と軟口蓋形成術を延期し肥満手術を先行させた病的肥満患者の麻酔管理	72(2)	138-141, 2023	麻酔科・手術中材センター	宮井真唯子，水谷　光
27	LiSA	ちょっと拝見 となりのDAMカート千船病院の巻	30(2)	143-145, 2023	麻酔科・手術中材センター	水谷　光，角　千里
28	LiSA	監修：徹底分析シリーズ「手強いリターンマッチ―再手術の麻酔」	30(2)	159-203, 2023	麻酔科・手術中材センター	水谷　光
29	LiSA	扁桃摘出術後の止血術	30(2)	166-169, 2023	麻酔科・手術中材センター	水谷　光
30	ペインクリニック	分娩に伴う神経損傷の見分け方と治療	44(2)	134-139, 2023	麻酔科	魚川礼子

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	所属科(課)	著　者
31	LiSA	症例ライブラリー「術中，突然の低酸素血症」一難去ってまた一難	30(3)	286-289, 2023	麻酔科・手術中材センター	水谷　光
32	LiSA	監修：症例ライブラリー「術後の神経障害：下半身編」	30(4)	455-475, 2023	麻酔科・手術中材センター	水谷　光
33	LiSA	症例ライブラリー「術後の神経障害：下半身編」まとめ：術後の下半身の神経障害の鑑別疾患と病態のとらえ方	30(4)	474-475, 2023	麻酔科・手術中材センター	水谷　光
34	LiSA	麻酔科医は温室効果ガスの排出削減に貢献しよう	30(5)	510-511, 2023	麻酔科・手術中材センター	水谷　光
35	LiSA	監修：症例ライブラリー「術後の神経障害：上半身編」	30(7)	731-749, 2023	麻酔科・手術中材センター	水谷　光
36	LiSA	その他の鑑別と神経障害のとらえ方のまとめ	30(7)	748-749, 2023	麻酔科・手術中材センター	水谷　光
37	LiSA	スキまTimes「麻酔科医必聴プレイリスト」	30(8)	893, 2023	麻酔科・手術中材センター	水谷　光
38	日医工ジャーナル	医療機器業界はSDGsに取り組まなくてよいのですか？	49(422)	7-9, 2023	麻酔科・手術中材センター	水谷　光
39	Breast cancer	An increase in tumor-infltrating lymphocytes after treatment is signifcantly associated with a poor response to neoadjuvant endocrine therapy for estrogen receptor-positive/HER2-negative breast cancers	30	703-713, 2023	病理診断科	Reiko Fukui, Takahiro Watanabe, Koji Morimoto, Yukie Fujimoto, Masayuki Nagahashi, Eri Ishikawa, Seiichi Hirota, Yasuo Miyoshi

著書発表（2023/1/1 ～ 2023/12/31）

No.	著　書　名	出版社，地名	版，刷	掲載頁，年	所属科(課)	著　者
1	急性期脳梗塞に対する血管内治療	日本医事新報社／東京	第1版	205-212, 2023	脳神経外科	榊原史啓
2	院内助産・助産師外来	日本看護協会出版／東京	[新版]助産師業務要覧第4版	24-32, 2023	産婦人科	岡田十三

その他（2023/1/1 ～ 2023/12/31）

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社，地名	所属科(課)	担当者
1	神戸循環器道場	循環器疾患のUp to date	'23/7	神戸市	循環器内科	濱田晶子
2	緩和ケアと不眠症診療WEBセミナー	座長	'23/4	Web	消化器内科	船津英司
3	医療安全Webセミナー	座長	'23/6	Web	消化器内科	船津英司
4	大阪西部消化器疾患地域連携の会	座長	'23/8	Web	消化器内科	船津英司

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社，地名	所属科（課）	担当者
5	第2回WEST OSAKA Regional Workshop	司会	'23/10	大阪市	消化器内科	船津英司
6	DUAL Seminar in KOBE	演者：ツイミーグはどの場面で活躍できるのか	'23/4	Web	糖尿病内分泌内科	中島進介
7	Diabetes Seminar via ZOOM	座長：先進糖尿病デバイスを活用した糖尿病診療	'23/6	Web	糖尿病内分泌内科	中島進介
8	第16回北播糖尿病療養指導フォーラム	講演：「肥満，糖尿病に対する外科治療」当院の減量手術チームの取り組み	'23/7	Web	糖尿病内分泌内科	中島進介
9	Diabetes Conference	座長：～他科併診における糖尿病管理について考える会～	'23/8	神戸市	糖尿病内分泌内科	中島進介
10	第11回ちぶね地域連携勉強会	講演：肥満、糖尿病治療の最新のトピックス	'23/8	Web	糖尿病内分泌内科	中島進介
11	DUAL Seminar in OSAKA	座長：約100例の使用経験から考えるツイミーグのポジショニングについて	'23/8	Web	糖尿病内分泌内科	中島進介
12	西淀川区地域連携シンポジウム	座長，演者：糖尿病と高血圧 ～no more bad companion～	'23/9	大阪市	糖尿病内分泌内科	中島進介
13	1型糖尿病診療を語る会	座長，演者：症例検討	'23/11	大阪市	糖尿病内分泌内科	中島進介
14	第25回西淀小児科懇話会	座長	'23/6	大阪市	小児科	吉井勝彦
15	第67回日本新生児成育医学会学術集会	座長	'23/11	横浜市	小児科	横田知之
16	第12回北摂セントラルサプライ研究会	座長：製品ファミリーとマスター製品	'23/3	吹田市	麻酔科・手術中材センター	水谷　光
17	第98回日本医療機器学会	座長：洗浄・滅菌業務に関わる皆様に改めて問いたい―我々は日々“何を”“保証”していますか？	'23/6	横浜市	麻酔科・手術中材センター	水谷　光
18	第98回日本医療機器学会	座長：医療機器における「もったいない」―医療の世界もSDGsを考える時代	'23/7	横浜市	麻酔科・手術中材センター	林　正晃，水谷　光
19	第69回日本麻酔科学会関西支部学術集会	座長：小児麻酔	'23/9	大阪市	麻酔科	魚川礼子
20	第69回日本麻酔科学会関西支部学術集会	座長：アナフィラキシー	'23/9	大阪市	麻酔科	藤田和子
21	第45回日本手術医学会	座長：滅菌供給部門との上手な付き合いかた	'23/11	横浜市	麻酔科・手術中材センター	小久保安朗，水谷　光
22	第127回日本産科麻酔学会	座長：JALA報告―これからのわが国の無痛分娩の展開	'23/12	豊中市	麻酔科	魚川礼子
23	厚生労働省	再製造SUD基準策定等事業 再製造SUD推進検討委員会	'23/12	東京都	麻酔科・手術中材センター	水谷　光

尼崎だいもつ病院

口頭発表（2023/1/1 ～ 2023/12/31）

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科（課）	発表者
1	第64回日本神経学会学術大会	Three cases of pyogenic ventriculitis complicated by bacterial meningitis without neurosurgery	'23/6	千葉市	脳神経内科	古川公嗣

その他（2023/1/1 ～ 2023/12/31）

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社，地名	所属科（課）	担当者
1	第34回日本老年医学会近畿地方会	座長	'23/11	神戸市	内科	稲本真也

高槻病院

口頭発表（2023/1/1 ～ 2023/12/31）

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科（課）	発表者
1	ACP（米国内科学会）Internal Medicine Meeting	Severity of cirrhosis is associated with increased surgical morality and morbidities in patients with his fractures: a apropensity-score matched analysis using a Japanese nation wide inpatient database	'23/4	San Diego	総合内科	Osamu Hamada[1,2)]，Jung-ho Shin[2)]，Takahiko Tsutsumi[1)]，Noriko Sasaki，Yuichi Imanaka[2)] 1）Department of General Internal Medicine, Takatsuki General Hospital 2）Department of Healthcare Economics and Quality Management, Graduate School of Medicine, Kyoto University
2	第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会	診療看護師による高度看護施設（SNF）体制の導入が誤嚥性肺炎入院患者のアウトカムに及ぼす影響	'23/5	名古屋市	総合内科	猪熊咲子，筒泉貴彦
3	ACP（米国内科学会）日本支部年次総会・講演会2023	パイセン，海外臨床留学の仕方教えてください	'23/6	Web	総合内科	筒泉貴彦
4	第9回日本NP学会学術総会	診療看護師（NP）を主体とした高度看護施設（SNF）に準じた診療体制の評価	'23/10	札幌市	総合内科	猪熊咲子，筒泉貴彦
5	第9回日本NP学会学術総会	診療看護師（NP）の卒後研修の評価方法を考察する	'23/10	札幌市	総合内科	向井拓也，筒泉貴彦
6	第9回日本NP学会学術総会	Advance care planningに対する医療従事者の認識及びその発展に対する障壁についての調査	'23/10	札幌市	総合内科	小林達也，筒泉貴彦
7	第63回日本呼吸器学会学術講演会	当院におけるプラチナ製剤+ペメトレキセド+ペムブロリズマブの有効性，安全性について後方視的検討	'23/4	東京都	呼吸器内科	山岡貴志，岩坪重彰，日詰健太郎，村上翔子，岩本夏彦，松村佳乃子，中村美保，船田泰弘
8	第13回日本呼吸器学会学術講演会	突発性間室肺炎の急性憎悪による入院中死亡に関する後方視的検討	'23/4	東京都	呼吸器内科	村上翔子，松村佳乃子，日詰健太郎，増田佳純，塚本　玲，山岡貴志，岩本夏彦，岩坪重彰，中村美保，船田泰弘
9	第64回日本肺癌学会学術集会	EGFR　変異陽性腺癌が混在した混合型小細胞癌にOsimertinib投与後CDDP+VP-16+Durvalmabを投与した一例	'23/11	千葉市	呼吸器内科	岩坪重彰，阪本萌永子，大木元愛子，山岡貴志，村上翔子，松村佳乃子，中村美保，船田泰弘
10	第64回日本肺癌学会学術集会	当院における非小細胞肺癌1次治療に免疫チェックポイント阻害剤を含む薬物療法を施行した症例の検討	'23/11	千葉市	呼吸器内科	阪本萌永子，岩坪重彰，大木元愛子，山岡貴志，村上翔子，中村美保，船田泰弘
11	第242回日本内科学会近畿地方会	副腎クリーゼに対するhydrocortsone投与により一過性に機能改善を認めた汎下垂体機能低下症の1例	'23/12	豊中市	呼吸器内科	大西湧斗，吉田健一，平賀千尋，三浦　洋，今出　礼[1)]，陳　慶祥 1）高槻病院小児科
12	第87回日本循環器学会学術集会	The Usefulness of Clinical Frailty Scale as Screening for Comprehensive Geriatric Assessment of Older Heart Failure Patients	'23/3	福岡市	循環器内科	湯口　賢，山田真博，佐久間大輝，片平龍太郎，田中悠介，谷村幸亮，佐野浩之，松寺　亮，中島健爾，髙岡秀幸

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
13	第240回日本内科学会近畿地方会	IgG4関連疾患が疑われたが，特発性心膜炎の診断となり，ステロイドが著効した一例	'23/6	神戸市	循環器内科	林　友貴，尾家勇哉，齋藤勝太郎，名村咲音，片平龍太郎，神末真由，田中悠介，谷村幸亮，佐野浩之，松寺　亮，中島健爾，高岡秀幸
14	第135回日本循環器学会近畿地方会	経皮的冠動脈形成術直後に心室中隔穿孔を認めた急性下壁心筋梗塞の一例	'23/7	大阪市	循環器内科	齋藤勝太郎，林　友貴，尾家勇哉，名村咲音，片平龍太郎，神末真由，田中悠介，谷村幸亮，佐野浩之，松寺　亮，中島健爾，高岡秀幸
15	第31回日本心血管インターベンション治療学会学術集会	Feasibility of drug-coated balloon angioplasty in acute coronary syndrome patients	'23/8	福岡市	循環器内科	片平龍太郎，齋藤勝太郎，尾家勇哉，林　友貴，名村咲音，神末真由，田中悠介，谷村幸亮，佐野浩之，松寺　亮，中島健爾，高岡秀幸
16	第41回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	エキシマレーザー冠動脈形成術後の血管損傷を血管内超音波で観察し得たST上昇型急性心筋梗塞の1例	'23/10	大阪市	循環器内科	齊藤勝太郎，尾家勇哉，林　友貴，片平龍太郎，神末真由，田中祐介，谷村幸亮，佐野浩之，松寺　亮，中島健爾，高岡秀幸
17	第41回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	Impella抜去後に急性下肢動脈閉塞を来した1例	'23/10	大阪市	循環器内科	尾家勇哉，齊藤勝太郎，林　友貴，片平龍太郎，神末真由，田中祐介，谷村幸亮，佐野浩之，松寺　亮，中島健爾，高岡秀幸
18	第41回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	特発性冠動脈解離による心筋梗塞と考えられた1例	'23/10	大阪市	循環器内科	林　友貴，尾家勇哉，齊藤勝太郎，片平龍太郎，神末真由，田中祐介，谷村幸亮，佐野浩之，松寺　亮，中島健爾，高岡秀幸
19	第41回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	血管内治療で血栓消退が得られたPaget-Schroetter症候群の1例	'23/10	大阪市	循環器内科	片平龍太郎，林　友貴，尾家勇哉，齊藤勝太郎，神末真由，田中祐介，谷村幸亮，佐野浩之，松寺　亮，中島健爾，高岡秀幸
20	第242回日本内科学会近畿地方会	鎖骨下動脈盗血症候群による失神を呈した1例	'23/12	豊中市	循環器内科	中畑孔輝，尾家勇哉，齋藤勝太郎，林　友貴，名村咲音，片平龍太郎，神末真由，田中悠介，谷村幸亮，佐野浩之，松寺　亮，中島健爾，高岡秀幸
21	第136回日本循環器学会近畿地方会	急激な経過を辿った心アミロイドーシスの一例	'23/12	大阪市	循環器内科	林　友貴，尾家勇哉，齊藤勝太郎，片平龍太郎，神末真由，田中祐介，谷村幸亮，佐野浩之，松寺　亮，中島健爾，高岡秀幸
22	第60回日本糖尿病学会近畿地方会	アルカレミアをきたした一例	'23/10	神戸市	糖尿病内分泌内科	岩垣慈音，三浦　洋，平賀千尋，吉田建一，陳　慶祥
23	第242回日本内科学会近畿地方会	副腎クリーゼに対するHydrocortisone投与により一過性に機能改善を認めた汎下垂体機能低下症の1例	'23/12	豊中市	糖尿病内分泌内科	大西湧斗，吉田健一，平賀千尋，三浦　洋，陳　慶祥
24	第69回日本不整脈心電学会学術大会	Remote Magnetic Navigation-Guided Atrial Fibrillation Ablation Via a Superior Approach	'23/7	札幌市	不整脈内科	田中友望，吉田雅晴，山城荒平

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
25	カテーテルアブレーション関連春季大会2023	当院でのQDOT® カテーテルを用いた左右肺静脈隔離術におけるchar形成の評価	'23/11	福岡市	不整脈内科	吉田雅晴，佐藤泰貴，佐久間大輝，田中友望，山城荒平
26	カテーテルアブレーション関連秋季大会2023	QDOTMICRO® を用いたカテーテルアブレーションでの温度モニターによる焼灼効果	'23/11	福岡市	不整脈内科	田中友望，佐久間大輝，吉田雅晴，佐藤泰貴，山城荒平
27	第240回近畿地方会日本内科学会	CA19-9異常高値を来した原因不明の全身性血栓塞栓症で病理解剖により判明した低分化型尿路上皮癌の一例	'23/6	神戸市	脳神経内科	今西遼太，山形大志，立花久嗣，大久保貴子[1)]，西田剛[2)]，松下達生 1）病理診断科 2）泌尿器科
28	地域で見守るてんかん診療Up to date	認知症とてんかんの鑑別について	'23/8	Web	脳神経内科	立花久嗣
29	日本人類遺伝学会第68回大会	A case of hyperkalemic periodic paralysis with self-interpretation of the illness	'23/10	東京都	脳神経内科	立花久嗣，服部有香[1)]，四本由郁[1)]，玉置知子[2)] 1）病理診断科 2）遺伝診療センター
30	第13回日本リッチケア症臨床研究会	北摂の山中で複数のマダニ刺症を受け，日本紅斑熱感染が判明した症例の検討	'23/2	大津市	救急科	豊島千絵，増田　茂，稲本真也，秋元　寛，夏秋　優[1)]，高田伸弘[2)] 1）兵庫医科大学皮膚科学 2）医学野外研究支援会
31	第126回近畿救急医学研究会	北摂の山中で複数のマダニ刺症を受け，日本紅斑熱感染が判明した症例の検討	'23/6	大阪市	救急科	豊島千絵，村井　隆，秋元　寛
32	第51回日本救急医学会総会・学術集会	北摂の山中で複数のマダニ刺症を受け，日本紅斑熱感染が判明した症例の検討	'23/11	東京都	救急科	豊島千絵，神末茉由，根来孝義[1)]，平尾木綿，増田　茂，稲本真也[2)]，高田伸弘[3)]，夏秋　優[4)]，村井　隆，秋元　寛 1）大阪府三島救急医療センター 2）尼崎だいもつ病院 3）医学野外研究会 4）兵庫医科大学
33	第40回国際人間科学研究会議	Proposing a new concept of calendar time:"Apud-Festum," or near the festival.	'23/7	平塚市	精神科	杉林　稔
34	第70回日本病跡学会総会	キリシタン大名高山右近の新世紀（大会長講演）	'23/7	高槻市	精神科	杉林　稔
35	第70回日本病跡学会総会	塔本シスコ　とてつもなく広がる生活の光景　糖尿病者の生活を描くモチーフと重ね合わせて	'23/7	高槻市	精神科	細野知子[1)]，杉林　稔 1）日本赤十字看護大学
36	第46回日本精神病理学会	「中井久夫という場所」（シンポジウム）	'23/10	東京都	精神科	杉林　稔
37	第36回日本総合病院精神医学会総会	当院での物忘れ看護相談外来の現状について	'23/11	仙台市	精神科	家田麻沙，田中さおり，井上由香，伊藤晴子，杉林　稔
38	第30回多文化間精神医学会学術総会	暦時間から臨床的リズムを考える（シンポジウム）	'23/11	東京都	精神科	杉林　稔
39	第112回日本病理学会総会	ポストHCV時代の肝生検	'23/4	下関市	病理診断科	伊倉義弘
40	第112回日本病理学会総会	術前化学療法により主組織型が浸潤性乳管癌から浸潤性小葉癌に変化した乳癌の一例	'23/4	下関市	病理診断科	大久保貴子，三成善光[1)]，岩井泰博，伊倉義弘 1）愛仁会高槻病院乳腺外科
41	The 3rd International Liver Conference	Liver Biopsy in the Post-HCV Era	'23/9	東京都	病理診断科	伊倉義弘

学術業績集

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
42	第62回日本臨床細胞学会	頭蓋骨に発生した単一臓器型ランゲルハンス細胞組織球症の１例	'23/11	福岡市	病理診断科	井本智子[1)] 大久保貴子，岩井泰博， 伊倉義弘 1）愛仁会高槻病院技術部検査科
43	第36回近畿小児科学会	単純性股関節で入院し偶発的に抗リン脂質抗体陽性と判明した幼児例	'23/3	大阪市	小児科　外来・小児病棟	藤原知咲，石森真吾， 永尾弘之，山本和宏， 篠本匡志，服部有香， 大西　聡，今出　礼， 起塚　庸
44	第126回日本小児科学会学術集会	発熱性尿路感染症における急性期-過性腎腫大は膀胱尿管逆流症のリスク因子である：多施設共同コホート研究	'23/4	東京都	小児科　外来・小児病棟	石森真吾，藤村順也[1)]， 中西啓太[2)]，服部健吾[3)]， 平瀬敏志[4)]，松野下夏樹[5)]， 神吉直宙[6)]，起塚　庸 1）加古川中央市民病院小児科 2）済生会兵庫病院小児科 3）社会医療法人愛仁会高槻病院小児外科 4）甲南医療センター小児科 5）北播磨総合医療センター小児科 6）姫路赤十字病院小児科
45	第65回日本小児神経学会学術集会	超難治性けいれん重積状態の治療に難渋したALDH7A1遺伝子変異による非典型ビタミンB6依存症てんかんの1例	'23/5	岡山市	小児科　外来・小児病棟	服部有香，起塚　庸[1)]， 岡元文香，永尾宏之， 山本宏之[1)]，篠本匡志[1)]， 来田路子，今出　礼， 石森真吾，内山敬達， 四本由郁[2)]，九鬼一郎[3)] 1）小児集中治療科 2）遺伝診療センター 3）大阪市立総合医療センター小児脳神経内科
46	ASCAPAP2023 in Kyoto-The 11th Congress of The Asian Society for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions	Transdisciplinary collaborative support for children facing neurodevelopmental disoders in an adverse environment	'23/5	京都市	小児科	Atsuko Takei, Yuko Shibata[1)], Naomi Hashikura[2)], Tomoko Kotera[3)] 1) Department of social services 2) Department of Nursing 3) Department of Clinical Psychology
47	第66回日本腎臓学会学術総会	小児IgA腎症の肉眼的血尿発作に伴う急性腎障害発症に鉄とマクロファージが関与する：多機関共同研究	'23/6	横浜市	小児科　外来・小児病棟	石森真吾，堀之内智子[1)]， 藤村順也[2)]，神吉宇宙[3)]， 貝藤裕史[4)]，田中百合子[5)]， 松倉祐喜[6)]，島袋　渡[7)]， 島　友子[8)]，河口亜津彩[9)]， 荒木義則[9)]，中西浩一[7)]， 野津寛大[1)] 1）神戸大学小児科 2）加古川中央市民病院小児科 3）姫路赤十字病院小児科 4）兵庫県立こども病院腎臓内科 5）獨協医科大学埼玉医療センター小児科 6）済生会高岡病院小児科 7）琉球大学小児科 8）和歌山県立医科大学小児科 9）国立病院機構北海道医療センター小児科

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
48	第58回小児腎臓病学会	小児IgA腎症の肉眼的血尿発作に伴う急性腎障害発症に鉄とCD163マクロファージが関与する：多機関共同研究	'23/6	高槻市	小児科　外来・小児病棟	石森真吾，堀之内智子[1)]，山村智彦[1)]，藤村順也[2)]，神好直宙[3)]，貝藤裕史[4)]，田中百合子[5)]，松倉裕喜[6)]，島袋　渡[7)]，島　友子[8)]，河口阿津彩[9)]，荒木義則[9)]，中西浩一[7)]，野津寛大[1)] 1）神戸大学大学院医学研究科内科系講座　小児科学分野 2）加古川中央市民病院小児科 3）姫路赤十字病院　小児科 4）兵庫県立こども病院腎臓内科 5）獨協医科大学埼玉医療センター　小児科 6）済生会高岡病院　小児科 7）琉球大学　小児科 8）和歌山県立医科大学小児科 9）国立病院機構北海道医療センター　小児科
49	第36回日本小児救急医学会	乳幼児の転落による頭蓋骨骨折へ寄与する因子の検討	'23/7	千葉市	小児科　外来・小児病棟	石森真吾[1)]，小野あずさ[1,2)]，和田雄樹[3)]，山本和宏[1)]，篠本匡志[1)]，大西　聡[1)]，起塚　庸[1)]，原田敦子[3)] 1）愛仁会高槻病院小児科 2）大阪大学連合小児発達学研究科 3）愛仁会高槻病院小児脳神経外科
50	第59回日本小児循環器学会総会・学術集会	集学的アプローチによるtreat and repairを施行できた重症肺高血圧合併心室中日隔欠損を伴ったDown症候群1乳幼児例の術後肺高血圧評価	'23/7	横浜市	小児科　外来・小児病棟	内山敬達，永尾宏之，岸　勘太，根本慎太郎，山下麻紀
51	第59回日本小児循環器学会総会・学術集会	解熱後も冠動脈角地傾向にある川崎病患者患児に対し血漿交換療法を行った1乳児例	'23/7	横浜市	小児科　外来・小児病棟	内山敬達，大西　聡，永尾宏之，起塚　庸
52	第59回日本小児循環器学会総会	集学的アプローチによるtreat and repairを	'23/7	横浜市	小児科　外来・小児病棟	内山敬達
53	第32回日本小児泌尿器科学会	小児発熱性尿路感染症の急性期治療以外の管理	'23/7	神戸市	小児科　外来・小児病棟	石森真吾
54	第59回日本小児循環器学会総会・学術集会	KCNH2遺伝子異常を伴った左室心筋緻密化障害（LVNC）の一例	'23/7	横浜市	小児科　外来・小児病棟	永尾宏之，内山敬達，服部有香，四本由郁，山本和宏[1)]，篠本匡志[1)]，大西　聡[1)]，起塚　庸[1)]，山城荒平[2)]，廣野恵一[3)] 1）高槻病院小児集中治療科 2）高槻病院不整脈内科 3）富山大学小児科
55	第53回日本腎臓学会西部学術大会	1歳時にネフローゼ症候群を発症し，特徴的な腎組織像を呈した先天性免疫不全症（MIRAGE症候群）の1例	'23/10	岡山市	小児科　外来・小児病棟	石森真吾，篠本匡志，大西　聡，服部有香，今出　礼，鳴海覚志[1)]，吉川徳茂[2)]，起塚　庸 1）慶応義塾大学医学部小児科 2）高槻病院臨床研究センター

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
56	第53回日本腎臓学会西部学術大会	目虚血症候群を合併した，維持腹膜透析の3歳男児例	'23/10	岡山市	小児科　外来・小児病棟	石森真吾，山本和宏，篠本匡志，大西　聡，服部有香，堀之内智子[1)]，上田香織[2)]，中西裕子[2)]，起塚　庸 1）神戸大学内科系講座小児科学分野 2）神戸大学外科学系講座眼科学分野
57	第72回日本アレルギー学会学術大会	鶏卵経口免疫療法中の食物経口負荷試験の誘発症状の強さの予測におけるオボムコイド親和性IgEtとIgG4の意義	'23/10	東京都	小児科　外来・小児病棟	谷内昇一郎[1,2)]，坂井利佳[2)]，榎本真宏[1)]，今出　礼[1)]，郷間　環[1)]，水戸守真寿[2)]，西野昌光[1)]，起塚　庸[1)] 1）愛仁会高槻病院小児科 2）徳島大学先端酵素学研究所生体防病態代謝研究分野
58	第56回日本てんかん学会学術集会	当院における小児てんかん患者へのペランパネルの使用経験について	'23/10	東京都	小児科・外来・小児病棟	服部有香，起塚　庸[1)]，濱本麻希，大西　聡[1)]，今出　礼，石森真吾 1）高槻病院小児集中治療科
59	第72回日本アレルギー学会学術大会	極低出生体重児における漢方製剤の使用実態	'23/10	東京都	小児科　外来・小児病棟	郷間　環，片山義規，岸上　真，河田　興[1)] 1）摂南大学薬学部臨床薬理学研究
60	the Asian Congress of Pediatric Nephrology	onset medhanisms and prognosis in pediatric patients with IgA nephropathy accompanied by macrohematuria-induced acute kidney injury: a multicenter study	'23/11	Dubai, UAE	小児科　外来・小児病棟	Shingo Ishimori, Tomoko Horinouchi[1)], Tomohiko Yamamura[1)], Junya Fujimura[2)], Naohiro Kamiyoshi[3)], Hiroshi Kaito[4)], Yuriko Tanaka[5)], Hiroki Matsukura[6)], Wataru Shimabukuro[7)], Yuko Shima[8)] Azusa Kawaguchi[9)], Yoshinori Araki[9)], Koichi Nakanishi[7)], Shigeo Hara[10)], Kandai Nozu[1)] 1）Kobe University Graduate School of Medicine 2）Kakogawa Central City Hospital 3）Himeji Red Cross Hospital 4）Hyogo Prefectual Children Hospital 5）Dokkyo Medical University Saitama Medical Center 6）Saiseikai Takaoka Hospital 7）Graduate School of Medicine, University of the Ryukyus 8）Wakayama Medical University Graduate School of Medicine 9）National Hospital Organization Hokkaido Medical Center 10）Kobe City Medical Center General Hospital
61	第60回日本小児アレルギー学会学術大会	単回及び2分割で行った初回少量鶏卵経口負荷試験における陽性予測因子の検討-加熱鶏卵乾燥粉末を用いて	'23/11	京都市	小児科　外来・小児病棟	谷内昇一郎，今出　礼，榎本真宏，郷間　環，水戸守真寿，西野昌光，起塚　庸

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
62	第60回日本小児アレルギー学会学術大会	オマリズマブ併用経口免疫療法を行った重症花粉症合併食物アレルギーの4例	'23/11	京都市	小児科　外来・小児病棟	松浦　想，榎本真宏，水戸守真寿，郷間　環，今出　礼，西野昌光，起塚　庸，谷内昇一郎
63	第126回日本小児科学会学術集会	健康な新生児における生後週数ごとのビリルビン結合能に関する検討	'23/4	東京都	新生児科	西澤和輝，片山義規，李　容桂
64	第59回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会	MRSA　保菌児へのムピロシン軟膏鼻腔塗布による鼻腔外の除菌効果	'23/7	名古屋市	新生児科	片山義規
65	第59回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会	分離手術困難な胸部結合双胎（Thoracopagus conjoined twins）の自然経過	'23/7	名古屋市	新生児科	岸上　真[1)]，中田有紀[1)]，大隅敬太[1)]，長坂美和子[1)]，片山義規[1)]，池上　等[1)]，中後　聡[2)]，平田克弥[3)]，山本瑠美子[4)] 1）新生児科 2）産婦人科 3）新生児科 4）産科
66	第38回日本環境感染学会総会・学術集会	医療従事者を発端者とするSARS-CoV-2院内感染と考えられた新生児例	'23/7	横浜市	新生児科	片山義規，成実英智[1)] 1）高槻病院感染対策室
67	第50回日本小児臨床薬理学会学術集会	シンポジウム:NICUでより安全な薬物療法を求めて 当院NICUにおける点滴薬剤オーダーエラーの現状と対策	'23/9	大阪市	新生児科	岸上　真
68	第21回日本新生児黄疸管理研究会	シンポジウム　プロフェッショナルに聞く:正期産新生児の黄疸管理の困りごと 正期産新生児の黄疸管理	'23/10	高松市	新生児科	西澤和輝
69	第67回日本新生児成育医学会・学術集会	日齢14に血小板数が最低値となった新生児受動性血小板減少症の早産児例	'23/11	横浜市	新生児科	長坂美和子，片山義規
70	第67回日本新生児成育医学会・学術集会	蒸留水を用いた口腔ケアの人工呼吸器関連肺炎予防効果	'23/11	横浜市	新生児科	片山義規
71	第67回日本新生児成育医学会・学術集会	医療従事者から伝播したSARS-CoV-2院内感染と考えられた新生児例	'23/11	横浜市	新生児科	片山義規
72	第22回日本LPEC研究会	LPEC術中に発見したmesodiverticular bandの1例	'23/5	大阪市	小児外科	服部健吾，辻　恵未，吉村翔平，津川二郎，西島栄治
73	第32回小児泌尿器科学会総会・学術集会	SILPEC鉗子を用いた単孔式腹腔鏡下精索上静脈瘤手術	'23/7	神戸市	小児外科	服部健吾，吉村翔平，石森真吾[1)] 1）小児科
74	第59回日本小児外科学会近畿地方会	開腹十二指腸潰傷穿孔術後の高度な癒着を伴う胃食道逆流症に対して腹腔鏡した噴門形成術を施行した1例	'23/8	大阪市	小児外科	吉村翔平，服部健吾，辻　恵未，津川二郎，西島栄治
75	第33回日本小児呼吸器外科研究会	胸骨正中切開で摘出術を行った気管分岐部気管支原性嚢胞の1例	'23/10	福岡市	小児外科	吉村翔平，辻　恵未，服部健吾，津川二郎，西島栄治
76	第50回日本小児栄養消化器肝臓学会	腫瘤形成性の十二指腸潰瘍を契機に診断した好酸球性胃腸炎の1例：出生からの長期経過から見た発症時期の考察	'23/10	仙台市	小児外科	吉村翔平，辻　恵未，服部健吾，津川二郎，西島栄治
77	第18回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会	声門下嚢胞の臨床像と治療に関する検討	'23/11	別府市	小児外科	津川二郎
78	第36回日本内視鏡外科学会総会	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術の臀部ポート挿入時間は術後臀部Surgical site infection(SSI)発生率に関連する	'23/12	横浜市	小児外科	吉村翔平，辻　恵未，服部健吾，津川二郎

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
79	第53回日本心臓血管外科学会学術総会	TypeⅡ，TypeⅢの大動脈弁閉鎖不全症に対する自己弁温存術の長期成績	'23/3	旭川市	心臓血管外科	久保沙羅
80	第53回日本心臓血管外科学会学術総会	狭小弁輪の大動脈狭窄症に対する弁輪拡大術を伴う大動脈弁置換術の早期成績	'23/3	旭川市	心臓血管外科	田中　綾
81	第51回日本血管外科学会総会	Petticoat法を施行された慢性B型大動脈解離に対する胸腹部大動脈人工血管置換術の経験	'23/6	東京都	心臓血管外科	田中　綾，久保沙羅，大村篤史，常深孝太郎，岡　隆紀，大北　裕
82	第66回関西胸部外科学会学術集会	右冠動脈入口部にEntryが存在したStanford A型大動脈解離に対し，右Valsalva洞 Partial Remodelingと弓部全置換術，冠動脈バイパス術を施行した一例	'23/6	東京都	心臓血管外科	田中　綾
83	第95回日本胃癌学会総会	幽門狭窄を来した胎児消化管類似癌の1例	'23/2	札幌市	消化器外科	池田太郎，眞鍋裕宇，仲西凛太郎，鍵山大起，大和田善之，細野雅義，千堂宏義
84	第59回腹部救急医学学会総会	直腸穿孔と子宮穿孔の鑑別が術前に困難であった1例	'23/3	宣野湾市	消化器外科	大和田善之，立花崇明，徳原佳織，池田太郎，細野雅義，岡崎太郎，家永徹也
85	第21回日本ヘルニア学会集会	当院で修復した閉鎖孔ヘルニア7例の検討	'23/5	大阪市	消化器外科	細野雅義，立花崇明，常城宅生，池田太郎，岡崎太郎
86	第45回日本癌局所療法研究会	腹膜播種を伴う横行結腸癌術後の肝転移・卵巣転移に対し腹腔鏡下切除術を施行した1例	'23/6	東京都	消化器外科	真鍋裕宇，池田太郎，立花崇明，徳原佳織，大和田善之，細野雅義，岡崎太郎
87	第45回日本癌局所療法研究会	手術と化学療法により無再発生存が得られている腹腔洗浄細胞診陽性の膵尾部癌の一例	'23/6	東京都	消化器外科	泰田翔子，岡崎太郎，立花崇明，常城宇生，池田太郎，大和田善之，細野雅義
88	第45回日本癌局所療法研究会	急性虫垂炎に対する虫垂切除後に病理組織検査で虫垂NET　G1と診断された1例	'23/6	東京都	消化器外科	日笠兼太郎，大和田善之，眞鍋裕宇，仲西凛太郎，徳原佳織，立花崇明，池田太郎，細野雅義，岡崎太郎
89	第78回日本消化器外科学会総会	十二指腸乳頭部原発小細胞型神経内分泌癌の1例	'23/7	函館市	消化器外科	大和田善之，岡崎太郎，立花崇明，常城宇生，池田太郎，細野雅義，家永徹也
90	第78回日本消化器外科学会総会	胎児消化管癌5例の臨床病理学的検討	'23/7	函館市	消化器外科	池田太郎，立花崇明，常城宇生，大和田善之，細野雅義，岡崎太郎，伊倉義弘[1)] 1）病理診断科
91	第59回日本胆道学会学術集会	腹腔鏡下天蓋切除中に胆管との交通を認めた単純性巨大肝嚢胞の1例	'23/9	札幌市	消化器外科	池田太郎，岡崎太郎
92	第26回北大阪外科懇話会	維持透析患者に対する悪性腫瘍手術の問題点栄養管理も含めて	'23/12	大阪市	消化器外科	池田太郎，眞鍋裕宇，仲西凛太郎，鍵山大起，大和田善之，細野雅義，千堂宏義
93	第36回内視鏡外科学会総会	腸回転異常症を伴う急性虫垂炎に対して腹腔鏡下虫垂切除術を施行した1例	'23/12	横浜市	消化器外科	橋本瑞己，細野雅義，眞鍋裕宇，仲西凛太郎，鍵山大起，池田太郎，大和田善之，千堂宏義
94	第36回内視鏡外科学会総会	TAPPで修復した腸骨移植後の下腰ヘルニアの1例	'23/12	横浜市	消化器外科	細野雅義，鍵山大起，池田太郎，大和田善之，千堂宏義
95	第31回日本乳癌学会学術総会	Ductal carcinoma in situ（DCIS）切除後に特異な経過をたどった異時両側乳癌の1例	'23/6	横浜市	乳腺外科	三成善光

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
96	第31回日本乳癌学会学術総会	リスク低減手術のタイミングを工夫したBRCA2変異陽性者の1例	'23/6	横浜市	乳腺外科	下山京子
97	STROKE2023	多段回の血管内手術にて治療した両側椎骨動脈解離によるくも膜下出血の一例	'23/3	横浜市	脳神経外科	角野喜則
98	第38回日本骨髄外科学会	血管内治療で治療した小児破裂頚髄辺縁動静脈瘻の一例	'23/6	名古屋市	脳神経外科	角野喜則[1,2)]，倉本仁美[1)]，豊田佐織[1)]，原田敦子[1)]，佐々木学[2,3)] 1）社会医療法人愛仁会高槻病院脳神経外科 2）大阪大学大学院医学系研究科脳神経外科 3）医療法人錦秀会阪和記念病院脊椎脊髄センター
99	第38回日本骨髄外科学会	血管内治療で治療した小児破裂頚髄辺縁動静脈瘻の一例	'23/6	名古屋市	脳神経外科	角野喜則
100	第51回日本小児神経外科学会	巨大中頭蓋窩くも膜嚢胞に急性硬膜外血種を合併した2歳男児	'23/6	宇都宮市	脳神経外科	倉本仁美，豊田佐織[1)]，角野喜則[1)]，前野和重[1)]，大西　聡[2)]，起塚　庸[2)]，原田敦子[3)] 1）脳神経外科 2）小児科 3）小児脳神経外科
101	第51回日本小児神経外科学会	PI3K-AKT-mTORシグナル伝達系遺伝子に病的バリアントを認めたS状洞狭窄症の女児例	'23/6	宇都宮市	脳神経外科	角野喜則，前野和重，中村夏樹[1)]，倉本仁美[1)]，豊田佐織，和田敬仁[2,3)]，四本由郁，玉置和子[4)]，原田敦子[1,4)] 1）高槻病院小児脳神経外科 2）京都大学病院遺伝子診療部 3）京都大学大学院ゲノム医療学 4）高槻病院遺伝診療センター
102	第19回Craniosynostosis研究会	頭蓋骨縫合早期癒合症を併発したアラジール症候群の一例	'23/7	福島市	脳神経外科	清水東与，原田敦子，久徳茂雄[1)]，上田晃一[2)] 1）市立奈良病院再建形成外科 2）大阪医科薬科大学形成外科
103	第13回日本低侵襲・内視鏡骨髄神経外科学会	血管内治療単独で治療した破裂頚骨道辺縁動静脈瘻の小児例	'23/7	吹田市	脳神経外科	角野喜則，倉本仁美，原田敦子[1)]，佐々木学，前野和重 1）小児脳神経外科
104	第13回日本低侵襲・内視鏡骨髄神経外科学会	血管内治療単独で治療した破裂頚骨道辺縁動静脈瘻の小児例	'23/7	吹田市	脳神経外科	角野喜則
105	第73回日本小児神経学会近畿地方会	アラジール症候群に併発していた頭蓋骨早期癒合症が遅発的に頭蓋内亢進症状を呈した一例	'23/9	京都市	脳神経外科	清水東与，原田敦子，久徳茂雄[1)]，上田晃一[2)] 1）市立奈良病院再建形成外科 2）大阪医科薬科大学形成外科
106	谷町倶楽部	急性硬膜下血腫に対して開頭血腫除去術を施行した一例	'23/10	神戸市	脳神経外科	清水東与，原田敦子，前野和重
107	第40回日本こども病院神経外科医会	著明な指圧痕，後頭蓋窩狭小化，水頭症，後鼻腔狭窄を合併した矢状縫合早期癒合症の1例	'23/11	大府市	脳神経外科	一瀬綾花，原田敦子，清水東与，倉本仁美，角野喜則，前野和重，比嘉那優大，大吉達樹，浅香明紀，久徳茂雄，上田晃一

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
108	第40回日本こども病院神経外科医会	キアリ奇形と閉塞性水頭症を合併した神経線維腫症1型の一例	'23/11	大府市	脳神経外科	清水東与，一瀬綾花，倉本仁美，角野喜則，前野和重，三輪　点[1)]，原田敦子[2)] 1）慶應義塾大学医学部脳神経外科 2）小児脳神経外科
109	第15回日本水頭症脳脊髄液学会	閉塞性水頭症とキアリ奇形術後の硬膜下水腫により脳圧コントロールに難渋した神経線維腫症1型の一例	'23/11	富山市	脳神経外科	清水東与，一瀬綾花，倉本仁美，角野喜則，前野和重，三輪　点[1)]，原田敦子[2)] 1）慶應義塾大学医学部脳神経外科 2）小児脳神経外科
110	AASPN　2023	中頭蓋窩硬膜動静脈瘻に対する経浅中大脳静脈塞栓	'23/11	京都市	脳神経外科	角野喜則，一瀬綾花，清水東与，前野和重
111	第39回日本脳神経血管内治療学会学術集会	中頭蓋窩硬膜動静脈瘻に対する経浅中大脳静脈塞栓	'23/11	京都市	脳神経外科	角野喜則
112	AASPN2023	A CASE OF RUPTURED CERVICAL PEDIATRIC PERIMEDULLARY ARTERIOVENOUS FISTULA TREATED WITH ENDOVASCULAR EMBOLIZATION.	'23/12	横浜市	脳神経外科	Yoshinori Kadono[1,2)]，Masaki Kuramoto[1,3)]，Toyoshi Shimizu[1,3)]，Atsuko Harada[3)]，Kazushige Maeno[1)] 1）高槻病院脳神経外科 2）大阪大学大学院脳神経外科 3）高槻病院小児脳神経外科
113	AASPN2023	A case of allagille syndrome associated with craniosynostosis.	'23/12	横浜市	脳神経外科	清水東与
114	AASPN2023	A case of atypical sagittal synostosis with prominent digital impressioins, narrowing of the posterior cranical fossa, hydrocephalus, and posterior nasal stenosis.	'23/12	横浜市	脳神経外科	Ayaka Ichinose
115	AASPN2023	A CASE OF RUPTURED CERVICAL PEDIATRIC PERIMEDULLARY ARTERIOVENOUS FISTULA TREATED WITH ENDOVASCULAR EMBOLIZATION.	'23/12	横浜市	脳神経外科	角野喜則
116	第46回日本脳神経外傷学会	経験とエビデンスを生かした小児神経外傷診療	'23/2	岡山市	小児脳神経外科	原田敦子，倉本仁美，豊田佐織[1)]，角野喜則[1)]，前野和重[1)] 1）高槻病院脳神経外科
117	第16回日本整容脳神経外科学会	頭位性頭蓋変形と頭蓋骨縫合早期癒合症に対する頭蓋形状矯正ヘルメット治療の現状と展望	'23/4	富山市	小児脳神経外科	原田敦子，岡本豊子[1)]，久徳茂雄[2)]，上田晃一[1)] 1）大阪医科薬科大学　形成外科 2）市立奈良病院　再建形成外科
118	第43回日本脳神経外科コングレス総会	先天性小児脳神経外科疾患の遺伝学的診断	'23/5	大阪市	小児脳神経外科	原田敦子[1,2)]，四本由郁[2)]，金村米博[3,4)]，玉置知子[2)] 1）高槻病院小児脳神経外科 2）高槻病院遺伝診療センター 3）国立病院機構大阪医療センター臨床研究センター先進医療研究開発部 4）国立病院機構大阪医療センター脳神経外科

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
119	第51回日本小児神経外科学会	頭蓋骨縫合早期癒合症術後の頭蓋形状矯正ヘルメット治療の現状と展望	'23/6	宇都宮市	小児脳神経外科	原田敦子，岡本豊子[1)]，久徳茂雄[2)]，上田晃一[1)] 1）大阪医科薬科大学　形成外科 2）市立奈良病院　再建形成外科
120	第51回日本小児神経外科学会	巨大中頭蓋窩くも膜嚢胞に急性硬膜外血腫を合併した2歳男児	'23/6	宇都宮市	小児脳神経外科	倉本仁美，豊田佐織[1)]，角野喜則[1)]，前野和重[1)]，大西　聡[2)]，起塚　庸[2)]，原田敦子 1）高槻病院脳神経外科 2）高槻病院小児科
121	第8回頭蓋形状誘導療法研究会	赤ちゃんの頭の形の診療にレントゲンやCTなどの画像検査は必要でしょうか	'23/6	福島市	小児脳神経外科	原田敦子，岡本豊子[1)] 1）大阪医科薬科大学　形成外科
122	第19回Craniosynostosis研究会	頭蓋骨縫合早期癒合症を併発したアラジール症候群の一例	'23/7	福島市	小児脳神経外科	清水東与，原田敦子，久徳茂雄[1)]，上田晃一[2)] 1）市立奈良病院　再建形成外科 2）大阪医科薬科大学　形成外科
123	第40回日本二分脊椎研究会	水頭症を伴う脊髄髄膜瘤の女性の出産と開腹手術時の対応	'23/7	福岡市	小児脳神経外科	原田敦子，大石哲也[1)]，中後　聡[1)] 1）産婦人科
124	第73回日本小児神経近畿地方会	学童期に頭蓋骨縫合早期癒合症が診断されたアラジール症候群の一例	'23/9	京都市	小児脳神経外科	清水東与，原田敦子，久徳茂雄[1)]，上田晃一[2)] 1）市立奈良病院　再建形成外科 2）大阪医科薬科大学　形成外科
125	第40回日本こども病院神経外科医会	キアリ奇形と閉塞性水頭症を合併した神経線維腫症1型の一例	'23/11	大府市	小児脳神経外科	清水東与，一瀬綾花[1)]，倉本仁美[1)]，角野喜則[1)]，前野和重[1)]，三輪　点[2)]，原田敦子 1）高槻病院　脳神経外科 2）慶応義塾大学　脳神経外科
126	第40回日本こども病院神経外科医会	著明な指圧痕，後頭蓋窩狭小化，水頭症，後鼻腔狭窄を合併した矢状縫合早期癒合症の一例	'23/11	大府市	小児脳神経外科	一瀬綾花，原田敦子，清水東与，倉本仁美，角野喜則[1)]，前野和重[1)]，比嘉那優大[2)]，大吉達樹[3)]，浅香明紀[4)]，久徳茂雄[5)]，上田晃一[4)] 1）高槻病院脳神経外科 2）鹿児島大学脳神経外科 3）いちき串木野市医師会立　脳神経外科センター 4）大阪医科薬科大学　形成外科 5）市立奈良病院　再建形成外科
127	第40回日本こども病院神経外科医会	既往症のある児に対する頭蓋矯正ヘルメット治療	'23/11	大府市	小児脳神経外科	原田敦子，岡本豊子[1)] 1）大阪医科薬科大学　形成外科
128	第15回日本水頭症脳脊髄液学会	閉塞性水頭症とキアリ奇形術後の硬膜下水腫による脳圧コントロールに難渋した神経線維腫症1型の一例	'23/11	富山市	小児脳神経外科	清水東与，一瀬綾花[1)]，倉本仁美[1)]，角野喜則[1)]，前野和重[1)]，三輪　点[2)]，原田敦子 1）高槻病院　脳神経外科 2）慶応義塾大学　脳神経外科

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
129	4th Congress of Asian-Australasian Socity for Pediatric Neurosurgery	Diagnosis and management of positional plagiocephaly	'23/12	横浜市	小児脳神経外科	Atsuko Harada, Toyoko Okamoto[1),] Shigeo Kyutoku[2),] Kouichi Ueda[1)] 1) Osaka Medical and Pharmaceutical University 2) Nara City Hospital
130	4th Congress of Asian-Australasian Socity for Pediatric Neurosurgery	Factors to Avoid Blood Transfusion in Craniosynostosis Surgery	'23/12	横浜市	小児脳神経外科	Yuki KIMOTO[1),] Atsuko HARADA[2),] Yumi DOI[3),] Shigeo KYUTOKU[4),] Koichi UEDA[5)] 1) Department Of Neurosurgery, Osaka University Graduate School Of Medicine, Suita City, Osaka, Japan, 2) Department Of Pediatric Neurosurgery, Takatsuki General Hospital, Takatsuki City, Osaka, Japan, 3) Pediatric Perioperative Center, Takatsuki General Hospital, Takatsuki City, Osaka, Japan, 4) Division Of Reconstructive Plastic Surgery, Nara City Hospital, Nara City, Nara, Japan, 5) Department Of Plastic Reconstructive Surgery, Osaka Medical And Pharmaceutical University, Takatsuki City, Osaka, Japan
131	4th Congress of Asian-Australasian Socity for Pediatric Neurosurgery	A case of atypical sagittal synostosis with prominent digital impressions, narrowing of the posterior cranial fossa, hydrocephalus, and posterior nasal stenosis	'23/12	横浜市	小児脳神経外科	Ayaka Ichise, Atsuko Harada, Toyo Shimizu, Masami Kuramoto[1),] Yoshinori Kadono[1),] Kazushige Maeno[1),] Nayuta Higa[2),] Tatsuki Oyoshi[3),] Akinori Asaka[4),] Shigeo Kyutoku[5),] Kouichi Ueda[4)] 1) Department Of Neurosurgery, Takatsuki General Hospital 2) Department Of Neurosurgery, Kagoshima University 3) Department Of Neurosurgery, Neurosurgery Center, Ichikino-city, 4) Department Of Plastic And Reconstructive Surgery, Osaka Medical And Pharmaceutical University 5) Division Of Reconstructive Plastic Surgery, Nara City Hospital

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
132	4th Congress of Asian-Australasian Socity for Pediatric Neurosurgery	A case of Alagille syndrome associated with craniosynostosis.	'23/12	横浜市	小児脳神経外科	Toyo Shimizu, Atsuko Harada, Shigeo kyutoku[1), Koichi Ueda[2) 1) Division Of Reconstructive Plastic Surgery, Nara City Hospital 2) Department Of Plastic Reconstructive Surgery, Osaka Medical And Pharmaceutical University
133	ORTHOPEDIC principal	Oxford UKA	'23/2	Web	整形外科	平中崇文
134	第53回日本人工関節学会	JSRAレジェンド講座（膝関節）1 Kinematic alignment TKAおよびUKAのコンセプト，コツ，ピットフォール	'23/2	横浜市	整形外科	平中崇文
135	第53回日本人工関節学会	Kinematic alignment人工膝関節置換術における膝蓋大腿関節への影響	'23/2	横浜市	整形外科	林　卓磨
136	第53回日本人工関節学会	膝パネルディスカッション2 私の考える理想のキネマティックアライメント 日本人にとってのrestricted kinematic alignment TKAのBoundaryとは何か？	'23/2	横浜市	整形外科	平中崇文
137	第53回日本人工関節学会	Face to faceインプラントセミナー9 Personalized Alignment TKA with Persona MC & Vanguard ID	'23/2	横浜市	整形外科	平中崇文
138	第53回日本人工関節学会	Kinematic alignment人工膝関節置換術における膝蓋大腿関節への影響	'23/2	横浜市	整形外科	平中崇文
139	第53回日本人工関節学会	膝シンポジウム2　UKAを理解する Kinematic alignmentのコンセプトによるUKA, Bi-UKA, TKA	'23/2	横浜市	整形外科	平中崇文
140	第53回日本人工関節学会	Oxford Partial Kneeを用いたKinematic Alignment Bi-unicompartmental knee arthroplasty	'23/2	横浜市	整形外科	平中崇文
141	ORTHOPEDIC principal	The current concept of TKA -What is personalized alignment knee arthroplasty	'23/3	Web	整形外科	平中崇文
142	第140回中部日本整形外科災害外科学会	算術的股関節 - 膝関節 - 足関節角（arithmetic HKA）は Oxford UKAは術後の下肢アライメントを予測する	'23/4	奈良市	整形外科	平中崇文，林　卓磨，蒲地正宗，井上諒真，岡本剛治
143	第140回中部日本整形外科災害外科学会	短い横皮切による Oxford UKA の経験	'23/4	奈良市	整形外科	平中崇文，林　卓磨，蒲地正宗，井上諒真，岡本剛治
144	第140回中部日本整形外科災害外科学会	Oxford UKA 術後のベアリング脱転に対する Fixed-UKA への再置換例の5例	'23/4	奈良市	整形外科	荻野壮太，平中崇文
145	ORTHOPEDIC principal	Tips of modified subvastus approach - under vastus approach.	'23/4	Web	整形外科	平中崇文
146	第96回日本整形外科学会学術集会	手術支援ロボットと患者アプリで始まる人工膝関手術デジタルトランスフォーメーション	'23/5	横浜市	整形外科	平中崇文
147	Arthroplasty lecture with Hong Ngok hospital	Personalized arthroplasaty	'23/6	Web	整形外科	平中崇文

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
148	Arthroplasty lecture with Hong Ngok hospital	Muscle preserving total knee arthroplasaty	'23/6	Web	整形外科	平中崇文
149	日本スポーツ整形外科学会2023	mobile bearing UKAでのスポーツ活動	'23/6	広島市	整形外科	深井康弘
150	Arthroplasty lecture with Hong Ngok hospital	Oxford Unicompartmentl knee arthroplasty	'23/7	Web	整形外科	平中崇文
151	ROSAセミナー@広島	TKAのDigital Transformation Robotと患者アプリでTKAはどう変わるか	'23/7	広島市	整形外科	平中崇文
152	Arthroplasty lecture with Hong Ngok hospital	Robotic assisted TKA	'23/7	Web	整形外科	平中崇文
153	第51回日本関節病学会	スポンサードシンポジウム1ロボット支援手術とデジタルデバイスとの連携 現状と未来	'23/7	東京都	整形外科	平中崇文
154	Oxford Partial Knee Japan Course 2023	Lateral meniscus degeneration, lateral cartilage defect.	'23/8	大阪市	整形外科	平中崇文
155	Danang Hospital International Sciencetific Conference 2023	Paradigm shift of knee arthroplasty	'23/9	Danang, Vietnam	整形外科	平中崇文
156	第141回中部日本整形外科災害外科学会	整形外科診療におけるGPT-4の可能性	'23/10	神戸市	整形外科	平中崇文
157	第141回中部日本整形外科災害外科学会	Oxford UKA の術後アライメントはstressed HKA で予想できるか？	'23/10	神戸市	整形外科	岡島貴大，平中崇文，岡本剛治，小出　基，深井恭寛，田中　翔
158	第141回中部日本整形外科災害外科学会	手術ロボットを用いたrestricted kinematic alignment の術中laxity に関する検討	'23/10	神戸市	整形外科	田中　翔，平中崇文，岡島貴大，深井恭寛，小出　基，岡本剛治
159	第141回中部日本整形外科災害外科学会	Oxford UKAの脛骨コンポーネントの内反設置は術後下肢アライメントに影響を与えない	'23/10	神戸市	整形外科	深井恭寛，平中崇文，岡島貴大，田中　翔，小出　基，岡本剛治
160	第141回中部日本整形外科災害外科学会	人工関節患者アプリmymobility の使用状況	'23/10	神戸市	整形外科	田中　翔，平中崇文，岡島貴大，深井恭寛，小出　基，岡本剛治
161	第38回日本整形外科学会基礎学術集会	人工膝関節デジタルトランスフォーメーション Personalized Knee Arthrioplastyを目指して	'23/10	つくば市	整形外科	平中崇文
162	Personalized Alignment TKA Webiner Day 1	私がPersonalized Alignmentを選択する理由 Personalized Alignment 総論	'23/10	Web	整形外科	平中崇文
163	Personalized Alignment TKA Webiner Day 2	私が選択するPersonalized Alignment approach Calipered technique	'23/11	Web	整形外科	平中崇文
164	第50回日本バイオメカニクス学会	Personalized alignmentのup-to-date	'23/11	姫路市	整形外科	平中崇文
165	Personalized Alignment Society 2023 Annual Meeting	KA-medial UKA: Why I have switched to it? Are there alignment boundaries (rKA/FA techniques for medial UKA)?	'23/11	Bordeaux	整形外科	平中崇文
166	第一回日本膝関節学会	スイーツセミナー1【共催：ジンマー・バイオメット合同会社】 手術支援ロボットと患者スマートフォンアプリから始まる人工関節DXそしてpersonalized alignment arthroplasty	'23/12	横浜市	整形外科	平中崇文

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
167	第110回日本泌尿器科学会総会	Re-challenging Chemotherapy after Pembrolizumab in Platinum-Refractory Urothelial Carcinoma	'23/4	神戸市	泌尿器科	内本泰三[1,2)]，小村和正[1)]，福岡屋航[3)]，足立高弘[4)]，橋本　剛[4)]，吉澤篤彦[5)]，高原　健[5)]，稲元輝生[1)]，三木　淳[3)]，木村高弘[3)]，大野芳正[4)]，白木良一[5)]，東　治人[1)] 1）大阪医科薬科大学　泌尿生殖・発達医学講座　泌尿器科学教室 2）愛仁会高槻病院　泌尿器科 3）東京慈恵会医科大学附属病院　泌尿器科 4）東京医科大学病院　泌尿器科 5）藤田医科大学病院　泌尿器科
168	The 3rd International Congress of the Asian Oncology Society	Re-challenging Chemotherapy after Pembrolizumab in Platinum-Refractory Urothelial Carcinoma	'23/10	横浜市	泌尿器科	内本泰三[1,2)]，小村和正[1)]，福岡屋航[3)]，足立高弘[4)]，橋本　剛[4)]，吉澤篤彦[5)]，高原　健[5)]，稲元輝生[1)]，三木　淳[3)]，木村高弘[3)]，大野芳正[4)]，白木良一[5)]，東　治人[1)] 1）大阪医科薬科大学　泌尿生殖・発達医学講座　泌尿器科学教室 2）愛仁会高槻病院　泌尿器科 3）東京慈恵会医科大学附属病院　泌尿器科 4）東京医科大学病院　泌尿器科 5）藤田医科大学病院　泌尿器科
169	第25回北摂皮膚科医会	乳癌治療後に生じた多発性エクリン汗孔腫の1例	'23/4	大阪市	皮膚科	髙橋甲介
170	第122回日本皮膚科学会総会	乳癌治療後に生じた多発性エクリン汗孔腫の1例	'23/6	横浜市	皮膚科	髙橋甲介，福満祥子，前島精治[1)]，瀬戸英伸 1）前島クリニック
171	第74回日本皮膚科学会中部支部学術大会	潰瘍性大腸炎患者に発症した多発性皮膚線維腫の1例	'23/10	京都市	皮膚科	福満祥子，髙橋甲介，瀬戸英伸，伊倉義弘[1)] 1）高槻病院病理診断科
172	第74回日本皮膚科学会中部支部学術大会	男性の陰嚢に多発し一部巨大化したverruciformの1例	'23/10	京都市	皮膚科	髙橋甲介，福満祥子，瀬戸英伸
173	北大阪 Ovarian Cancer Expert Conference	進行卵巣癌について考える～我々の治療戦略とその実践～【その他の講演】	'23/5	豊中市	産婦人科	飯塚徳昭
174	公益社団法人日本産科婦人科学会第75回学術講演会	子宮内への胎胞還納が困難な胎胞脱出に対して，膣壁を縫縮し妊娠継続が可能であった2症例【一般講演】	'23/5	東京都	産婦人科	細野佐代子，柴田貴司，加藤大樹，中後　聡
175	公益社団法人日本産科婦人科学会第75回学術講演会	20年間放置された膣内異物の摘出経験～異物の長期刺激により周囲の膣壁構造が変化することがある～【一般講演】	'23/5	東京都	産婦人科	森本　始，西川茂樹，飯塚徳昭，福岡泰教，徳田妃里，柴田貴司，加藤大樹，中後　聡，小辻文和，大石哲也
176	第148回近畿産科婦人科学会学術集会	膣原発を疑うeGISTの1例～臨床経過と診断過程【一般講演】	'23/6	和歌山市	産婦人科	福岡泰教，中後　聡，大石哲也，加藤大樹，柴田貴司，徳田妃里，細野佐代子，西川茂樹，飯塚徳昭，新田勇人，伊藤弘樹，森本　始
177	第14回日本子ども虐待防止医学会学術集会	医療が必要な要保護児童へのライフステージにおける支援　～要保護児童から特定妊婦へ～【一般講演】	'23/7	尼崎市	産婦人科	橋倉尚美，久世宏美，芝田佑子，加藤大樹

学術業績集

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
178	第40回日本二分脊椎研究会	水頭症を伴う脊髄髄膜瘤の女性の出産と開腹手術時の対応	'23/7	福岡市	産婦人科	原田敦子，大石哲也，中後　聡
179	第59回日本周産期・新生児医学会学術集会	重症新生児貧血の原因が胎盤表面血管からの失血であった一例【一般講演】	'23/7	名古屋市	産婦人科	福岡泰教，柴田貴司，加藤大樹，徳田妃里，細野佐代子，西川茂樹，飯塚徳昭，中後　聡
180	第59回日本周産期・新生児医学会学術集会	FLPから7週間後に胎盤断裂が突発した1症例【一般講演】	'23/7	名古屋市	産婦人科	西川茂樹，柴田貴司，中後　聡
181	第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会	myChoice診断システムとBRADAnalysis診断システムにおける（I）BRACA（/I）結果判定に解離が生じた一例	'23/7	松江市	産婦人科	飯塚徳昭
182	日本超音波医学会　第33回四国地方学術集会	象の鼻様と称される翻転した腸管を描出し得た，総排泄腔外反症の一例【一般講演】	'23/10	高松市	産婦人科	山口里枝，齊藤圭希，中村はる香，小甲久未，木下　綾，八百啓介，岸上　真，中後　聡，川滝元良
183	American Society of Anesthesiologists Annual Meeting	Immediate Endoscopic Removal Is Recommended Before Superabsorbent Gel Balls Cause Intestinal Obstruction In Yong Children	'23/9	San Francisco	麻酔科	Yumi Doi, Satoshi Ekuni, Taiki Ikawa.
184	American Society of Anesthesiologists Annual Meeting	The Effect-site Concentration Of Propofol For Pediatric Patients Aged 0-4 Years Undergoing Rigid Bronchoscopy And Larygomicrosurgery Maintaining Spontaneous Respiration	'23/9	San Francisco	麻酔科	井川大輝，西田隆也，小池沙季，正本真子，棚田和子，丸山祐子，Yumi Doi, Satoshi Ekuni, Riko Nakayama.
185	第69回関西支部学術集会	疼痛管理に苦慮した骨盤内腫瘍合併妊娠の一例	'23/9	大阪市	麻酔科	前川佳織，西田隆也，井川大輝，棚田和子
186	日本心臓血管麻酔学会第28回学術大会	拡張相型肥大型心筋症患者に分離肺換気を行った一例	'23/9	奈良市	麻酔科	棚田和子，井川大輝，西田隆也
187	第60回日本リハビリテーション医学会学術集会	急性期脳卒中者の骨格筋量指数と3か月後の歩行能力との関連性	'23/6	博多市	リハビリテーション科	山木健司，欅　篤
188	第51回日本小児神経外科学会	脊髄動静脈婁破裂により不全麻痺を呈した10歳男児に対する急性期リハビリテーション介入	'23/6	宇都宮市	リハビリテーション科	玉井駿也，欅　篤
189	第24回日本言語聴覚学会	COVID-19 感染による集中治療後に嚥下障害をきたした症例	'23/6	松山市	リハビリテーション科	俵屋章則，欅　篤
190	第29回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	急性大動脈解離術後患者の大腰筋面積と身体機能や術後経過の関連	'23/7	横浜市	リハビリテーション科	竹本堅一，欅　篤
191	第29回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	心臓血管外科周術期患者の術後栄養摂取量が膝伸展筋力に与える影響	'23/7	横浜市	リハビリテーション科	服部芳和，欅　篤
192	第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会	急性大動脈解離Stanford A型患者の退院1年後における大腰筋指数とCT値の推移	'23/11	宮崎市	リハビリテーション科	上原光司，欅　篤
193	第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会	脳卒中再発患者の特徴および脳卒中再発予防指導の取り組み	'23/11	宮崎市	リハビリテーション科	阿河由巳，欅　篤
194	第1回近畿臨床遺伝クラブ（遺伝カウンセリング学会近畿地区地域活性化委員会主催）/臨床細胞分子遺伝学研究会合同開催	臨床細胞分子遺伝研究会のはじまりから今日まで	'23/4	大阪市	遺伝診療センター	玉置知子

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
195	第43回日本脳神経外科コングレス総会	先天性小児脳神経外科疾患の遺伝学的診断	'23/5	大阪市	遺伝診療センター	原田敦子，四本由郁，金村米博，玉置知子
196	第51回日本小児神経外科学会	PI3K-AKT-mTORシグナル伝達系遺伝子に病的バリアントを認めたS状静脈洞狭窄症の女児例	'23/6	宇都宮市	遺伝診療センター	角野喜則，前野和重，中村夏樹，倉本仁美，豊田佐織，和田敬仁，四本由郁，玉置知子，原田敦子
197	第31回日本乳癌学会学術総会	リスク低減手術の実施時期を工夫したBRCA2病的バリアントを保持する乳癌患の1例	'23/6	横浜市	遺伝診療センター	下山京子，三成善光，吉川勝弘，溝口　綾，春藤　望，玉置知子
198	第47回日本遺伝カウンセリング学会学術集会	膵癌診断を契機に乳癌が判明したHBOC症例の治療方針選択	'23/7	松本市	遺伝診療センター	大林亜衣子，田中理絵，吉田朱里，藤澤憲良，藤本康二，四本由郁，玉置知子
199	第47回日本遺伝カウンセリング学会学術集会	生化学的検査および家族歴から先天性アンチトロンビン欠乏症と診断された一例	'23/7	松本市	遺伝診療センター	四本由郁，春藤　望，玉置知子
200	第47回日本遺伝カウンセリング学会学術集会	初心者向け「家系図の意義並びに作成法と活用法に関する学習プログラム」の開発と評価	'23/7	松本市	遺伝診療センター	佐々木規子，佐藤智佳，村上裕美，浦野真理，渡邉　淳，玉置知子，中込さと子，青木美紀子，柊中智惠子，酒井規夫，御手洗幸子，川目　裕
201	第73回日本小児神経学会近畿地方会	学童期に頭蓋骨早期癒合症が診断されたアラジール症候群の一例	'23/9	京都市	遺伝診療センター	清水東与，原田敦子，久徳茂雄，上田晃一
202	第64回日本先天代謝異常学会学術総会	ミトコンドリアHMG-CoA合成酵素欠損症の兄弟例	'23/10	大阪市	遺伝診療センター	松井美樹，李　知子，起塚　庸，四本由郁，小林弘典，長谷川有紀，笹井英雄，竹島泰弘
203	第37回日本助産学会学術集会	【出生前検査をめぐる保健医療体制充実に向けた助産師向けプログラム】の作成日本助産学会WG	'23/10	東京都	遺伝診療センター	小笹由香，浅野浩子，荒木奈緒，小野千尋，渋谷えみ，春藤　望，御手洗幸子，寺口顕子，納富理絵，小野澤かおり，樋口優子，山谷美里 監修：竹内千仙，玉置知子，中込さと子
204	日本人類遺伝学会第68回大会	A case of chromosome 1p36 deletion syndrome diagnosed using Chromosomal Microarray Testing at Age 50	'23/10	東京都	遺伝診療センター	Misako Kaido, Takuhei Yokoyama, Yuka Yotsumoto, Tomoko Hashimoto-Tamaoki
205	日本人類遺伝学会第68回大会	An infant case with chromosome 1p36 deletion syndrome accompanied by 7p22.1 microduplication	'23/10	東京都	遺伝診療センター	Yuka Hattori, Yuka Yotsumoto, Maki Hamamoto, Yoshinori Katayama, Kenji Nakamura, Tomoko Tamaoki
206	日本人類遺伝学会第68回大会	A case of hyperkalemic periodic paralysis with self-interpretation of the illness	'23/10	東京都	遺伝診療センター	Hisatsugu Tachibana, Yuka Hattori, Yuka Yotsumoto, Tomoko Tamaoki
207	第9回日本産科婦人科遺伝診療学会学術講演会	HBOC血縁者診断が治療方針に有用であった良性卵巣腫瘍の一例	'23/12	名古屋市	遺伝診療センター	村越　誉，藤田彩花，安斎　玲，岩本麻衣子，清瀬ますみ，岡田十三，四本由郁，玉置知子

論文発表（2023/1/1 ～ 2023/12/31）

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	所属科（課）	著　者
1	Internal Medicine.	Efficiency of the Japanese Hospitalist System for Patients with Urinary Tract Infection: A Prospensity-matched Analysis.【原著論文】	62(8)	1131-1138, 2023	総合内科	Hamada Osamu, Tsutsumi Takahiko, Imanaka Yuichi
2	Journal of Orthopaedic Science.	Effects of hospitalist co-management on rate of initiation of osteoporosis treatment in patients with vertebral compression fractures:Retrospective cohort study.【原著論文】	28(6)	1359-1364, 2023	総合内科	Tsunemitsu Ayako, Tsutsumi Takahiko, Inokuma Sakiko, Kobayashi　Tatsuya, Imanaka Yuichi
3	European Heart Journal - Case Reports	Cardiac rupture during the course of treatment for acute purulent pericarditis caused by Staphylococcus aureus: a case report.	7	1-5, 2023	循環器内科	Ryutaro Katahira, Hiroyuki Sano, Kosuke Tanimura, Yutaka Okita
4	HeartRhythm Case Report.	Atrial balloon septoplasty facilitates trans-subclavian approach for left atrial tachycardia in a patient with hemiazygos continuation of inferior vena cava	10(1)	81-85, 2023	不整脈内科	Yoshida M, Tanaka T, Sakuma H, Sato T, Yamashiro K
5	Journal of arrhythmia	The spatiotemporal electrogram dispersion ablation targeting rotors is more effective for elderly patients than non-elderly population	39(3)	315-326, 2023	不整脈内科	Sakata K, Tanaka T, Yamashita S, Kobayashi M, Ito M, Yamashiro K
6	Ciculation	Long-Term Outcomes of Brugada Substrate Ablation: A Report from BRAVO（Brugada Ablation of VF Substrate Ongoing Multicenter Registry）	147(21)	1568-1578, 2023	不整脈内科	Koonlawee Nademanee, Fa-Po Chung, Frederic Sacher, Akihiko Nogami, Hiroshi Nakagawa, Chenyang Jiang, Meleze Hocini, Elijah Behr, Gumpanart Veerakul, Jaap Jan Smit, Arthur A.M. Wilde, Shih-Ann Chen, Kohei Yamashiro, Yuichiro Sakamoto, Itsuro Morishima, Mithilesh K. Das, Apichai Khongphatthanayothin, Saran Vardhanabhuti, Michel Haissaguerre
7	PCNReport	Theory of the remission process of schizophrenia（Nakai）	2	オンライン	精神科	杉林　稔
8	精神科治療学	中井久夫外来診察見学記	38	299-302, 2023	精神科	杉林　稔
9	日本病跡学雑誌	キリシタン大名高山右近の新世紀	106	5-10, 2023	精神科	杉林　稔
10	こころと文化	中井久夫の臨床感覚と木村敏の時間論との対決リングとしての暦時間	22	23-31, 2023	精神科	杉林　稔
11	精神療法	古典症例に学ぶ（第9回）ライナー症例	49	587-593, 2023	精神科	杉林　稔
12	Childs Nerv Syst	Limited dorsal myeloschisis without extradural stalk continuity to coexisting congenital dermal sinus.	39(2)	511-515, 2023	病理科	Kawamoto Y, Harada A, Ikura Y, Fujinaga T, Utsunomiya H

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	所属科(課)	著　者
13	Infection	Disseminated granulomatous Pneumocystis jirovecii pneumonia masquerading as miliary tuberculosis.	51(2)	545-547, 2023	病理科	Matsuo K, Miyake H, Iwatsubo S, Ikura Y
14	J Cancer Res Ther	A case of esophageal squamous cell carcinoma accompanied by pancreatic and bile duct metastases: successful treatment starts with an accurate diagnosis.	19(7)	2060-2063, 2023	病理科	Ito Y, Ikura Y, Sawai H, Osuga T
15	Cureus	Change in Main Histological Type of Invasive Breast Cancer From Ductal to Lobular Carcinoma by Neoadjuvant Chemotherapy.	15(8)	e43816, 2023	病理科	Okubo T, Minari Y, Ikura Y
16	癌と化学療法	直腸MiNENに対して外科的切除を施行した1例	50(8)	261-263, 2023	病理科	大和田善之，立花崇明，徳原佳織，池田太郎，細野雅義，岡崎太郎，家永徹也，伊倉義弘，岩井泰博
17	病理と臨床	肝臓生検での自己免疫性肝炎(AIH)と原発性胆汁性胆管炎(PBC)	41(4)	419-422, 2023	病理科	伊倉義弘
18	兵庫県小児科医会報	甲状腺機能異常が蔓延した急性化膿性甲状腺炎の一例【原著論文/症例報告】	79	18-25, 2023	小児科	岩田成弘，今出　礼，服部健吾，吉田健一，石森真吾，起塚　庸，陳　慶祥，内山敬達
19	愛仁会医学研究誌	Prader-Willi症候群の診断を考慮する児における遺伝診療についての検討【原著論文】	54	14-18, 2023	小児科	中田有紀，四本由郁，長坂美和子，玉置知子
20	愛仁会医学研究誌	PCDH19関連症候群と診断された難治性てんかん女児例に対する遺伝カウンセリング【原著論文/症例報告】	54	51-54, 2023	小児科	服部有香，四本由郁，玉置知子
21	てんかん研究	乳児期からDravet症候群の臨床脳波特徴を呈した2番染色体異常症の1例【原著論文/症例報告】	41(1)	17-23, 2023	小児科	濱本麻希，髙橋幸利，大松泰生，乗松秀夫
22	日本小児PD・HD研究会雑誌	吸収糸によるテンコフカテーテルカフ部の腹壁固定後にリークを来し、非吸収糸による縫合を要した3歳男児例【原著論文】	34	59-61, 2023	小児科	石森真吾，服部健吾，西　聡，久松千恵子，津川二郎，起塚　庸
23	日本環境感染学会誌	医療従事者から伝播したSARS-CoV-2院内感染と考えられた新生児例【原著論文】	38(5)	245-249, 2023	新生児科	片山義規，鳴美英智
24	Infect Control Hosp Epidemiol	Effect of nasal mupirocin treatment on extranasal carriage of methicillin-resistant Staphylococcus aureus among pediatric patients admitted to the neonatal intensive care unit.	44(7)	1174-1176, 2023	新生児科	Matsui M, Katayama Y
25	The American journal of case reports	Severe Hemolytic Anemia and Metabolic Acidosis at Birth with Glutathione Synthetase Deficiency and Progressive Neurological Symptoms on Follow-Up	24	e938396, 2023	新生児科	Satoshi Ekuni, Kei Hirayama, Miwako Nagasaka, Keita Osumi, Hidehito Kondo, Erina Nakahara, Keiko Shimojima Yamamoto, Hitoshi Kanno, Yoshinori Katayama
26	小児外科	【喉頭・気管病変　治療の工夫と予後】声門下腔狭窄症に対するpartial cricotracheal resection(PCTR)手術と長期予後【原著論文/特集】	55(10)	1060-1064, 2023	小児外科	津川二郎，吉村翔平，辻　恵未，服部健吾，西島栄治
27	小児外科	【喉頭・気管病変　治療の工夫と予後】声門下腔狭窄症に対する内視鏡治療【原著論文/特集】	55(10)	1076-1081, 2023	小児外科	辻　恵未，服部健吾，津川二郎，吉村翔平，西島栄治

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	所属科(課)	著　者
28	日本心臓血管外科雑誌	TypeⅡ，TypeⅢの大動脈弁閉鎖不全症に対する自己弁温存術の長期成績【原著論文/比較研究】	52(4)	Ⅵ-Ⅷ, 2023	心臓血管外科	久保沙羅，田中　綾，常深孝太郎，岡　隆紀，岡田健次，大北　裕
29	癌と化学療法	急性虫垂炎に対する虫垂切除後に病理組織検査で虫垂NET　G1と診断された1例【原著論文/症例報告】	50(13)	1745-1746, 2023	消化器外科	日笠兼太郎，大和田善之，眞鍋裕宇，仲西凛太朗，徳原佳織，立花崇明，常城宇生，池田太郎，細野雅義，岡崎太郎，千堂宏義
30	癌と化学療法	横行結腸癌術後の肝および卵巣移転に対し腹腔鏡下切除術を施行した1例【原著論文/症例報告】	50(13)	1863-1865, 2023	消化器外科	眞鍋裕宇，池田太郎，澤井寛明，加藤大樹，立花崇明，徳原佳織，仲西凛太朗，鍵山大起，大和田善之，細野雅義，岡崎太郎，千堂宏義
31	癌と化学療法	手術と術後補助化学療法により無再発生存が得られている腹腔洗浄細胞診陽性の膵尾部癌の1例【原著論文/症例報告】	50(13)	1982-1984, 2023	消化器外科	泰田翔子，大和田善之，岡崎太郎，眞鍋裕宇，仲西凛太朗，立花崇明，徳原佳織，常城宇生，池田太郎，細野雅義，千堂宏義
32	小児の脳神経	血友病新生児・乳児の頭蓋内出血に対する外科的治療【原著論文】	48(4)	368-374, 2023	小児脳神経外科	和田雄樹，山中　巧，豊田佐織，川本早希，福屋章梧，前野和重，服部有香，大西　聡，石森真吾，起塚　庸，原田敦子
33	小児の脳神経	後頭静脈洞近傍の類皮腫を合併した後頭部先天性皮膚洞の1例【原著論文】	48(4)	388-393, 2023	小児脳神経外科	岡元文香，中村夏樹，川本有輝，中川智義，有田英之，前野和重，山中　巧，髙橋　哲，原田敦子
34	Childs nervous system	Limited dorsal myeloschisis without extradural stalk continuity to coexisting congenital dermal sinus. 症例報告	39	511-515, 2023	小児脳神経外科	Kawamoto Y, Harada A, Ikura Y, Fujinaga T, Utsunomiya H
35	Plast Reconstr surg	Molding helmet therapy for severe deformational brachycephaly: position of eurion and therapeutic effect.　原著	152	136-143, 2023	小児脳神経外科	Okamoto T, Harada A, Takamatsu A, Kyutoku S, Kaneko T, Ueda K
36	Journal of Korean neurosurgical society	Permanent surgical treatment for posthemorrhagic hydrocephalus in preterm infants. 総説	66	281-288, 2023	小児脳神経外科	Atsuko Harada
37	脳神経外科ジャーナル	胎児期水頭症の診断と治療　総説	32	237-242, 2023	小児脳神経外科	原田敦子，宇都宮英綱
38	PLoS ONE	Correlations of intracranial pathology and cause of head injury with retinal hemorrhage in infants and toddlers: A multicenter, retrospective study by the J-HITs (Japanese Head injury of Infants and Toddlers study) group　原著	18	e0283297, 2023	小児脳神経外科	Mihoko Kato, Masahiro Nonaka, Nobuyuki Akutsu, Ayumi Narisawa, Atsuko Harada, Young-Soo Park
39	Surgical Neurology International	A large growing occipital meningocele with Dandy-Walker syndrome: A case report and review of the literature 症例報告	14	353, 2023	小児脳神経外科	Matsumoto S, Iwata S, Harada A, Imon H, Seno T, Watanabe H, Kunieda T
40	脳神経外科速報	領域別解説⑦　小児脳神経外科【依頼原稿】	33	336-344, 2023	小児脳神経外科	原田敦子
41	Approximately 41% of knees have a looser gap in full extension than in 20°　flexion after Oxford unicompartmental arthroplasty	Arch Orthop Trauma Surg	143(1)	495-500, 2023	整形外科	平中崇文

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	所属科(課)	著　者
42	Intraoperative avulsion fracture of the intercondylar eminence in Oxford mobile-bearing unicompartmental knee arthroplasty: Case report	Knee	40	220-226, 2023	整形外科	Akira Saitoh, Takafumi Hiranaka, Akihiko Arimoto, Atsuki Tanaka, Yoshihito Suda, Motoki Koide, Takaaki Fujishiro, Koji Okamoto
43	Kinematically Aligned Oxford Unicompartmental Knee Arthroplasty Using the Microplasty Instrumentation System.	Clin Orthop Surg.	15(4)	690-694, 2023	整形外科	Hiranaka T, Fujishiro T, Koide M, Okamoto K
44	Mobile bearing orbit on the tibial component in Oxford unicompartmental knee arthroplasty.	Knee	42	136-142, 2023	整形外科	Suda Y, Hiranaka T, Kamenaga T, Fujishiro T, Okamoto K, Matsumoto T
45	Trans patellar tendon sagittal tibial cut for lateral unicompartmental knee arthroplasty-location of the split- CT simulation study. J	Orthop Sci.	28(4)	829-831, 2023	整形外科	Kitazawa D, Hiranaka T, Shigemoto R, Anjiki K, Fujishiro T, Okamoto K
46	Incomplete Screw Thread Engagement of Proximal Fragment: A Possible Failure Risk After Internal Fixation for Femoral Neck Fractures.	Cureus	15(7)	e41349, 2023	整形外科	Tanaka A, Hiranaka T, Fujishiro T, Koide M, Suda Y, Saito A, Arimoto A, Okamoto K
47	Is simultaneous bilateral unicompartmental knee arthroplasty and total knee arthroplasty better than simultaneous bilateral total knee arthroplasty?	Knee Surg Relat Res	35(1)	12, 2023	整形外科	Nagata N, Hiranaka T, Okamoto K, Fujishiro T, Tanaka T, Kensuke A, Kitazawa D, Kotoura K
48	Bearings can dislocate with smaller femoral components and thicker bearings in Oxford™ medial unicompartmental knee arthroplasty.	Orthop Traumatol Surg Res.	16	103598, 2023	整形外科	Hiranaka T, Suda Y, Kamenaga T, Fujishiro T, Koide M, Okamoto K
49	Multicenter study on atypical femoral fractures in patients with bone metastases taking bone- modifying agents.	J Bone Oncol.	40	100478, 2023	整形外科	Fukui T, Oe K, Kawamoto T, Morishita M, Fujita I, Takahara S, Sakurai A, Iwakura T, Yoshida K, Ito K, Shoda E, Hiranaka T, Tsunoda M, Kuroda R, Niikura T
50	TKAアライメントのコンセプト—Mechanical alignmentから personalized algnmentへ	関節外科	42(9)	954-964, 2023	整形外科	平中崇文
51	A Muscle-Preserving Short Transverse Incision for Unicompartmental Knee Arthroplasty: A Technical Note	Cureus	15(8)	e43662, 2023	整形外科	Tanaka S, Hiranaka T, Fukai Y, Okajima T, Kanno T

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	所属科(課)	著　者
52	Restricted Kinematically Aligned Total Knee Arthroplasty Following Failed Oxford Unicompartmental Knee Arthroplasty.	Cureus	15(9)	e45104, 2023	整形外科	Hayashi T, Hiranaka T, Fujishiro T, Okamoto K, Koide M
53	Effects of Unrestricted Kinematically Aligned Total Knee Arthroplasty with a Modified Soft-Tissue Respecting Technique on the Deformity of Limb Alignment in Japanese Patients.	Medicina(Kaunas)	59(11)	1969, 2023	整形外科	Ishikawa M, Nagashima H, Ishizuka S, Michishita K, Soda Y, Hiranaka T
54	愛仁会医学研究誌	胎児MRIを用いた，臍帯相互巻絡による一羊膜(MM)双胎一児死亡症例の管理経験【症例報告】	54	55-57, 2023	産婦人科	伊藤弘樹，中後　聡，柴田貴司，加藤大樹，細野佐代子
55	産科と婦人科	前駆症状の認識とSwansea criteriaの使用が診断に有用であった臨床的急性妊娠脂肪肝(AFLP)の2症例【症例報告】	90(12)	1395-1399, 2023	産婦人科	中後　聡，細野佐代子，西川茂樹，加藤大樹，柴田貴司
56	愛仁会医学研究誌	分娩時の膣壁裂傷に起因し腹壁付近に孤立した後腹膜血腫を経膣的に除去した経験【症例報告】	54	58-60, 2023	産婦人科	新田勇人，柴田貴司，飯塚徳昭，西川茂樹，加藤大樹，小辻文和，中後　聡，細野佐代子
57	愛仁会医学研究誌	母体へのデキサメセゾン投与後に胎児胸部嚢胞の縮小を認めたCPAM type2の1例【症例報告】	54	61-64, 2023	産婦人科	森本　始，西川茂樹，福岡泰教，細野佐代子，柴田貴司，加藤大樹，岸上　真，山口里枝，中後　聡
58	The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research	Colporrhaphy using elastic tissue continuous with and obscured behind the fibromuscular layer of the vaginal wall.【原著論文】	49(5)	1424-1428, 2023	産婦人科	Oishi Tetsuya, Kotsuji Fumikazu, Kato Hiroki, Tokuda Hisato, Nakago Satoshi, Shibata Takashi
59	Clinical Case Reports.	Importance of understanding the operative procedures of the transverse uterine fundal incision, postoperative management, and patient education.【原著論文】	11(8)	e7451, 2023	産婦人科	Shibata T, Nishijima K, Kato H, Nakago S, Kotsuji F
60	Clin Rep.	Anesthetic management of inguinal hernia in an ex-premature infant with subglottic stenosis: a case report.	9(1)	602, 2023	麻酔科	Doi Y, Ekuni S
61	臨床麻酔	腹腔鏡下手術で摘出し得た硬膜外カテーテル切断片の体内遺残の1症例【原著論文/症例報告】	47(2)	206-208, 2023	麻酔科	小池沙季，西田隆也，井川大輝，棚田和子
62	麻酔	ロクロニウム抵抗性疑いの患者に対してロクロニウムにマグネシウムを併用することにより容易に深い筋弛緩下で手術しえた症例【原著論文/症例報告】	72(11)	1079-1084, 2023	麻酔科	井川大輝，田　隆也，正本真子，棚田和子
63	JA Clinical Reports.	待機手術後に死亡した患者の死の質遺族に対するアンケート調査【原著論文】	9	8, 2023	麻酔科	Sato Mariko, Ida Mitsuru, Naito Yusuke, Kawakuchi　Masahiko
64	JA Clinical Reports.	Anesthetic management of inguinal hernia in an ex-premature infant with subglottic stenosis: a case report.【原著論文】	9	5, 2023	麻酔科	Doi Yumi, Ekuni Satoshi

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	所属科(課)	著　者
65	愛仁会医学研究誌	分娩時の非瘢痕性子宮破裂を契機に血管型エーラス・ダンロス症候群の遺伝学的検査を行った1例	55	39-42, 2023	遺伝診療センター	村越　誉，岡田十三，光岡真優香，早川史保子，城　道久，吉田茂樹，四本由郁，西村　望，玉置知子
66	日本小児科学会雑誌	POR遺伝子p.R457Hフレームシフトバリアントを持つ軽症P450オキシドレダクターゼ欠損症	127(6)	851-858, 2023	遺伝診療センター	齋藤　碧，李　知子，福田典子，本間桂子，玉置知子，深見真紀，長谷川奉延，竹島泰弘

著書発表（2023/1/1 ～ 2023/12/31）

No.	著　書　名	出版社，地名	版，刷	掲載頁，年	所属科(課)	著　者
1	Hospitalist（ホスピタリスト）2023年1号 特集：コマネジメント	メディカル・サイエンス・インターナショナル／東京	1,1	17-22, 2023	総合内科	恒光綾子
2	OPJリエゾン（13）	ライフサイエンス出版／東京	1,1	21-23, 2023	総合内科	恒光綾子
3	看護職とハラスメント	日本看護協会出版会／東京	初版	45-51他, 2023	精神科	杉林　稔
4	with NEO 【目的・基準値・進め方がわかる 新生児の検査A to Z】(第3章)押さえておくべき新生児の検査 消化器系の検査 腹部X線検査、消化管透視検査、CT検査(解説)	メディカ出版／大阪	秋季増刊	174-181, 2023	新生児科	岸上　真
5	小児内科 （その他の筋ジストロフィー）	東京医学社／東京	初版	1917-1922, 2023	新生児科	長坂美和子，池田真理子
6	周産期医学　増刊号 （53） （超早産児の呼吸器系の発達は子宮内と同様に発達するのか）	東京医学社／東京	初版	413-417, 2023	新生児科	長坂美和子，片山義規
7	研修医から外科医,小児外科医,小児科医まで役立つ小児外科リファレンス	東京医学社／東京	1版	132-137, 2023	小児外科	津川二郎
8	UKAマスターバイブル (共著) 3章　手術の実際 ▶1 術前計画・手術準備 4章　合併症とその対策 ▶1 骨折，インプラントのゆるみ，モバイルベアリング脱転	メジカルビュー社／東京	初版	58-60, 104-117, 2023	整形外科	平中崇文

その他（2023/1/1 ～ 2023/12/31）

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社，地名	所属科（課）	担当者
1	米国内科学会日本支部国際交流委員会	司会：「Dr. Steinの臨床推論カンファレンス」	'23/2	Web	総合内科	筒泉貴彦
2	米国内科学会日本支部国際交流委員会	司会：「Dr. Steinの臨床推論カンファレンス」	'23/5	Web	総合内科	筒泉貴彦
3	米国内科学会日本支部国際交流委員会	司会：「Dr. Steinの臨床推論カンファレンス」	'23/8	Web	総合内科	筒泉貴彦
4	米国内科学会日本支部国際交流委員会	司会：「Dr. Steinの臨床推論カンファレンス」	'23/11	Web	総合内科	筒泉貴彦
5	第69回日本不整脈心電学会学術大会	座長：デバイスサミット：脳塞栓予防における左心耳閉鎖デバイス治療	'23/7	札幌市	不整脈内科	山城荒平，佐藤俊郎
6	第3回日本不整脈心電学会近畿支部	演者：特別企画　松井由美恵先生を偲んで	'23/11	大阪市	不整脈内科	唐川正洋[1)]，山城荒平 1）大阪府済生会泉尾病院循環器内科
7	カテーテルアブレーション関連秋季大会	座長：心房細動アブレーションの追加処置（1）	'23/11	福岡市	不整脈内科	山城荒平
8	カテーテルアブレーション関連秋季大会	座長：カテーテルアブレーションライブセミナーライブ中継	'23/11	大阪市 福岡市	不整脈内科	山城荒平，鵜野起久也
9	Parkinson's Disease Seminar	薬剤が効きづらい症状へのサフィナミドの期待	'23/2	Web	脳神経内科	松下達生
10	mishima Neurology Network Seminar	パーキンソン病の診断と薬物治療の考え方　～MAO-B阻害薬の活かし方も含めて～	'23/3	Web	脳神経内科	松下達生
11	医療従事者のための片頭痛WEBセミナー	頭痛で困っていませんか？～頭痛を正しく理解し、正しく対応しよう～	'23/9	Web	脳神経内科	松下達生
12	第70回日本病跡学会総会	座長：特別講演　名作のなかの病気の風景　荒川洋治（現代詩作家）	'23/7	高槻市	精神科	杉林　稔
13	第36回近畿小児科学会	座長：一般演題17：呼吸器・感染症1	'23/3	大阪市	小児科	伊藤英介[1)]，起塚　庸 1）済生会滋賀病院小児科
14	新生児成育セミナー関西	講師：胎児の生活から考える新生児疾患	'23/6	Web	新生児科	岸上　真
15	第67回日本新生児成育医学会・学術集会	座長：ワークショップ9　「新生児慢性肺疾患の過去・現在・未来」	'23/11	横浜市	新生児科	南宏尚，長谷川久弥[1)] 1）東京女子医科大学附属足立医療センター新生児科
16	第67回日本新生児成育医学会・学術集会	座長：教育セミナー2	'23/11	横浜市	新生児科	片山義規
17	第60回日本小児外科学会学術集会	座長：パネルディスカッション第1部～Under45が描く未来の小児外科「日本なりの集約化」を目指してU45WGから現状認識と未来に向けた提案	'23/6	大阪市	小児外科	服部健吾，花木祥二朗[1)] 1）倉敷中央病院　外科・小児外科
18	第59回日本周産期・新生児医学会学術集会	座長：その他（C領域）	'23/7	名古屋市	小児外科	津川二郎
19	第59回日本小児外科学会近畿地方会	座長：Ⅷ．胸部	'23/8	大阪市	小児外科	服部健吾

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社，地名	所属科（課）	担当者
20	第18回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会	座長：誤嚥防止	'23/11	別府市	小児外科	仁藤隆春[1)]，津川二郎 1）国立国際医療研究センター病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科
21	弁形成セミナー日本心臓弁膜症学会@Web“くわしく知ろう、三尖弁”	司会：基礎知識編	'23/6	札幌市	心臓･大血管センター	大北　裕
22	弁形成セミナー日本心臓弁膜症学会@Web“くわしく知ろう、三尖弁”	回答者：弁形成道場　達人に聞きたい4つの質問	'23/6	札幌市	心臓･大血管センター	川副浩平，岡田行効， 大北　裕，江石清行， 小宮達彦，道井洋史
23	第27回日本冠動脈外科学会学術大会	座長：招請講演2　開心術年間200例（Off pump CABG経験なし）の施設が開心術400例（Off pump CABG率75％），Robotic CABG施行施設に至るまで軌跡	'23/7	名古屋市	心臓・大血管センター	大北　裕 津久井宏行（演者）[1)] 1）Excela Health Westmoreland Hospital, Department of Cardiothoracic Surgery,USA
24	The Final Heart Valve Conference	座長：心臓外科医の来し方行く末	'23/7	東京都	心臓･大血管センター	大北　裕
25	Heart Valve Disease Forum 2023	Speaker:Session 2: Contemporary Management of Aortic Root Disease	'23/9	Soul Dragon City, Seoul, Korea	心臓･大血管センター	大北　裕
26	第13回日本心臓弁膜症学会	演者：Ross手術を知る　【教育セッション】Ross手術の立ち位置	'23/11	札幌市	心臓･大血管センター	大北　裕
27	第13回日本心臓弁膜症学会	講師：Ross手術を知る 【wetlab】Ross手術　やってみよう	'23/11	札幌市	心臓･大血管センター	大北　裕
28	第26回北大阪外科懇話会	座長2	'23/12	大阪市	消化器外科	千堂宏義
29	第8回頭蓋骨形状誘導療法研究会	司会：一般演題・ガイドラインキックオフミーティング	'23/6	福島市	小児脳神経外科	原田敦子，高木誠司[1)] 1）福岡病院形成外科
30	第51回日本小児神経外科学会	座長：シンポジウム1　頭蓋形状矯正ヘルメット治療の現状と展望【多数例の経験】	'23/6	宇都宮市	小児脳神経外科	原田敦子
31	愛媛大学医学部講義	講師：小児脳神経外科	'23/7	東温市	小児脳神経外科	原田敦子
32	第84回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会	コメンテーター：小児・感染・炎症	'23/9	豊中市	小児脳神経外科	千葉泰良（座長）[1)]， 原田敦子 1）大阪母子医療センター脳神経外科
33	広島小児神経セミナー2023	講師：赤ちゃんの頭の形について知っておくべき知識 Part 2	'23/9	広島市	小児脳神経外科	原田敦子
34	一般社団法人日本脳神経外科学会第82回学術総会	座長：ビデオシンポジウム13　二分脊椎の手術	'23/10	横浜市	小児脳神経外科	原田敦子，加藤美穂子[1)] 1）あいち小児保健医療総合センター脳神経外科
35	日本子ども虐待防止学会第29回学術集会滋賀大会	演者：教育講演1　虐待による頭部外傷	'23/11	草津市	小児脳神経外科	坂上由子（座長）[1)]， 原田敦子， 山中　巧（演者）[2)] 1）滋賀医科大学 2）JCHO神戸中央病院/京都府立医科大学脳神経外科）
36	第15回日本水頭症脳脊髄液学会	座長：一般演題	'23/11	富山市	小児脳神経外科	原田敦子

学術業績集

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社，地名	所属科（課）	担当者
37	第53回日本人工関節学会	座長：ランチョンセミナー18 Personalized Alignment　－ロボット手術に至る歴史的考察－（難波良文） Robotic-Arm Assisted Kinematically Aligned TKAの短期成績と課題 （椎木栄一）	'23/2	横浜市	整形外科	平中崇文
38	かかりつけ医のための膝疾患WEBセミナー	変形性膝関節症に対する当院関節センターの取り組み～手術療法と疼痛管理～	'23/2	Web	整形外科	平中崇文
39	第54回日本人工関節学会	座長：シンポジウム12　UKAを極める：更なる成績向上を目指して	'23/2	京都市	整形外科	赤木將男[1)]，平中崇文 1）樫本病院
40	第一回日本膝関節学会	座長：一般演題44 UKA2	'23/12	横浜市	整形外科	平中崇文
41	爪白癬診療セミナー	座長：特別講演『行動経済学を用いた新しい患者指導～爪白癬を中心に～』	'23/3	大阪市	皮膚科	瀬戸英伸
42	アトピー性皮膚炎Web Seminar	座長：講演②「アトピー性皮膚炎における新たなアプローチ」	'23/4	Web	皮膚科	瀬戸英伸
43	第25回北摂皮膚科医会	座長：講演1	'23/4	大阪市	皮膚科	瀬戸英伸
44	第74回日本皮膚科学会中部支部学術大会	座長：一般演題7「膠原病・関連疾患1」	'23/10	京都市	皮膚科	瀬戸英伸，室　慶直[1)] 1）名古屋大
45	第7回日本脳神経外科認知症学会総会	座長：感染症と認知障害	'23/11	那覇市	リハビリテーション科	欅　　篤，石川栄一[1)] 1）筑波大学医学医療系脳神経外科
46	日本遺伝カウンセリング学会主催 第3回遺伝の初歩セミナー	講義：初歩から学ぶ家系図のかき方～家系図を読み取ろう～	'23/1	Web	遺伝診療センター	玉置知子
47	遺伝性難病ケア研究会主催 第19回公開講座「遺伝性難病のケア」	症例提示と総合討論「筋強直性ジストロフィーにおけるPGT-M症例の検討」	'23/2	大阪市	遺伝診療センター	玉置知子，西郷和真
48	日本助産学会	「出生前検査をめぐる保健医療体制充実に向けた助産師向けのプログラム」動画作成	'23/4	高槻市	遺伝診療センター	浅野浩子，小笹由香， 荒木奈緒，小野千尋， 渋谷えみ，春藤　望， 御手洗幸子，寺口顕子， 納富理絵，小野澤かおり， 樋口優子，山谷美里， 監修：竹内千仙，玉置知子， 中込さと子
49	高槻市子ども未来部子ども保健課 遺伝疾患研修	出生前診断とNIPT	'23/8	高槻市	遺伝診療センター	四本由郁

愛仁会リハビリテーション病院

口頭発表（2023/1/1 ～ 2023/12/31）

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科（課）	発表者
1	第36回日本老年泌尿器科学会	リハビリテーション病院における排尿自立に向けた取り組み	'23/5	大津市	リハビリテーション科	松岡美保子
2	日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会	脊髄損傷患者の尿路管理を中心とした医療機関連携	'23/5	大阪市	リハビリテーション科	松岡美保子
3	第60回日本リハビリテーション医学会学術集会	長下肢装具の足継手の違いによる脳卒中片麻痺患者の歩行予後の検討	'23/6	福岡市	リハビリテーション科	越智文雄
4	第38回日本脊髄外科学会	脊髄損傷慢性期で低コンプライアンス膀胱と水腎症を認めた一症例	'23/6	名古屋市	リハビリテーション科	湯川弘之
5	第60回日本リハビリテーション医学会学術集会	一時的に高Ca血症を呈した若年男性頚髄損傷患者の一例	'23/6	福岡市	リハビリテーション科	松岡美保子
6	第30回日本排尿機能学会	リハビリテーション病院で実施している簡易的な膀胱機能検査	'23/9	千葉市	リハビリテーション科	松岡美保子
7	第39回日本義肢装具学会学術集会	中等度片麻痺患者に対する長下肢装具作製の効果	'23/10	岡山市	リハビリテーション科	越智文雄
8	第58回日本脊髄障害医学会	骨髄由来間葉系幹細胞製品の最終評価後も長期に渡り回復した頚髄損傷不全麻痺の一例	'23/11	さいたま市	リハビリテーション科	松岡美保子
9	第126回日本小児科学会	健康な新生児における生後数週ごとのビリルビン結合能に関する検討	'23/4	東京都	小児科	西澤和輝，片山義規，李　容桂
10	第48回日本重症心身障害学会	スピーチバルブ導入にて唾液誤嚥防止を図った気管切開管理の幼児例	'23/10	千葉市	小児科	李　容桂，寺田明佳

論文発表（2023/1/1 ～ 2023/12/31）

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	所属科（課）	著　者
1	日本歯科保存学会雑誌	歯根膜細胞の骨芽細胞分化におけるカテプシンAの影響	66(4)	214-223, 2023	リハビリテーション科	北垣次郎太，松本昌大，藤原千春，阪下裕美，平井麻絵，山下元三，北村正博，村上伸也
2	愛仁会医学研究誌	気管切開管理を要する医療的ケア児の小児期病状変化と短期入院による在宅ケア支援	54	19-23, 2023	小児科	李　容桂，寺田明佳，和田佳子

著書発表（2023/1/1 ～ 2023/12/31）

No.	著　書　名	出版社，地名	版，刷	掲載頁，年	所属科（課）	著　者
1	脊椎・脊髄疾患の外科	三輪書店／東京	第2版	424-426, 2023	リハビリテーション科	磯山浩孝，生駒一憲

その他（2023/1/1 ～ 2023/12/31）

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社，地名	所属科（課）	担当者
1	Otsuka Webinar カテーテル抜去のアセスメントと自己導尿管理のポイントについて	男性の自己導尿指導のポイント～リハビリテーション病院での実践～	'23/1	Web	リハビリテーション科	松岡美保子
2	第60回日本リハビリテーション医学会　学術集会	一般演題座長	'23/4	福岡市	リハビリテーション科	磯山浩孝

愛仁会総合健康センター

その他（2023/1/1 ～ 2023/12/31）

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社，地名	所属科（課）	担当者
1	第171回糖尿病教育学習研究会	糖尿病診療の現状～当院の診療やアルゴリズムなどを踏まえて～	'23/5	神戸市	診療部	冨永洋一
2	第173回糖尿病教育学習研究会	PHRを活かした糖尿病診療～短時間でも濃い外来診療をめざして～	'23/9	神戸市	診療部	冨永洋一

明石医療センター

口頭発表（2023/1/1 ～ 2023/12/31）

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科（課）	発表者
1	第14回日本プライマリケア連合学会学術大会	教育公演　さまざまな視点から考える，実際どうなのSGLT2阻害！？	'23/5	名古屋市	総合内科	官澤洋平
2	第14回日本プライマリケア連合学会学術大会	ホスピタリストによる皮膚生検が皮疹診断にもたらすインパクト	'23/5	名古屋市	総合内科	石丸直人
3	米国内科学会日本支部年次総会・講演会2023	In the Clinic ～クリニカルボトムラインレクチャー	'23/6	Web	総合内科	水木真平
4	日本プライマリ・ケア連合学会第36回近畿地方会	浮腫治療中に再増悪した心不全の検討	'23/11	Web	総合内科	田口涼子
5	日本プライマリ・ケア連合学会第36回近畿地方会	腹部大動脈瘤による椎体骨破壊の診断・評価に難渋した1例	'23/11	Web	総合内科	山﨑　健
6	日本プライマリ・ケア連合学会第36回近畿地方会	総合内科入院中に発見された一次性または二次性副腎不全3例の検討（case series）	'23/11	Web	総合内科	稲田有作
7	日本内科学会第242回近畿地方会	ミカファンギンによる治療で軽快したCandida pararugosa感染症の1例	'23/12	豊中市	総合内科	坂田尚弥
8	日本内科学会第242回近畿地方会	（他院症例）悪性リンパ腫と鑑別を要した，多発リンパ節腫大と脾腫を伴ったネコひっかき病の1例	'23/12	豊中市	総合内科	山岡茉莉
9	日本内科学会第242回近畿地方会	（他院症例）感音性難聴を合併した日本紅斑熱の1例	'23/12	豊中市	総合内科	新宮資央
10	日本心臓リハビリテーション学会　第8回近畿支部地方会	高齢心不全患者診療において総合内科医と協働している診療看護師（NP）の取り組み	'23/2	神戸市	総合内科 診療支援看護師	渡部秀悟
11	第9回日本NP学会学術集会	総合内科における診療看護師（NP）の活動報告	'23/10	札幌市	総合内科 診療支援看護師	渡部秀悟
12	第63回日本呼吸器学会学術講演会	胃全摘後，噴門部胃切除後の誤嚥性肺炎に関する検討	'23/4	東京都	呼吸器内科	山﨑菜々美
13	第63回日本呼吸器学会学術講演会	肺炎　疫学・診断・病態	'23/4	東京都	呼吸器内科	岡村佳代子
14	第101回日本呼吸器学会近畿地方会・第131回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿地方会	荒蕪肺を背景にM.mucogenicum 種による肺感染症をきたした担癌患者の一例	'23/7	神戸市	呼吸器内科	増田佳純
15	第101回日本呼吸器学会近畿地方会・第131回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿地方会	過敏性肺炎との鑑別を要し，HIV感染症に合併したニューモシスチス肺炎，サイトメガロウイルス肺炎の一例	'23/7	神戸市	呼吸器内科	塚本　玲
16	CFR Tokyo Physiology by FRIENDS Live 2023	CMDの診断 CFR	'23/3	東京都	循環器内科	民田浩一
17	第1回循環器疾患の地域連携を考える会 in 丹波	今求められる高血圧診療の形とは？	'23/4	丹波市	循環器内科	民田浩一
18	KCJL2023	症例から学ぶPhysiology guidedPCI	'23/4	京都市	循環器内科	民田浩一

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
19	第2回高砂市医師会生涯教育研修会	臓器保護を見据えた高血圧診療の極意	'23/5	高砂市	循環器内科	民田浩一
20	Non Communicable Diseases Conference in Akashi 2023	心不全とフレイルの切っても切れない関係：心臓リハビリテーションの重要性	'23/6	明石市	循環器内科	民田浩一
21	第31回日本心血管インターベンション治療学会	Relationship between Index of Microcirculatory Resistance and Myocardial Brush Grade:Single Center Experience	'23/8	福岡市	循環器内科	石橋健太
22	第6回日本腫瘍循環器学会学術集会	洞不全症候群(SSS)を合併した免疫チェックポイント阻害薬関連心筋炎の一例	'23/9	神戸市	循環器内科	山田真博
23	第6回日本腫瘍循環器学会学術集会	免疫チェックポイント阻害薬関連心筋炎の病理学的考察	'23/9	神戸市	循環器内科	西川達哉
24	PCI Optimization by Physiology and Imaging (POPAI) 2023	CFRとFFR，iFRの概念，類似点と相違点	'23/10	Web	循環器内科	民田浩一
25	第95回日本胃癌学会総会	高度線維化症例に対するCrane techniqueとMigaki tapping techniqueの有用性	'23/2	札幌市	消化器内科	石田　司，田中太郎，松岡晃生，ベンスレイマン・ヤハヤ，中島卓利　他
26	第60回兵庫県内視鏡治療談話会	C-ANCA陽性多発血管炎性肉芽腫症とクローン病所見が併存した1例	'23/6	神戸市	消化器内科	井上　築
27	第27回明石消化器懇話会	重症急性膵炎の診断と治療　被包化壊死を中心に	'23/6	明石市	消化器内科	瀧本　将
28	第110回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	酸分泌抑制薬のみで改善の得られた好酸球性胃炎による多発潰瘍病変の1例	'23/6	大阪市	消化器内科	中村碩孝，石田　司，長谷川貴久，朝原総一朗，井上　築，影山達也，岡田真治，塩屋暁子，瀧本　将，大西紘平，田中太郎，益子由佳子，芦名茂人，松岡晃生，當銘成友，古松恵介，門　卓夫，吉田俊一，中島卓利
29	第110回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	全消化管を観察し得た好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（EGPA）の2例	'23/6	大阪市	消化器内科	井上　築，石田　司，長谷川貴久，朝原総一朗，影山達也，中村碩孝，岡田真治，塩屋暁子，瀧本　将，大西紘平，田中太郎，益子由佳子，芦名茂人，松岡晃生，當銘成友，古松恵介，門　卓夫，吉田俊一，中島卓利
30	第110回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	胃粘膜下腫瘍に対する内視鏡切除における多施設後ろ向き研究をふまえて	'23/6	大阪市	消化器内科	石田　司　他
31	第7回KOBE　Liver Conference	アメーバ性肝膿瘍の安全性を学ぶ	'23/8	神戸市	消化器内科	大野聖真
32	第241回日本内科学会近畿地方会	Pembrolizumabが著効した直腸癌の1例	'23/9	大阪市	消化器内科	宇田早希，門　卓夫，瀧本　将，田中太郎，益子由佳子，芦名茂人，松岡晃生，當銘成友，石田　司，中島卓利
33	IBDフォーラム	ハイボリュームセンターへ手術依頼をした症例の検討（潰瘍性大腸炎/クローン病）	'23/9	神戸市	消化器内科	田中太郎

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
34	日本消化器病学会近畿支部第119回例会	診断に苦慮し縦隔穿破したアメーバ性肝腫瘍の1例	'23/9	大阪市	消化器内科	大野聖真，門　卓夫，井上　築，安部恵里佳，橋本宏之，中村碩孝，塩屋暁子，瀧本　将，田中太郎，益子由佳子，芦名茂人，松岡晃生，當銘成友，石田　司，吉田俊一，中島卓利
35	日本消化器病学会近畿支部第119回例会	繰り返す肝性脳症に対して下腸間膜静脈-下大静脈シャント術塞栓術が有効だった1例	'23/9	大阪市	消化器内科	橋本宏之，石田　司，井上　築，安部恵里佳，中村碩孝，塩屋暁子，瀧本　将，田中太郎，益子由佳子，芦名茂人，松岡晃生，當銘成友，門　卓夫，吉田俊一，中島卓利
36	日本消化器病学会近畿支部第119回例会	C-ANCA陽性多発血管炎性肉芽腫症とクローン病所見が併存した1例	'23/9	大阪市	消化器内科	井上　築，石田　司，松岡晃生，大野聖真，安部恵里佳，橋本宏之，中村碩孝，塩屋暁子，瀧本　将，田中太郎，益子由佳子，芦名茂人，松岡晃生，當銘成友，門　卓夫，吉田俊一，中島卓利
37	日本消化器病学会近畿支部第119回例会	憩室合併表在型食道癌に対するESDについての検討	'23/9	大阪市	消化器内科	吉崎哲也，石田　司 他
38	神戸西部IBD　young seminar	当院におけるウステキヌマブの治療と継続率向上の工夫	'23/10	神戸市	消化器内科	田中太郎
39	第28回明石消化器懇話会	当院での膵癌の診断と治療の現況	'23/11	明石市	消化器内科	芦名茂人
40	第111回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	CAST　hood併用Water pressure methodによる虫垂開口部病変ESDの有用性	'23/11	大阪市	消化器内科	橋本宏之，石田　司，瀧本　将，松岡晃生，田中太郎
41	第111回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	急性胆嚢炎に対する内視鏡的経乳頭的胆嚢ドレナージ（ETGBD）の検討	'23/11	大阪市	消化器内科	瀧本　将，門　卓夫，芦名茂人，中島卓利，吉田俊一
42	第111回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	幽門測胃切除術後の残胃に発生した早期胃癌に対するESDの技術的困難性	'23/11	大阪市	消化器内科	永木瑞穂，石田　司 他
43	第15回Kobe Nephrology Forum	ANCA関連血管炎の治療 ～avacopanへの期待と課題～	'23/5	神戸市	腎臓内科	米倉由利子
44	第15回Kobe Nephrology Forum	急速な経過で腎機能廃絶にいたった高齢糖尿病患者のネフローゼ症候群	'23/5	神戸市	腎臓内科	高木泰尚
45	第68回日本透析医学会学術集会・総会	進行期CKD症例における ビタミンC評価の現状と課題	'23/6	神戸市	腎臓内科	米倉由利子
46	第2回明石西神戸CKD病診連携セミナー	日常診療における腎性貧血治療	'23/7	神戸市	腎臓内科	大田健人
47	第7回神戸腎臓内科学術講演会	高齢末期腎不全患者の 予後（RRTとCKM）	'23/8	神戸市	腎臓内科	高木泰尚
48	第53回日本腎臓学会西部学術大会	急速な経過で腎機能廃絶にいたった高齢糖尿病患者のネフローゼ症候群	'23/10	岡山市	腎臓内科	高木泰尚
49	心腎連関を考える会 in AKASHI	CKD診療の前進により，CKDの進行を抑制する	'23/10	明石市	腎臓内科	米倉由利子

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
50	腎代替療法（SDM）セミナー	メディカルスタッフの力によりCKD診療はひろがる～明石医療センターにおける多職種連携の実践～	'23/12	神戸市	腎臓内科	米倉由利子
51	第60回日本糖尿病学会近畿地方会	晩発性にMELASを発症したミトコンドリア糖尿病の一例	'23/3	神戸市	糖尿病・内分泌内科	中村友昭，宮部祥花，新井尚樹，千原和夫
52	第66回日本糖尿病学会年次学術集会	SGLT2阻害薬内服中にバセドウ病を発症し正常血糖ケトアシドーシスに至った2型糖尿病の一例	'23/5	鹿児島市	糖尿病・内分泌内科	中村友昭，宮部祥花，新井尚樹，千原和夫
53	第66回日本糖尿病学会年次学術集会	視力障害患者の単回型セマグルチドSDから用量調整型デバイスへの切り替え～できないをできるに変える関わり～	'23/5	鹿児島市	糖尿病・内分泌内科	津崎好美，鍛治香澄，新井尚樹，宮部祥花，中村友昭，千原和夫
54	第66回日本糖尿病学会年次学術集会	耐糖能異常（IGT）または軽症糖尿病のある肥満症患者において間歇スキャン式CGMは行動変容につながる	'23/5	鹿児島市	糖尿病・内分泌内科	西影星二，中川　靖，廣田勇士，芳村　魁，上田真莉子，山本あかね，高吉倫史，高橋路子，竹田章彦，横田一樹，中村友昭，坂口一彦，小川　渉
55	第96回日本内分泌学会学術総会	破壊性甲状腺炎を合併したバセドウ病の一例	'23/6	名古屋市	糖尿病・内分泌内科	新井尚樹，中村友昭，宮部祥花，千原和夫
56	第96回日本内分泌学会学術総会	プロラクチノーマとして治療開始後にIGF-1上昇を認めたプロラクチン・成長ホルモン同時産生腫瘍の1例	'23/6	名古屋市	糖尿病・内分泌内科	宮部祥花，新井尚樹，中村友昭，井下尚子，山田正三，千原和夫
57	第33回日本内分泌学会臨床内分泌代謝Update	偏頭痛，パニック発作として治療されていた褐色細胞腫の1例	'23/11	横浜市	糖尿病・内分泌内科	中村友昭，藤井研己，中辻　萌，千原和夫
58	第33回日本内分泌学会臨床内分泌代謝Update	TSH値の大きな変動を示したTSH産生下垂体神経内分泌腫瘍の一例	'23/11	横浜市	糖尿病・内分泌内科	藤井研己，宮部祥花，新井尚樹，中辻　萌，中村友昭，井下尚子，山田正三，千原和夫
59	第39回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会	妊娠中の明らかな糖尿病を指摘され，緩徐進行1型糖尿病と診断した一例	'23/11	新潟市	糖尿病・内分泌内科	中村友昭，宮部祥花，新井尚樹，千原和夫
60	小児アレルギー講演会 in 明石	当院での過去5年間のアレルギー診療食物負荷試験を中心に	'23/9	明石市	小児科	藤井順子
61	第363回東播小児臨床談話会	体重減少を契機に診断に至った中枢性甲状腺機能低下症の早産児例	'23/12	明石市	小児科	大山正平
62	第59回日本腹部救急医学会	上腸管膜動脈塞栓症に対して開腹血栓除去術とOpen Abdominal Managementを行い救命した2例	'23/3	宜野湾市	外科	大坪　出
63	第123回日本外科学会定期学術集会	当院における90歳以上超高齢者大腸癌手術症例の検討	'23/4	東京都	外科	水田憲利
64	第21回日本ヘルニア学会学術集会	成人男性に発生した横隔膜傍裂孔ヘルニアの1例	'23/5	大阪市	外科	大坪　出
65	第45回日本癌局所療法研究会	CareOX＋cetuximabにて縮小が得られ，鏡視下に手術施行，剥離断端陰性となった直腸癌の1例	'23/6	東京都	外科	福田善之
66	第45回日本癌局所療法研究会	複雑性虫垂炎を呈した虫垂杯細胞カルチノイドの一例	'23/6	東京都	外科	草野俊亮
67	第78回日本消化器外科学会総会	直腸mixid neuroendocrine-non-neuroendocrine neopasm（MiNEN）とS状結腸癌の同時性多発大腸癌の1例	'23/7	函館市	外科	水田憲利

学術業績集

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
68	JDDW	回盲部切除術後縫合不全による難治性腸管皮膚瘻をOTSC® systemで閉鎖した1例	'23/11	神戸市	外科	草野俊亮
69	第85回日本臨床外科学会総会	絞扼性腸閉塞をきたした回腸重複腸管の一例	'23/11	岡山市	外科	宮﨑隼人
70	第36回日本内視鏡外科学会総会	当院における80歳以上高齢者大腸癌における腹腔鏡下手術例の検討	'23/12	横浜市	外科	水田憲利
71	第53回日本心臓血管外科学会総会	若年成人の大動脈弁閉鎖不全症に対するRoss手術の経験	'23/3	旭川市	心臓血管外科	吉谷信幸
72	第53回日本心臓血管外科学会総会	MAZE 手術・左心耳切除術後の遠隔期に認めた左房内血栓に対して血栓除去術を要した症例	'23/3	旭川市	心臓血管外科	林　裕之
73	第63回明石循環器懇話会	臓器灌流障害を伴う急性Stanford B型大動脈解離に対して緊急PETTICOATを行った症例の検討	'23/5	明石市	心臓血管外科	安　健太
74	第66回関西胸部外科学会学術集会	若年成人の大動脈弁閉鎖不全症に対するRoss手術の一例	'23/6	大阪市	心臓血管外科	吉谷信幸
75	第66回関西胸部外科学会学術集会	心室中隔穿孔術後に巨大左室瘤を形成した1例	'23/6	大阪市	心臓血管外科	安　健太
76	WEP2023	医原性大動脈弁閉鎖不全症が疑われた若年成人に対する大動脈弁形成の一例	'23/7	大阪市	心臓血管外科	吉谷信幸
77	第36回日本内視鏡外科学会総会	低侵襲化を目指し内視鏡下で採取した大伏在静脈を使用した冠動脈バイパス術の初期成績と今後の展望	'23/12	横浜市	心臓血管外科	吉谷信幸
78	第75回神戸心臓外科研究会	救命可能であった院外CPA蘇生後のA型急性大動脈解離の一例	'23/12	神戸市	心臓血管外科	安　健太
79	Hyogo Lung Cancer Meeting	高度気腫肺合併右上葉肺癌に対するS3区域切除の1例	'23/3	神戸市	呼吸器外科	本田貴裕
80	第40回日本呼吸器外科学会学術集会	再発性気胸で発見されたBirt-Hogg-Dube症候群の1例（会議録）	'23/7	新潟市	呼吸器外科	本田貴裕
81	第64回日本肺癌学会学術集会	胸膜炎を契機に発見された胸腺腫の2切除例	'23/11	千葉市	呼吸器外科	本田貴裕
82	第140回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	長母趾伸筋腱皮下断裂に対して手術加療を行った2例	'23/4	奈良市	整形外科	高見俊治
83	第140回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	当院における小児Triplane骨折術後の治療成績	'23/4	奈良市	整形外科	福本弦太
84	第140回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	種子骨迷入によって観血的整復を要した母趾IP関節脱臼の1例	'23/4	奈良市	整形外科	福本弦太
85	第96回日本整形外科学会	鎖骨遠位端骨折の術後に3人に1人が愁訴を残す　後ろ向き中期観察研究より	'23/5	横浜市	整形外科	福本弦太
86	第96回日本整形外科学会	日本におけるorthogeriatricケアの必要性　整形外科医の視点	'23/5	横浜市	整形外科	脇　貴洋
87	第96回日本整形外科学会	Hip fracture templateは大腿骨近位部骨折手術における周術期合併症を減少させる	'23/5	横浜市	整形外科	脇　貴洋

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
88	第49回日本骨折治療学会	当院における小児Triplane骨折術後の治療成績	'23/6	静岡市	整形外科	福本弦太
89	第49回日本骨折治療学会	Hip fracture templateは大腿骨近位部骨折手術における周術期合併症を減少させる	'23/6	静岡市	整形外科	脇　貴洋
90	第49回日本骨折治療学会	当院ヒップフラクチャーセンターにおける二次性骨折予防継続管理料，緊急整復固定・緊急挿入加算算定の状況	'23/6	静岡市	整形外科	脇　貴洋
91	第25回日本骨粗鬆症学会	人工関節置換術の適応患者の骨粗鬆症有病率	'23/9	名古屋市	整形外科	福本弦太
92	第25回日本骨粗鬆症学会	当院におけるゾレドロン酸(リクラスト)の使用状況　181例260回の使用経験	'23/9	名古屋市	整形外科	脇　貴洋
93	第141回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	COVID-19感染を併発した大腿骨転子部骨折に対してセメントBHAを施行し患者死亡に至った1例	'23/10	神戸市	整形外科	安見武哲
94	第141回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	重症大動脈弁狭窄症を合併した大腿骨近位部骨折における早期手術	'23/10	神戸市	整形外科	脇　貴洋
95	第15回日本ロボット外科学会学術集会	腹腔鏡下仙骨膣固定術・ロボット支援下仙骨膣固定術における各手術操作にかかる時間比較	'23/2	名古屋市	産婦人科	山崎　亮，江島有香，林田恭子，松岡正造，細谷俊光，宮原義也
96	第75回日本産科婦人科学会学術講演会	腹腔鏡下子宮全摘出後に発症した腟断端子宮内膜症の1例	'23/5	東京都	産婦人科	宮原義也，北口智美，夏山貴博，江島有香，林田恭子，松岡正造，細谷俊光
97	第65回日本婦人科腫瘍学会	S状結腸への穿通を認め，診断に苦慮した卵巣成熟嚢胞性奇形腫の1例	'23/7	松江市	産婦人科	宮原義也，北口智美，夏山貴博，江島有香，林田恭子，松岡正造，細谷俊光
98	第63回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	当院における仙骨膣固定術の手術成績および尿失禁・過活動膀胱の術前後評価	'23/9	大津市	産婦人科	松岡正造，北口智美，夏山貴博，江島有香，林田恭子，細谷俊光，宮原義也
99	第2回播磨産婦人科地域連携懇話会 特別講演	「ロボットと腹腔鏡の手術戦略の違い」　―腹腔鏡下手術の延長線上にはロボット支援下手術はない?―	'23/11	神戸市	産婦人科	松岡正造
100	第36回日本内視鏡外科学会総会	当院における仙骨膣固定術の手術成績および術前後の下部尿路症状評価	'23/12	横浜市	産婦人科	松岡正造，北口智美，夏山貴博，江島有香，林田恭子，細谷俊光，宮原義也
101	日本心臓血管麻酔学会第28回学術大会	全身麻酔下心臓カテーテルアブレーション術後の長時間安静による苦痛軽減にレミマゾラムが有用だった一症例	'23/9	奈良市	麻酔科	濱崎　豊
102	日本心臓血管麻酔学会第28回学術大会	心肺停止から蘇生後の急性大動脈解離で脳波モニター上，平坦脳波・BIS低値を示したが生存退院した一例	'23/9	奈良市	麻酔科	山崎翔太
103	日本集中治療医学会　第7回関西支部学術集会	当院での多職種臨床倫理カンファレンス実施の取り組み	'23/7	神戸市	集中治療科	小阪真之
104	日本骨折治療学会第13回アドバンスコース研修会	周術期管理チームにおける術後疼痛管理（ランチョンセミナー講師）	'23/9	神戸市	集中治療科	多田羅康章

論文発表（2023/1/1 ～ 2023/12/31）

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	所属科（課）	著　者
1	Monaldi Arch Chest Dis	Hemophagocytic syndrome in a patient with long-term stable pulmonary sarcoidosis with progressive spleen and bone marrow lesion	93(4)	90-93, 2023	総合内科	藤本葉月
2	JOURNAL OF HOSPITAL GENERAL MEDICINE	Pseudogout in the temporomandibular joint diagnosed by ultrasound	5(4)	174-176, 2023	総合内科	石丸直人
3	Hosp Pract	Bacteremia in patients with diabetic ketoacidosis: a cross-sectional study	51(2)	95-100, 2023	総合内科	石丸直人
4	Blood Coagul Fibrinolysis	Management of autoimmune factor XIII deficiency in a frail, elderly patient	34(6)	408-413, 2023	総合内科	金子昌裕
5	South Med J	Skin-to-Renal Pelvis Distance Predicts Costovertebral Angle Tenderness in Adult Patients with Acute Focal Bacterial Nephritis	116(1)	20-25, 2023	総合内科	金子昌裕
6	Hosp Pract	Role of hospitalists in Japan for heart failure in the elderly: single center retrospective cohort study	51(3)	135-140, 2023	総合内科	官澤洋平
7	Journal of rural medicine	Clinical decision-making using an assessment protocol of swallowing function after aspiration pneumonia: a comparative retrospective study	18(2)	62-69, 2023	総合内科	官澤洋平
8	胃と腸	食道ESD瘢痕近傍病変に対するESD（解説）	58(3)	308-317, 2023	消化器内科	豊永高史，石田　司 他
9	Sci Rep	Association of CD4-positive cell infiltration with response to vedolizumab in patients with ulerative colittis	13(1)	20262, 2023	消化器内科	Miyazaki H, Ishida T et al
10	Dig　Endosc	Endoscopic full-thickness resection for gastric submucosal tumors;Japanese multicenter prospective study	35(2)	206-215, 2023	消化器内科	Shichijo S, Ishida T et al
11	Endoscopy	Endoscopic cyanocrylate injection with gel immersion mehtod improved the visual field in profuse gastric variceal hemorrhage	55 (S01)	E684-E685, 2023	消化器内科	Orita D, Ishida T et al
12	Digestion	Long=Term Outcomes of Endoscopic Submucosal Dissection for Early Remmnant Gastric Cancers;A Retrospective Multicenter Study	104(5)	381-390, 2023	消化器内科	Tuda K, Ishida T et al
13	Esophagus	Safety and efficacy of endoscopic submucosal dissection for superficial esophageal cancer with esophageal varices	20(3)	515-523, 2023	消化器内科	Nakai T, Ishida T et al
14	臨床透析	透析室内の医療安全管理ピットホールと対策 9. 透析室内の医療安全管理ピットホールと対策 2)処方変更時のピットホールと対策	39(13)	1552-1556, 2023	腎臓内科	米倉由利子
15	愛仁会医学研究誌	明石医療センターにおける小児心身症の心理的治療の一考察	54	77-79, 2023	小児科	松本千佳，藤井順子，大山正平，梁川裕司，横山直樹，小寺智子
16	日本臨床外科学会雑誌	Open Abdominal Managementと血栓除去にて救命した上腸管膜動脈塞栓症の2例	84(11)	99-104, 2023	外科	大坪　出

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	所属科(課)	著　者
17	癌と化学療法誌	術前化学療法(Capecitabine+L-OHP+cetuximab)にて安全に腹腔鏡手術が可能となった直腸癌の1例	50(13)	1747-1749, 2023	外科	福田善之
18	日本癌局所療法研究会	複雑性虫垂炎を呈した虫垂杯細胞カルチノイドの一例	45 suppl号	111, 2023	外科	草野俊亮
19	日本外科系連合学会誌	虫垂炎術後62日目に遺残虫垂に発生した低異型度虫垂粘液性腫瘍の1例	48(1)	45-50, 2023	外科	菊池拓也
20	日呼外会誌	左肺上葉切除後に腎梗塞を発症した1例	37	646-649, 2023	呼吸器外科	本田貴裕
21	骨折	鎖骨遠位端骨折におけるSCORPIONの治療成績　術後平均5年間の中期報告	45(2)	329-332, 2023	整形外科	大澤　慎
22	骨折	当院における上腕骨遠位部coronal shear骨折の治療成績	45(2)	302-306, 2023	整形外科	脇　貴洋
23	骨折	非転位型大腿骨頸部骨折に対するHansson Pinlocの治療成績	45(2)	398-401, 2023	整形外科	松島真司
24	中部日本整形外科災害外科学会雑誌	種子骨迷入によって観血的整復を要した母趾IP関節脱臼の1例	66(6)	941-942, 2023	整形外科	福本弦太
25	Trauma Case Report	Revision surgery in a middle-aged patient with pertrochanteric fracture nonunion due to wedge effect caused by cephalomedullary nail: A case report	44	100784, 2023	整形外科	脇　貴洋

著書発表 (2023/1/1 ～ 2023/12/31)

No.	著　書　名	出版社，地名	版，刷	掲載頁，年	所属科(課)	著　者
1	治療【とことん深めるライフストーリー 職業編】症状から仕事を妄想しよう　価値観の形成と職業歴　患者さんというひとりの人から人生の智慧を学ぶ	南山堂／東京	105(9)	1104-1105, 2023	総合内科	宮澤洋平
2	Medicina【Common diseaseの処方箋ファイル-臨床経過から学ぶ20症例】(CASE 3)慢性心不全　高血圧症,脂質異常症の既往のある,糖尿病の既往のない65歳男性	メディカルサイエンスインターナショナル／東京	60(6)	816-822, 2023	総合内科	宮澤洋平
3	Hospitalist　Clinician Update ホスピタリストが押さえておくべき20論文をセレクト	メディカルサイエンスインターナショナル／東京	10(3)	530-537, 2023	総合内科	宮澤洋平
4	Hospitalist　Clinician Update ホスピタリストが押さえておくべき20論文をセレクト	メディカルサイエンスインターナショナル／東京	10(4)	776-783, 2023	総合内科	宮澤洋平
5	Hospitalist　Clinician Update ホスピタリストが押さえておくべき20論文をセレクト	メディカルサイエンスインターナショナル／東京	11(1)	206-213, 2023	総合内科	宮澤洋平

学術業績集

No.	著　書　名	出版社，地名	版，刷	掲載頁，年	所属科（課）	著　者
6	レジデントノート【新版入院患者管理パーフェクト　病棟診療の勘所　受け持ちのその日から退院までフォローする36項目】総論　自分自身のための研修への道標　研修中に迷子にならないための準備体操とストレッチ	羊土社／東京	25(5)	710-714, 2023	総合内科	宮澤洋平
7	レジデントノート【新版入院患者管理パーフェクト　病棟診療の勘所　受け持ちのその日から退院までフォローする36項目】（第4章）超高齢社会の複雑な問題と向き合う力　はじめてのアドバンス・ケア・プランニング	羊土社／東京	25(5)	948-954, 2023	総合内科	水木真平
8	レジデントノート【新版入院患者管理パーフェクト　病棟診療の勘所　受け持ちのその日から退院までフォローする36項目】（第3章）病棟でよく出合う症候・疾患マネジメント　入院中の低血圧とショック	羊土社／東京	25(5)	821-829, 2023	総合内科	鶴田慧司郎
9	Loco Cure【令和4年度診療報酬改定を読み解く：大腿骨近位部骨折における早期手術と二次性骨折予防の意義と実際】早期手術に向けた多職種連携と総合診療医としてのアプローチ	先端医学社／東京	9(1)	38-43, 2023	総合内科	石丸直人
10	臨床冠動脈疾患学　日本臨床2023年8月増刊号	日本臨床社／東京	第1版	268-272, 2023	循環器内科	民田浩一
11	失敗に学ぶ外科症例　東京ベイ外科MMカンファレンス　実況中継	金芳堂／京都	第1版 第1刷	63-79, 2023	外科	窪田忠夫, 水田憲利（分担執筆）
12	MB Orthopaedics【脆弱性骨盤輪骨折の治療】脆弱性骨折に対する骨粗鬆症アプローチについて―bone health optimization―	全日本病院出版会／東京	36(13)	89-98, 2023	整形外科	脇　貴洋
13	Loco CURE 大腿骨近位部骨折の診療報酬改定とOrthogeriatric comanagement	先端医学社／東京	9(1)	1-9, 2023	整形外科	脇　貴洋

その他（2023/1/1 ～ 2023/12/31）

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社，地名	所属科（課）	担当者
1	第15回近畿家庭医療・総合診療専攻医ポートフォリオ発表会	大会場発表	'23/2	Web	総合内科	官澤洋平
2	日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究	急性上気道炎の咽頭痛に対するトラネキサム酸の効果の検証	'23/4		総合内科	石丸直人
3	第14回日本プライマリケア連合学会学術大会	一般演題（口演）：病院総合診療・中小病院・診療所	'23/5	名古屋市	総合内科	石丸直人
4	第240回日本内科学会近畿地方会	若手奨励賞後期１	'23/6	神戸市	総合内科	石丸直人
5	第27回日本病院総合診療医学会	日本の病院総合医は何を重要視しているか?　非病院総合医との比較研究	'23/8	東京都	総合内科	官澤洋平
6	日本プライマリ・ケア連合学会第36回近畿地方会	口演②：急性期疾患のケア	'23/11	Web	総合内科	石丸直人
7	第63回日本呼吸器学会学術講演会	座長	'23/4	東京都	呼吸器内科	大西　尚
8	第63回日本呼吸器学会学術講演会	座長	'23/4	東京都	呼吸器内科	岡村佳代子
9	KCJL2023	座長	'23/4	京都市	循環器内科	民田浩一
10	第240回　日本内科学会近畿地方会	座長	'23/6	神戸市	循環器内科	民田浩一
11	第29回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	座長	'23/7	横浜市	循環器内科	民田浩一
12	第31回日本心血管インターベンション治療学会（CVIT2023）	座長	'23/8	博多市	循環器内科	民田浩一
13	Complex Cardiovascular Therapeutics（CCT）2023	座長	'23/10	神戸市	循環器内科	民田浩一
14	神戸新聞　健康つうしん記事投稿	透析患者に多いC型肝炎 飲み薬で治療可能に	'23/3	神戸新聞	消化器内科	中島卓利
15	第27回明石消化器懇話会	司会	'23/6	明石市	消化器内科	門　卓生
16	明石地域連携の会	座長	'23/9	明石市	消化器内科	中島卓利
17	第28回明石消化器懇話会	司会	'23/11	明石市	消化器内科	吉田俊一
18	Renal Seminar in 播磨	基調講演座長「慢性腎臓病の栄養指導について」「腎臓とカリウム-腎不全患者においてカリウム管理は外せない-」	'23/5	神戸市	腎臓内科	米倉由利子
19	第15回Kobe Nephrology Forum	特別講演座長「病理医が考えた腹膜線維化病態モデルとその応用」	'23/5	神戸市	腎臓内科	米倉由利子

学術業績集

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社，地名	所属科（課）	担当者
20	ARNI Hypertension Web Seminar	特別講演座長「CKDガイドライン改訂のポイントとCKD患者の高血圧治療におけるARNIの役割」	'23/6	明石市	腎臓内科	米倉由利子
21	第2回明石西神戸CKD病診連携セミナー	一般講演座長「日常診療における腎性貧血治療」	'23/7	神戸市	腎臓内科	米倉由利子
22	第2回新しいCKD治療を考える会	特別講演座長「蛋白尿の測定意義とその治療戦略」 閉会の辞	'23/9	明石市	腎臓内科	米倉由利子
23	小児アレルギー講演会 in 明石	座長	'23/3	明石市	小児科	横山直樹
24	第289回日本小児科学会兵庫県地方会	座長	'23/5	神戸市	小児科	大山正平
25	第363回東播小児臨床談話会	司会	'23/12	明石市	小児科	中西啓太
26	第99回大腸癌研究会	施設代表会	'23/7	尼崎市	外科	豊川晃弘
27	第2回Heart Recovery Institute –KOBE Impella network–	Case discussion　discussant	'23/7	神戸市	心臓血管外科	林　太郎
28	日本集中治療医学会　第7回関西支部学術集会	デバイス（座長）	'23/7	神戸市	集中治療科	多田羅康章

井上病院

口頭発表（2023/1/1 ～ 2023/12/31）

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科（課）	発表者
1	第26回湖西透析従事者の集い	透析患者の健康寿命延伸を目指して－栄養・運動・抗疲労からのアプローチ－	'23/5	Web	内科	辻本吉広
2	第68回日本透析医学会学術集会	「高齢者に腹膜透析を考えるべき時」 「経年的な下肢筋力の増加は腰椎骨密度増加と関連する」	'23/6	神戸市	内科	辻本吉広
3	第99回大阪透析研究会	栄養・運動・抗疲労からアプローチする透析患者の健康寿命延伸－亜鉛の重要性－	'23/9	大阪市	内科	辻本吉広
4	井上病院　地域連携の会～高血圧とCKD～	腎臓専門病院“井上病院”の使命	'23/9	Web	内科	辻本吉広
5	第29回日本腹膜透析医学会学術集会･総会	透析病院からの訪問診療でPD診療を行った7症例での臨床経過と意義の検討	'23/9	東京都	内科	辻本吉広
6	北大阪透析看護連携セミナー～高齢透析患者への対応～	CKD-MBD治療とサルコペニア対策	'23/10	豊中市	内科	辻本吉広
7	第26回日本人不全看護学会学術集会･総会 ランチョンセミナー3	いつも心に運動を～腎臓病患者さんの運動療法～	'23/11	仙台市	内科	辻本吉広
8	吹田・豊中　GLP-1 Web Seminar	糖尿病性腎臓病患者を守る50の方法	'23/11	Web	内科	辻本吉広
9	透析患者のQOLを考える会	栄養，運動，抗疲労で挑むサルコペニア・フレイル対策　～Calcimimeticsも重要です～	'23/12	Web	内科	辻本吉広
10	関西CKD-MBD Symposium 2023	栄養，運動，抗疲労で挑むサルコペニア・フレイル対策	'23/12	ハイブリッド	内科	辻本吉広
11	Kyowa KIRIN　腎臓セミナー	いつも心に運動を～腎臓病患者の運動療法～	'23/12	Web	内科	辻本吉広
12	慢性便秘治療Webセミナー in 北摂	慢性便秘症診療～明日からできる対処法～	'23/3	Web	消化器内科	大野恭太
13	第109回日本消化器病学会総会	CD関連腸炎による慢性下痢症として治療されていたが，病歴より栄養障害性疾患を疑い，ペラグラ，ウエルニッケ脳症の合併と診断された一例	'23/4	長崎市	消化器内科	大野恭太
14	第96回日本内分泌学会学術総会	甲状腺嚢胞性病変に感染を来し，一過性の甲状腺中毒症を呈した一例	'23/6	名古屋市	消化器内科	大野恭太
15	第66回日本甲状腺学会学術集会	バセドウ病にA型胃炎を合併し，APS3型と考えられた1例	'23/12	金沢市	消化器内科	大野恭太
16	第98回大阪透析研究会	維持血液透析患者における糖尿病と海綿骨微細構造指標との関連	'23/3	大阪市	糖尿病内科	木津あかね
17	第98回大阪透析研究会	糖尿病血液透析患者における GA/HbA1c 比と栄養状態の関連	'23/3	大阪市	糖尿病内科	宮部美月
18	第98回大阪透析研究会	当院における GLP-1 受容体作動薬製剤使用状況と有用性	'23/3	大阪市	糖尿病内科	土蔵尚子

学術業績集

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
19	第68回日本透析医学会学術集会	維持血液透析患者における骨密度と海綿骨微細構造への糖尿病の影響	'23/6	神戸市	糖尿病内科	木津あかね
20	第68回日本透析医学会学術集会	糖尿病血液透析患者におけるGA/HbA1c比と栄養状態の関連	'23/6	神戸市	糖尿病内科	宮部美月
21	糖尿病合併症に挑む in 吹田	eGFR値の経年変化から見た当院における糖尿病治療	'23/7	吹田市	糖尿病内科	木津あかね
22	TAISHO Diabetes Web Seminar	CKDステージからみた糖尿病診療～当院での取り組み～	'23/9	Web	糖尿病内科	木津あかね
23	Diabetes Web Seminar～糖尿病治療を考える～	当院の糖尿病性腎症の取り組み	'23/10	Web	糖尿病内科	木津あかね
24	合併症を見据えた糖尿病治療戦略	高齢者へのSGLT2阻害薬の使用を考える	'23/10	Web	糖尿病内科	木津あかね
25	北摂糖尿病懇話会2023	糖尿病性腎臓病治療におけるeGFR測定の活用法	'23/11	ハイブリッド 大阪市	糖尿病内科	木津あかね
26	Diabetes Forum in 北摂	糖尿病合併CKDの透析予防での当院の取り組み	'23/12	大阪市	糖尿病内科	木津あかね
27	第13回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会	慢性腎不全期（CKDステージ3b）の腎臓リハビリ介入の結果報告	'23/3	さいたま市	腎臓内科	藤原木綿子
28	明日から使える！PD基礎講座	腹膜透析の管理～心不全との関与を含めて～	'23/5	Web	腎臓内科	藤原木綿子
29	腹膜透析看護セミナー（初級編）	腹膜透析概論と腎不全患者における療法選択	'23/6	Web	腎臓内科	藤原木綿子
30	第68回日本透析医学会学術集会	腹膜透析患者410例において酸性腹膜透析液使用時代と中性腹膜透析液使用時代の被嚢性腹膜硬化症発症頻度を中心に比較した調査報告	'23/6	神戸市	腎臓内科	藤原木綿子
31	吹田・豊中CKD連携フォーラム	井上病院における保存期診療から透析診療について	'23/7	吹田市	腎臓内科	藤原木綿子
32	第26回開業医と勤務医の研修会	井上病院はCKDもがんばります！	'23/7	吹田市	腎臓内科	藤原木綿子
33	井上病院　地域連携の会～高血圧とCKD～	井上病院の腎臓病診療	'23/9	Web	腎臓内科	一居　充
34	第9回北大阪フットケア勉強会	腎不全の明日を一緒に考える，腎看護外来	'23/10	吹田市	腎臓内科	藤原木綿子
35	CKD Special Seminar	透析病院としての課題	'23/10	大阪市	腎臓内科	一居　充
36	第47回大阪府医師会医学会総会	腹膜透析患者410例において酸性腹膜透析液使用時代と中性腹膜透析液使用時代の被嚢性腹膜硬化症発症頻度とPETの変化を比較した調査報告	'23/11	大阪市	腎臓内科	藤原木綿子
37	生活習慣病地域連携セミナー2023	保存期CKD診療について	'23/11	ハイブリッド 大阪市	腎臓内科	一居　充
38	第29回日本血液透析濾過医学会　学術集会・総会	高齢化社会のMBD治療	'23/11	大阪市	腎臓内科	一居　充

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
39	エンレストWeb講演会～透析患者の血圧管理を考える～	血液維持透析中の高血圧患者に対するエンレストの使用経験	'23/12	Web	腎臓内科	藤原木綿子
40	第98回大阪透析研究会	腹膜透析患者の定期心電図検査から虚血性心疾患の発見・治療を行った2症例	'23/3	大阪市	透析内科	下村菜生子
41	第13回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会	透析患者と非透析患者の誤嚥性肺炎の比較　嚥下リハビリを通じて	'23/3	さいたま市	透析内科	下村菜生子
42	岐阜県透析医会WEBセミナー	健康寿命を延ばせ！チャレンジ，透析患者の運動療法	'23/1	Web	腎臓・透析部門学術責任者	辻本吉広
43	第13回透析運動療法研究会	栄養，運動，抗疲労で挑むサルコペニア・フレイル対策～CKD-MBD治療にもあてはめると～	'23/2	浜松市	腎臓・透析部門学術責任者	辻本吉広
44	第13回透析運動療法研究会	透析患者のフレイル予防に対する貧血管理	'23/2	浜松市	腎臓・透析部門学術責任者	辻本吉広
45	CKD-MBD Symposium2023	健康寿命を延ばせ！透析患者の運動療法　－透析時運動指導等加算への対応－	'23/3	Web	腎臓・透析部門学術責任者	辻本吉広
46	第64回日本脈管学会学術総会	当院で施行した過剰血流内シャントへの4mmPTFEグラフトを使用した血流抑制術7例の報告	'23/10	横浜市	外科	藤原一郎
47	Online Seminar Foot care	透析患者に対するフットケアの重要性	'23/1	Web	心臓血管外科	谷村信宏
48	第3回日本フットケア/足病医学会年次学術総会	距骨の骨棘圧迫による足背動脈閉塞を伴ったCLTI症例の経験	'23/2	奈良市	心臓血管外科	谷村信宏
49	第3回日本フットケア・足病医学会年次学術集会	透析CLTI患者に対する血行再建術と補助療法「レオカーナ」	'23/2	奈良市	心臓血管外科	谷村信宏
50	第53回日本心臓血管外科学会学術総会	下肢バイパス手術における石灰化病変への対応	'23/3	旭川市	心臓血管外科	谷村信宏，大仲玄明，山本浩詞，安宅啓二
51	第51回日本血管外科学会学術総会	CLTI症例に対するバイパス術吻合部への工夫	'23/5	東京都	血管外科	谷村信宏
52	第68回日本透析医学会学術集会	透析患者CLTIへのバイパス手術に対する石灰化病変への対応	'23/6	神戸市	血管外科	谷村信宏
53	第12回関西血管外科倶楽部	下肢動脈血行再建におけるHybrid手術	'23/10	大阪市	血管外科	谷村信宏
54	第64回日本脈管学会学術総会	前足根管症候群（ATTS）によると思われる透析CLTIの3症例	'23/10	横浜市	血管外科	谷村信宏
55	第4回日本フットケア・足病医学会年次学術集会	距骨圧迫による足背動脈閉塞を伴ったCLTI症例（続報）	'23/12	宜野湾市	血管外科	谷村信宏
56	Lilly RA Web Conference	2020ガイドライン改訂がきり拓くJAK Firstの世界	'23/1	Web	整形外科	佐藤宗彦
57	RA Clinical Web Seminar ①～RA薬物治療の新時代～	リウマチ治療の新時代への扉を開く～フェーズ1,2における投与経路のパラダイムシフト～	'23/1	Web	整形外科	佐藤宗彦
58	明日から役立つ透析アミロイド症WEBセミナー	β2ミクログロブリン吸着カラムがきり拓く透析患者の健康寿命延伸	'23/1	Web	整形外科	佐藤宗彦

学術業績集

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
59	相模原市医師会整形外科医会　学術講演会	骨粗鬆症治療のファーストチョイス，どうするか？～骨折リスクに応じた最適な薬剤選択～	'23/1	相模原市	整形外科	佐藤宗彦
60	PADOCの会	関節リウマチ領域の話題	'23/1	Web	整形外科	佐藤宗彦
61	JAK阻害薬の実臨床を語る会 in 梅田	JAK first with Filgotinib～関節リウマチへの最適な治療選択を考える～	'23/1	Web	整形外科	佐藤宗彦
62	RA Clinical Web Seminar ② ～RA薬物治療の新時代～	リウマチ治療の新時代への扉を開く～フェーズ1,2における投与経路のパラダイムシフト～	'23/1	Web	整形外科	佐藤宗彦
63	Osteoporosis Management Seminar	骨粗鬆症治療のファーストチョイス，どうするか?～骨折リスクに応じた最適な薬剤選択～	'23/1	Web	整形外科	佐藤宗彦
64	リンヴォック適性使用推進講演会	Go To JAK　～腎機能低下RA患者におけるリンヴォックの可能性～	'23/1	Web	整形外科	佐藤宗彦
65	CKD Up To Date	日本人高齢者の特徴は何か?-日本人に最適な骨粗鬆症治療-	'23/2	Web	整形外科	佐藤宗彦
66	RA Clinical Web Seminar ③ ～RA薬物治療の新時代～	リウマチ治療の新時代への扉を開く～フェーズ1,2における投与経路のパラダイムシフト～	'23/2	Web	整形外科	佐藤宗彦
67	RA Expert Seminar	REBORN the TNF with ゴリムマブ	'23/2	Web	整形外科	佐藤宗彦
68	リンヴォック適性使用推進講演会	Go To JAK　RA治療の最前線，JAK阻害剤の使用意義とは	'23/2	Web	整形外科	佐藤宗彦
69	透析アミロイド症WEBセミナー	β2ミクログロブリン吸着カラムがきり拓く透析患者の健康寿命延伸	'23/2	Web	整形外科	佐藤宗彦
70	RA Clinical Web Seminar ④ ～RA薬物治療の新時代～	リウマチ治療の新時代への扉を開く～フェーズ1,2における投与経路のパラダイムシフト～	'23/2	Web	整形外科	佐藤宗彦
71	リンヴォック適性使用推進講演会	Go To JAK　～D2TRAを起こさないＲＡ治療を目指して～	'23/2	Web	整形外科	佐藤宗彦
72	第98回大阪透析研究会	骨粗鬆症を合併した透析患者に対するロモソズマブの骨質改善効果の検討	'23/3	大阪市	整形外科	佐藤宗彦
73	第98回大阪透析研究会	透析アミロイド症を合併した透析患者に対するβ2ミクログロブリン吸着カラムの有効性の検討	'23/3	大阪市	整形外科	佐藤宗彦
74	リンヴォック適性使用推進講演会	Go To JAK　RA治療の最前線，JAK阻害剤の使用意義とは	'23/3	Web	整形外科	佐藤宗彦
75	RA Clinical Web Seminar ⑤ ～RA薬物治療の新時代～	リウマチ治療の新時代への扉を開く～フェーズ1,2における投与経路のパラダイムシフト～	'23/3	Web	整形外科	佐藤宗彦
76	大阪臨床整形外科医会特別研修会	整形外科リウマチ医が知っておきたい注射治療～トリガーブロックからREBORPN The TNFまで～	'23/3	大阪市	整形外科	佐藤宗彦
77	整形外科セミナー　～骨粗鬆症と足の外科～	骨粗鬆症治療のファーストチョイス，どうするか？～骨折リスクに応じた最適な薬剤選択～	'23/3	Web	整形外科	佐藤宗彦
78	Multi Option時代の治療選択を考える	RA領域におけるTNF阻害薬の役割	'23/3	Web	整形外科	佐藤宗彦

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
79	関節リウマチWEBシンポジウム	JAK阻害剤が切り拓くRA治療のさらなる進化 in JAPAN	'23/3	Web	整形外科	佐藤宗彦
80	Lilly RA Web Conference	2020ガイドライン改訂がきり拓くJAK Firstの世界	'23/3	Web	整形外科	佐藤宗彦
81	RA Clinical Web Seminar ⑥ ～RA薬物治療の新時代～	リウマチ治療の新時代への扉を開く～フェーズ1,2における投与経路のパラダイムシフト～	'23/3	Web	整形外科	佐藤宗彦
82	北播磨骨粗鬆症治療セミナー	診療報酬改定がきり拓く脆弱性骨折なき世界	'23/3	Web	整形外科	佐藤宗彦
83	Lilly RA Web Conference	2020ガイドライン改訂がきり拓くJAK Firstの世界	'23/3	Web	整形外科	佐藤宗彦
84	RA Clinical Web Seminar in OSAKA	リウマチ治療の新時代への扉を開く～フェーズ1,2における投与経路のパラダイムシフト～	'23/3	Web	整形外科	佐藤宗彦
85	関節リウマチWEBシンポジウム	JAK阻害剤が切り拓くRA治療のさらなる進化 in JAPAN	'23/3	Web	整形外科	佐藤宗彦
86	EVENITY 骨粗鬆症フカポリセミナー～骨形成促進薬の最適使用を考える～	骨粗鬆症治療のファーストチョイス，どうするか？～骨折リスクに応じた最適な薬剤選択～	'23/3	Web	整形外科	佐藤宗彦
87	Olumiant Focus Week Web Conference	関節リウマチ治療アップデート～腎・肝から考える薬物治療戦略～	'23/4	Web	整形外科	佐藤宗彦
88	Olumiant Focus Week Web Conference～先生方の考えるオルミエントの最適患者像とは～	エビデンスに基づいたリウマチ治療の進化SwitchからJAK Firstへ	'23/4	Web	整形外科	佐藤宗彦
89	クリニックにおけるBaricitinibの使い所を考える会	2020ガイドライン改訂がきり拓くJAK Firstの世界	'23/4	Web	整形外科	佐藤宗彦
90	TERIBONE Auto Injector Online Seminar	ＡＩがきり拓く脆弱性骨折なき世界	'23/4	Web	整形外科	佐藤宗彦
91	リンヴォック適性使用推進講演会	Go To JAK　RA治療の最前線，JAK阻害剤の使用意義とは	'23/4	Web	整形外科	佐藤宗彦
92	RA Crosstalk Meeting in 北大阪	JAK first with Filgotinib～関節リウマチへの最適な治療選択を考える～	'23/4	Web	整形外科	佐藤宗彦
93	稲城骨粗鬆症診療セミナー	診療報酬改定がきり拓く脆弱性骨折なき世界	'23/4	Web	整形外科	佐藤宗彦
94	骨粗鬆症セミナー（Web）	骨粗鬆症治療のファーストチョイス，どうするか？～骨折のリスクに応じた最適な薬剤選択～	'23/4	Web	整形外科	佐藤宗彦
95	骨形成促進薬の使いどころを考える会	骨粗鬆症治療のファーストチョイス，どうするか？～骨折のリスクに応じた最適な薬剤選択～	'23/4	Web	整形外科	佐藤宗彦
96	リンヴォック適性使用推進講演会	Go To JAK　RA治療の最前線，JAK阻害剤の使用意義とは	'23/4	Web	整形外科	佐藤宗彦
97	JAK阻害薬の今後の展望を考える会	エビデンスに基づいたリウマチ治療の進化SwitchからJAK Firstへ	'23/5	Web	整形外科	佐藤宗彦
98	リンヴォック適性使用推進講演会	Go To JAK　RA治療の最前線，JAK阻害剤の使用意義とは	'23/5	Web	整形外科	佐藤宗彦

学術業績集

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
99	北信整形外科医会	骨粗鬆症最適治療がきり拓く脆弱性骨折なき世界～逐次療法・再投与を見据えた治療～	'23/5	Web	整形外科	佐藤宗彦
100	JAKi Lecture Conference in OSAKA・AICHI	データベースから見たジセリカの有用性	'23/5	Web	整形外科	佐藤宗彦
101	神奈川県臨床検査外科医会　第177回学術講演会	骨粗鬆症治療のファーストチョイス，どうするか？～骨折のリスクに応じた最適な薬剤選択～	'23/5	Web	整形外科	佐藤宗彦
102	リンヴォック適性使用推進講演会	Go To JAK　D2TRAを起こさないRA治療を目指して	'23/5	Web	整形外科	佐藤宗彦
103	プライマリケア医が知っておきたい「骨粗鬆症のリスク」を考える会	骨粗鬆症治療のファーストチョイス，どうするか？～骨折リスクに応じた最適な薬剤選択～	'23/5	Web	整形外科	佐藤宗彦
104	所沢医師会学術講演会	骨粗鬆症治療のファーストチョイス，どうするか？～骨折リスクに応じた最適な薬剤選択～	'23/5	Web	整形外科	佐藤宗彦
105	リンヴォック適性使用推進講演会	Go To JAK　～腎機能低下RA患者に於けるリンヴォックの可能性～	'23/5	Web	整形外科	佐藤宗彦
106	骨粗鬆症治療　Up to Date	骨粗鬆症治療のファーストチョイス，どうするか？～骨折リスクに応じた最適な薬剤選択～	'23/5	Web	整形外科	佐藤宗彦
107	骨粗鬆症における医療連携を考える会 in 愛知	診療報酬改定がきり拓く脆弱性骨折なき世界	'23/6	Web	整形外科	佐藤宗彦
108	Osteoporosis Web Seminar	骨粗鬆症最適治療がきり拓く脆弱性骨折なき世界～逐次療法・再投与を見据えた治療～	'23/6	Web	整形外科	佐藤宗彦
109	Spine Expert Seminar	骨粗鬆症治療のファーストチョイス，どうするか？～骨折リスクに応じた最適な薬剤選択～	'23/6	Web	整形外科	佐藤宗彦
110	骨粗鬆症フカボリセミナー～超高齢化社会を見据えて～	日本人高齢者の特徴は何か？～日本人に最適な骨粗鬆症治療～	'23/6	Web	整形外科	佐藤宗彦
111	Lilly PsA web Conference－整形外科医の視点から考える－	整形外科医からみたPsAの現状と治療	'23/6	Web	整形外科	佐藤宗彦
112	Lilly JAK Conference－Baricitinibの対象患者像を考える－	エビデンスに基づいたリウマチ治療の進化SwitchからJAK Firstへ	'23/6	Web	整形外科	佐藤宗彦
113	リンヴォック適性使用推進講演会	脊椎関節炎に対するＪＡＫ阻害薬の治療効果とpitfall	'23/6	Web	整形外科	佐藤宗彦
114	長野東信エリア　骨粗鬆症WEBセミナー	骨粗鬆症治療のファーストチョイス，どうするか？～骨折リスクに応じた最適な薬剤選択～	'23/6	Web	整形外科	佐藤宗彦
115	第68回日本透析医学会学術集会	骨粗鬆症を合併した透析患者に対するロモソズマブ終了後の逐次療法の検討	'23/6	神戸市	整形外科	佐藤宗彦
116	骨粗鬆症治療セミナー in 宮崎	骨粗鬆症最適治療がきり拓く脆弱性骨折なき世界～逐次療法・再投与を見据えた治療～	'23/6	Web	整形外科	佐藤宗彦
117	脆弱性骨折治療を考える会	骨粗鬆症治療のファーストチョイス，どうするか？～骨折リスクに応じた最適な薬剤選択～	'23/6	Web	整形外科	佐藤宗彦
118	リンヴォック適性使用推進講演会	Go To JAK　～患者目線でのシンプルな治療を目指して～	'23/6	Web	整形外科	佐藤宗彦

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
119	骨粗鬆症治療連携セミナー ～地域で取り組む骨折予防～	診療報酬改定がきり拓く脆弱性骨折なき世界	'23/6	Web	整形外科	佐藤宗彦
120	臨床から考える骨粗鬆症治療戦略	骨粗鬆症治療のファーストチョイス，どうするか？～骨折リスクに応じた最適な薬剤選択～	'23/6	Web	整形外科	佐藤宗彦
121	地域で取り組む健康寿命延伸プラン ～骨粗鬆症編～	骨粗鬆症最適治療がきり拓く脆弱性骨折なき世界～逐次療法・再投与を見据えた治療～	'23/6	Web	整形外科	佐藤宗彦
122	Osteoporosis Lunchtime Seminar	骨粗鬆症最適治療がきり拓く脆弱性骨折なき世界～逐次療法・再投与を見据えた治療～	'23/6	Web	整形外科	佐藤宗彦
123	地域での二次骨折予防を考える会 in 愛知	診療報酬改定がきり拓く脆弱性骨折なき世界	'23/6	Web	整形外科	佐藤宗彦
124	透析アミロイド症WEBセミナー	β2ミクログロブリン吸着カラムがきり拓く透析患者の健康寿命延伸	'23/6	Web	整形外科	佐藤宗彦
125	リンヴォック適性使用推進講演会	Go To JAK　RA治療の最前線，JAK阻害剤の使用意義とは	'23/6	Web	整形外科	佐藤宗彦
126	トリガーポイントWeb講演会	筋・筋膜性疼痛症候群の病態から考えるトリガーポイント注射療法	'23/7	Web	整形外科	佐藤宗彦
127	神戸透析アミロイド症講演会	β2ミクログロブリン吸着カラムがきり拓く透析患者の健康寿命延伸	'23/7	Web	整形外科	佐藤宗彦
128	JAKi clinical seminar in 大阪・静岡	JAK first with Filgotinib～関節リウマチへの最適な治療選択を考える～	'23/7	Web	整形外科	佐藤宗彦
129	ジクトルテープ75mg Webセミナーのご案内	NSAIDsは飲む時代から貼る時代へ～安全性･有効性の向上をめざして～	'23/7	Web	整形外科	佐藤宗彦
130	リンヴォック適性使用推進講演会	Go To JAK　RA治療の最前線，JAK阻害剤の使用意義とは	'23/7	Web	整形外科	佐藤宗彦
131	骨粗鬆症治療 連携セミナー-人生100年時代を目指して，健康寿命を考える-	骨粗鬆症治療のファーストチョイス，どうするか？～骨折リスクに応じた最適な薬剤選択～	'23/7	Web	整形外科	佐藤宗彦
132	二次性骨折予防継続管理料から始める骨粗しょう症治療連携の会	診療報酬改定がきり拓く脆弱性骨折なき世界	'23/7	Web	整形外科	佐藤宗彦
133	TERIBOME Auto Injector Web Seminar	AIがきり拓く脆弱性骨折なき世界	'23/7	Web	整形外科	佐藤宗彦
134	RA Clinical Web Seminar①～RA薬物治療の新時代2023～	リウマチ治療の新時代への扉を開く～フェーズ1,2における投与経路のパラダイムシフト～	'23/7	Web	整形外科	佐藤宗彦
135	透析アミロイド症治療の未来 in Osaka	β2ミクログロブリン吸着カラムが切り拓く透析患者の健康寿命延伸	'23/7	Web	整形外科	佐藤宗彦
136	関節リウマチと脊椎関節炎の最新薬物治療webセミナー-JAK阻害剤編-	Go To JAK　～患者目線での，シンプルな治療を目指して～	'23/7	Web	整形外科	佐藤宗彦
137	Golimumab Next Future	プレニシア世代のRA診療の課題を考える	'23/7	ハイブリッド 吹田市	整形外科	佐藤宗彦
138	骨粗鬆症治療　Up to Date	骨粗鬆症治療のファーストチョイス，どうするか？～骨折リスクに応じた最適な薬剤選択～	'23/7	Web	整形外科	佐藤宗彦

学術業績集

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
139	最適な骨粗鬆症診療を考える	日本人高齢者の特徴は何か？～日本人に最適な骨粗鬆症治療～	'23/7	ハイブリッド 京都市	整形外科	佐藤宗彦
140	JAK阻害剤のポジショニングとは？	エビデンスに基づいたリウマチ治療の進化SwitchからJAK Firstへ	'23/8	Web	整形外科	佐藤宗彦
141	骨粗鬆症プライマリーケアセミナー	骨粗鬆症治療のファーストチョイス，どうするか？～逐次療法・再投与を見据えた治療～	'23/8	Web	整形外科	佐藤宗彦
142	RA Clinical Web Seminar②～RA薬物治療の新時代2023～	リウマチ治療の新時代への扉を開く～フェーズ1，2における投与経路のパラダイムシフト～	'23/8	Web	整形外科	佐藤宗彦
143	リンヴォック適性使用推進講演会	RA治療におけるウパダシチニブの実力～エビデンスと自験例からの考察～	'23/8	Web	整形外科	佐藤宗彦
144	北摂疼痛Webセミナー	タリージェOD錠がきり拓く神経障害性疼痛の新時代	'23/8	Web	整形外科	佐藤宗彦
145	高齢者診療のケア・マネジメント	日本人高齢者の特徴は何か?～日本人に最適な骨粗鬆症治療～	'23/8	ハイブリッド 大阪市	整形外科	佐藤宗彦
146	リンヴォック適性使用推進講演会	Go To JAK　～患者目線での，シンプルな治療を目指して～	'23/8	Web	整形外科	佐藤宗彦
147	RA WEB Seminar	Go To JAK　～患者目線での，シンプルな治療を目指して～	'23/9	Web	整形外科	佐藤宗彦
148	スペシャリストに聞く！～オルミエントの魅力とは？～	3年のPMSデータが拓く JAK Firstへの道	'23/9	Web	整形外科	佐藤宗彦
149	Evenity Expert Seminar	骨粗鬆症最適治療がきり拓く脆弱性骨折なき世界～逐次療法・再投与を見据えた治療～	'23/9	Web	整形外科	佐藤宗彦
150	Fracture Prevention Seminar ～地域で取り組む骨折予防～	診療報酬改定がきり拓く脆弱性骨折なき世界	'23/9	Web	整形外科	佐藤宗彦
151	JAKi Expert Meeting in 大阪・兵庫	JAK阻害剤の有用性を検討する～当院におけるジセリカ使用経験も含めて～	'23/9	Web	整形外科	佐藤宗彦
152	RA Clinical Web Seminar③～RA薬物治療の新時代2023～	リウマチ治療の新時代への扉を開く～フェーズ1，2における投与経路のパラダイムシフト～	'23/9	Web	整形外科	佐藤宗彦
153	奈良橿原リクセルWEB講演会	β2ミクログロブリン吸着カラムが切り拓く透析患者の健康寿命延伸	'23/9	Web	整形外科	佐藤宗彦
154	骨粗鬆症 Web Seminar	AIがきり拓く脆弱性骨折なき世界	'23/9	Web	整形外科	佐藤宗彦
155	第25回日本骨粗鬆症学会	ロモソズマブ再投与の2経路を含む，ロモソズマブ開始3年後の4経路の逐次療法の有効性の比較	'23/9	名古屋市	整形外科	佐藤宗彦
156	JAK阻害剤を考える会	JAK first with Filgotinib～関節リウマチへの最適な治療選択を考える～	'23/10	Web	整形外科	佐藤宗彦
157	リンヴォック適性使用推進講演会	Go To JAK　～患者目線での，シンプルな治療を目指して～	'23/10	Web	整形外科	佐藤宗彦
158	Lilly RA web Conference ～オルミエントの魅力とは？～	3年のPMSデータが拓く JAK First への道	'23/10	Web	整形外科	佐藤宗彦

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
159	RA WEB Seminar	エビデンスに基づいたIL6阻害剤の使いどころ	'23/10	Web	整形外科	佐藤宗彦
160	東葛北部骨粗鬆症連携セミナー	骨粗鬆症最適治療がきり拓く脆弱性骨折なき世界～逐次療法・再投与を見据えた治療～	'23/10	ハイブリッド 柏市	整形外科	佐藤宗彦
161	鳥取県頭部整形外科医会（ETOC）	診療報酬改定がきり拓く脆弱性骨折なき世界	'23/11	ハイブリッド 鳥取市	整形外科	佐藤宗彦
162	整形外科医が語る！JAK Expert Academy	1日，1錠，リンヴォック　～患者目線でのシンプルな治療を目指して～	'23/11	Web	整形外科	佐藤宗彦
163	Lilly RA Web Seminar～JAK阻害剤の使い分けについて考える～	3年のPMSデータが拓く JAK First への道	'23/11	Web	整形外科	佐藤宗彦
164	第29回日本血液透析濾過医学会　学術集会・総会	アミロイド症治療が切り拓く透析患者の健康寿命延伸～整形外科の立場から～	'23/11	大阪市	整形外科	佐藤宗彦
165	透析患者のQOLを考える会	アミロイド症治療が切り拓く透析患者の健康寿命延伸～整形外科の立場から～	'23/11	Web	整形外科	佐藤宗彦
166	JAKi Expert Meeting in 堺・吹田	JAK阻害薬：早期導入の可能性	'23/12	Web	整形外科	佐藤宗彦
167	地域の在宅診療を考える会	在宅診療が切り拓く骨粗鬆症治療の未来	'23/12	Web	整形外科	佐藤宗彦
168	関節リウマチWEBシンポジウム	JAK阻害剤が切り拓くRA治療のさらなる進化　in　JAPAN	'23/12	Web	整形外科	佐藤宗彦
169	第29回近畿臨床工学会	β2ミクログロブリン吸着カラムがきり拓く透析患者の健康寿命延伸	'23/12	姫路市	整形外科	佐藤宗彦
170	Lilly JAK Conference－今こそ考えるオルミエントの役割-	3年のPMSデータが拓く JAK First への道	'23/12	Web	整形外科	佐藤宗彦
171	Osteoporosis Web Seminar ～Romosozumabの患者像について～	骨粗鬆症最適治療がきり拓く脆弱性骨折なき世界～逐次療法・再投与を見据えた治療～	'23/12	Web	整形外科	佐藤宗彦
172	Lilly JAK Conference－Baricitinibの対象患者像を考える－	3年のPMSデータが拓く JAK First への道	'23/12	Web	整形外科	佐藤宗彦
173	骨粗鬆症治療の連携を考える会 in 宇摩	骨粗鬆症最適治療がきり拓く脆弱性骨折なき世界～逐次療法・再投与を見据えた治療～	'23/12	ハイブリッド 四国中央市	整形外科	佐藤宗彦
174	関節リウマチClinical Web Seminar	REBORN the TNF with ゴリムマブ　～プレシニア世代からの長期的なRA治療～	'23/12	Web	整形外科	佐藤宗彦
175	第28回透析バスキュラーアクセスインターベンション治療医学会学術集会・総会	ランチョンセミナー：YOROIからみたDCBでのVessel Preparation ワークショップ：Bare Metal Stentに関するVAIVT失敗例	'23/3	横浜市	放射線科	森本　章
176	第28回透析バスキュラーアクセスインターベンション治療医学会学術集会・総会	ランチョンセミナー　What's　Prep??	'23/3	Web	放射線科	森本　章
177	JET2023	モーニングセミナー	'23/5	東京都	放射線科	森本　章

学術業績集

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市,方法	所属科(課)	発表者
178	第68回日本透析医学会学術集会	ウルキナーゼ供給停止後の血管閉塞UANT	'23/6	神戸市	放射線科	森本　章
179	第99回大阪透析研究会	やむを得ずBare Metal Stentを留置した14例の右腕頭静脈閉塞・狭窄	'23/9	大阪市	放射線科	森本　章
180	第27回日本透析アクセス医学会学術集会・総会	やむを得ずBare Metal Stentを留置した14例の右腕頭静脈閉塞・狭窄	'23/11	富士市	放射線科	森本　章
181	第27回日本透析アクセス医学会学術集会・総会	VAIVT高難度症例，こうなったら撤退もしくは開創？～当院で目標の治療が完遂できなかった症例の検討～	'23/11	富士市	放射線科	森本　章
182	日本麻酔科学会　第70回学術集会	全身麻酔中の体位別至適PEEPの検討	'23/6	神戸市	麻酔科	稲田拓治

論文発表（2023/1/1 ～ 2023/12/31）

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	所属科(課)	著　者
1	日本透析医会雑誌	高齢腎不全患者の健康寿命延伸とQOLを高める腹膜透析	38(3)	478-485, 2023	内科	辻本吉広
2	Nephrology Dialysis Transplantation	Serum phosphate as an independent factor associated with cholesterol metabolism in patients undergoing hemodialysis: a cross-sectional analysis of the DREAM cohort	38	1002-1008, 2023	腎臓内科	奥手祐治郎
3	大阪透析研究会会誌	今，注目すべきは亜鉛～亜鉛と栄養の重要な関連～	40(1)	63-68, 2023	透析内科	下村菜生子
4	腎と透析	二相性作動薬（抗スクレロスチン製剤）：骨粗鬆症を合併したCKD患者に対するロモソズマブの有効性・安全性ならびに逐次療法	95(3) 増大号	370-373, 2023	整形外科	佐藤宗彦
5	腎と透析　別冊　アクセス2023	造影併用エコー下VAIVT	95別冊	41-43, 2023	放射線科	森本　章
6	腎と透析　別冊　アクセス2023	血栓吸引+PTAのみでの血栓閉塞VAIVTの限界	95別冊	163-165, 2023	放射線科	森本　章

著書発表（2023/1/1 ～ 2023/12/31）

No.	著　書　名	出版社，地名	版，刷	掲載頁，年	所属科(課)	著　者
1	改訂第4版ALS：写真と動画でわかる二次救命処置	Gakken／東京	改訂 第4号	30-43, 2023	心臓血管外科	谷村信宏（部分執筆）
2	Lisa 透析患者の麻酔管理　術中管理　カテーテル挿入	メディカルサイエンスインターナショナル／東京	Vol.30 別冊 秋号	97-100, 2023	麻酔科	稲田拓治

その他（2023/1/1 ～ 2023/12/31）

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社，地名	所属科（課）	担当者
1	GLP-1　デバイスロードショー	座長・ファシリテーター	'23/6	大阪市	内科	辻本吉広
2	社内研修会	講師	'23/6	吹田市	内科	辻本吉広
3	吹田・豊中CKD連携フォーラム	クロージングリマークス	'23/7	吹田市	内科	辻本吉広
4	ケレンディア錠 Lunchon web conference	座長	'23/7	Web	内科	辻本吉広
5	糖尿病合併症に挑む in 吹田	オープニングリマークス・総合司会	'23/7	吹田市	内科	辻本吉広
6	CKD-MBD Symposium 2023	総合座長	'23/7	ハイブリッド 吹田市	内科	辻本吉広
7	透析診療 Update Seminar ～最適な腎性貧血治療を考える～	座長	'23/7	ハイブリッド 大阪市	内科	辻本吉広
8	CKD/糖尿病　合併症連携研究会2023	座長	'23/8	吹田市	内科	辻本吉広
9	井上病院　地域連携の会～高血圧とCKD～	総合司会	'23/9	Web	内科	辻本吉広
10	エンレスト発売3周年高血圧治療NEW戦略	座長	'23/9	Web	内科	辻本吉広
11	Diabetes Web Seminar ～糖尿病治療を考える～	座長	'23/10	Web	内科	辻本吉広
12	第9回北大阪フットケア勉強会	閉会挨拶・座長	'23/10	吹田市	内科	辻本吉広
13	ノボノルディスクファーマ株式会社外部講義	講師	'23/10	大阪市	内科	辻本吉広
14	-気軽に始める-趣味のススメ	著者	'23/11	小野薬品 冊子	内科	辻本吉広
15	北摂糖尿病懇話会2023	総合司会	'23/11	ハイブリッド	内科	辻本吉広
16	市民健康講座	講師	'23/11	吹田市	内科	辻本吉広
17	ご近所のお医者さん	毎日新聞　コラム	'23/12	毎日新聞	内科	辻本吉広
18	Diabetes Forum in 北摂	閉会の辞	'23/12	大阪市	内科	辻本吉広
19	季刊ドクターズアイ	ドクターズハンドレッドエール	'23/1	第17巻3号 P26	糖尿病内科	木津あかね

学術業績集

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社，地名	所属科（課）	担当者
20	社内研修会	講師	'23/2	吹田市	糖尿病内科	木津あかね
21	エンレストWeb講演会 ～高血圧と糖尿病～	座長	'23/7	吹田市	糖尿病内科	木津あかね
22	DiaMond Seminar in 北摂　～糖尿病早期治療について考える～	座長	'23/7	ハイブリッド 吹田市	糖尿病内科	木津あかね
23	第9回北大阪フットケア勉強会	座長	'23/10	吹田市	糖尿病内科	木津あかね
24	CKDにおける尿酸管理の重要性	対談 定期情報誌「尿酸NEXT Stage 2023 No1」掲載	'23/1	横浜市	腎臓内科	藤原木綿子
25	尿酸NEXT Stage	CKDにおける尿酸管理の重要性	'23/4	2023 No1 p4-7	腎臓内科	藤原木綿子
26	世界高血圧デーに高圧治療を考える	座長	'23/5	Web	腎臓内科	藤原木綿子
27	エムスリー　投稿	2020年から新型コロナ透析患者300人超受け入れ，院内大クラスターも経験◆Vol.1	'23/5	Web	腎臓内科	藤原木綿子
28	明日から使える！PD基礎講座	コメンテーター	'23/5	豊中市	腎臓内科	藤原木綿子
29	エンレストWeb講演会 ～高血圧とCKD～	座長	'23/5	Web	腎臓内科	藤原木綿子
30	エムスリー　投稿	慢性腎臓病治療の病診連携に積極的に取り組む理由◆Vol.2	'23/5	Web	腎臓内科	藤原木綿子
31	吹田・豊中CKD連携フォーラム	座長	'23/7	吹田市	腎臓内科	一居　充
32	吹田・豊中CKD連携フォーラム	座長	'23/7	吹田市	腎臓内科	藤原木綿子
33	生活習慣病における最近のトレンド	総合司会	'23/8	Web	腎臓内科	一居　充
34	社内研修会	講師	'23/11	大阪市	透析内科	下村菜生子
35	第2回北大阪血管外科Meeting	オープニング	'23/7	大阪市	血管外科	谷村信宏
36	ボストン製品検討会	アドバイザー	'23/9	大阪市	血管外科	谷村信宏
37	第9回北大阪フットケア勉強会	開会挨拶・座長	'23/10	吹田市	血管外科	谷村信宏
38	CKD診療 STEP UP セミナー　～多職種で考えよう～	座長	'23/11	Web	血管外科	谷村信宏
39	Olumiant Focus Week Web Conference	関節リウマチ治療アップデート～腎・肝から考える薬物治療戦略～　パネリスト	'23/1	Web	整形外科	佐藤宗彦

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社，地名	所属科（課）	担当者
40	Olumiant Focus Week Web Conference	関節リウマチ治療アップデート～腎・肝から考える薬物治療戦略～　パネリスト	'23/1	Web	整形外科	佐藤宗彦
41	社内研修会	講師	'23/2	Web	整形外科	佐藤宗彦
42	リンヴォック適性使用推進講演会	座長	'23/3	Web	整形外科	佐藤宗彦
43	イベニティ発売4周年記念アムジェンSCBUレクチャーミーティング	講師	'23/3	Web	整形外科	佐藤宗彦
44	Lilly RA Web Conference	座長	'23/4	Web	整形外科	佐藤宗彦
45	JAKi Lecture Meeting in 北大阪	座長	'23/4	Web	整形外科	佐藤宗彦
46	Kowa Web Conference	座長	'23/4	Web	整形外科	佐藤宗彦
47	社内研修会	骨粗鬆症　臨床セミナー	'23/5	Web	整形外科	佐藤宗彦
48	社内教育講演会	講師	'23/5	吹田市	整形外科	佐藤宗彦
49	RA Expert Meeting	座長	'23/6	Web	整形外科	佐藤宗彦
50	Golimumab Next Future	座長	'23/7	ハイブリッド 吹田市	整形外科	佐藤宗彦
51	JAK WEB Seminar	座長	'23/7	Web	整形外科	佐藤宗彦
52	Internet Live Seminar	座長	'23/8	Web	整形外科	佐藤宗彦
53	リンヴォック適性使用推進講演会	座長	'23/8	Web	整形外科	佐藤宗彦
54	エムスリー　投稿	10年前の「不治の病」が今は…骨粗鬆症治療に注力する理由◆Vol.1	'23/8	Web	整形外科	佐藤宗彦
55	エムスリー　投稿	「肺がんに次ぐ怖い病気」骨粗鬆症治療で心血管イベントも減少◆Vol.2	'23/9	Web	整形外科	佐藤宗彦
56	RA診療Webセミナー	座長	'23/9	Web	整形外科	佐藤宗彦
57	高齢化しているリウマチ治療を考える会	座長	'23/9	Web	整形外科	佐藤宗彦
58	リンヴォック適性使用推進講演会	座長	'23/9	Web	整形外科	佐藤宗彦
59	JAK阻害剤を考える会	座長	'23/10	Web	整形外科	佐藤宗彦

学術業績集

No.	学　会　名	表　題	年月	開催都市 出版社，地名	所属科（課）	担当者
60	RA JAK インターネットライブセミナー	座長	'23/10	Web	整形外科	佐藤宗彦
61	JAKI Lecture Seminar in Central Japan	座長	'23/11	Web	整形外科	佐藤宗彦
62	JAKI Advance Seminar in 大阪・岐阜	座長	'23/11	Web	整形外科	佐藤宗彦
63	社内講演会	講師	'23/12	摂津市	整形外科	佐藤宗彦
64	リウマチ診療ステップアップ JAK阻害剤適正使用セミナー	座長	'23/12	Web	整形外科	佐藤宗彦
65	慢性便秘治療Webセミナー in 北摂	クロージング	'23/3	Web	泌尿器科	右梅貴信
66	JET2023	パネリスト	'23/5	東京都	放射線科	森本　章

カーム尼崎健診プラザ

論文発表（2023/1/1 ～ 2023/12/31）

No.	掲載誌名	表　題	巻号No.	掲載頁，年	所属科（課）	著　者
1	日本東洋医学雑誌	両大腿切断後の断端痛に対し桂枝加朮附湯が奏効した1例	74（4）	348-352, 2023	診療部	松森良信

医療業績集 2023

発行日　2025年1月20日
発行所　社会医療法人愛仁会
年報事務局
〒569-1115
大阪府高槻市古曽部町1丁目7番14号
中井老泉ビル2階
TEL (06) 6375-0660　FAX (06) 6375-0560
https://www.aijinkai.or.jp/